

茨城県教育財団文化財調査報告第300集

宿 畑 遺 跡

主要地方道石岡筑西線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

茨城県土浦土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第300集

しゆく はた い せき
宿 畑 遺 跡

主要地方道石岡筑西線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

茨城県土浦土木事務所
財団法人 茨城県教育財団



遺跡全景（北東から）



第17号住居跡出土遺物

序

茨城県は、長期的な展望のもとに県土の基盤整備を行っております。道路網につきましても、県土60分構想の具体化や円滑な都市交通の確保を図るなど、ゆとりある社会の実現を目指して快適な道路の整備を進めているところです。

このたび、茨城県土浦土木事務所は、石岡市下林地区において、主要地方道石岡筑西線道路改良事業を計画いたしました。この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である宿畑遺跡が所在しています。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成18年6月1日から同年11月30日まで宿畑遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、宿畑遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県土浦土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、石岡市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 人 見 實 徳

例 言

- 1 本書は、茨城県土浦土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県石岡市下林字万願寺536番地の1ほかに所在する宿畑遺跡しゆくはたの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調 査 平成18年6月1日～平成18年11月30日
整 理 平成19年8月1日～平成20年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川村 満博
主任調査員 松本 直人
調 査 員 川井 伸也
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員松本直人が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、墨書土器の判読については、大学共同利用機関法人国立歴史民俗博物館館長平川南氏に御教示をいただいた。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X軸=25,640m、Y軸=34,200mの交点を基準点(A 1 a1)とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに、小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」、「B 2 b2 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI—住居跡 SK—土坑 TP—陥し穴 SD—溝跡

SB—掘立柱建物跡 P—柱穴

遺物 TP—拓本記録土器 DP—土製品 Q—石器・石製品 M—金属製品 T—瓦

土層 K—攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則60分の1に縮尺して掲載することを基本とした。


(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次の通りである。

 = 焼土・赤彩・施釉・朱墨

 炉・火床面・繊維土器断面

 = 竈部材・粘土範囲・炭化物範囲・黒色処理

 柱痕跡・柱のあたり・油煙・煤

●=土器 ○=土製品 □=石器・石製品 △=金属製品 ■瓦 ----- 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m・cm、kg・gである。なお、現存値は（ ）で、推定値は[]を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ記載の土器片、土製品、石器・石製品、金属製品ごとに通し番号とし、本文・挿図・写真図版を記した番号も同一である。

(4) 文字資料のうち、焼成前に線刻されたものを「箋書」、焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

- 6 「主軸」は、炉または竈をもつ住居跡については炉または竈を通る軸線を主軸とし、その他の遺構については長軸・長径を主軸とみなした。主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N-10°-E）。

抄 録

ふりがな	しゅくはたいせき							
書名	宿 畑 遺 跡							
副書名	主要地方道石岡筑西線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第300集							
編著者名	松本直人							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2008(平成20)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	緯度	経度	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しゅくはたいせき 宿 畑 遺 跡	いばらきけんいしおかししもほやしあざ 茨城県石岡市下林字 まんがんじ 万願寺536番地の1 ほか	08463 — 131	36度 13分 34秒	140度 13分 8秒	18m ～ 27m	20060601 ～ 20061130	5,640㎡	主要地方道石岡筑西線道路改良事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宿 畑 遺 跡	猟場	縄文	陥し穴	2基	縄文土器(深鉢), 石製品(石鏃・凹石)		9世紀後葉の焼失住居からは、東海地方からの搬入品と考えられる灰釉陶器(手付瓶)のほか、上・側面に「大」と線刻された石製紡錘車が出土している。	
	集落跡	古墳	竪穴住居跡	4軒	土師器, 須恵器, 土製品(支脚), 石製品(砥石・石製模造品)			
	集落跡	奈良	竪穴住居跡 土坑	8軒 1基	土師器, 須恵器, 鉄製品(刀子), 土製品(支脚), 石製品(砥石)			
	集落跡 工房跡	平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 土坑	40軒 1棟 1条 3基	土師器, 須恵器, 灰釉陶器(手付瓶), 緑釉陶器(段皿), 鉄製品(刀子・鏃・釘・椀状滓), 土製品(羽口・支脚・紡錘車・埴), 石製品(紡錘車), 瓦(平瓦・丸瓦)			
	その他	時期不明	竪穴住居跡 遺物包含層 溝跡 土坑	5軒 1か所 1条 130基	土師器, 須恵器, 陶器(碗), 磁器(碗)			
要 約	当遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。平安時代の竪穴住居跡の中には竈の補強材として瓦や埴などを使用したものが認められた。これらの瓦類は常陸国分寺跡出土のものと同様の特徴を示している。周辺には、常陸国分寺跡・国分尼寺跡の瓦類を製造した瓦塚窯跡が所在し、関連性が想定される。							

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
陷し穴	9
2 古墳時代の遺構と遺物	11
竪穴住居跡	11
3 奈良時代の遺構と遺物	19
(1) 竪穴住居跡	19
(2) 土坑	31
4 平安時代の遺構と遺物	31
(1) 竪穴住居跡	31
(2) 掘立柱建物跡	112
(3) 溝跡	114
(4) 土坑	115
5 時期不明の遺構と遺物	117
(1) 竪穴住居跡	118
(2) 溝跡	121
(3) 土坑	121
6 その他の遺構と遺物	123
(1) 土坑	123
(2) 遺物包含層	138
(3) 遺構外出土遺物	141
第4節 まとめ	144
写真図版	
付図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、石岡市下林地区において、主要地方道石岡筑西線の道路改良事業を進めている。

平成17年1月5日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道石岡筑西線道路改良工事における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年1月20日に現地踏査を、平成17年9月6日～8日及び11月1日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成17年2月1日及び11月10日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に宿畑遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年1月26日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成18年2月10日、茨城県土浦土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

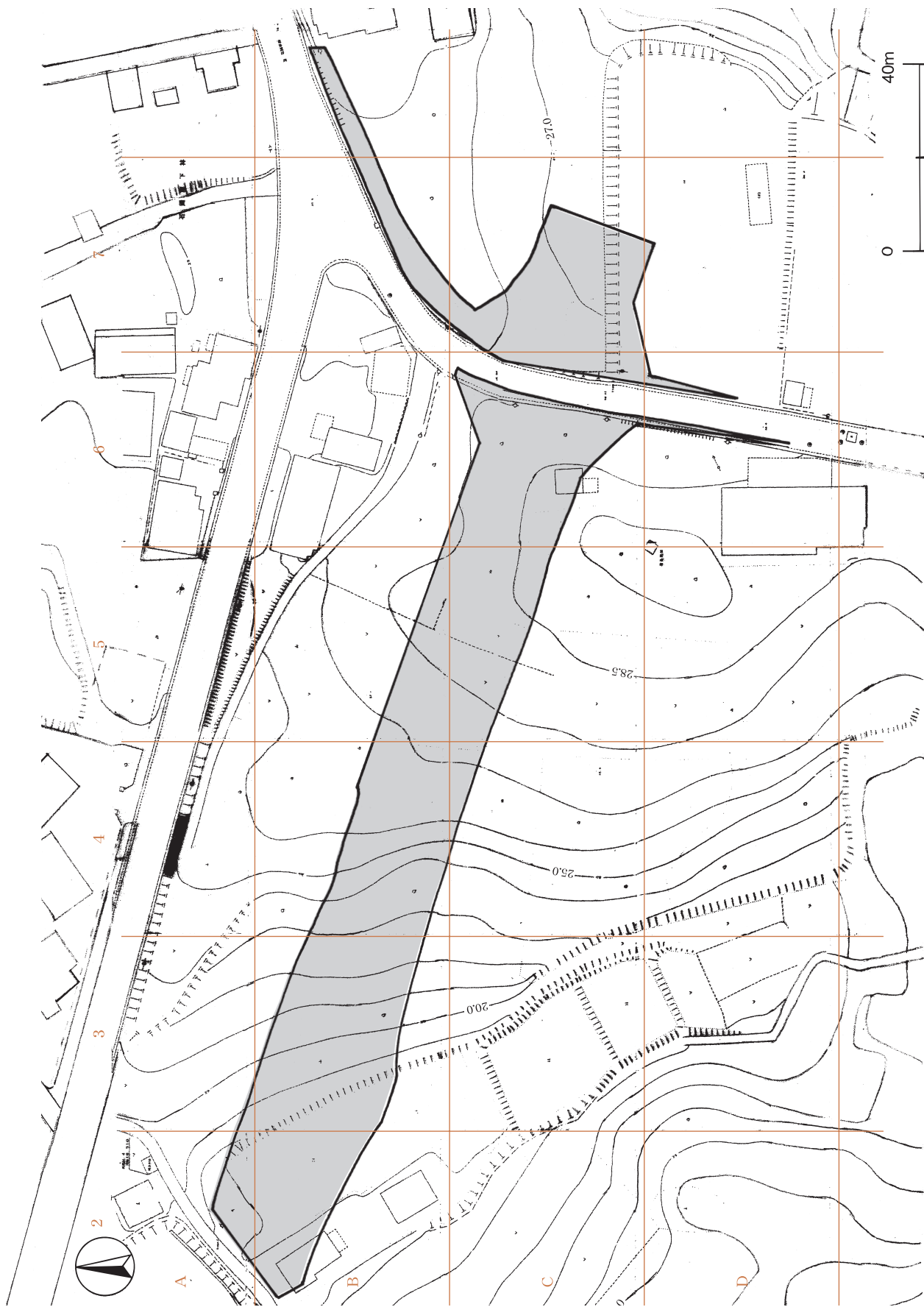
平成18年2月16日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道石岡筑西線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成18年2月22日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、宿畑遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年6月1日～平成18年11月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

宿畑遺跡の調査は、平成18年6月1日から同年11月30日まで実施した。以下、調査の経過について、概要を表で記載する。

工程	期間						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■						
遺構調査		■					
遺物洗浄及び 注写・写真・整理		■					
補足調査 撤収						■	



第1図 宿畑遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宿畑遺跡は、茨城県石岡市下林字万願寺536番地の1ほかに所在している。

遺跡が所在する石岡市は、茨城県のほぼ中央部に位置し、南東部に霞ヶ浦、西部に筑波山系の山々が連なり、県内で最も平坦な平野が広がる地域である。古代においても、その自然豊かな風景は『常陸国風土記』¹⁾ 茨城郡の条で高浜における華やかな情景として記述されているように、四季折々の人々の生活観として反映されている。

地形は、石岡台地と呼ばれる標高20～30mの洪積台地、恋瀬川や園部川などの河川沿いに連なる沖積低地、龍神山に代表される山地からなっている。市域の大半を占める石岡台地は、平坦面を多く有し、南部の恋瀬川、中央部の山王川、北部の園部川によって分断されている。舟塚山古墳、常陸国衙跡、常陸国分寺跡、常陸国分尼寺跡などを含む主要な遺跡は、恋瀬川と山王川に挟まれた台地上に集中して位置しており、古くから常陸国の中心として繁栄してきた。

石岡台地の地層は、未固結の砂を主として浅海性の貝化石を産する石崎層を基盤として、強内湾性の貝化石を産する見和層、さらに茨城粘土層（0.3～5.0m）及び鹿沼軽石層（0.15m）を挟む関東ローム層（0.5～2.5m）が連続して堆積し、最上部は黒土層となっている²⁾。堆積状況は、水平かつ単調である。また、龍神山は黒色粘板岩を主とする広域的な変成作用を受けた塊状岩石で、緻密なホルンフェルスとなっている。

石岡市北西部の旧八郷町域の下林地区は、恋瀬川やその支流によって開析された谷津が洪積台地に樹枝状に入り込んで、高地、台地、低地と起伏に富んだ地形を造出している。当遺跡は、恋瀬川左岸に形成された狭長で起伏に富む舌状台地上に立地しており、標高は18～27mである。この台地は主に畑地で占められており、低地は水田として利用され、台地と水田の比高は約10mである。調査前の現況は畑地であり、主に野菜畑や栗畑として利用されていた。調査区の南側には鹿島神社が鎮座しており、西側の低地は湿地帯である。

第2節 歴史的環境

宿畑遺跡（①）は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。当遺跡周辺は、恋瀬川の水系に属して水利の便に富み、樹枝状に入り込んだ谷津が発達した地形環境を呈し、古代から人々が生活を営む場として絶好の舞台となってきた。それを裏付けるように、周辺の台地上には旧石器時代から近世にかけての遺跡が多数分布している。『茨城県遺跡地図』³⁾によると、石岡市内全体で377遺跡、当遺跡の所在する旧八郷町域で127遺跡が確認されている。市内のさまざまな遺跡の中、常陸国分寺跡、常陸国分尼寺跡、舟塚山古墳は国の指定を受け、古代常陸国を論じる上で重要視されている。ここでは、『茨城県遺跡地図』に登録されている旧八郷町域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、現在2か所確認されている。発掘資料としては半田原遺跡（2）が唯一のもので、3か所の石器集中地点から1,800点にも及ぶナイフ形石器や剥片が出土している。石器に比べて剥片類が非常に多く出土していることから、石器製作跡と考えられている⁴⁾。該期の事例は、現在のところ極めて少数であるが、恋瀬川支流の起伏に富んだ地形を考えたとき、半田原遺跡の調査が契機となって今後数多く発見される可

能性は非常に高いと思われる。

縄文時代の遺跡は、現在10か所確認されている。これらは、主に恋瀬川水系の台地先端部に立地し、台地中央部に位置する遺跡もわずかながら見られる。周辺に集落全体がうかがえる調査事例はないが、採集された土器などから、時期は中期から後期を中心としてほぼ全期にわたっている。半田原遺跡からは早期の竪穴住居跡や炉穴が検出され、三戸式土器や田戸下層式土器が少量ながら採集されている。また、上人入遺跡からは早期の尖底土器が採集されている⁵⁾。中期の遺跡としては、恋瀬川上流の大覚寺西遺跡、恋瀬川下流の猪内遺跡〈3〉、十日橋遺跡〈4〉、板敷遺跡、矢切遺跡〈5〉、北田向遺跡などがあげられる⁶⁾。これらの遺跡では、阿玉台式土器や加曾利E式土器が多量に採集され、この時期の遺跡数が増加した様子がうかがえる。後期の遺跡としては、足尾山東麓の高屋遺跡〈6〉、盆地中央部の八郷高校内遺跡〈7〉、猪内遺跡、矢切遺跡などがあげられ、いずれからも称名寺式土器や堀之内式土器が採集されている⁷⁾。晩期の遺跡は明確ではなく、大覚寺西遺跡で遺物が出土したことが記録されているだけである⁸⁾。

弥生時代の遺跡は極めて少なく、現在3か所周知されている。いずれも恋瀬川流域の台地縁辺部に確認されており、右岸の中山遺跡〈8〉、息栖遺跡〈9〉、上流の芦穂小学校内遺跡〈10〉があげられる⁹⁾。この内、芦穂小学校内遺跡では、後期十王台式土器が出土している。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。該期の遺跡は、現在62か所確認されており、その内38か所が古墳及び古墳群である。これらは、主に恋瀬川流域の台地上や縁辺部に古墳と集落跡が隣接するように立地している。大形古墳を伴う古墳群としては、丸山古墳群〈11〉、中戸古墳群〈12〉、瓦谷古墳群〈13〉、加生野古墳群〈14〉が著名である^{10) 11)}。丸山古墳群は、恋瀬川主流柿岡盆地北端に位置し、昭和27年に明治大学後藤守一氏等によって調査され、現在県指定史跡の丸山古墳をはじめ、佐自塚古墳〈15〉、二子塚古墳〈16〉などの前方後円墳を主墳としている。丸山古墳は、県内最古級の古墳として周辺地域に点在する古墳群の盟主的な性格を有する存在として位置づけられている。また、佐自塚古墳は県内で唯一の大形粘土槨を有する古墳であり、学術的にも貴重である。これまで出土例の少ない透彫円筒埴輪や底部穿孔壺形土器が出土しており、当時の葬送儀礼を考える上で重要である。恋瀬川支流吾国山南麓に位置する中戸古墳群は、円墳2基と旧八郷町域に所在する最大規模の前方後円墳で構成されている。また瓦谷古墳群は、恋瀬川支流の柿岡盆地北端に位置し、前方後円墳である兜塚を主墳として、円墳16基から形成される古墳群である。加生野古墳群は恋瀬川支流の川又川右岸の台地上に位置する古墳時代後期の群集墳である。これ以外の古墳群としては、毛無山古墳群〈17〉、和尚塚久保古墳群〈18〉、小倉古墳群〈19〉、下宿古墳群〈20〉、細谷古墳群〈21〉、御申塚古墳群〈22〉、阿弥陀久保古墳群〈23〉、原表古墳群〈24〉、月岡古墳群〈25〉、東原古墳群〈26〉などが知られている¹²⁾。また、柿岡・西町古墳〈27〉から出土した埴輪鹿は県指定考古資料として著名である。

集落跡としては、宮下遺跡〈28〉、芦穂小学校内遺跡、備中遺跡〈29〉、中道遺跡〈30〉、和尚塚遺跡〈31〉などがあげられ、いずれの遺跡も平安時代まで断続的に営まれた集落跡と考えられる^{13) 14)}。

奈良・平安時代の遺跡は、現在39か所確認されている。律令制下において、下林地区は常陸国茨城郡に属し、平安時代の辞書である『和名類聚抄』に見える拝師郷に比定されている¹⁵⁾。旧八郷町域で当該期の集落跡が調査されているのは、半田原遺跡だけである。この遺跡は、古墳時代後期から奈良・平安時代まで連続して営まれた遺跡であり、道路幅の調査区という制限の中、竪穴住居跡26軒が確認されている。9世紀前半の住居跡からは「丈」の墨書のある須恵器鉢が出土しており、茨城郡内における丈部氏の存在が想定されている。また、当該期の遺跡で注目されるのは、常陸国分寺や国分尼寺との関連のある瓦塚窯跡〈32〉である。瓦塚窯跡は、恋瀬川支流の愛宕山南西斜面部に20数基存在する瓦窯跡群である。既に、西宮一男氏等によって、昭和

43年に2基の窯跡が調査され、地下式有段登窯であることが確認されている。瓦は軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土し、国分寺出土瓦と同種、同範で、官寺造営に当たったの瓦類の供給地として重要な役割を果たした遺跡であり、昭和12年、茨城県史跡に指定されている¹⁶⁾。このほか、山岳寺院的色彩を帯びた山王台廢寺跡^{さんのおうだい}〈33〉や水上廢寺跡^{みずかみ}〈34〉などが筑波山東麓に確認されている。山王台廢寺から出土した瓦は、素縁単弁八葉花文軒丸瓦で県内には類例が見られないものである¹⁷⁾。

律令体制の衰退とともに在地領主層が出現し、天慶2(939)年の平将門^{ひらのまさかど}の乱後、その討伐に功勞のあった平貞盛^{ひらのさだもり}の子孫が筑波山西南麓を拠点に真壁、筑波、新治の三郡を勢力下に置くようになる。そのような状況の中、旧八郷町域は「北郡」と呼ばれるようになり、八田氏の一族が台頭してくる。13世紀初め、八田知家は常陸国守護となって小田に城を築く。その後、嫡子知重に家督を譲り、小田城に置いて小田氏を称えさせ、北郡を押さえた。戦国時代になると、北郡をめぐる小田氏と佐竹氏が抗争を繰り返す、北郡は佐竹氏の支配下に置かれ、文禄3(1594)年の太閤検地を機に新治郡に編入される。このような歴史の中、当地域の中世遺跡は、城館跡が26か所と最も多く、恋瀬川水系の川又川兩岸の台地上に多く立地している。城館跡は、小田城主八田知家^{はつたともいえ}の十男八田時知^{ときとも}が開城した柿岡城址^{かきおかじょうし}〈35〉や上曾朝俊^{うわそともとし}が築いた猿壁城址^{さるかべじょうし}〈36〉、下河部政義^{しもこうべまさよし}が築いた権現山城址^{ごんげんやまじょうし}〈37〉、八代奨監^{かたのじょうし}が築いた片野城址^{かたのじょうし}〈38〉などが著名である¹⁸⁾¹⁹⁾。このほか、大永3年刻銘の経筒と石櫃^{からすりきょうづか}が出土した嘉良寿理經塚^{かじらじゆりきやうづか}²⁹⁾〈39〉、恋瀬川右岸の下宿火葬墓跡^{しもじやく}〈40〉、丸山古墳周辺域の高友古墨址^{たかともこるいし}〈41〉などがあげられる。

佐竹義宣^{さたけよしのぶ}が秋田に転封されると、常総地方の政治情勢は一変する。大藩水戸藩領以外は幕府領、大名領、旗本領、寺社領などが錯綜して複雑な様相を呈し、領主の変動が繰り返される。近世の旧八郷町域でも支配者が頻りに交替し、民衆に混乱と苦悩を引き起こすこととなる。近世の遺跡は、現在4か所確認され、柴崎稻荷塚^{しばさきいなりづか}遺跡〈42〉、さど塚遺跡^{つか}、萩堂遺跡^{はぎどう}〈43〉、半田原遺跡^{はなだはら}があげられる²¹⁾。

以上、当遺跡周辺の概要について述べた。旧八郷町域における発掘調査は数少なく、今後の調査によって新たな発見が期待される。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 『常陸國風土記』財団法人常陽藝文センター 1992年8月
- 2) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 3) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 4) 仙波亨「一般県道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第122集 1997年3月
- 5) 註3) 同
- 6) 八郷町史編さん委員会『八郷町史』八郷町 2005年3月
- 7) 註6) 同
- 8) 八郷町誌編さん委員会『八郷町誌』八郷町 1970年7月
- 9) 註6) 同
- 10) 茨城県教育庁文化課編『重要遺跡調査報告書Ⅰ』茨城県教育委員会 1982年3月
- 11) 茨城県教育庁文化課編『重要遺跡調査報告書Ⅲ』茨城県教育委員会 1986年3月
- 12) 註6) 同
- 13) 註3) 同
- 14) 註11) 同
- 15) 黒澤彰哉『よみがえる古代の茨城』茨城県立歴史館 2003年7月
- 16) 茨城県教育庁文化課編『国・県指定史跡調査報告書』茨城県教育委員会 1979年3月
- 17) 註6) 同
- 18) 茨城県教育庁文化課編『重要遺跡調査報告書Ⅱ(城館跡)』茨城県教育委員会 1985年3月
- 19) 八郷町教育委員会 生涯学習課『八郷町の中世城館』八郷町教育委員会 2000年2月
- 20) 註16) 同

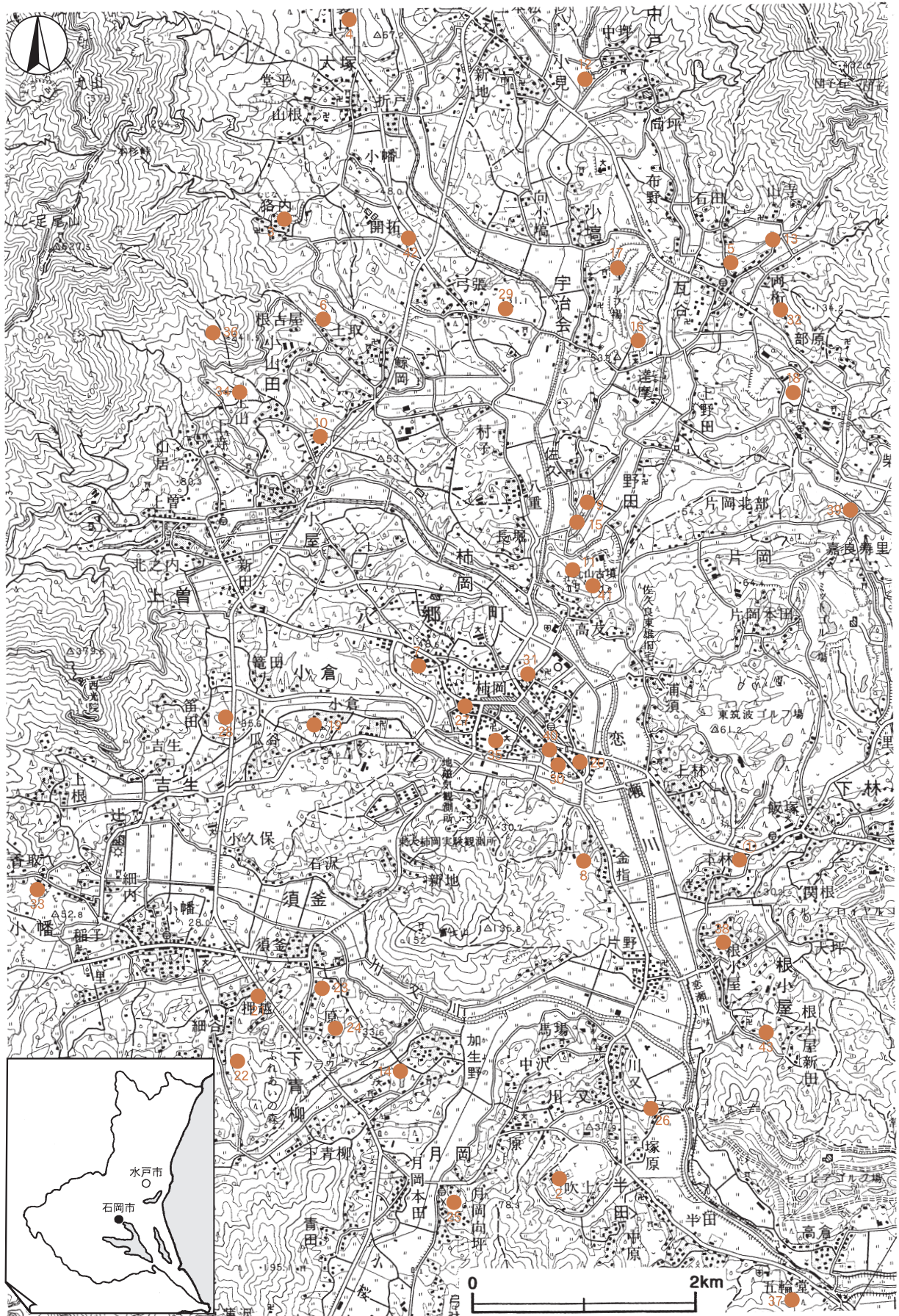
21) 註3) 同

参考文献

- ・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 石岡』1981年3月
- ・『日本地誌』 関東地方総論 日本地誌研究所 1975年3月
- ・『茨城の地学ガイド』 大山年次 蜂須紀夫 1991年7月
- ・『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県史編さん第一部会 1979年3月
- ・『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』茨城県史編集会 1991年3月
- ・『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県史編さん原始古代史部会 1974年2月
- ・『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』茨城県史編集会 1995年3月
- ・『茨城県史 中世編』茨城県史編纂会 1976年3月

表1 宿畑遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
①	宿畑遺跡		○		○	○		23	阿弥陀久保古墳群				○			
2	半田原遺跡	○	○		○	○		24	原表古墳群				○			
3	猪内遺跡		○					25	月岡古墳群				○			
4	十日橋遺跡		○					26	東原古墳群				○			
5	矢切遺跡		○					27	柿岡・西町古墳				○			
6	高屋遺跡		○					28	宮下遺跡				○	○		
7	八郷高校内遺跡		○					29	備中遺跡				○	○		
8	中山遺跡			○				30	中道遺跡				○	○		
9	息栖遺跡			○	○	○		31	和尚塚遺跡				○	○		
10	芦穂小学校内遺跡			○	○			32	瓦塚窯跡					○		
11	丸山古墳群				○			33	山王台廃寺跡					○		
12	中戸古墳群				○			34	水上廃寺跡					○		
13	瓦谷古墳群				○			35	柿岡城址						○	
14	加生野古墳群				○	○		36	猿壁城址						○	
15	佐自塚古墳				○			37	権現山城址						○	
16	二子塚古墳				○			38	片野城址						○	
17	毛無山古墳群				○			39	嘉良寿理経塚						○	
18	和尚塚久保古墳群				○			40	下宿火葬墓跡					○		
19	小倉古墳群				○			41	高友古墨址						○	
20	下宿古墳群				○			42	柴崎稻荷塚遺跡							○
21	細谷古墳群				○			43	萩堂遺跡							○
22	御申塚古墳群				○											



第2図 宿畑遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「真壁」）

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

当遺跡は茨城県石岡市下林字万願寺 536 番地の 1 ほかに所在し、恋瀬川の左岸、標高約18~27mの低地から台地上に立地している。調査面積は5,640㎡で、調査前の現況は畑地及び水田である。

調査は平成18年6月1日から同年11月30日までの6か月間実施され、陥し穴2基（縄文時代）、竪穴住居跡57軒（古墳時代4、奈良時代8、平安時代40、時期不明5）、掘立柱建物跡1棟（平安時代）、溝跡2条（平安時代1、時期不明1）、土坑134基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に32箱出土している。遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付碗・小皿・高台付皿・小形鉢・壺・甕・甑・甌・手捏土器）、須恵器（坏・高台付坏・皿・灯明皿・盤・高盤・蓋・長頸瓶・小形短頸壺・小壺・壺G・鉢・甕・甌）、灰釉陶器（手付瓶・瓶・壺・碗）、緑釉陶器（段皿）、陶器（碗）、磁器（碗）、瓦（平瓦・丸瓦）、土製品（支脚・羽口・埴・紡錘車）、石器（剥片・石鏃）、石製品（紡錘車・砥石・石製模造品）、鉄器・鉄製品（刀子・鎌・手鎌・鏃・釘・碗状滓・鉄滓）である。

第2節 基本層序

基本層序を確認するテストピットは、調査区中央部のC5a7区に設置した。地表面の標高は28.4mで、地表面から2.2m掘削し、基本土層図は第3図に示した。

土層は9層に分層され、第1層が表土（耕作土）、第2~8層が関東ローム層、第9層が茨城粘土層に対比される。以下、テストピットの観察から各層の特徴を述べる。

第1層は暗褐色の耕作土層で、ローム小ブロックを含む。粘性・締まりは弱く、層厚は40cmほどである。

第2層はローム粒子を多量に含む暗褐色の層で、粘性・締まりともに弱い。層厚は25cmほどで、表土からローム層への漸移層である。

第3層は暗褐色のローム層で、ローム中ブロックを含む。粘性弱く、締まりは強い。層厚は10~15cmである。

第4層は橙色のローム層で、鹿沼パミスや砂粒を含む。

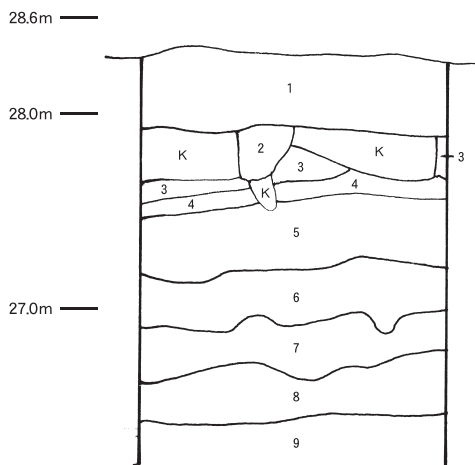
粘性・締まりともに弱く、層厚は10~15cmである。

第5層はロームブロックが混じる褐色のローム層で、粘性・締まりはともに極めて強い。層厚は35cmほどである。

第6層は褐色のローム層で、粘性・締まりともに極めて強い。層厚は25~40cmである。

第7層はにぶい褐色のローム層で、粘性・締まりともに極めて強い。層厚は15~30cmである。

第8層は明褐色のローム層で、粘性・締まりともに極めて強い。層厚は20~30cmである。



第3図 基本土層図

第9層以下は灰白色で、茨城粘土層にあたる。粘性が極めて強く、締まりは強い。層厚は不明である。
 なお、遺構は、第2層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構

縄文時代の陥し穴2基を確認した。以下、遺構について記述する。

陥し穴

第1号陥し穴（第4図）

位置 調査区東部のC7e3区、標高27mの緩斜面部に位置している。

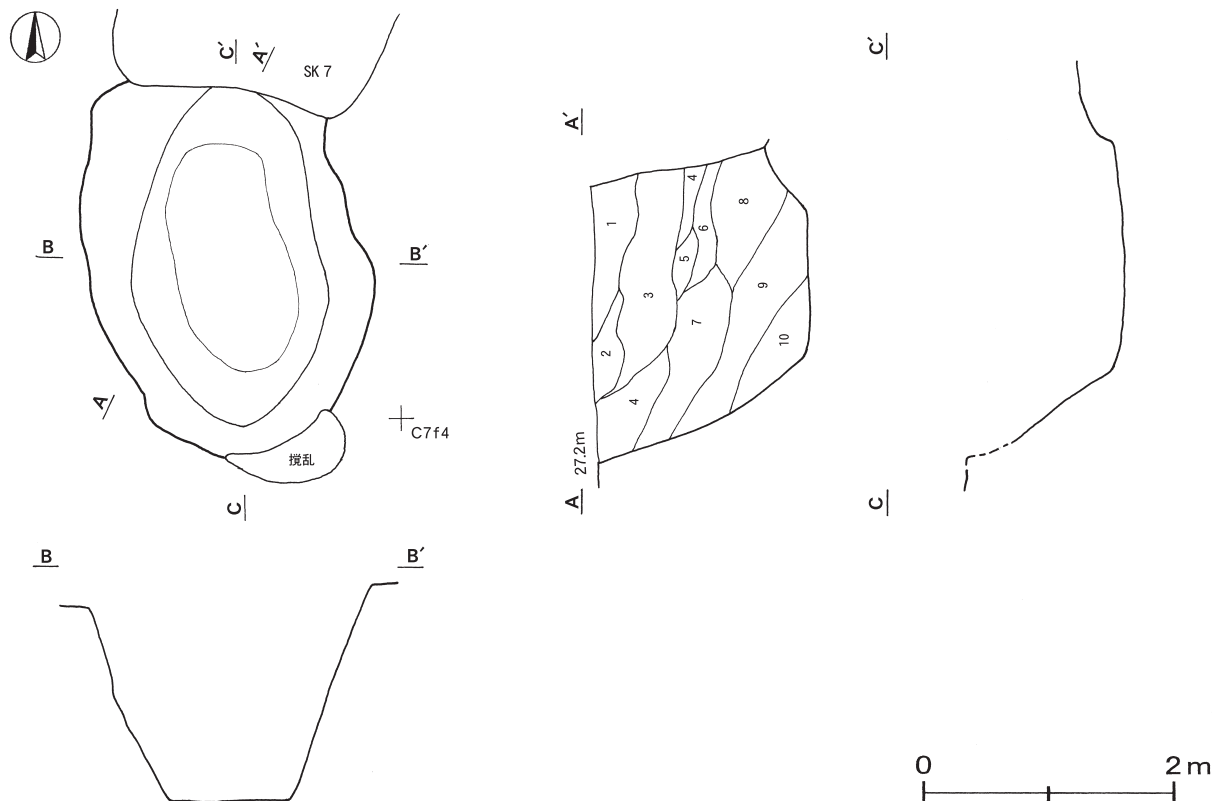
重複関係 第7号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.92m、短径2.17mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。深さは170cmで、短径方向の断面はU字状を呈している。南北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 10層に分けられる。第9・10層は周囲から土が流入した様相を呈しており、自然堆積である。その他の層はロームを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ロームブロック微量	9	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量



第4図 第1号陥し穴実測図

所見 遺物は出土していないため明確でないが、規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。東部の緩斜面部に立地し、等高線に対してほぼ直交して配置されている。

第2号陥し穴（第5図）

位置 調査区東部のC7e1区、標高27.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第32・33号土坑に掘り込まれている。

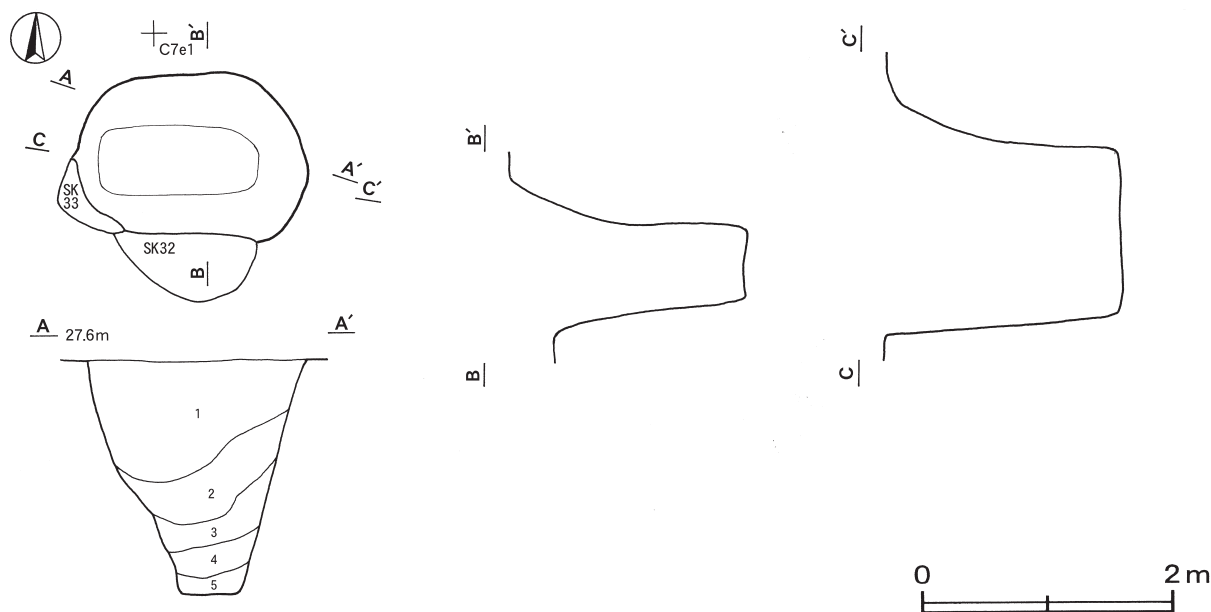
規模と形状 長径1.84m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-88°-Wである。深さは184cmで、短径方向の断面はU字状を呈している。南北壁はほぼ直立して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。周囲から土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

所見 遺物は出土していないため明確でないが、規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。東部の緩斜面部に立地し、等高線に沿って配置されている。



第5図 第2号陥し穴実測図

表2 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) (長径×短径)	深さ (cm)	覆土	底面	壁面	出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
1	C7e3	N-12°-W	[楕円形]	(2.92) × 2.17	170	人為	平坦	外傾		本跡→SK7
2	C7e1	N-88°-W	[楕円形]	1.84 × (1.28)	184	自然	平坦	直立		本跡→SK32・33

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡4軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

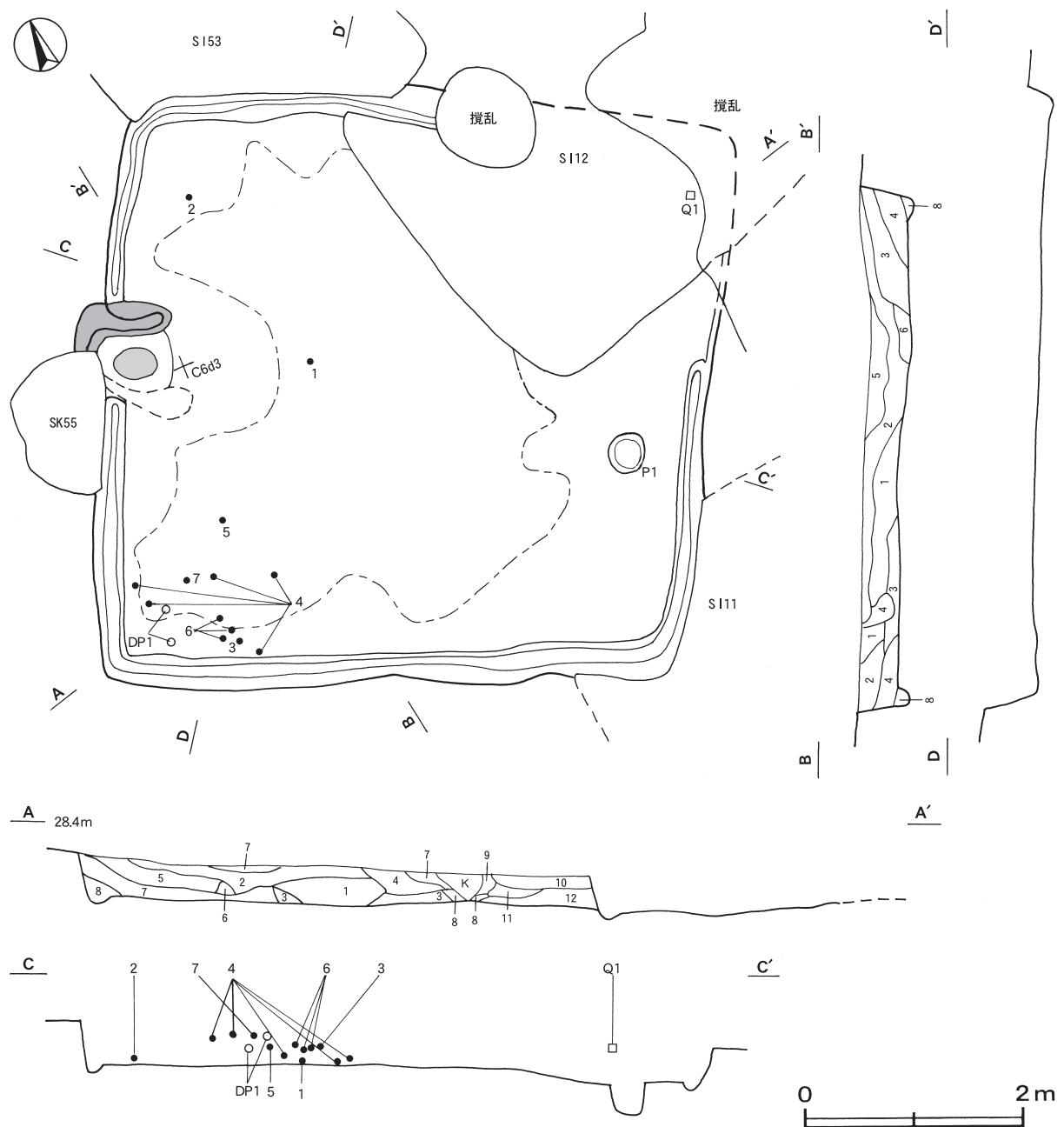
竪穴住居跡

第14号住居跡（第6～8図）

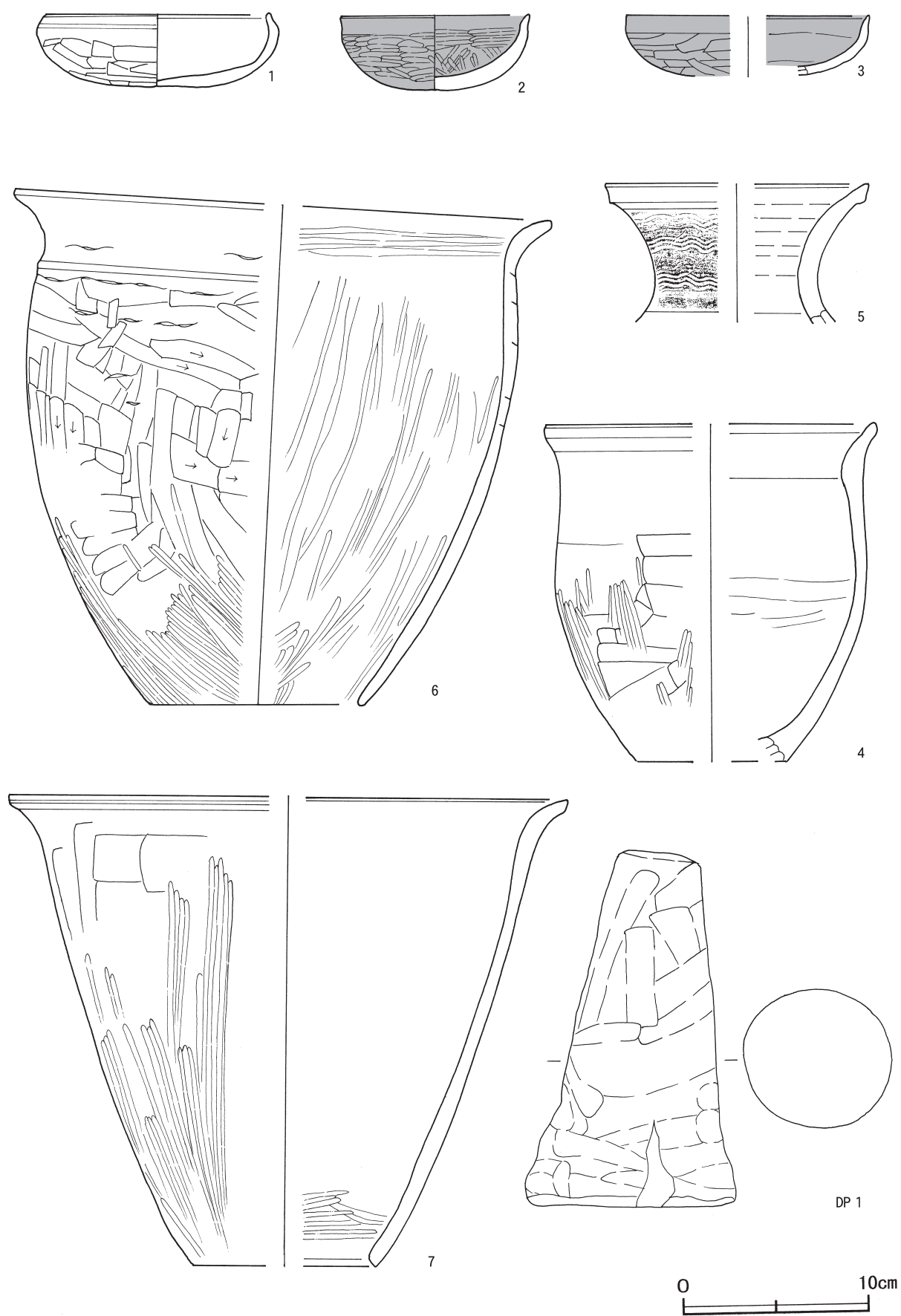
位置 調査区中央部のC 6 d3区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11・12・53号住居、第51・55号土坑に掘り込まれている。

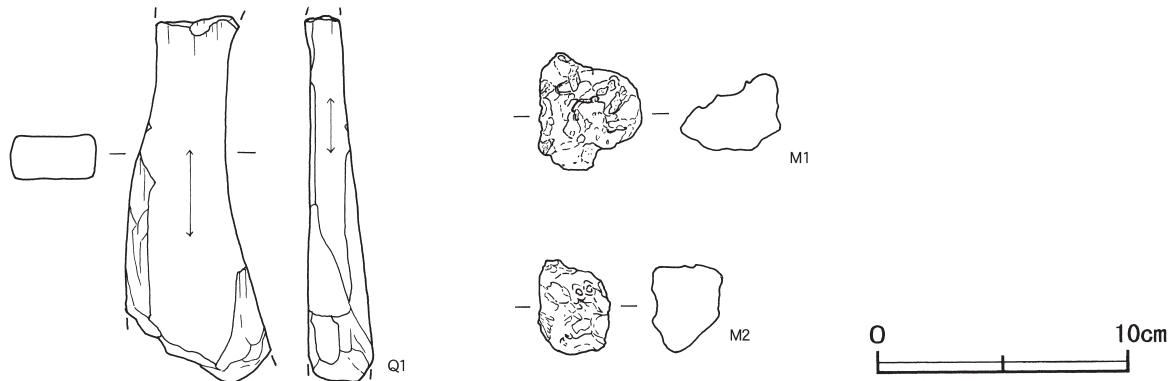
規模と形状 長軸5.66m、短軸5.54mの方形で、主軸方向はN-67°-Wである。壁高は32~40cmで、外傾して立ち上がっている。



第6図 第14号住居跡実測図



第7図 第14号住居跡出土遺物実測図(1)



第8図 第14号住居跡出土遺物実測図(2)

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅12~20cm、深さ2~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 深さ26cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cm、袖部幅110cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築され、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

覆土 12層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	8	暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	9	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4	にぶい暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
5	にぶい暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	11	褐色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
6	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	にぶい暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片219点(坏26, 甕類143, 甌50), 須恵器片1点(甕類), 土製品1点(支脚), 石製品1点(砥石), 鉄滓3点が散在した状態で出土している。そのほか、混入した須恵器片22点も出土している。

1は竈前面, 2は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、時期判定の指標となる遺物である。3・5は南西コーナー部の覆土下層, 7・DP1は南西コーナー部の覆土中層, Q1は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、4・6は南西コーナー部の覆土中層から下層にかけて破砕された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。支柱穴は検出されていない。

第14号住居跡出土遺物観察表(第7・8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.1	3.9	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端 手持ちヘラ削り	床面	80% PL14
2	土師器	坏	10.2	4.0	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	床面	60% PL14
3	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端 手持ちヘラ削り	下層	25%
4	土師器	甕	[17.6]	18.0	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	中層~下層	70% PL23
5	須恵器	甕	[14.4]	(7.8)	—	長石・石英・微礫	黄灰	普通	口辺部内・外面クロナデ 頸部外面波状文	下層	10%
6	土師器	甌	[28.6]	27.5	11.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部外面下端ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き 輪積痕	中層~下層	75% PL23
7	土師器	甌	[29.8]	25.2	[9.8]	長石・石英・雲母・微礫	黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上端ヘラナデ 体部内・外面下端ヘラ磨き	中層	20%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	19.1	4.5	11.4	1402.3	長石・石英・雲母	明褐	ナデ 指頭痕 火熱痕	中層	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(14.5)	(5.8)	2.6	(260.3)	凝灰岩	端部欠損 砥面3面	下層	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鉄滓	4.6	4.2	3.0	37.3	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい赤褐色	覆土中	
M2	鉄滓	3.8	2.9	3.5	29.0	滓	着磁性有り 焼土付着 暗赤褐色	覆土中	

第23号住居跡（第9・10図）

位置 調査区中央部のC5c5区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26号住居，第31・47・77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.54m，短軸5.50mの長方形で，主軸方向はN-30°-Wである。壁高は30cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖部と火床面の一部は第26号住居に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで82cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第1・2・5・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から2cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。奥壁部は袖部の構築材と同じ第10層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	7	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	灰赤色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子多量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，ロームブロック微量	10	灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ70～80cmで，支柱穴である。P5は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。その周囲にはU字状に粘土を貼り付けた高まりが確認されており，出入口に付随する施設と考えられる。P6は深さ70cmで，底面に柱の当たり痕が認められ，柱の建て替えが行われた可能性も考えられる。

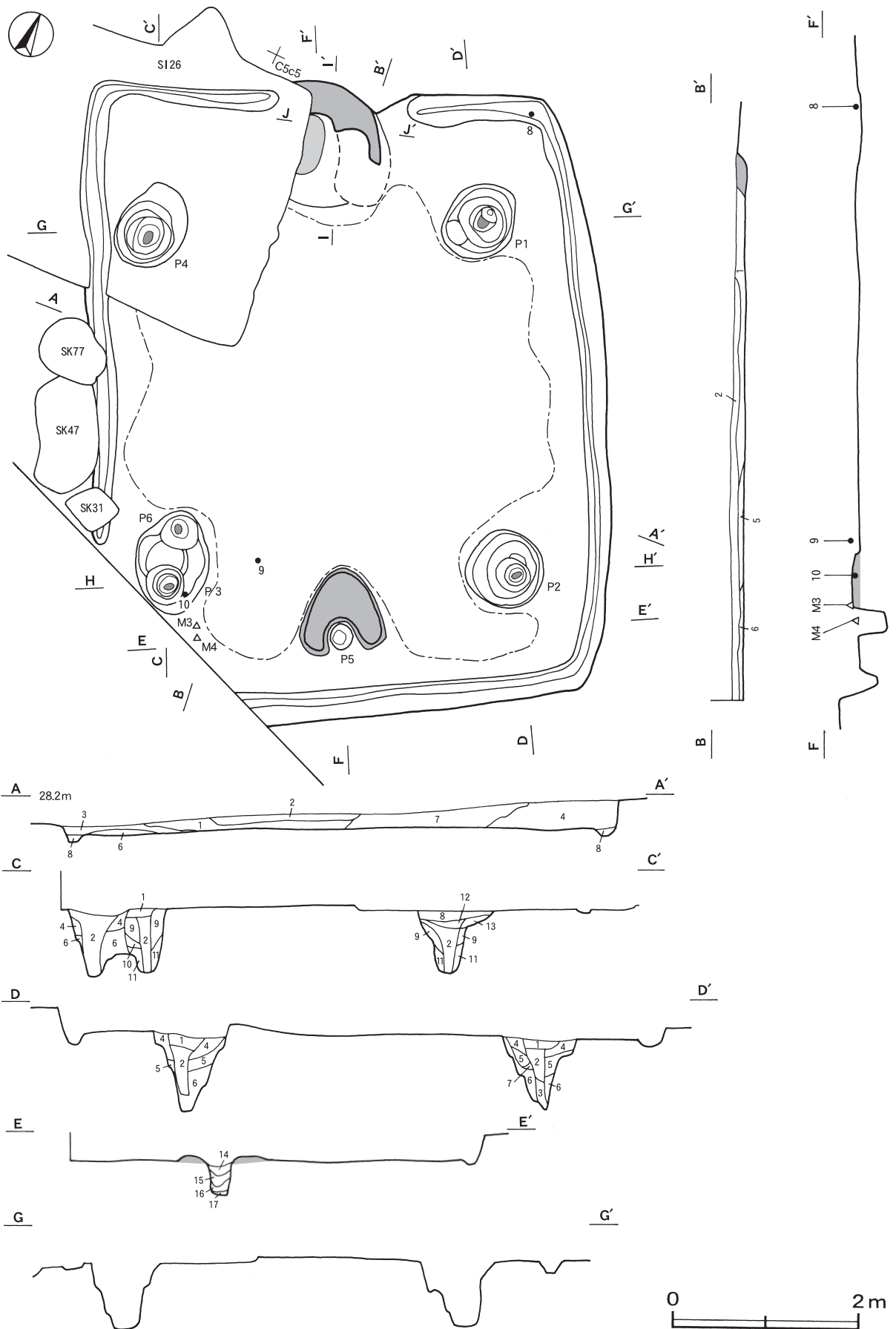
ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量
3	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
6	にぶい褐色	ロームブロック中量，炭化物微量	15	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7	褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
8	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	17	褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック少量			

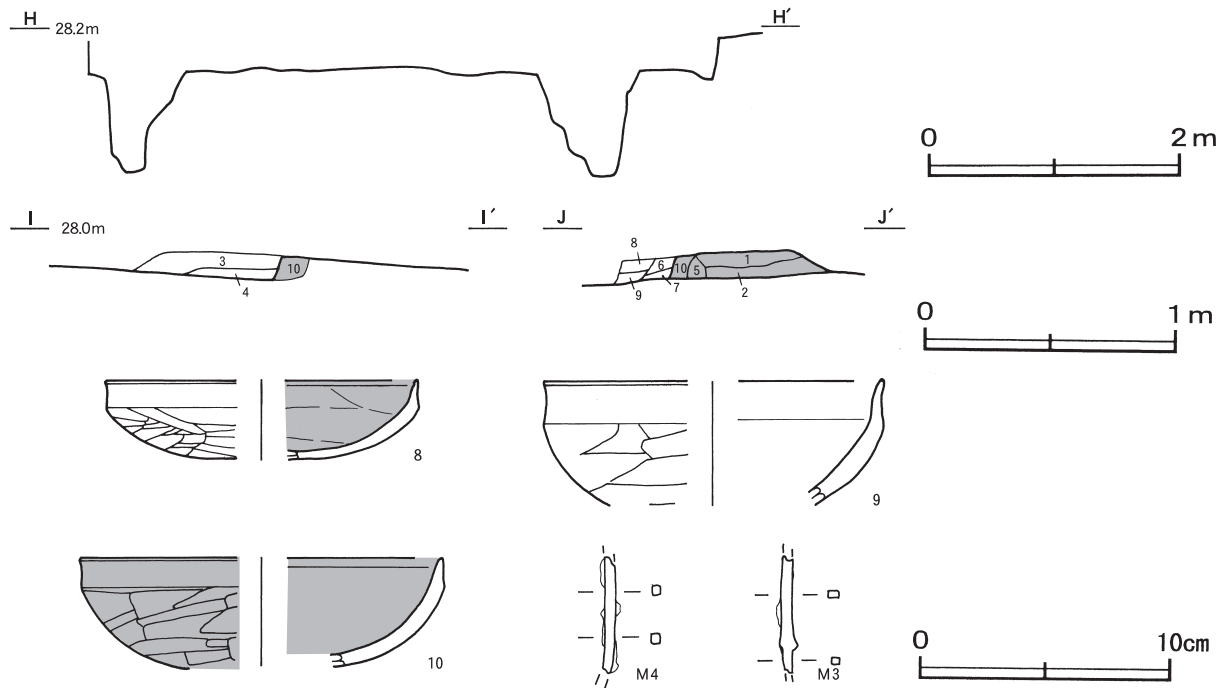
覆土 8層に分けられる。各層にロームを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量



第9图 第23号住居跡実測図



第10図 第23号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片551点（坏63，甕類488），鉄製品2点（鏃），鉄滓2点が散在した状態で出土している。そのほか，混入した須恵器片30点も出土している。8は北東コーナー部，9・10は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標となる遺物である。また，M3・M4はいずれも南西コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	土師器	坏	[12.4]	(3.1)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り	床面	40% P L14
9	土師器	坏	[13.4]	(4.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端 手持ちヘラ削り	床面	30%
10	土師器	坏	[14.4]	(4.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端 手持ちヘラ削り	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	鏃カ	(4.6)	0.7	0.3	(2.8)	鉄	断面方形で棒状 先端部・茎部欠損	床面	P L31
M4	鏃カ	(4.6)	0.4	0.4	(3.1)	鉄	断面方形で棒状 先端部・茎部欠損	床面	P L31

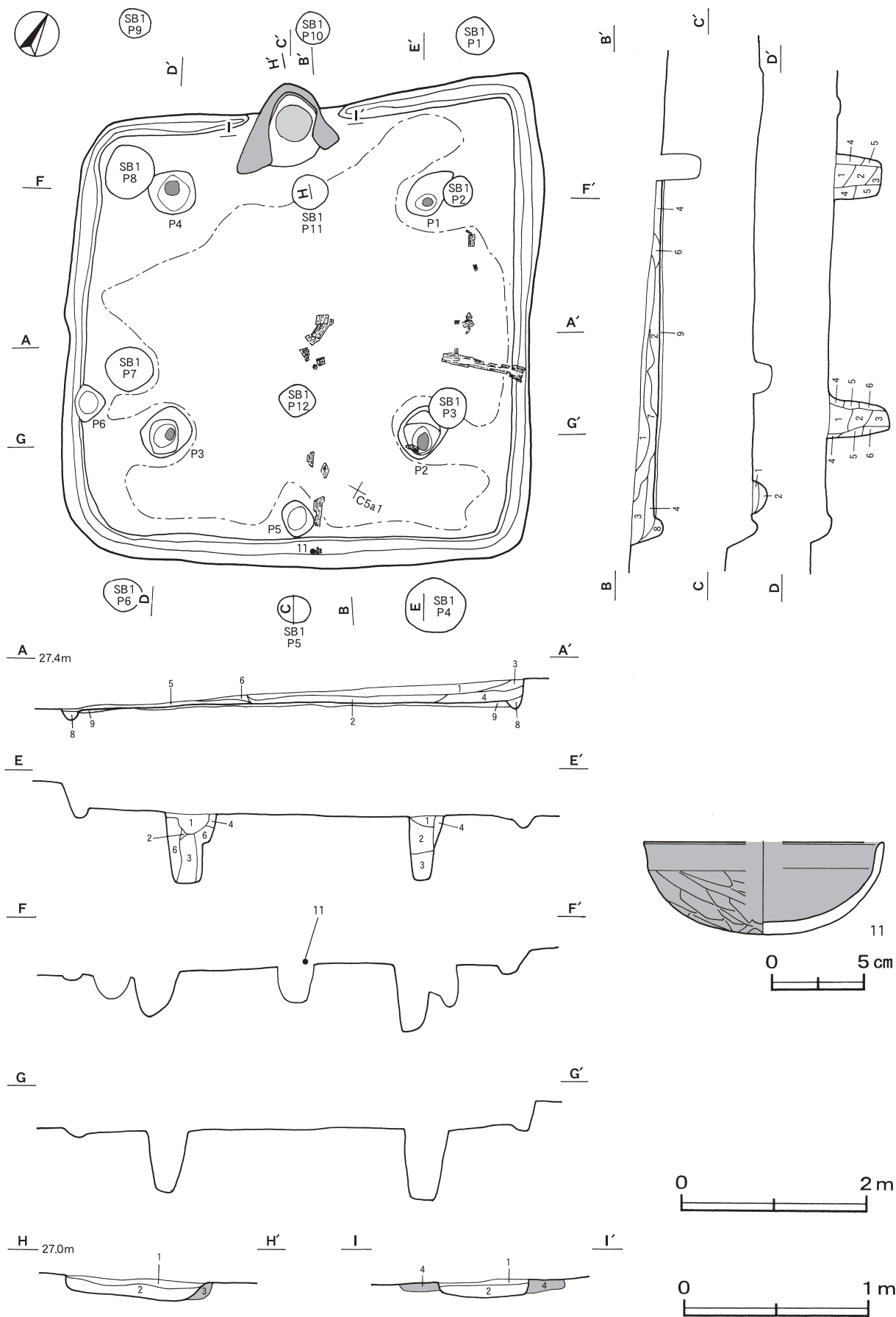
第37号住居跡（第11図）

位置 調査区中央部のB 4 j0区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第105号土坑を掘り込み，第1号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.10m，短軸5.03mの方形で，主軸方向はN-26°-Wである。壁高は32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅14~21cm，深さ5~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，南東部を中心に炭化材が広がっており，焼失住居と考えられる。



第11图 第37号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで79cm、袖部幅110cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。奥壁部は袖部の構築材と同じ第3層を貼り付けて構築されている。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ48～76cmで、支柱穴である。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ13cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

覆土 9層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第9層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 9 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片87点（坏36, 甕類49, 甗2）が南東コーナー一部を中心に出土している。そのほか、混入した縄文土器片7点、須恵器片1点も出土している。11は南壁際の床面から出土しており、時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。覆土中に焼土や炭化物は多く認められないが、床面に炭化材の広がり確認されている。焼後人為的に埋め戻されたものと考えられることから、廃絶に伴う焼失住居の可能性が高い。

第37号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	土師器	坏	[13.0]	5.0	—	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端 手持ちヘラ削り	床面	50% PL14

第50号住居跡（第12図）

位置 調査区中央部のB4g9区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は調査区域外となり、床面が露出した状態で検出された。長軸4.47m、短軸4.01mの長方形で、主軸方向はN-1°-Wと推定される。壁高は10～11cmである。

床 ほぼ平坦である。

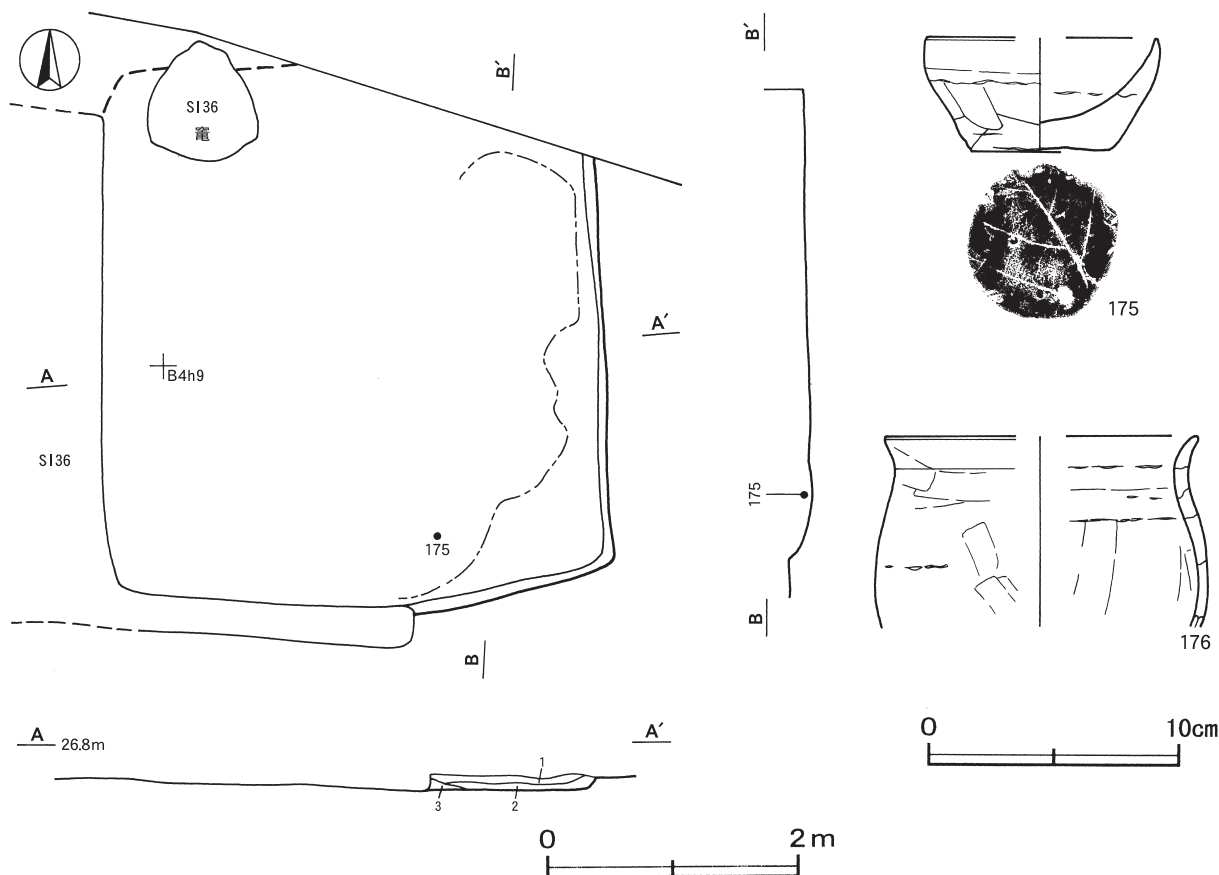
覆土 3層に分けられる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点（小形鉢1, 小形甕1, 甕類15）が細片で出土している。175は南壁際の床面から出土しており、時期判定の指標となる遺物である。また、176は北東部の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第12図 第50号住居跡・出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
175	土師器	小形鉢	[9.1]	4.5	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデヘラ削り 体部外面下端 輪積痕 底部木葉痕	床面	70% P L 19
176	土師器	小形甕	[12.4]	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	覆土中	15%

表3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈			
14	C 6 d3	N-67°-W	方形	5.66 × 5.54	32~40	平坦	全周	—	1	—	1	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 砥石, 鉄滓	7世紀前葉
23	C 5 c5	N-30°-W	長方形	6.54 × 5.50	30	平坦	全周	4	1	1	1	人為	土師器片, 鏃, 鉄滓	7世紀前葉
37	B 4 j0	N-26°-W	方形	5.10 × 5.03	32	平坦	全周	4	1	1	1	人為	土師器片	7世紀前葉
50	B 4 g9	N-1°-W	[長方形]	(4.47 × 4.01)	10~11	平坦	—	—	—	—	—	不明	土師器片	7世紀前葉

3 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の竪穴住居跡8軒，土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡 (第13図)

位置 調査区東部のC7e4区, 標高27.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号住居, 第8号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分は第3号住居に掘り込まれ, 北側部分は調査区域外に伸びているため, 長軸3.22m, 短軸2.42mだけが確認された。主軸方向はN-1°-Eである。壁高は7~25cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 南西部と北部の一部に硬化面が確認されている。西壁下の一部には幅20cm, 深さ10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 4か所。P1・P2は深さ13cm・20cmで, 西壁際に位置していることから, 支柱穴と考えられる。P3・P4は深さ15cm・17cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 | 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

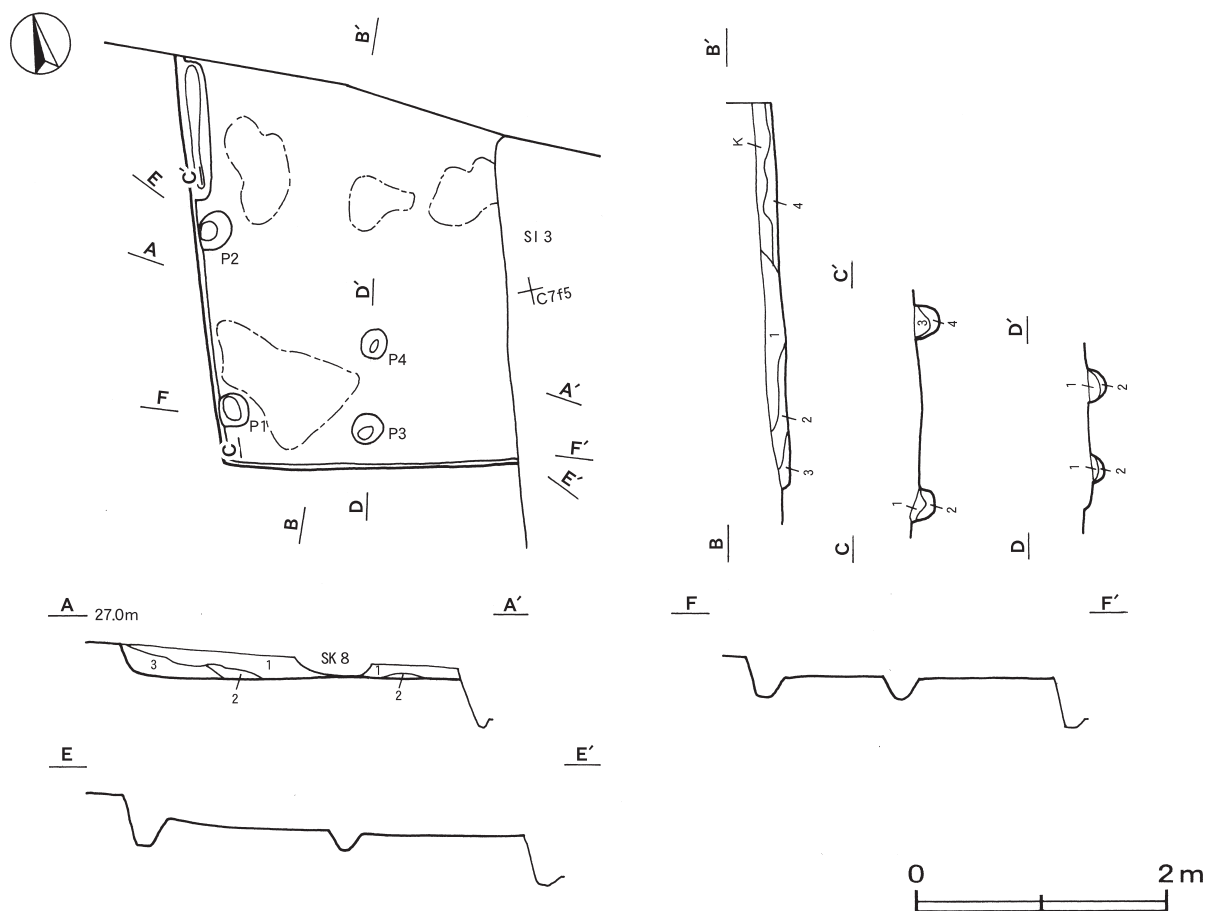
覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕類2)が細片で出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から8世紀代と考えられる。



第13図 第2号住居跡実測図

第12号住居跡（第14図）

位置 調査区中央部のC 6 c3区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号住居跡を掘り込み，第53号住居に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の東半分が攪乱を受けており不明であるが，壁溝及びピットの位置関係などから，長軸4.10m，短軸3.70mの長方形と推定される。長軸方向はN-20°-Wである。壁高は24~28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，南西部に一部硬化面が確認されている。壁下には幅8~16cm，深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット P1・P2は深さ20cm・30cmで，性格は不明である。

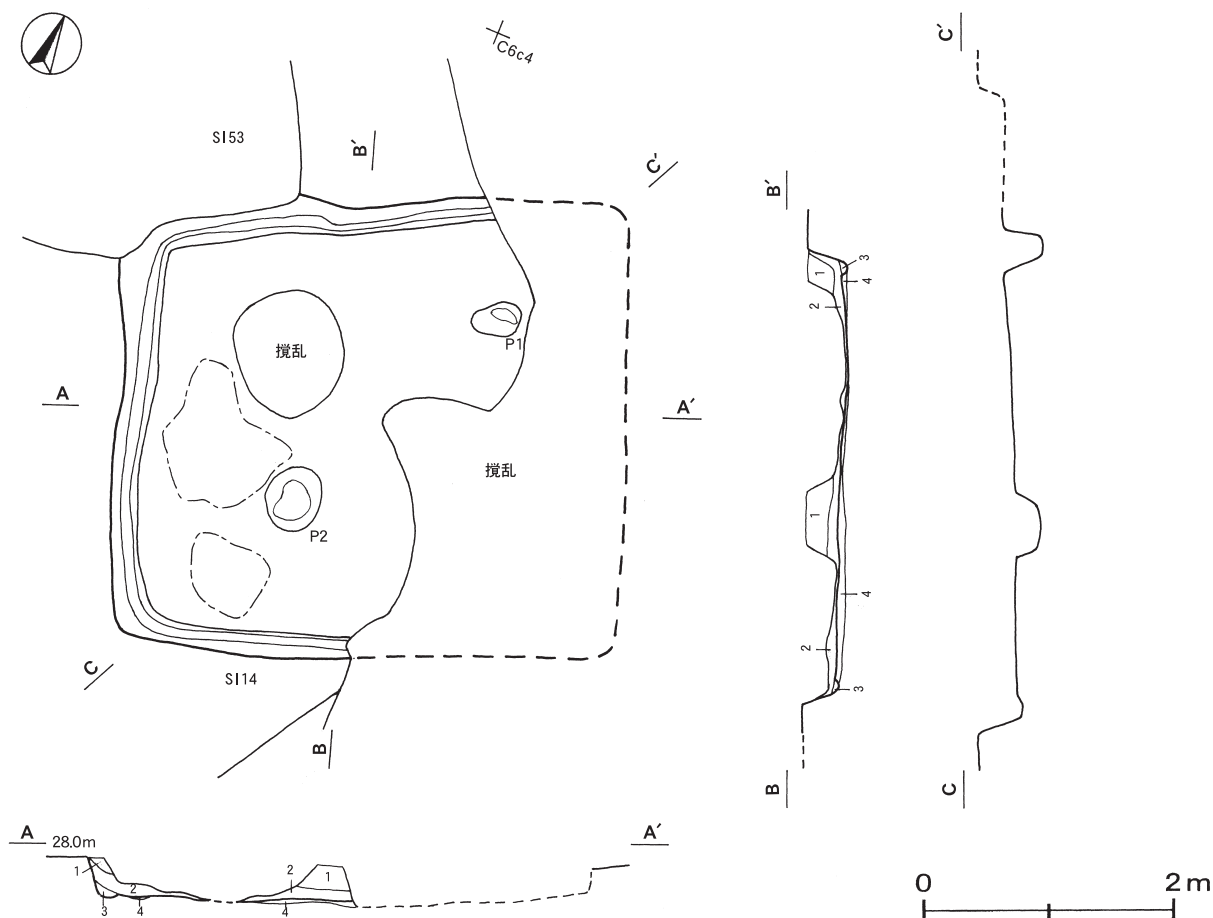
覆土 4層に分けられる。覆土の大半が攪乱を受けており，堆積状況は不明である。第4層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片145点（坏33，甕類112），須恵器片30点（坏21，高台付坏1，蓋4，甕類4）が南壁際を中心に細片で出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第14図 第12号住居跡実測図

第16号住居跡（第15図）

位置 調査区中央部のC 6 d2区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込み，第18号住居に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の大半が第18号住居に掘り込まれているため，長軸2.72m，短軸0.98mだけが確認された。長軸方向はN-2°-Wである。壁高は16cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

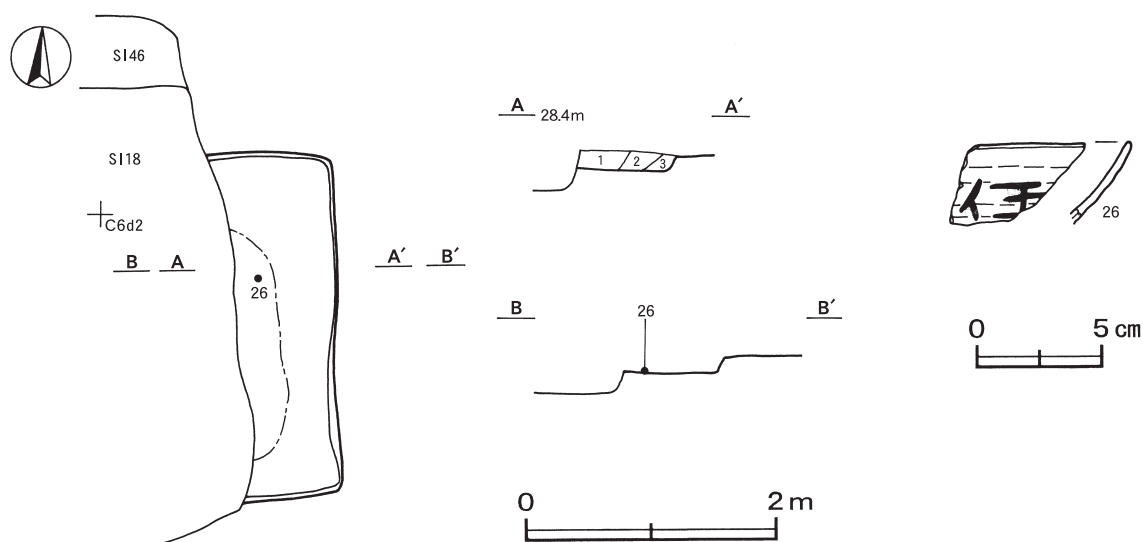
覆土 3層に分けられる。各層にロームを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------|---|----|----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 | 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片228点（坏76，甕類152），須恵器片90点（坏52，高台付坏3，盤1，蓋3，甕類31），瓦2点（平瓦）が細片で出土している。そのほか，混入した古銭1点も出土している。26は東壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第15図 第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
26	土師器	坏	[15.0]	(3.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	床面	10% PL14 墨書「住」カ

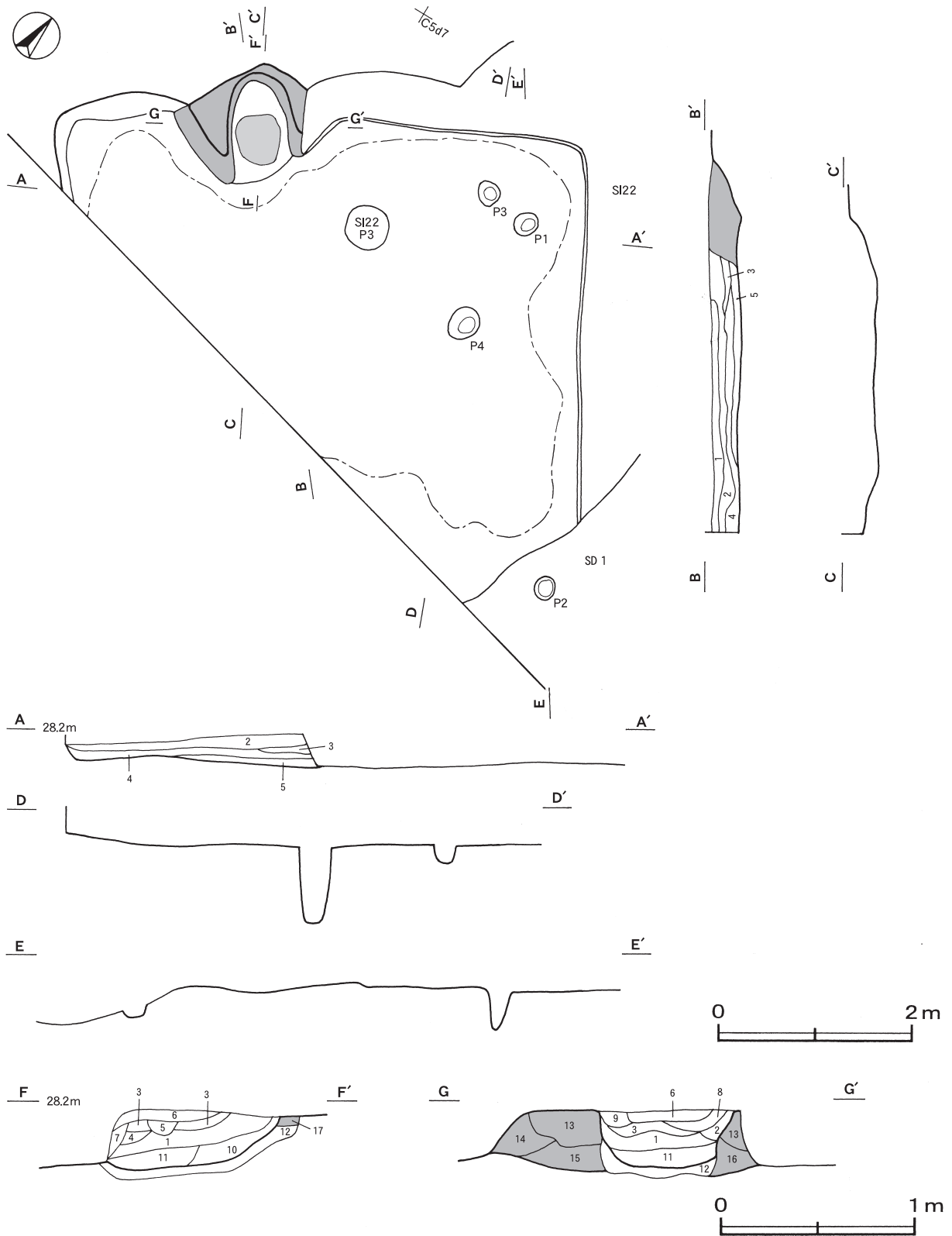
第24号住居跡（第16図）

位置 調査区中央部のC 5 d7区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第39号住居跡を掘り込み，第22号住居，第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西部は調査区域外に延びているため，長軸5.50m，短軸4.92mだけが確認された。主軸方向はN-31°-Wである。壁高は15cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。



第16図 第24号住居跡実測図

竈 北壁西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm，袖部幅134cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第13～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面から3cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。煙道の奥壁部は袖部の構築材と同じ第17層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-----------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 | 12 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 13 灰赤色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 14 灰赤色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 灰赤色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 15 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 16 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 17 灰赤色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | | |
| 9 赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化材微量 | | |
| 10 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ18～77cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

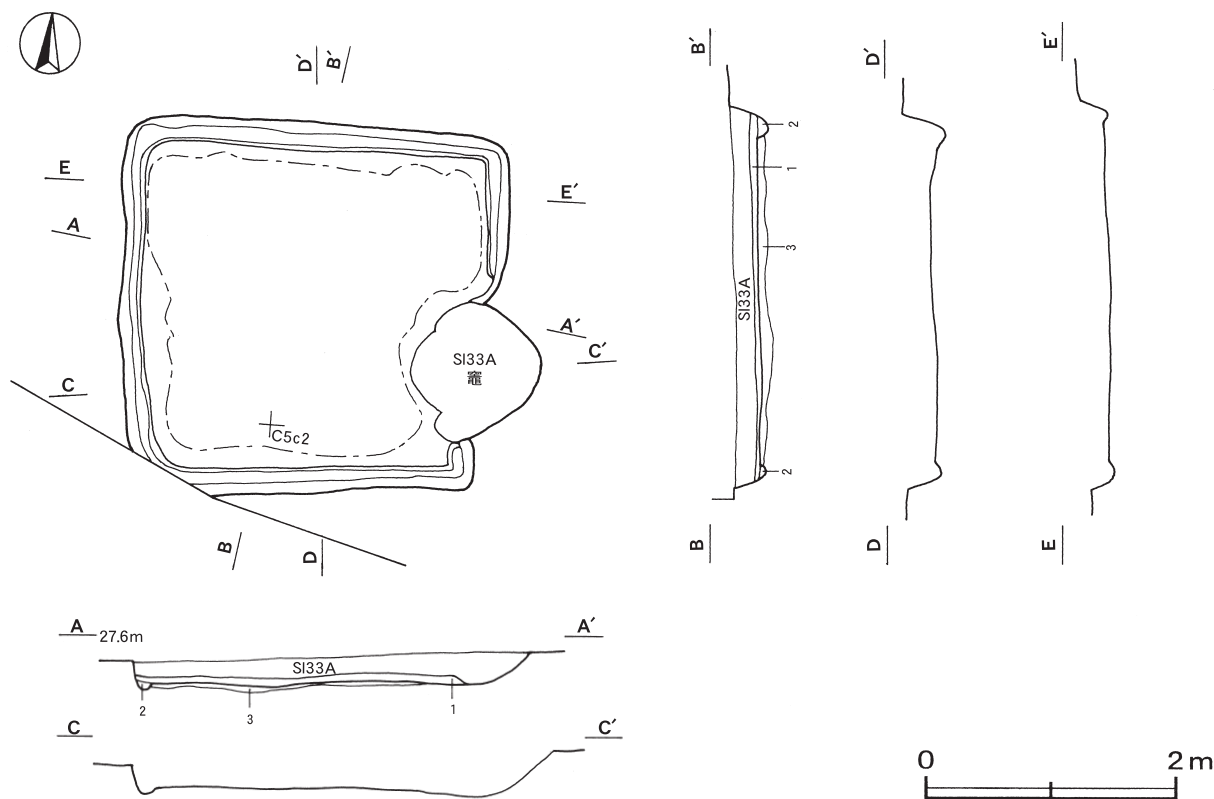
- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片111点（坏13, 甕類98）, 須恵器片83点（坏4, 高台付坏26, 盤10, 高盤2, 蓋26, 甕類15）が細片で出土している。そのほか、混入した陶器片も1点出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。

第33B号住居跡（第17図）

位置 調査区中央部のC5b2区、標高27.5mの台地平坦部に位置している。



第17図 第33B号住居跡実測図

重複関係 ほぼ同じ位置に同規模に第33A号住居が構築されている。また竈についても同位置に構築されており、本跡に伴う竈は確認されていない。

規模と形状 長軸3.07m、短軸2.97mの方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は12~15cmである。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅8~13cm、深さ5~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

覆土 3層に分けられる。各層にロームを含む人為堆積である。第3層は床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

所見 本跡は第33A号住居へ建て替えられた住居で、明確な時期差は見出せず、短期間のうちに建て替えが行われたものと想定される。時期は、重複関係から8世紀後葉~9世紀初頭と考えられる。

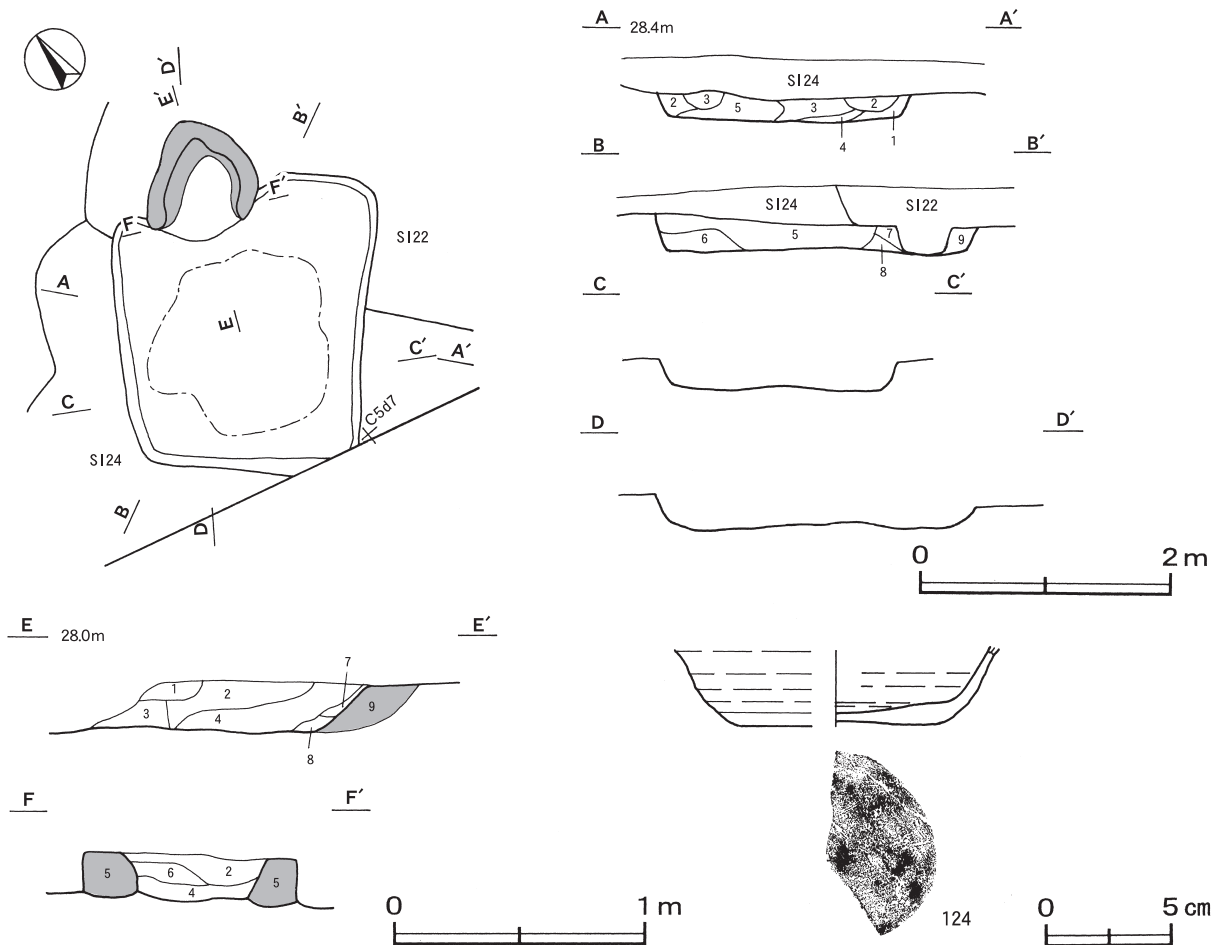
第39号住居跡 (第18図)

位置 調査区中央部のC 5 d6区, 標高28.0mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22・24号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.40m、短軸2.08mの長方形で、主軸方向はN-40°-Eである。壁高は20~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。



第18図 第39号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，袖部幅85cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から7cmくぼんでおり，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に51cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	5 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	6 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
		9 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 9層に分けられる。各層にロームを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	9 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック・砂質粘土粒子少量
5 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片36点（坏2，甕類34），須恵器片31点（坏19，高台付坏1，盤1，蓋1，壺1，甕類8）が細片で出土している。124は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。

第39号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
124	須恵器	坏	—	(3.1)	[7.8]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面 端回転ヘラ削り	体部外面下 底部多方向ヘラ削り	覆土中	20%

第51号住居跡（第19～21図）

位置 調査区西部のB3e6区，標高19.5mの低地部に位置している。

重複関係 第131号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.20mの方形で，主軸方向はN-45°-Wである。壁高は28～64cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北東部を除く壁下には幅12～22cm，深さ4～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm，袖部幅90cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

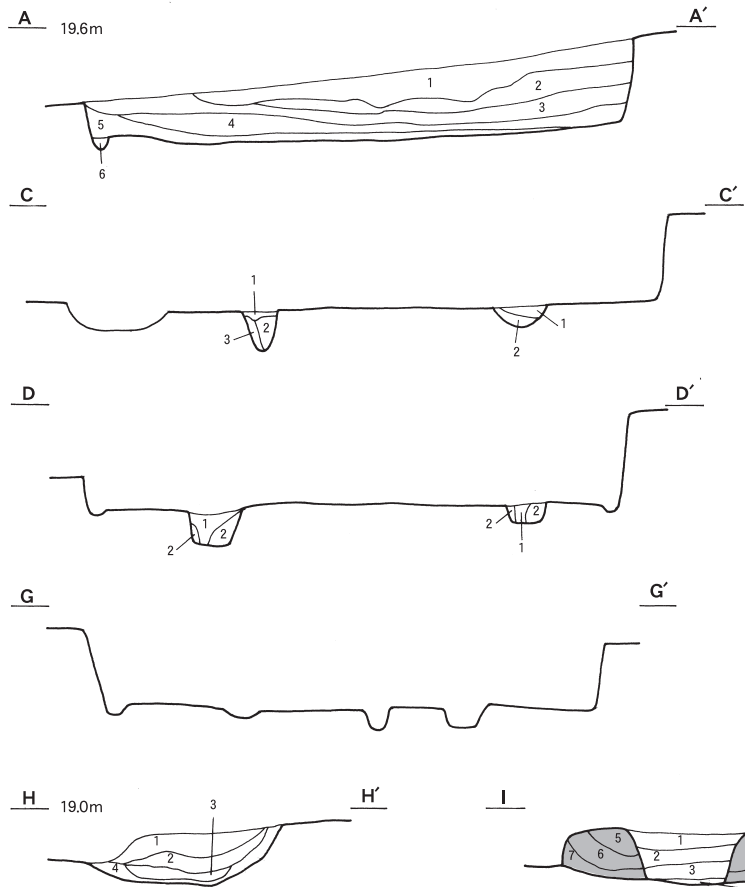
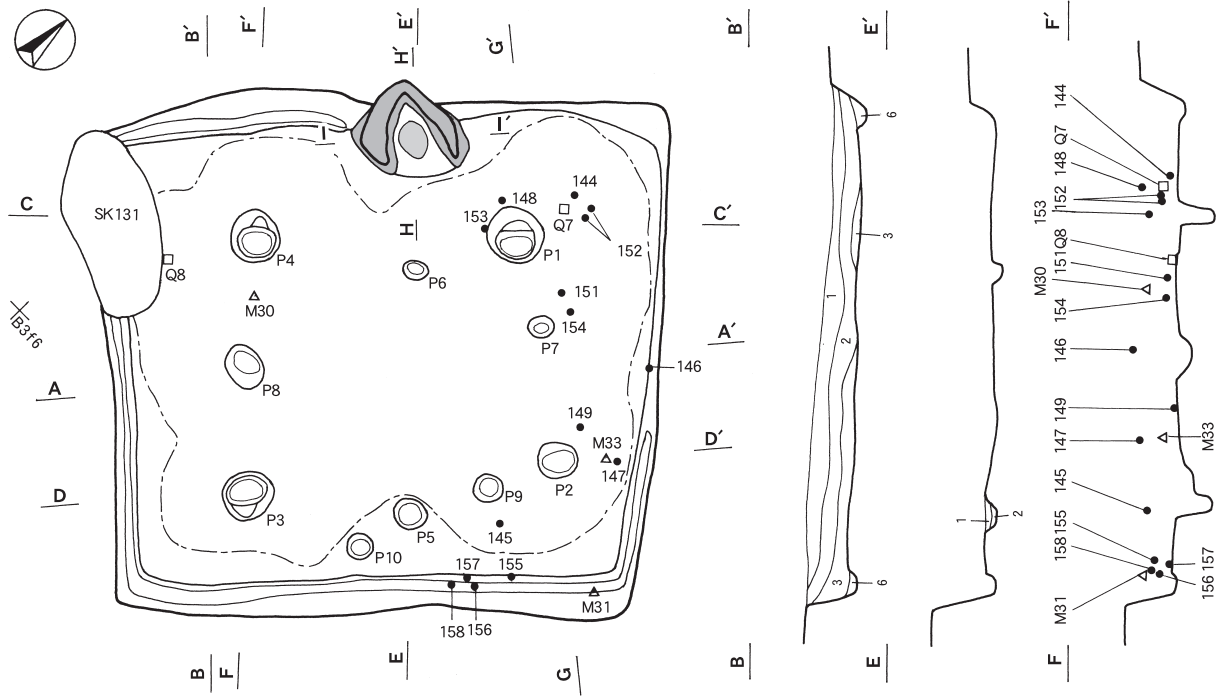
1 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	5 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2 褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	7 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量		

ピット 10か所。P1～P4は深さ32～60cmで，支柱穴である。P5は深さ8cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P10は深さ4～12cmで，性格は不明である。

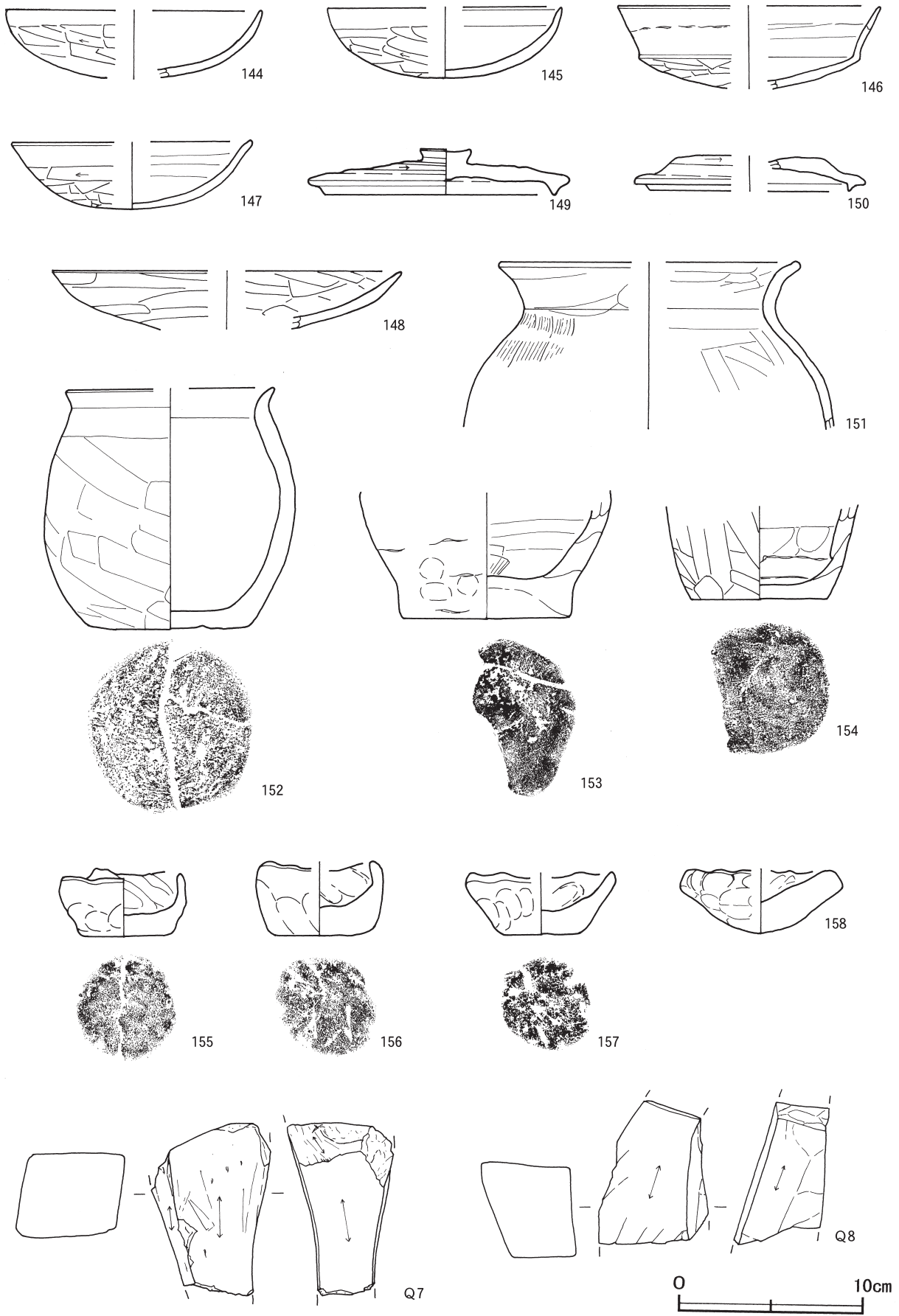
ピット土層解説

- 1 黒 褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 褐 灰色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

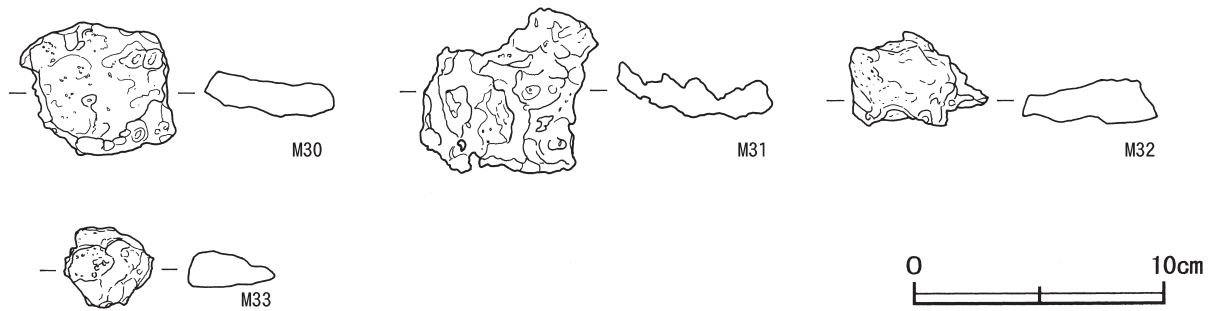
- 3 明 褐 灰色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量



第19図 第51号住居跡実測図



第20图 第51号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図 第51号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況であるが、各層にロームを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片340点(坏225, 高台付椀1, 皿1, 甕類92, 小形甕11, 手捏土器10), 須恵器片122点(坏97, 高台付坏4, 蓋11, 甕類10), 石製品2点(砥石), 鉄滓2点, 椀状滓2点, 瓦1点(平瓦)が散在した状態で出土している。そのほか、混入した縄文土器片2点も出土している。144・148・152・153・Q7は北東コーナー部, 145は南壁際, 146・147・149・151・154は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。150は竈の覆土中, Q8は西壁際の床面からそれぞれ出土している。155~158は南壁際の覆土下層から床面にかけてまとまって出土している。また, M30は西壁際, M31・M33は南東コーナー部の覆土下層, M32は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。出土遺物量が多いことやこの時期で最も広い面積を有する住居であることから、集落の中心的な住居と考えられる。また、手捏土器がまとまって出土している点も特筆される。

第51号住居跡出土遺物観察表(第20・21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	土師器	坏	[13.8]	(3.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	下層	40%
145	土師器	坏	[12.8]	3.8	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	下層	35%
146	土師器	坏	[14.2]	(4.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 輪積痕	下層	20%
147	土師器	坏	[12.8]	3.6	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	下層	20%
148	土師器	皿	[18.8]	(3.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	30%
149	須恵器	蓋	12.5	2.5	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部右回転ヘラ削り	下層	100% P L22
150	須恵器	蓋	[12.4]	(1.9)	—	長石・雲母	浅黄橙	普通	天井部右回転ヘラ削り	覆土中	30%
151	土師器	甕	[16.0]	(9.0)	—	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上端刷毛目調整 内面ヘラナデ	下層	10%
152	土師器	小形甕	[11.2]	13.1	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	下層	75% P L24
153	土師器	小形甕	—	(6.8)	8.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 体部外面指頭痕 輪積痕	下層	20%
154	土師器	小形甕	—	(5.1)	7.4	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	下層	20%
155	土師器	手捏土器	6.4	3.7	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	下層	75% P L24
156	土師器	手捏土器	[5.6]	4.0	4.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	下層	70% P L24
157	土師器	手捏土器	[7.6]	3.4	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	床面	70% P L24
158	土師器	手捏土器	[8.0]	3.3	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	下層	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 7	砥石	(9.3)	(6.4)	(5.8)	(277.3)	凝灰岩	砥面4面 断面方形 端部欠損	下層	P L 30
Q 8	砥石	(7.8)	6.0	5.2	(248.9)	安山岩	砥面2面 端部欠損	床面	P L 30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M30	椀状滓	6.3	5.3	1.9	82.9	滓	着磁性有り 焼土付着 暗赤褐色	下層	
M31	椀状滓	7.2	6.1	2.3	58.8	滓	着磁性有り 焼土付着 暗赤褐色	下層	
M32	鉄滓	5.5	3.8	1.8	26.5	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	覆土中	
M33	鉄滓	3.5	3.2	1.4	13.3	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	下層	

第55号住居跡（第22図）

位置 調査区中央部のB 4 j7区，標高26.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第49号住居，第94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸2.98m，短軸2.42mの長方形で，長軸方向はN-75°-Wと推定される。壁高は4cmである。

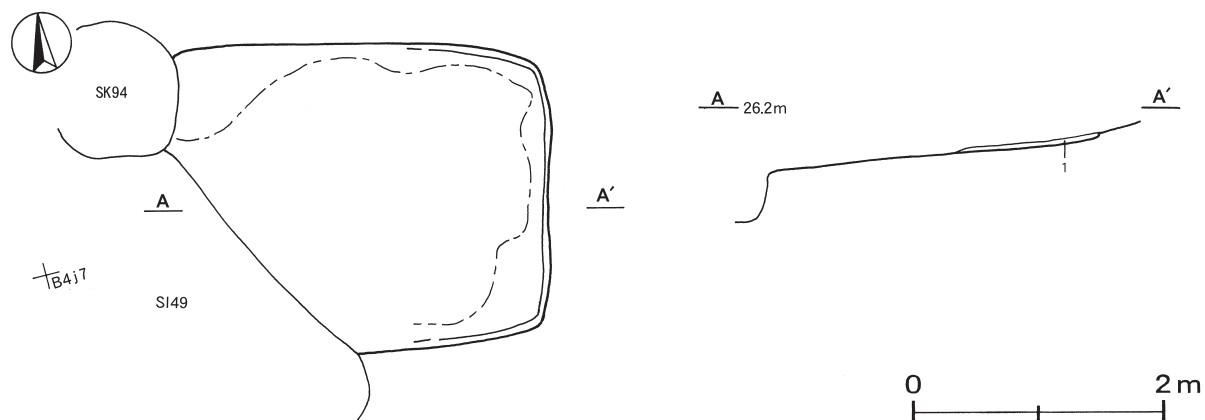
床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められているものと推定される。

覆土 単一層であるため，堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子多量

所見 出土土器がないため，時期の特定は困難であるが，重複関係から9世紀前葉以前と考えられる。



第22図 第55号住居跡実測図

表4 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備 考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈			
2	C 7 e4	N-1°-E	—	(3.22 × 2.42)	7~25	平坦	一部	—	2	2	—	自然	土師器片	8世紀代
12	C 6 c3	N-20°-W	[長方形]	[4.10] × 3.70	24~28	平坦	全周	—	—	2	—	不明	土師器片，須恵器片	8世紀後葉
16	C 6 d2	N-2°-W	—	2.72 × (0.98)	16	平坦	—	—	—	—	—	人為	土師器片，須恵器片，瓦片	8世紀後葉
24	C 5 d7	N-31°-W	—	(5.50 × 4.92)	15	平坦	—	—	—	4	1	自然	土師器片，須恵器片	8世紀後葉
33B	C 5 b2	N-91°-E	方形	3.07 × 2.97	12~15	平坦	全周	—	—	—	—	人為		8世紀後葉~ 9世紀初頭
39	C 5 d6	N-40°-E	長方形	2.40 × 2.08	20~22	平坦	—	—	—	—	1	人為	土師器片，須恵器片	8世紀中葉
51	B 3 e6	N-45°-W	方形	4.50 × 4.20	28~64	平坦	全周	4	1	5	1	人為	土師器片，須恵器片，砥石，鉄滓，椀状滓，瓦片	8世紀前葉
55	B 4 j7	N-75°-W	[長方形]	(2.98) × 2.42	4	平坦	—	—	—	—	—	不明		9世紀前葉以前

(2) 土坑

第129号土坑 (第23図)

位置 調査区西部のB3f5区、標高19.0mの低地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.92m、短径1.56mの不整形で、長径方向はN-62°-Eである。深さは82cmで、底面は段状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

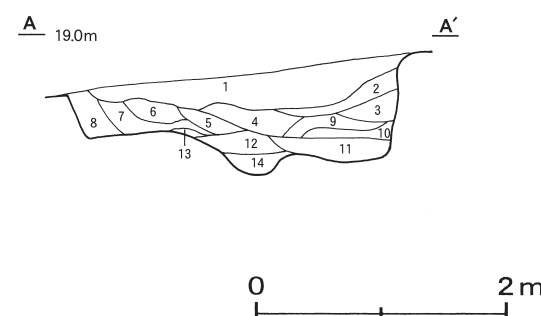
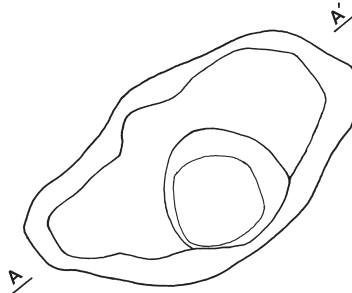
覆土 14層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 灰褐色	砂質粘土粒子少量
2 灰褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	9 灰褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 灰褐色	砂質粘土粒子中量
4 灰褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
5 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	13 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片17点 (坏7, 甕類10), 須恵器片8点, 鉄滓1点が出土している。

所見 不定形で底面に凸凹が認められ、各層に砂質粘土粒子を含み、遺物がほとんど出土していないことから、粘土採掘坑の可能性も考えられる。時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。



第23図 第129号土坑実測図

4 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡40軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡1条、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第24図)

位置 調査区東部のC7f6区、標高26.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 北側部分は調査区域外に延びているため、長軸1.96m、短軸は1.24mだけが確認された。主軸方向はN-1°-Eである。壁高は16~27cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は認められない。壁下には幅7~12cm、深さ5~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

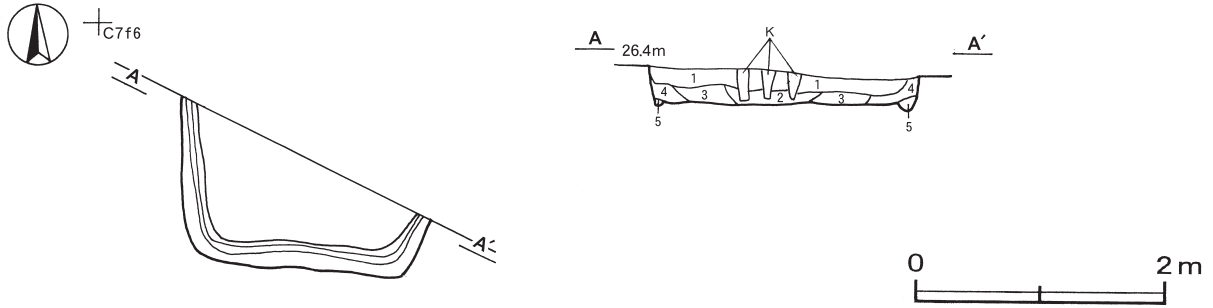
覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片20点（坏6，甕類14），須恵器片4点（坏2，蓋1，高台付坏1）が南壁際を中心に細片で出土している。

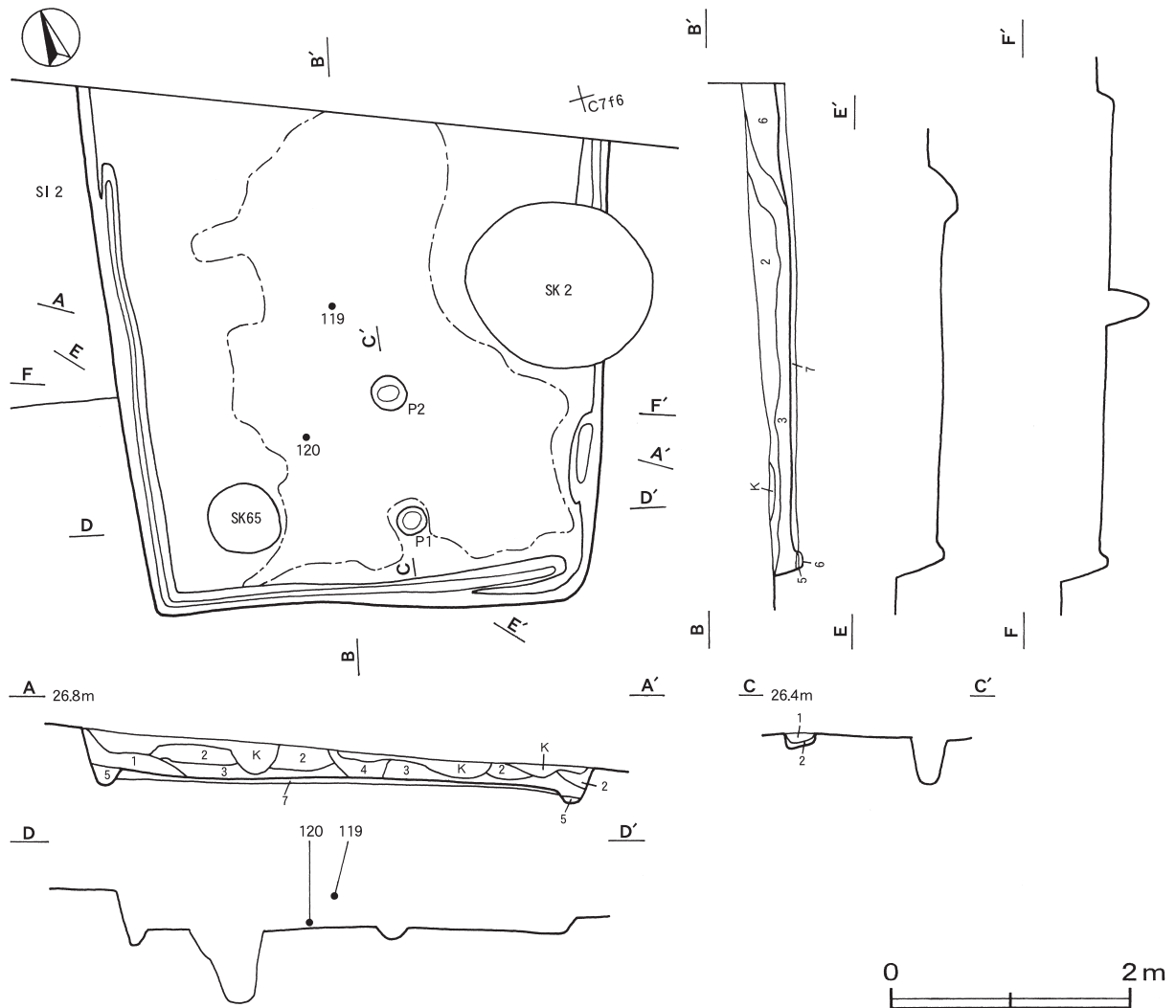
所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



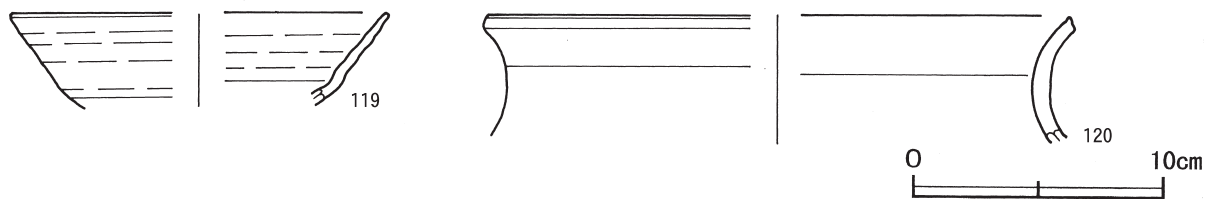
第24図 第1号住居跡実測図

第3号住居跡（第25・26図）

位置 調査区東部のC7f5区，標高26.5mの緩斜面部に位置している。



第25図 第3号住居跡実測図



第26図 第3号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第2号住居跡を掘り込み、第2・65号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分は調査区域外に延びているため、長軸4.43m、短軸4.39mだけが確認された。主軸方向はN-18°-Eである。壁高は17~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西壁と南壁及び東壁下の一部には幅13~21cm、深さ5~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 2か所。P1は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ32cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 2 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土 7層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第7層は床の構築土である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 6 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 7 褐色 ロームブロック多量
 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片207点（坏14、甕類193）、須恵器片11点（坏9、蓋1、甕類1）、灰釉陶器片1点（碗）、礫6点が細片で出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点も出土している。119は中央部の覆土上層、120は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
119	須恵器	高台付坏	[15.0]	(3.7)	—	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面クロナデ	上層	10%
120	土師器	甕	[23.2]	(5.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	10%

第4号住居跡（第27図）

位置 調査区中央部のC6d1区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込み、第18・19号住居に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の大半が第18・19号住居に掘り込まれているため、長軸2.95m、短軸は0.22mだけが確認された。長軸方向はN-7°-Wである。壁高は18cmで、ほぼ直立している。

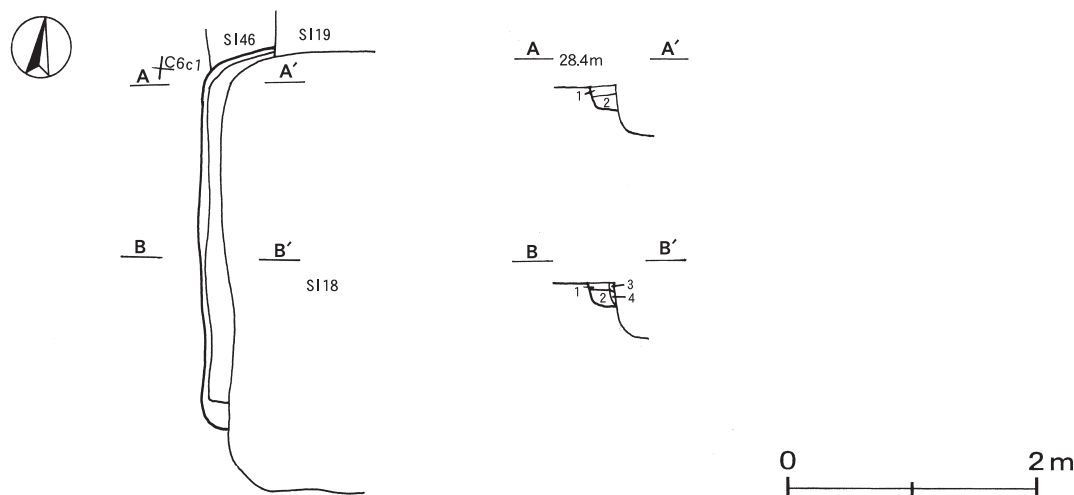
床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は認められない。

覆土 4層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

所見 出土土器がないため, 時期の特定は困難であるが, 重複関係から9世紀後葉以前と考えられる。



第27図 第4号住居跡実測図

第5号住居跡 (第28・29図)

位置 調査区東部のC7g3区, 標高26.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.52m, 短軸3.34mの方形で, 主軸方向はN-29°-Wである。壁高は20~31cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで99cm, 袖部幅118cmである。袖部は砂質粘土を主体とする第6~10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から12cmくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗赤灰色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 12 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1は深さ12cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2~P4は深さ14~41cmで, 性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 2 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|----------------|------|----------------------|

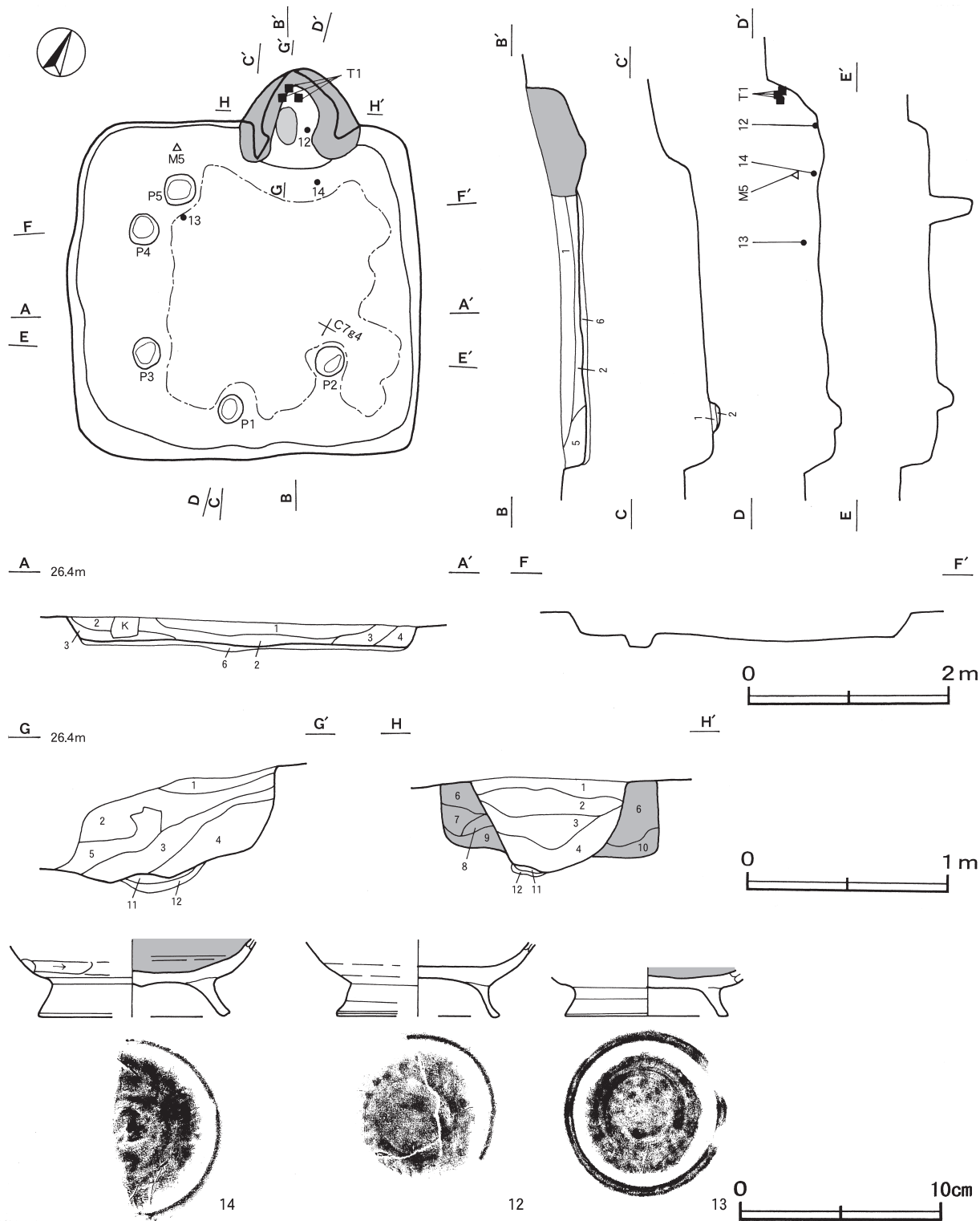
覆土 6層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第6層は床の構築土である。

土層解説

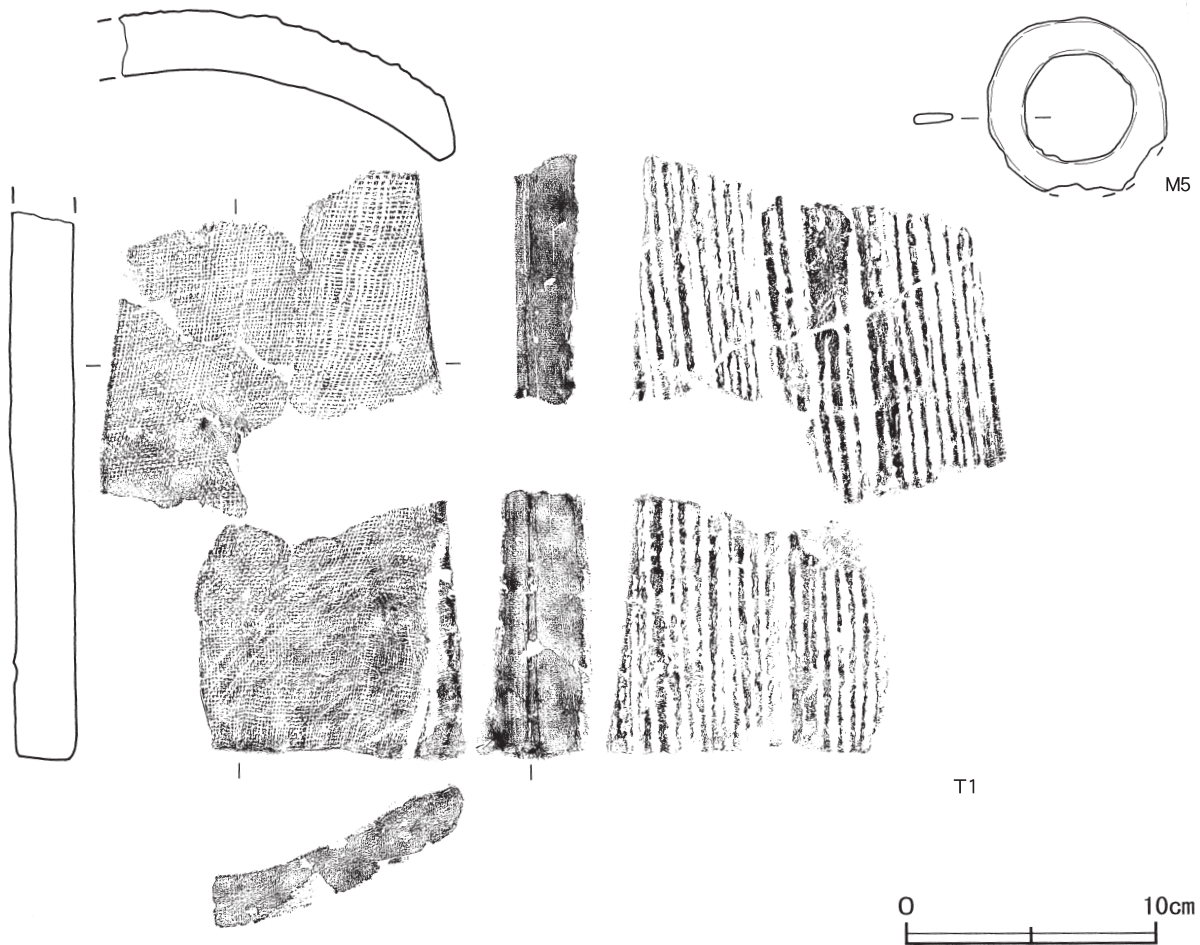
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片129点（坏21，高台付椀8，甕類100），須恵器片34点（坏13，高台付坏1，蓋5，長頸瓶1，甕類14），鉄製品1点（不明），瓦6点（平瓦）が散在した状態で出土している。12は竈内から出土しており，時期判定の指標となる遺物である。14は竈前面，13・M5は北壁際の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。また，T1は竈奥壁から出土しており，熱を受けた痕跡が認められることから，竈の補強材として使用されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第28図 第5号住居跡・出土遺物実測図



第29図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第28・29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	土師器	高台付椀	—	(3.8)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面見込み磨き	竈内	60%
13	土師器	高台付椀	—	(2.4)	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	50%
14	土師器	高台付椀	—	(3.9)	[9.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面見込み磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	不明	(7.0)	7.1	0.4	(41.9)	鉄	断面長方形の鉄材で環状を呈している	中層	PL31

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	(23.6)	(13.3)	2.6	(936.4)	長石・石英・雲母・礫	灰黄	普通	凸面長縄叩き 凹面糸切り痕・布目痕	竈内	PL26

第6号住居跡（第30図）

位置 調査区東部のC7f3区、標高26.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.75m、短軸2.64mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は14~35cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北壁を除く壁下には幅12~18cm、深さ6~15cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ11～26cmで、支柱穴である。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |

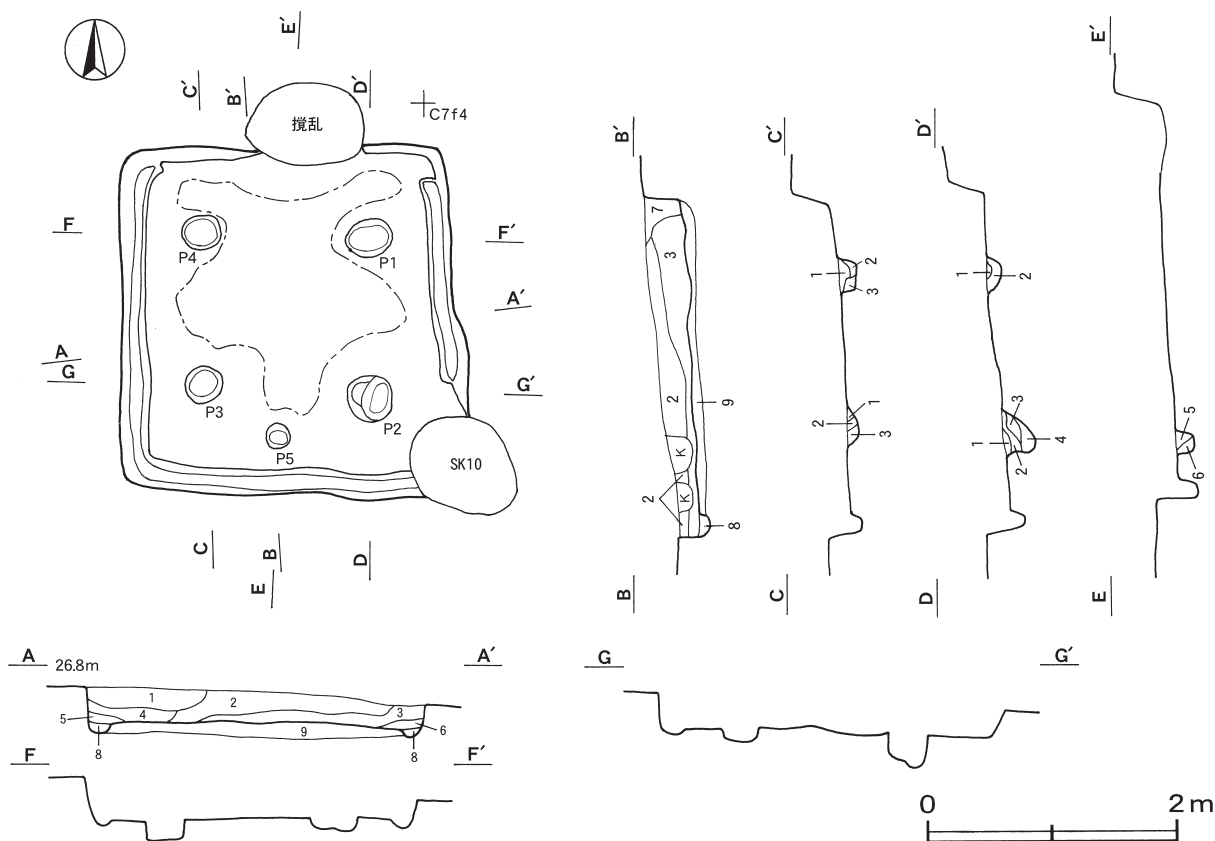
覆土 9層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第9層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点(坏4, 甕類13), 須恵器片3点(坏2, 鉢1), 鉄滓3点が出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。竈は、攪乱のため不明ではあるが、本跡の形状から北壁に付設されていたと考えられる。



第30図 第6号住居跡実測図

第7号住居跡 (第31図)

位置 調査区東部のC7e2区, 標高27.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.29m, 短軸3.04mの方形で、主軸方向はN-27°-Eである。壁高は12～18cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、南北方向が帯状に踏み固められている。南西部と北壁の一部を除く壁下には幅12~18cm、深さ6~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cm、袖部幅100cmである。袖部はローム土を主体とする第3・5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり、火床面は認められない。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 7か所。P1~P4は深さ8~13cmで、支柱穴である。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は深さ13cm・20cmで、性格は不明である。

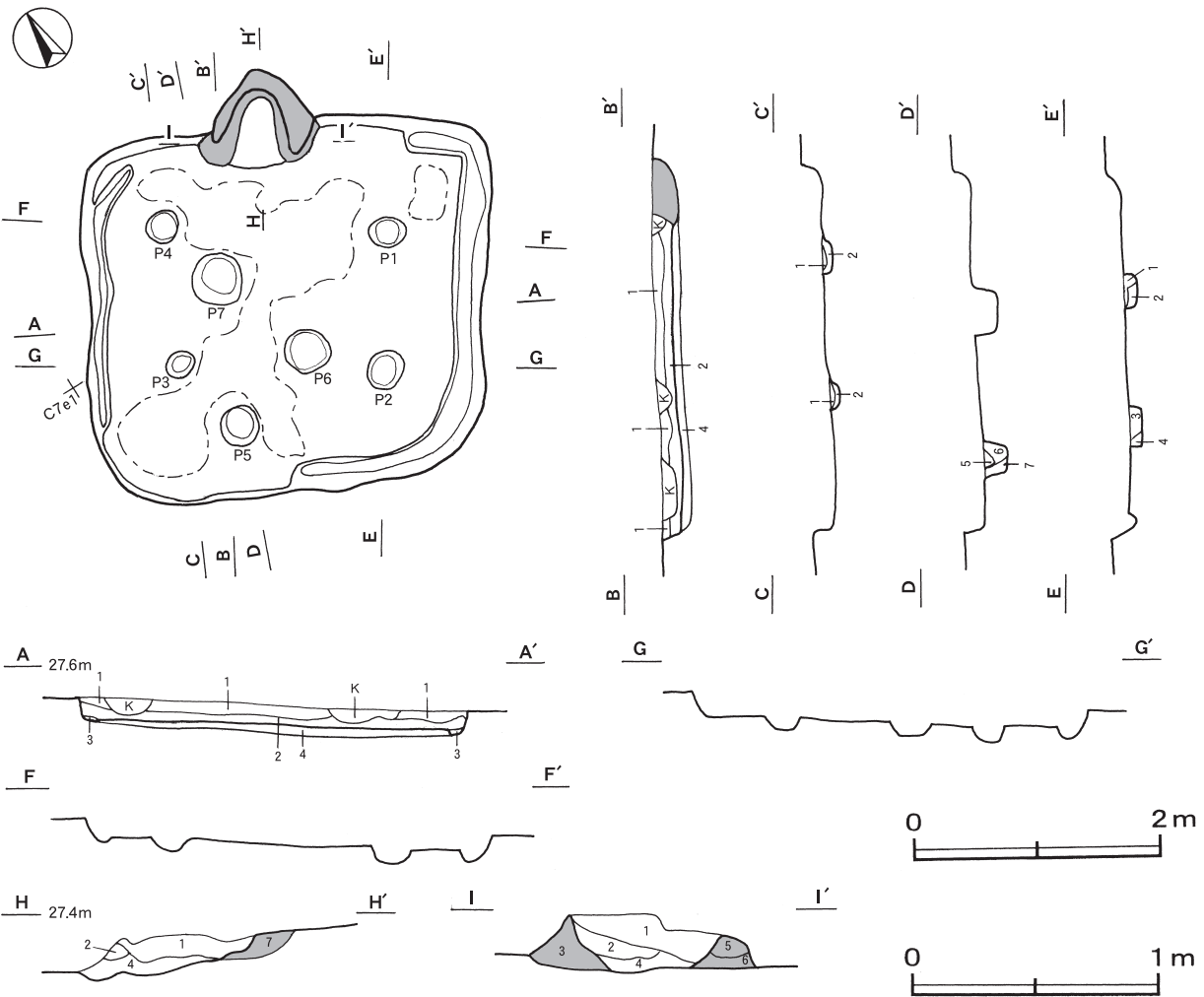
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第4層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |



第31図 第7号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片5点（坏1，甕類4）が細片で出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。

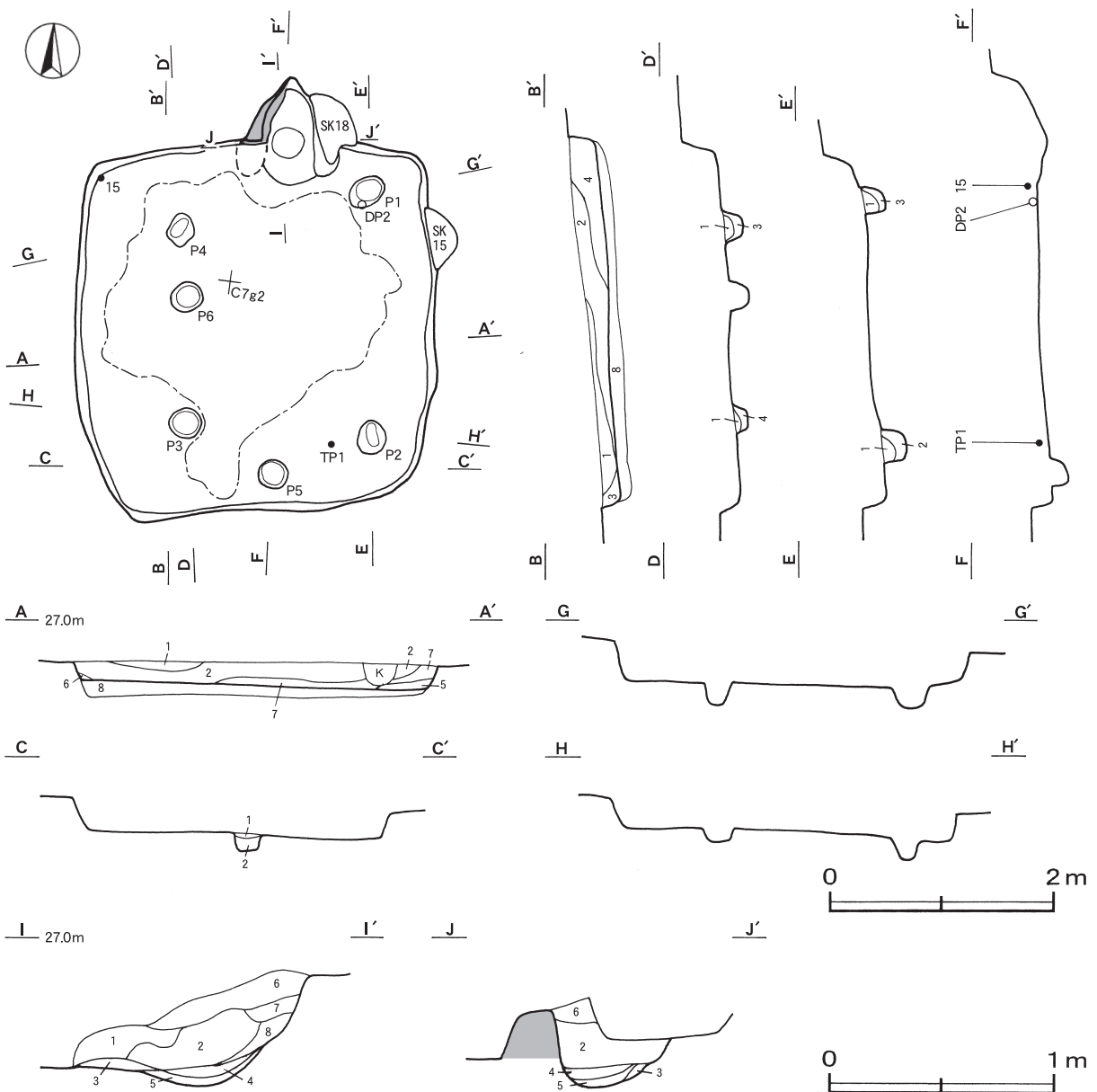
第8号住居跡（第32・33図）

位置 調査区東部のC7g2区，標高27.0mの緩斜面部に位置している。

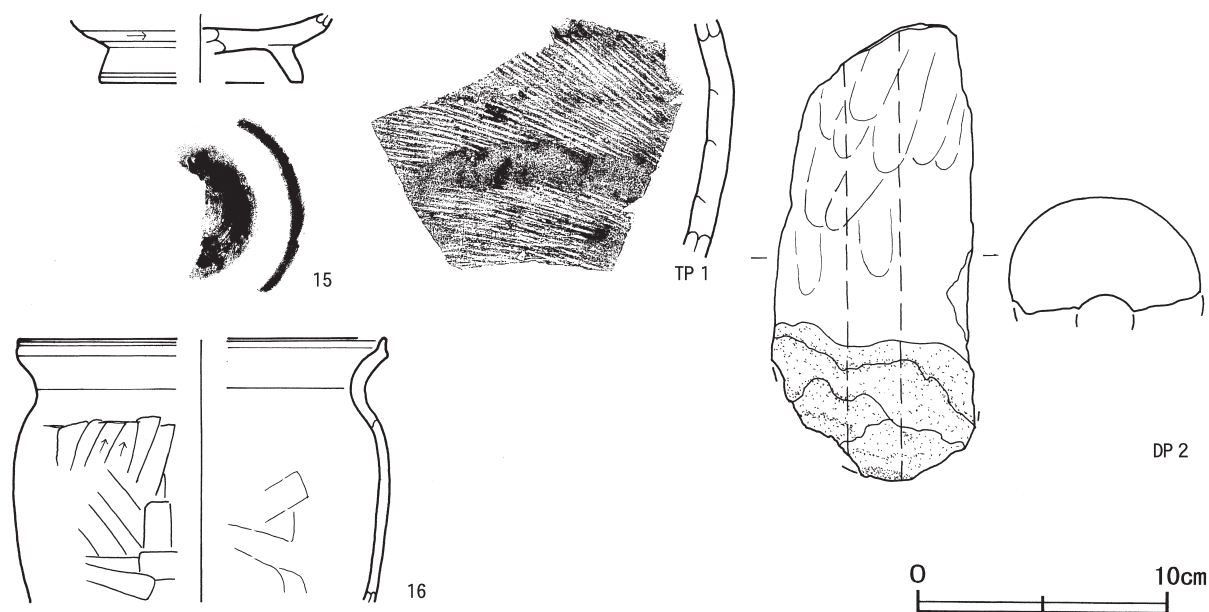
重複関係 第15・18号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.22m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はN-9°-Wである。壁高は19~31cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。



第32図 第8号住居跡実測図



第33図 第8号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cm，袖部幅90cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から9cmくぼんでおり，火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子微量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ16～23cmで，支柱穴である。P 5は深さ15cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ19cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |

覆土 8層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第8層は床の構築土である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片120点（坏17，高台付碗3，甕類100），須恵器片29点（坏17，高台付坏1，蓋2，甕類9），土製品5点（支脚3，羽口2）が各壁際を中心に出土している。そのほか，混入した縄文土器片1点も出土している。15は北西コーナー部の床面，16は覆土中からそれぞれ出土している。DP 2は竈前面の床面から横位で出土している。また，TP 1は南壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。轆羽口の出土は，集落内で鍛冶関連の手工業が行われていたことを示唆するものである。

第8号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
15	土師器	高台付椀	—	(2.7)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下端右方向回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	30%
16	土師器	小形甕	[14.6]	(10.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 1	須恵器	甕	—	(9.4)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 体部内面ヘラナデ 輪積痕	床面	P L 32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	羽口	(18.1)	(8.1)	(4.6)	(475.3)	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ 繊維質含む 溶解した鉄滓付着	床面	P L 30

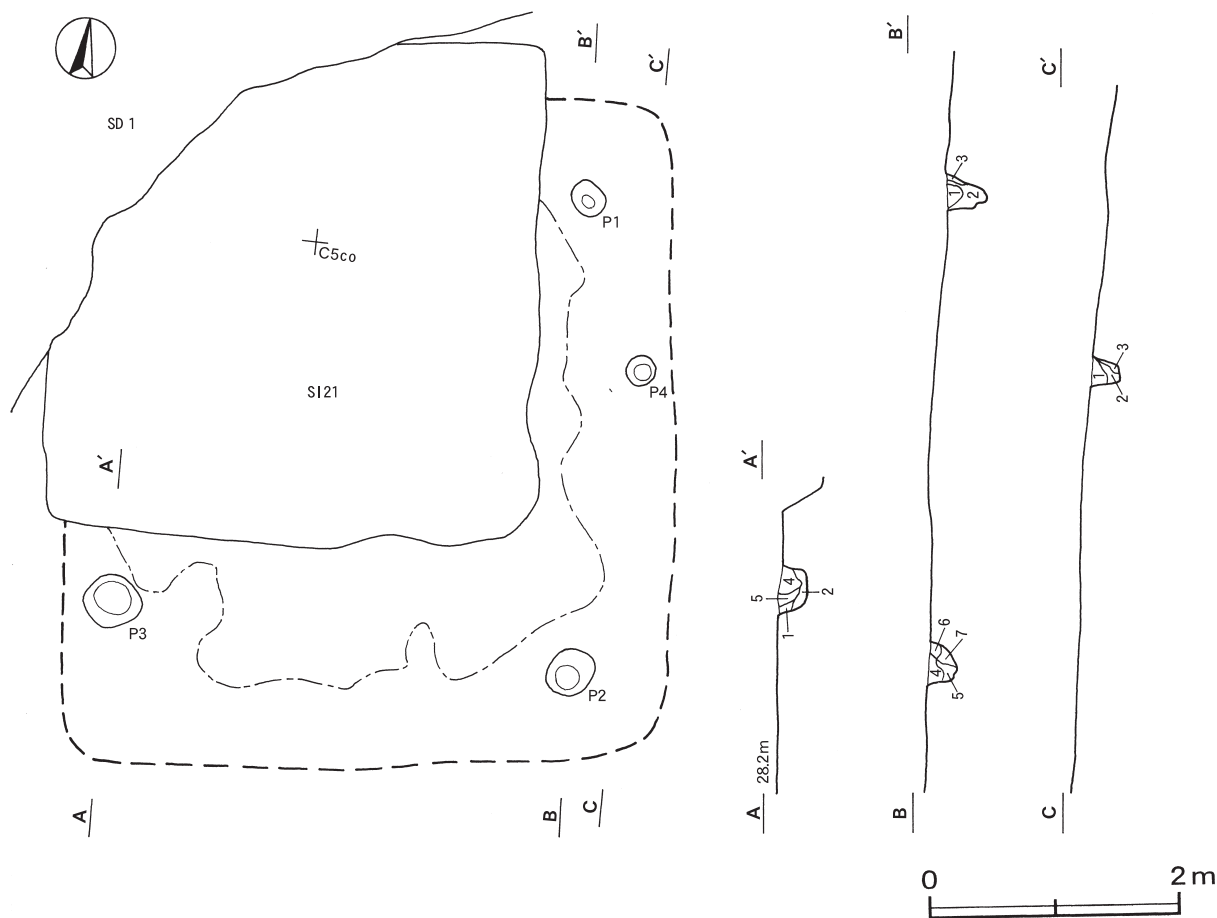
第9号住居跡（第34図）

位置 調査区中央部のC 5 c0区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号住居、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出された。暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断し、N-3°-Wを主軸とする長軸5.21m、短軸4.95mの方形と推定される。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。



第34図 第9号住居跡実測図

ピット 4か所。P1～P3は深さ22～31cmで、支柱穴である。P4は深さ25cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

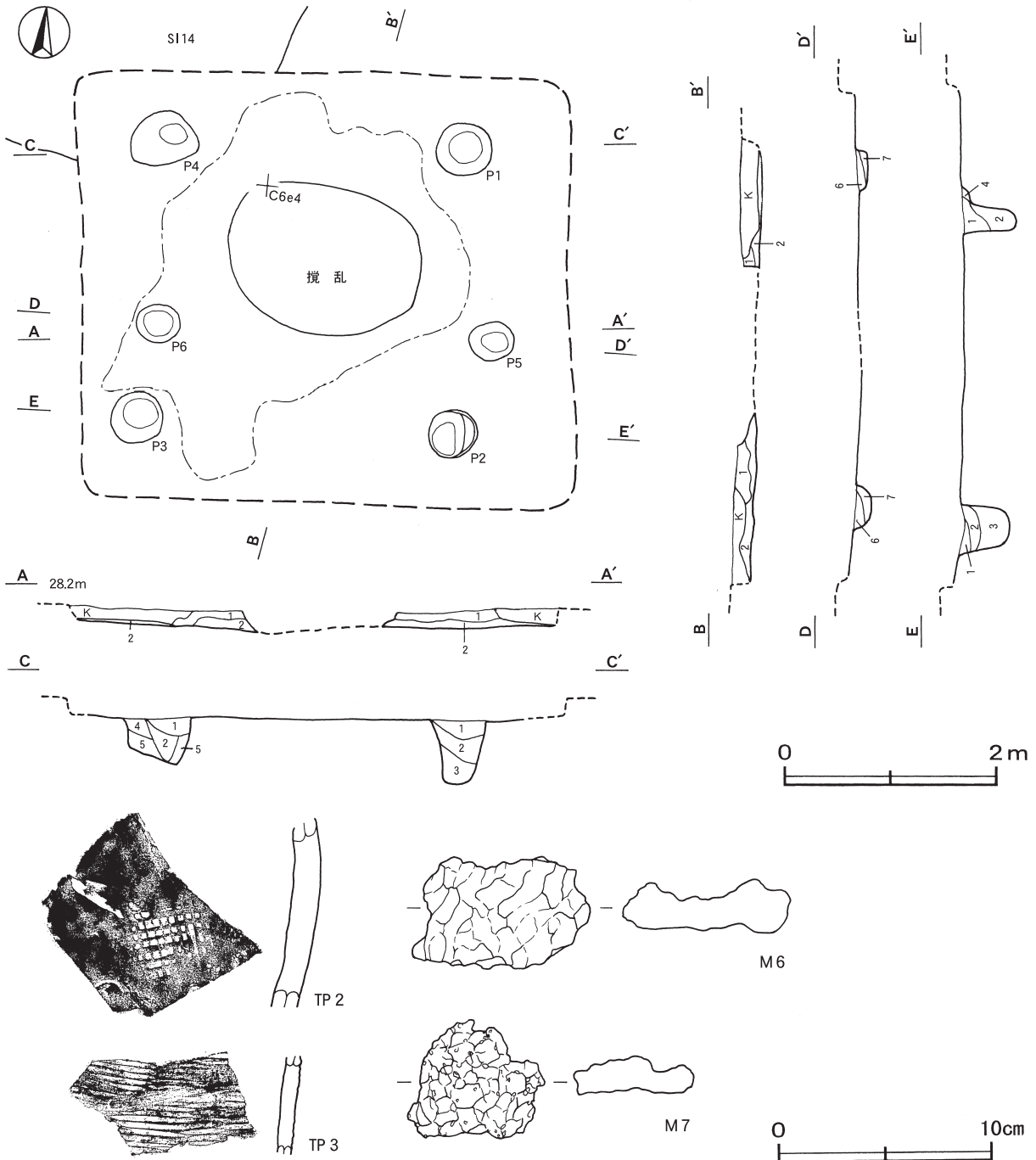
ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

所見 時期の特定は困難であるが、重複関係から9世紀前葉以前と考えられる。

第11号住居跡 (第35図)

位置 調査区中央部のC6e4区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。



第35図 第11号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第14号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 遺構の大半が攪乱を受けており、方形状に確認された。床面の広がりから長軸4.65m、短軸4.04mの長方形と推定される。主軸方向はN-6°-Wである。壁高は13~18cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 6か所。P1~P4は深さ45~60cmで、支柱穴である。P5・P6は深さ11cm・15cmで、位置や規模から支柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量	7 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量		

覆土 2層に分けられる。覆土の大半が攪乱を受けており、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	2 暗褐色	ロームブロック微量
-------	---------	-------	-----------

遺物出土状況 土師器片78点(坏18, 甕類60), 須恵器片43点(坏16, 高台付坏2, 蓋2, 甕類23), 灰釉陶器片3点(瓶), 鉄製品2点(不明2), 椀状滓2点, 鉄滓8点, 瓦2点(平瓦)が散在した状態で出土している。そのほか, 混入した土師質土器片1点, 陶器片1点も出土している。TP2・TP3・M6・M7はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP2	須恵器	甕	-	(9.0)	-	長石	浅黄	普通	体部外面格子状の叩き	覆土中	
TP3	須恵器	甕	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M6	椀状滓	8.5	5.2	2.6	104.0	滓	着磁性有り	焼土付着	暗赤褐色	覆土中	
M7	椀状滓	6.4	5.6	1.8	74.7	滓	着磁性有り	焼土付着	暗赤褐色	覆土中	

第13号住居跡 (第36・37図)

位置 調査区中央部のC6b2区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東部は調査区域外に延びているが, 長軸4.45m, 短軸4.32mである。主軸方向はN-20°-Wである。壁高は28~40cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

覆土 10層に分けられる。各層にロームを含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第10層は床の構築土である。

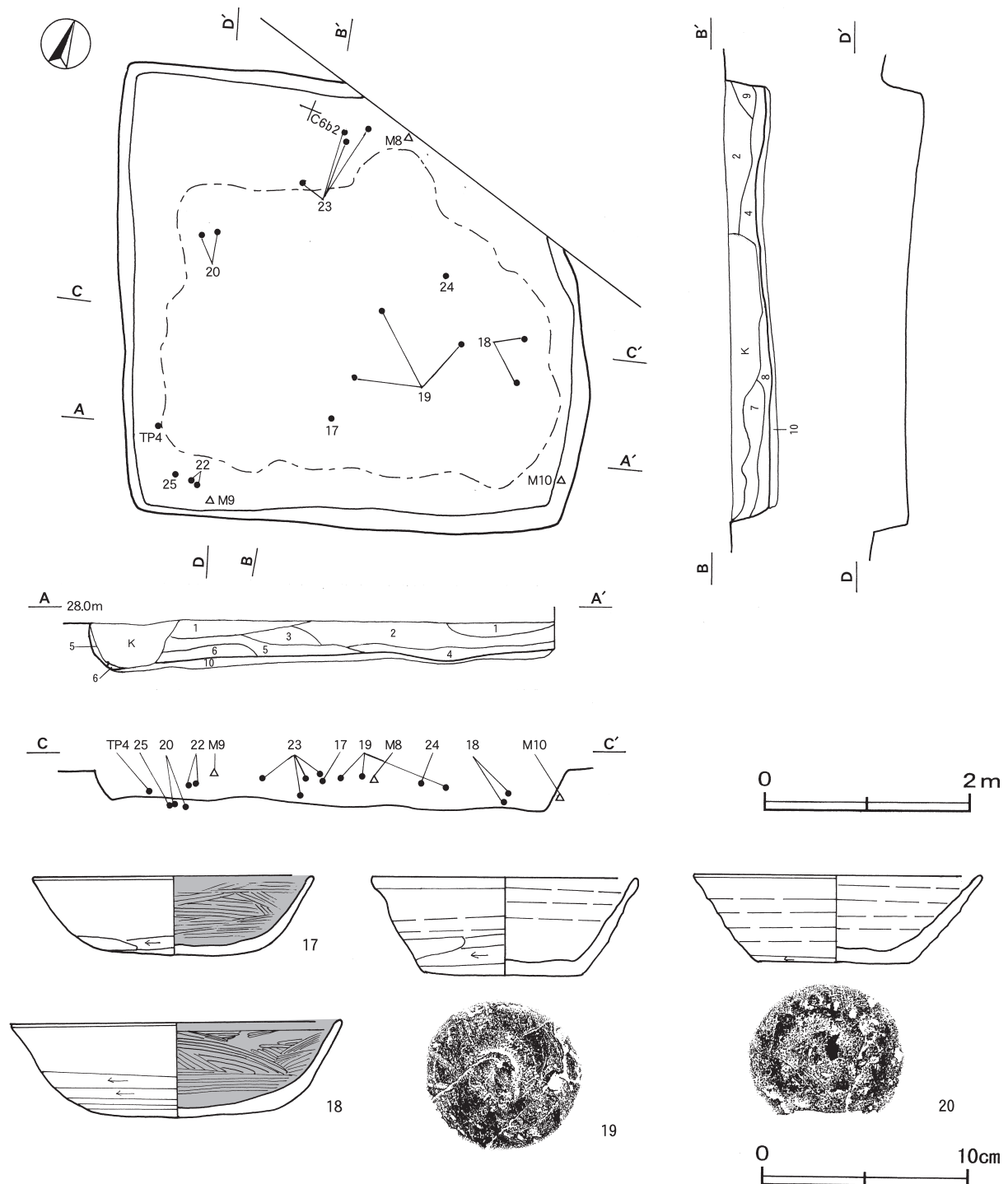
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	7 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック微量
3 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量	10 褐色	ローム粒子多量

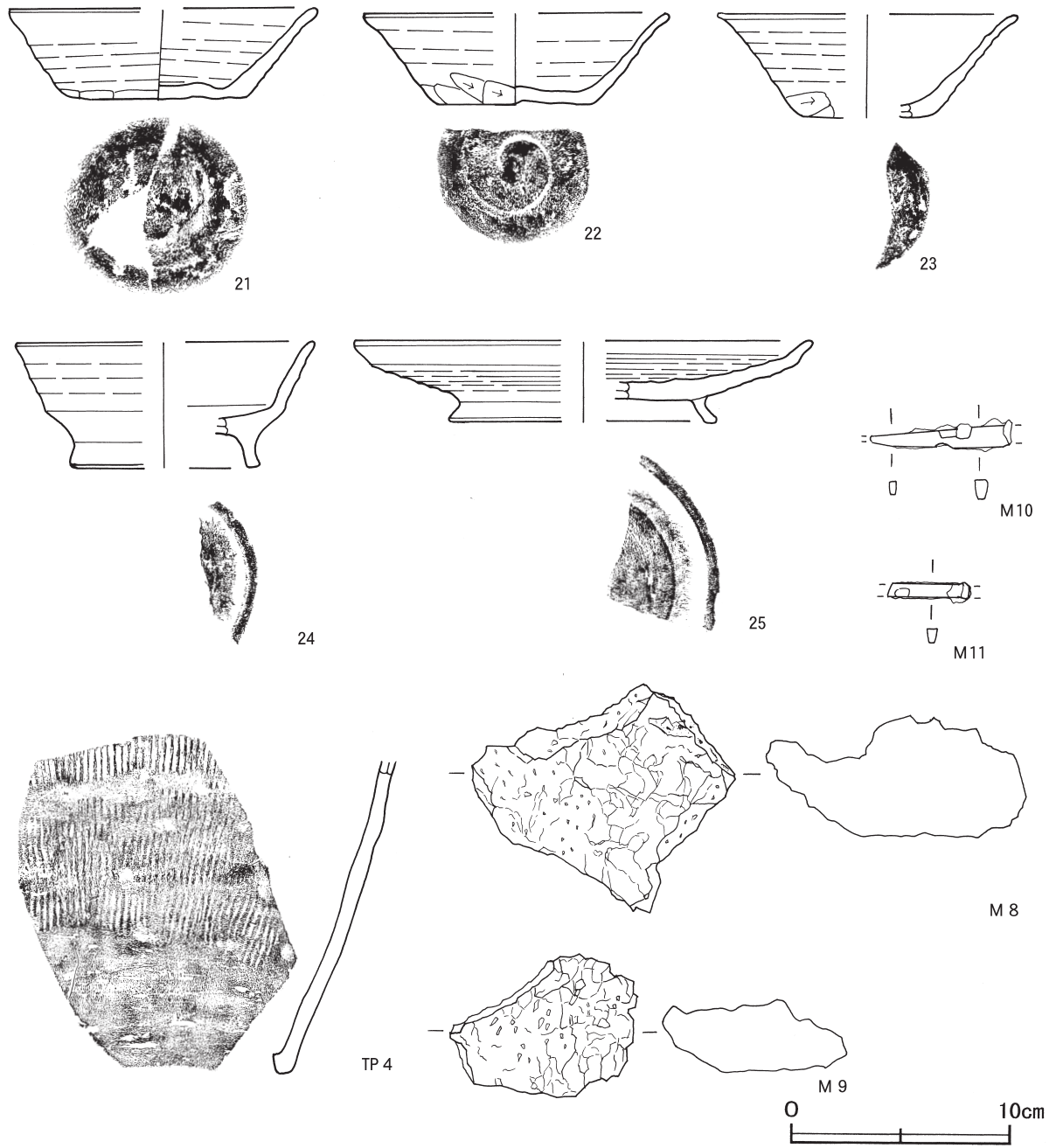
遺物出土状況 土師器片483点(坏46, 高台付椀1, 甕類436), 須恵器片487点(坏199, 高台付坏6, 盤1, 蓋19, 小形短頸壺3, 瓶2, 甕類255, 甗2), 鉄製品2点(刀子), 鉄滓2, 瓦2点(平瓦)が散在した状態

で出土している。17は南壁際、19・24は中央部、22・TP4は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。18は破砕された状態で東壁際の覆土下層から床面にかけて出土している。23は北壁際の覆土中層から下層、M9は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。20は西壁際、25は南西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、時期決定の指標となる遺物である。また、21・M11は覆土中、M8は北壁際の覆土上層、M10は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第36図 第13号住居跡・出土遺物実測図



第37図 第13号住居跡・出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第36・37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
17	土師器	坏	13.4	3.8	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中層	85% PL14
18	土師器	坏	15.8	4.6	8.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	下層～床面	65% PL14
19	須恵器	坏	12.7	4.7	7.5	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	75% PL14
20	須恵器	坏	13.8	4.2	7.3	長石・石英	褐	不良	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	70% PL14
21	須恵器	坏	[14.0]	4.1	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	不良	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	65% PL14
22	須恵器	坏	[13.8]	4.2	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	50% PL15
23	須恵器	坏	[13.6]	4.7	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	不良	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り	中層～下層	30% PL15 内外面煤付着
24	須恵器	高台付坏	[13.6]	5.7	[8.6]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	中層	30%
25	須恵器	盤	[20.8]	3.7	[12.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 4	須恵器	甌	—	(14.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部外面下端へら削り	中層	P L 32

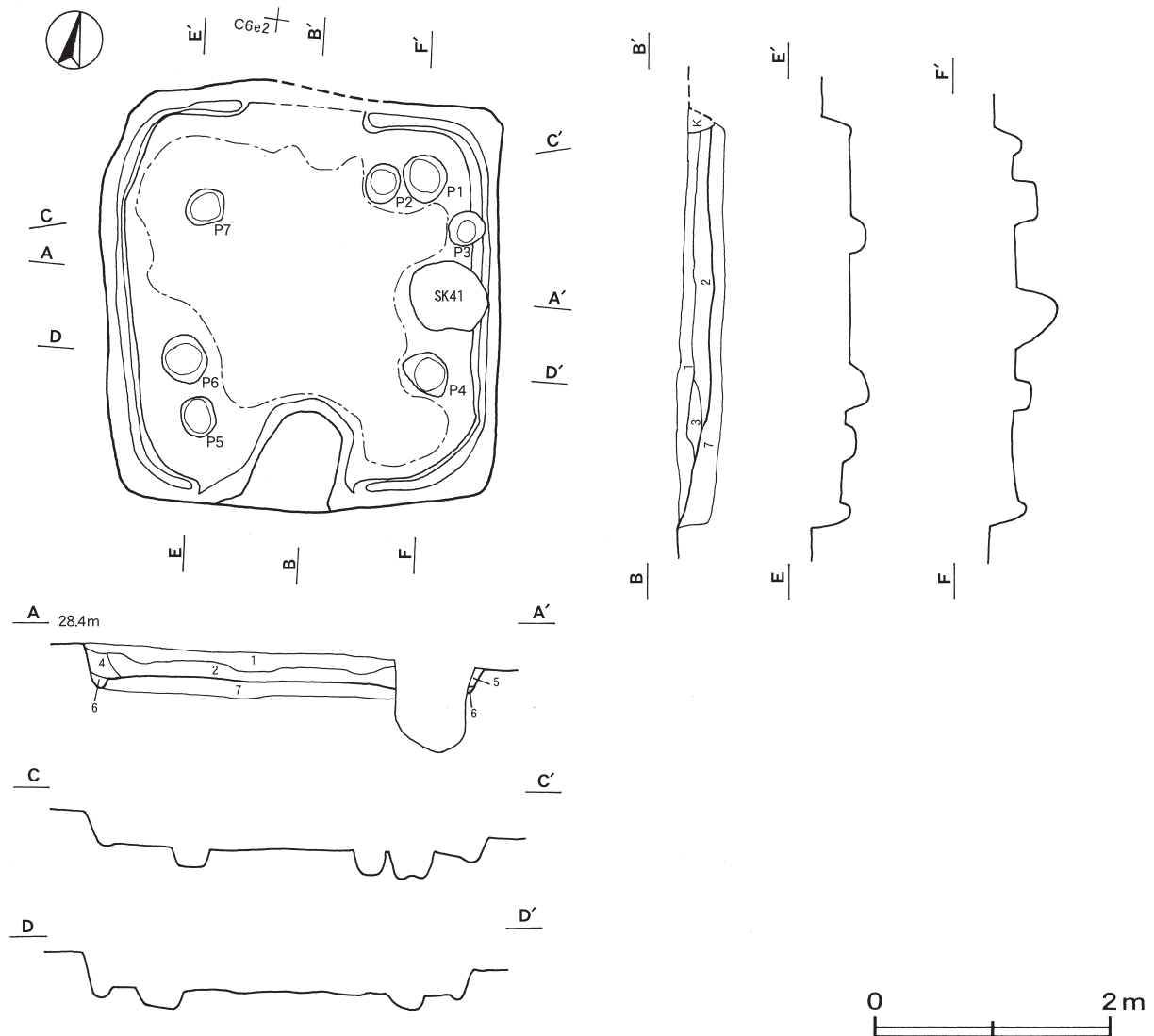
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 8	椀状滓	12.0	10.2	5.5	604.5	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	上層	
M 9	椀状滓	8.7	6.5	3.2	221.7	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	上層	
M10	刀子	(6.4)	1.1	0.2~0.6	(10.0)	鉄	刃部・切先部一部欠損 茎部欠損	下層	P L 31
M11	刀子	(3.7)	0.6	0.4	(4.3)	鉄	刃部一部欠損 茎部欠損	覆土中	P L 31

第15号住居跡（第38図）

位置 調査区中央部のC 6 e3区，標高28.0mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.58m，短軸3.34mの方形で，主軸方向はN-7°-Wである。壁高は17~31cmで，ほぼ直立している。また，南壁際中央部には高まりがあり，緩やかに傾斜したスロープ状を呈している。



第38図 第15号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北壁と南壁の一部を除く壁下には幅8～18cm、深さ3～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

ピット 7か所。P1～P7は深さ11～46cmで、性格は不明である。

覆土 7層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第7層は床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 濃い暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片97点（坏19，高台付椀1，甕類77），須恵器片37点（坏28，甕類9）が細片で出土している。また、混入した縄文土器片4点も出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。南壁中央部のスロープ状の高まりは出入り口施設の一部と考えられる。竈は、攪乱のため不明ではあるが、本跡の形状から北壁に付設されていたと考えられる。

第17号住居跡（第39～43図）

位置 調査区中央部のC6e1区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.08m、短軸4.06mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は18～36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。また、各壁際を中心に炭化材が広がっており、焼失住居である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅112cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面から2cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第14層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	9 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 明赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック微量	10 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 灰赤色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	12 灰赤色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック少量	13 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	炭化材中量、ロームブロック・焼土粒子少量	14 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

棚状施設 竈左側に設けられている。奥行42cm前後、幅104cm前後の長方形で、床面から6cmの高さで確認された。

ピット 6か所。P1は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2～P6は深さ14～18cmで、性格は不明である。

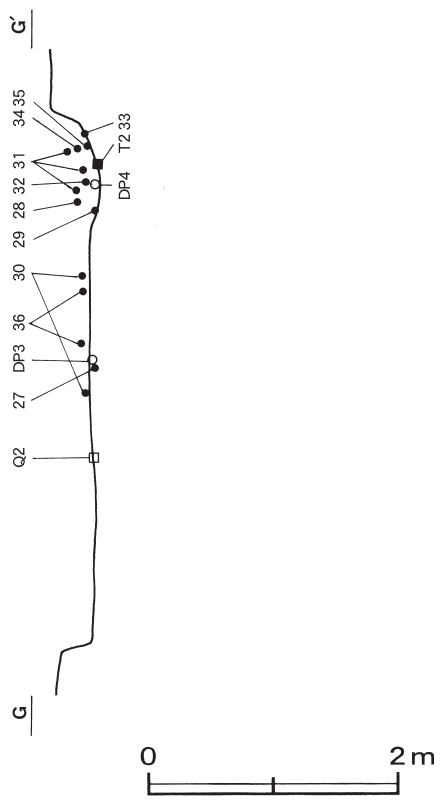
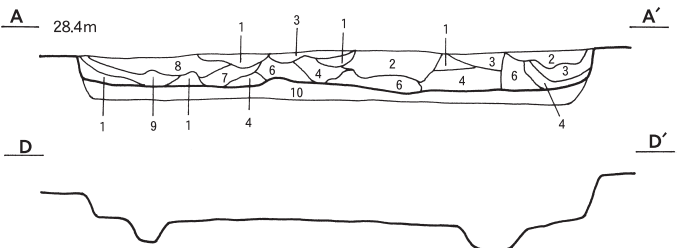
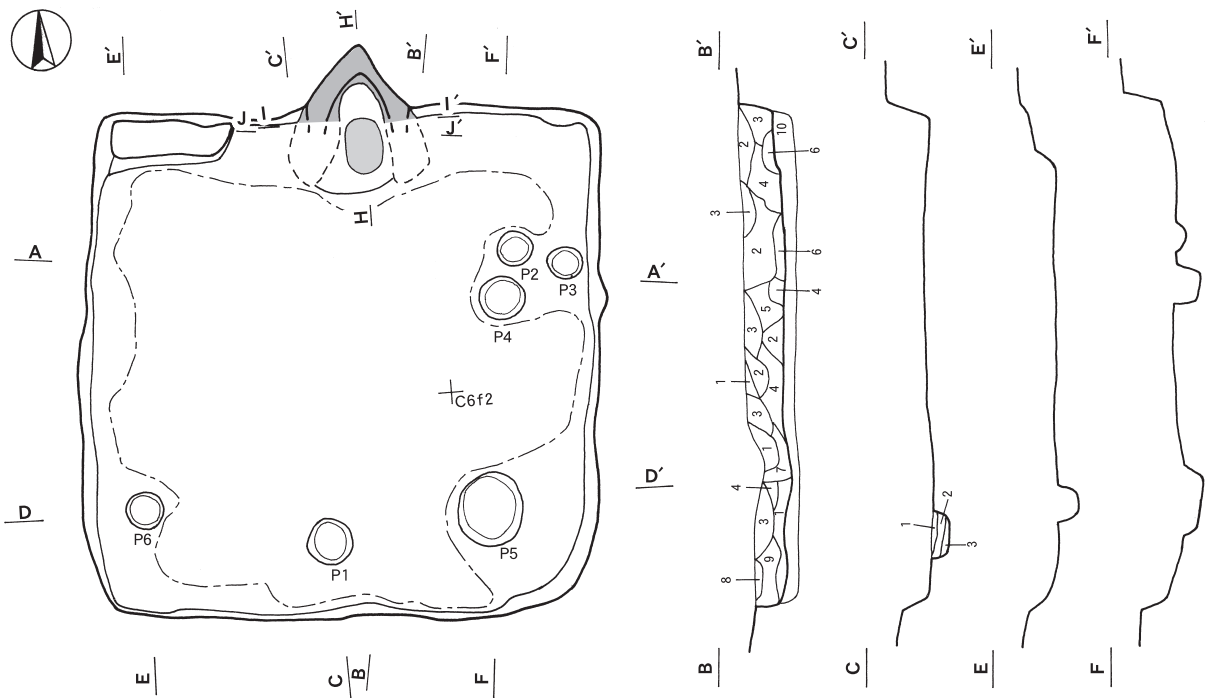
ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

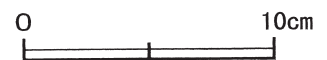
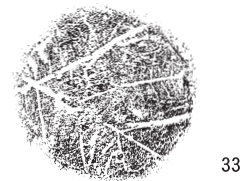
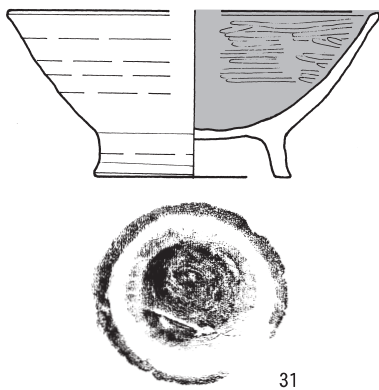
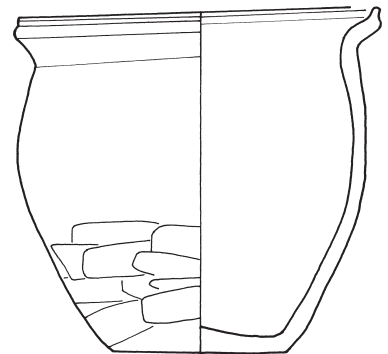
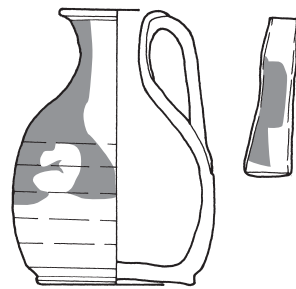
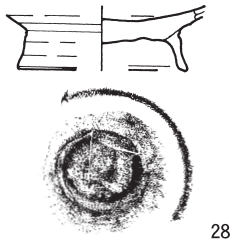
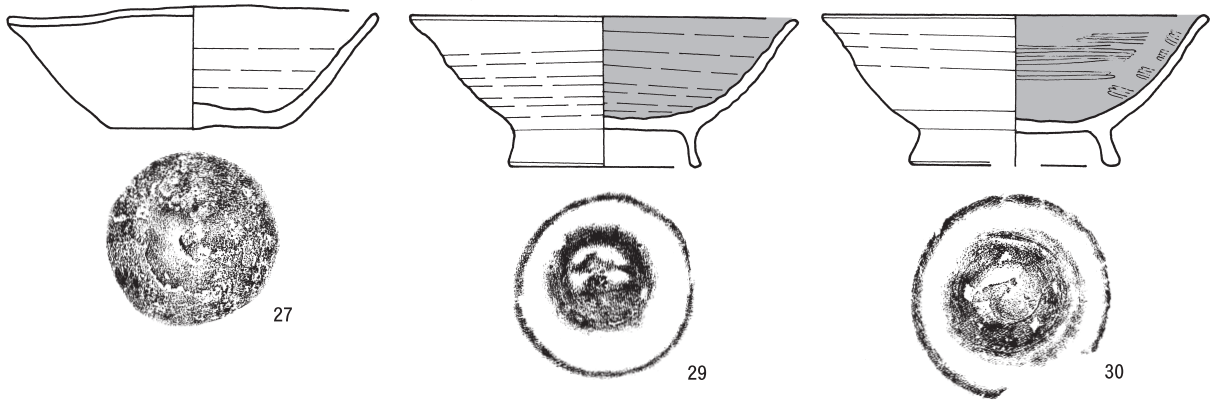
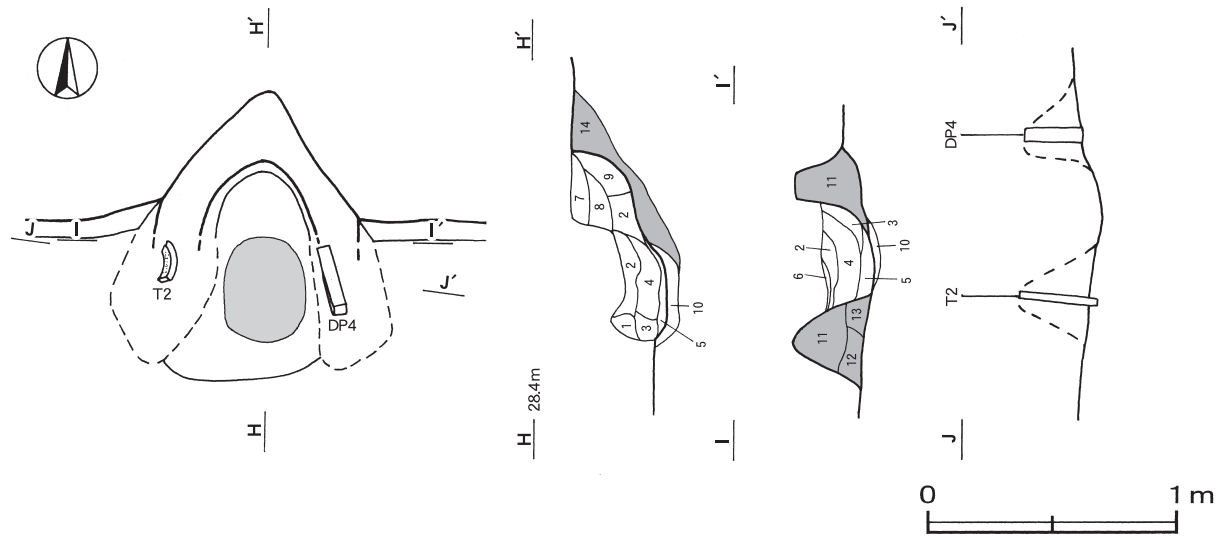
覆土 10層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第10層は床の構築土である。

土層解説

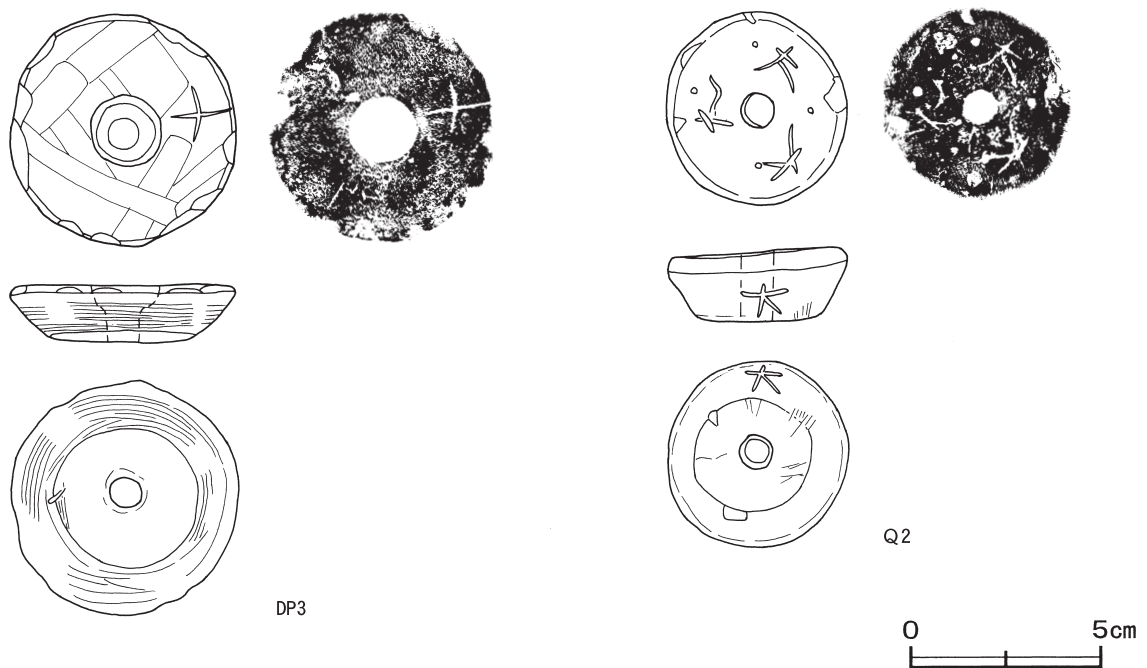
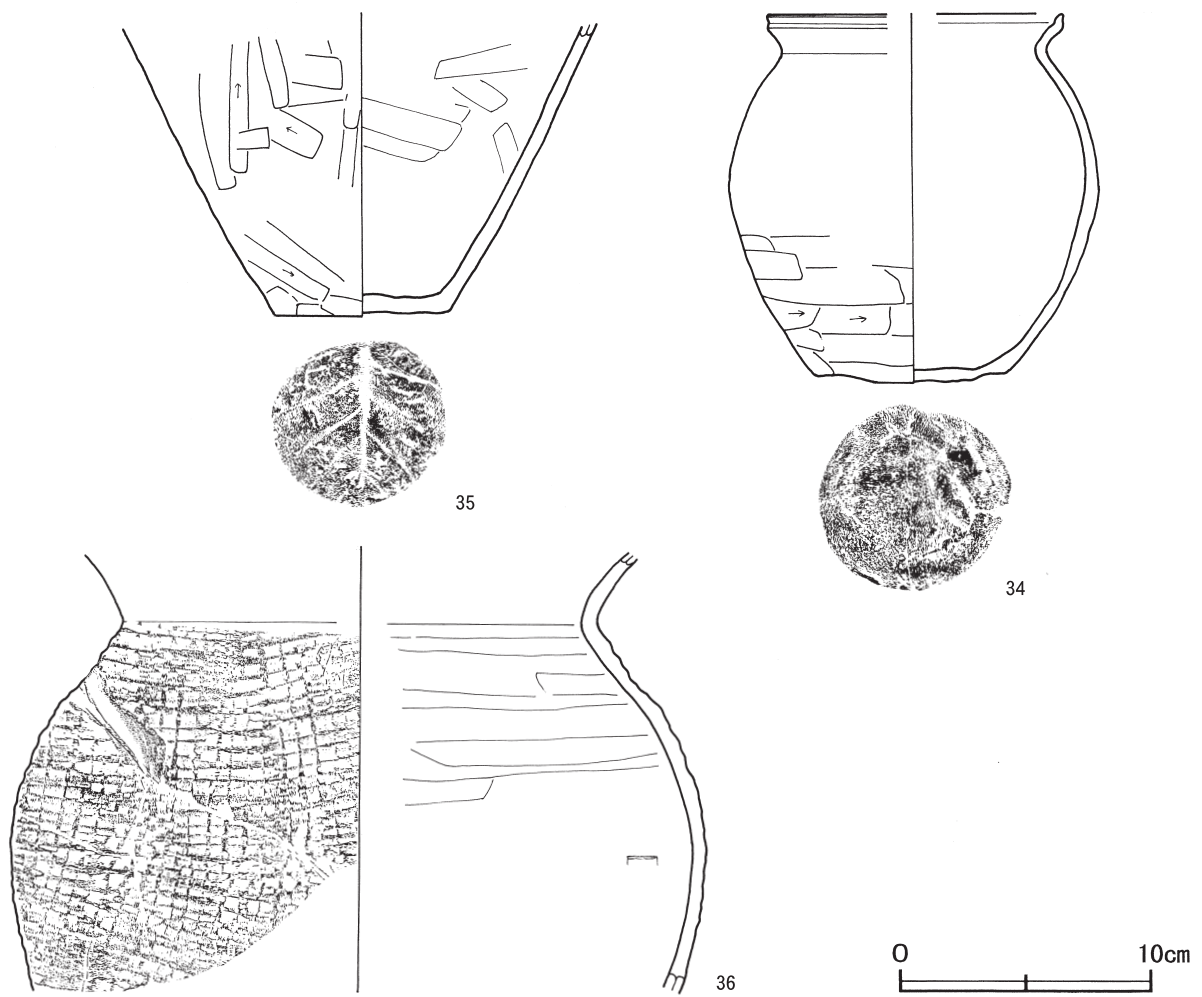
1 黒褐色	炭化物・ローム粒子少量	6 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量
3 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	9 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	10 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量



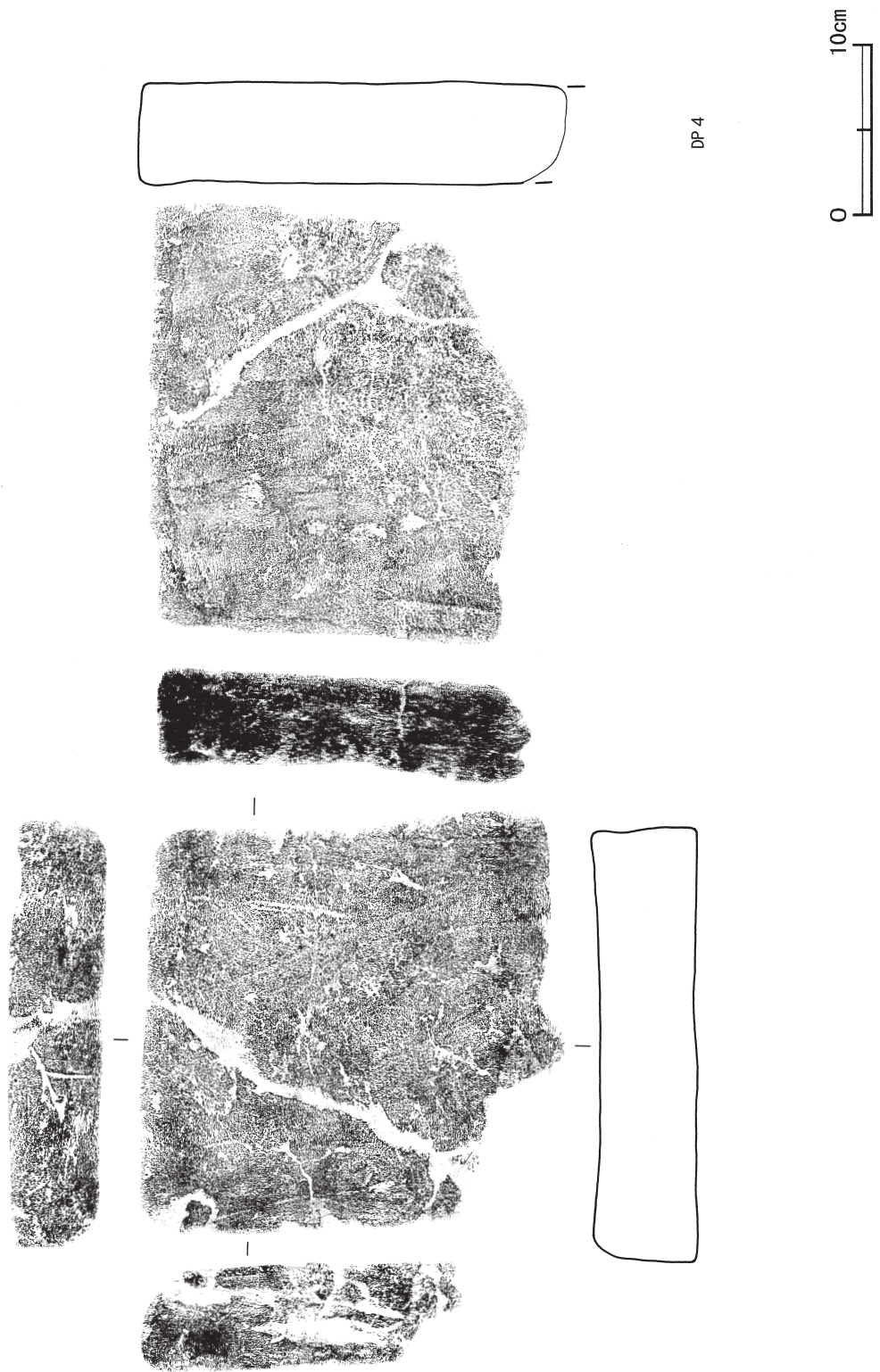
第39图 第17号住居跡実測図



第40图 第17号住居跡・出土遺物実測図



第41図 第17号住居跡出土遺物実測図(1)



第42図 第17号住居跡出土遺物実測図(2)



第43図 第17号住居跡出土遺物実測図(3)

遺物出土状況 土師器片519点(坏96, 高台付碗10, 蓋1, 甕類412), 須恵器片99点(坏68, 高台付坏1, 蓋4, 甕類25, 甌1), 灰釉陶器片14点(瓶13, 手付瓶1), 土製品2点(紡錘車, 埴), 石製品1点(紡錘車), 瓦2点(丸瓦)が散在した状態で出土している。そのほか, 混入した縄文土器片1点も出土している。27は東壁際の床面, 29は竈内の火床面からそれぞれ出土しており, 時期判定の指標となる遺物である。28は竈前面の覆土下層, 31は竈内からそれぞれ出土している。30は東壁際と北東コーナー部の床面から出土した破片が接合

されたものである。32は北西コーナー部の床面から出土しており、棚状施設に置かれていたものが落下した可能性も考えられる。33～35は竈内から破砕された状態でまとまって出土しており、火を受けた痕跡があることから、支脚に転用された可能性も考えられる。36は竈前面、DP 3は西壁際、Q 2は中央部の床面からそれぞれ出土している。また、DP 4は竈右袖内、T 2は竈左袖内からそれぞれ立位で出土しており、竈の補強材として使用されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡は、補強のため竈の袖部に丸瓦や埴を埋め込んでいる。また、竈の脇に棚状施設を有する住居形態と遺物を豊富に有していることから、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表（第40～43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	須恵器	坏	14.6	4.6	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	床面	100% P L15
28	須恵器	高台付坏	—	(2.6)	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	30% P L18 刻畫「大」
29	土師器	高台付椀	15.4	6.1	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	火床面	85% P L19
30	土師器	高台付椀	15.4	6.0	8.3	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	60% P L19
31	土師器	高台付椀	[14.7]	6.6	7.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈内	50% P L19
32	灰釉陶器	手付瓶	3.8	10.9	6.2	長石・石英	灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ロクロナデ 取っ手面取り調整 底部回転ヘラ切り	床面	95% P L23
33	土師器	小形甕	14.6	13.8	6.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 底部木葉痕	竈内	80% P L24
34	土師器	小形甕	[11.7]	14.7	7.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	竈内	60% P L24
35	土師器	小形甕	—	(11.4)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈内	30%
36	須恵器	甕	—	(17.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面格子状の叩き 内面ヘラナデ	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	紡錘車	6.0～6.2	1.5	0.8～1.8	55.3	土	橙	円錐台形 ヘラ削り後ヘラナデ 側面ヘラ磨き	床面	P L25 上面に「×」線刻

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 4	埴	(25.1)	25.4	6.3	(5450.0)	長石・石英	にぶい暗褐	多方向ヘラ削り・ナデ調整	竈右袖内	P L29

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
Q 2	紡錘車	4.8～5.1	1.9	0.8	61.4	頁岩	黒	円錐台形 全面研磨 一方向からの穿孔 上面に径2mm深さ2mmの孔を4ヶ所穿つ	床面	P L25 上・側面に「大」の文字線刻

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T 2	丸瓦	(34.7)	(14.2)	2.2	(1909.1)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	凸面縦方向のヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	竈左袖内	P L26

第18号住居跡（第44～48図）

位置 調査区中央部のC 6 d1区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・16・19・46号住居跡を掘り込み、第43・71・73・76・80号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.42m、短軸3.64mの長方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は32～41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで56cm、袖部幅98cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材

と同じ第11層を貼り付けて構築されている。

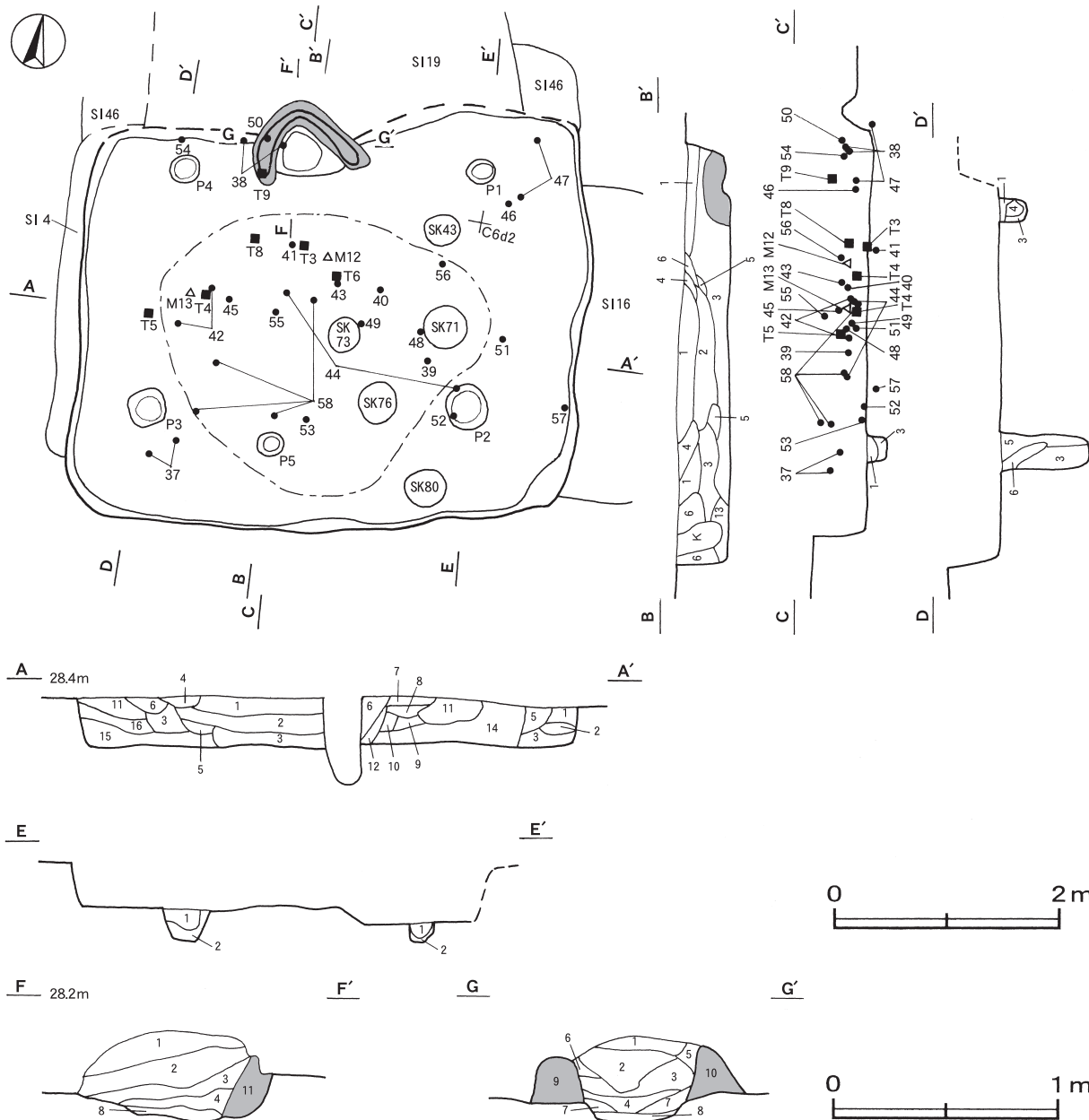
竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 灰赤色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 灰赤色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

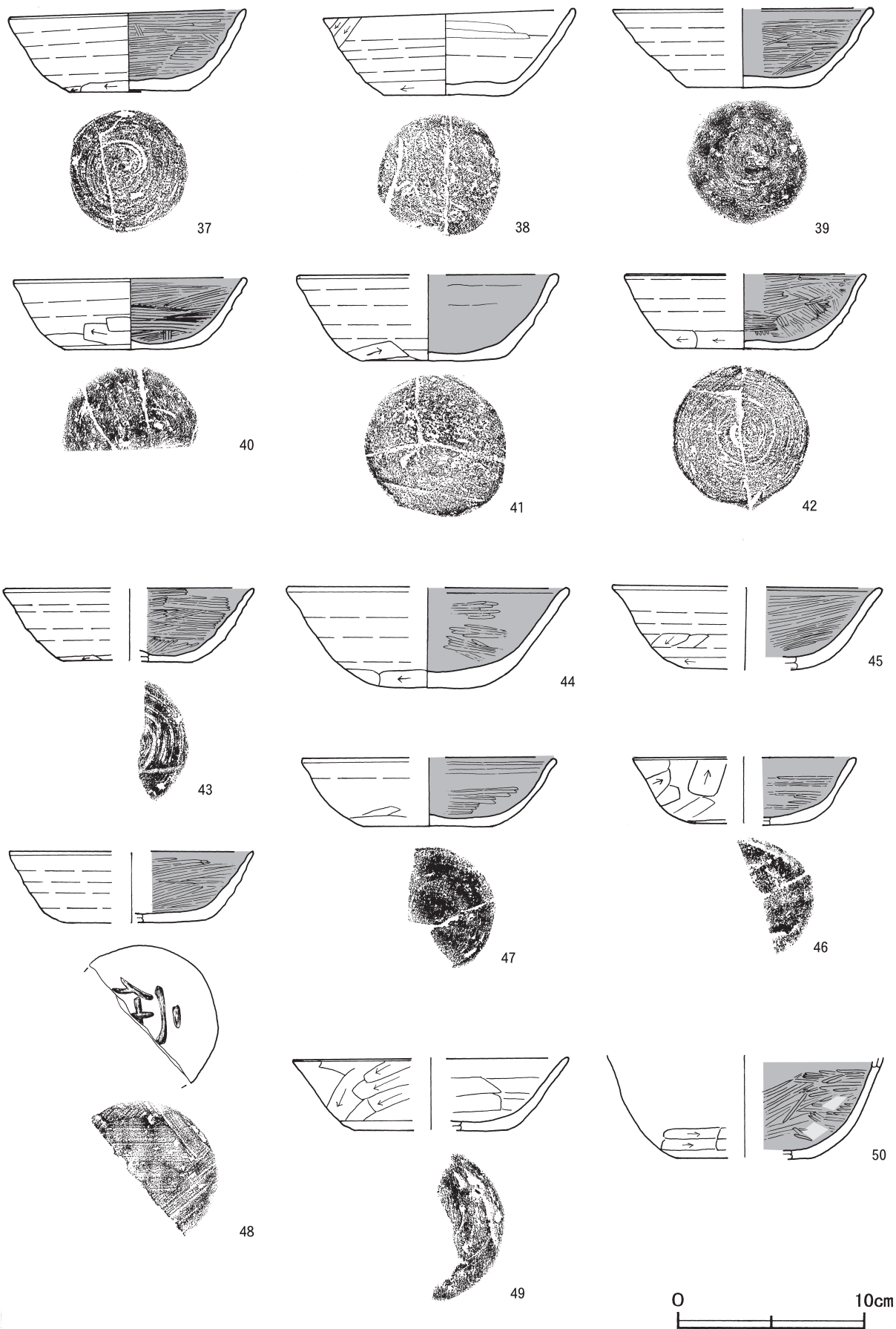
ピット 5か所。P1～P4は深さ24～81cmで、支柱穴である。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

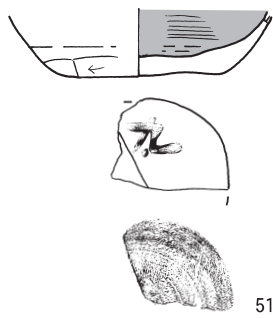
- | | | | |
|-------|-----------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ローム粒子・鹿沼粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック微量 |



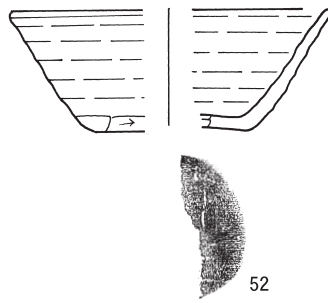
第44図 第18号住居跡実測図



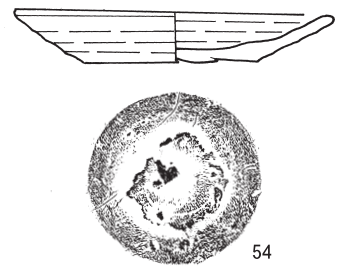
第45图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



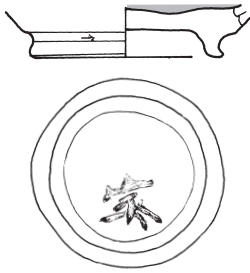
51



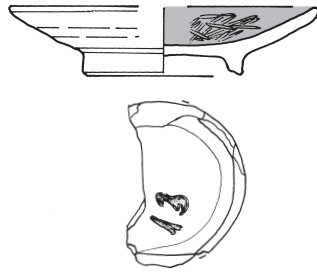
52



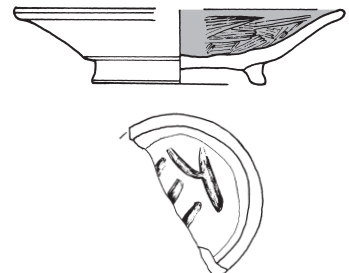
54



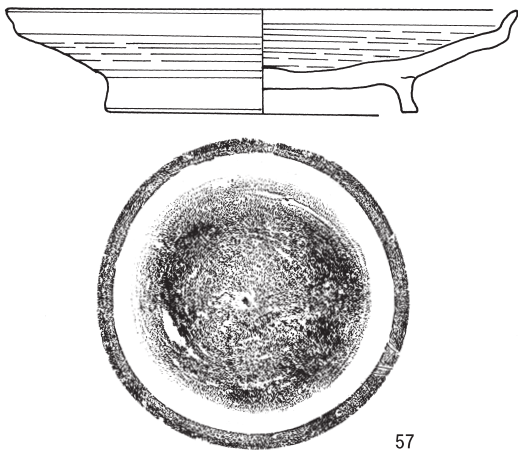
53



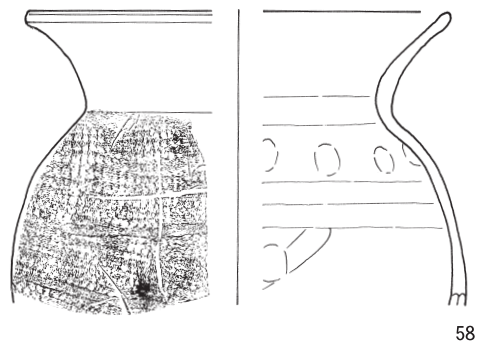
55



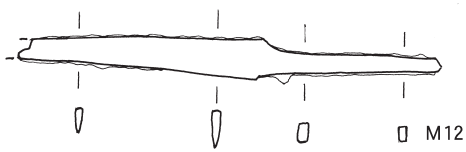
56



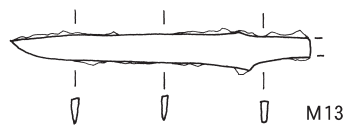
57



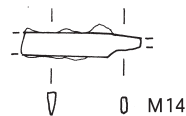
58



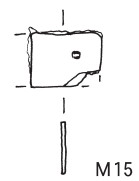
M12



M13



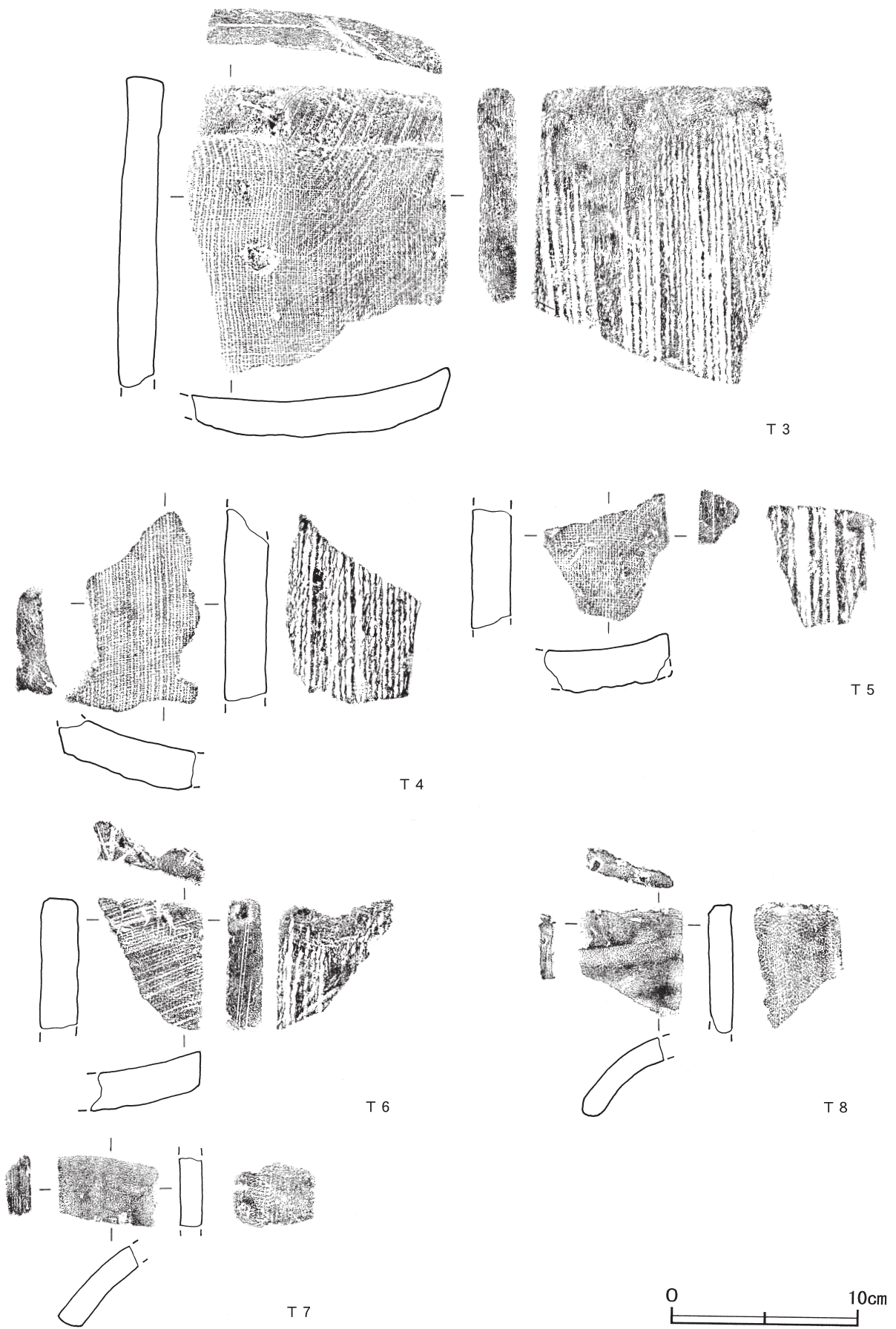
M14



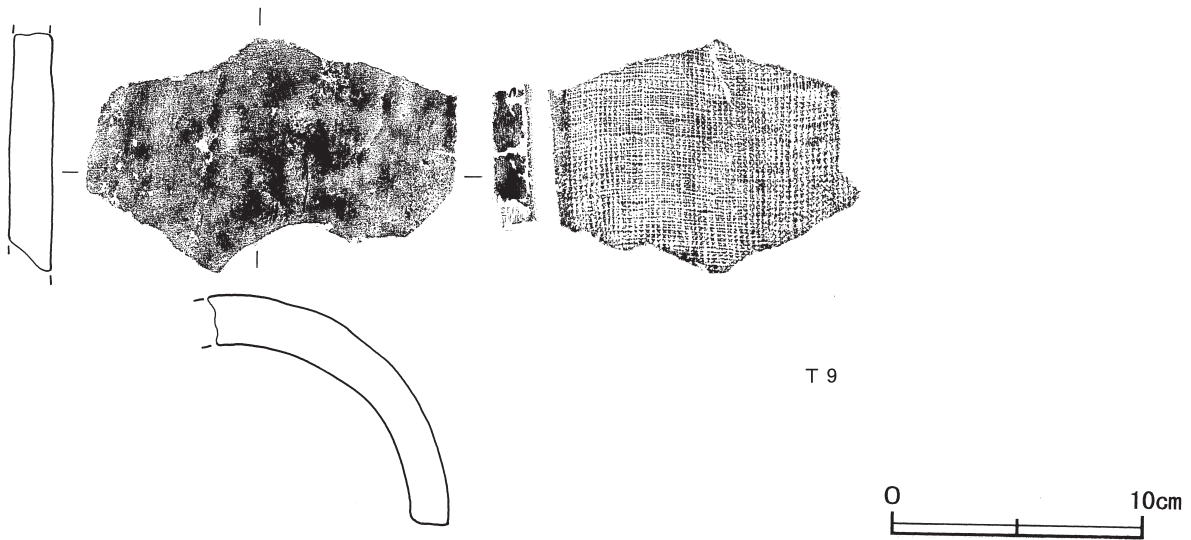
M15



第46图 第18号住居跡出土遺物実測図(2)



第47図 第18号住居跡出土遺物実測図(3)



第48図 第18号住居跡出土遺物実測図(4)

覆土 16層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
3 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化材・砂質粘土粒子微量	14 暗赤褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
		15 褐色	ローム粒子中量
		16 褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2305点(坏1062, 高台付椀20, 皿1, 高台付皿2, 甕類1219, 甌1), 須恵器片552点(坏302, 高台付坏22, 皿3, 蓋35, 小形短頸壺1, 瓶5, 甕類182, 甌2), 灰釉陶器片7点(壺6, 瓶1), 鉄製品4点(刀子3, 手鎌1), 瓦7点(平瓦4, 丸瓦3)が散在した状態で出土している。37は南西コーナー部の覆土中層, 55は中央部の覆土上層, M13は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。58は中央部の覆土上層から覆土下層にかけて破砕された状態で出土している。39・40・42・45・48・49・56は中央部, 43・M12は竈前面, 50・54は北壁際, 51は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。38は北壁際と竈内の覆土下層から出土した破片, 44は東壁際と中央部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。41は竈前面, 46・47は北東コーナー部, 52・57は東壁際, 53は南壁際の床面からそれぞれ出土しており, 時期判定の指標となる遺物である。また, T3・T6・T8は竈前面, T4・T5は西壁際のいずれも覆土下層から床面, T9は竈内の覆土中層からそれぞれ出土しており, 熱を受けた痕跡が認められることから, 竈の補強として使用していた可能性も考えられる。M14は竈内, M15・T7は南東コーナー部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。遺物が豊富に出土していることから, 当集落の中心的な住居の一つと考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第45～48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
37	土師器	坏	12.5	4.4	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	80% P L 15
38	土師器	坏	13.5	4.7	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	竈内	70% P L 15
39	土師器	坏	[14.0]	4.2	6.6	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	下層	70% P L 15
40	土師器	坏	12.4	3.8	7.1	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫・針状鉱物	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	50% P L 15
41	土師器	坏	[13.8]	4.6	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	50% P L 15
42	土師器	坏	[12.9]	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	50% P L 15
43	土師器	坏	[13.2]	3.9	[6.8]	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	45%
44	土師器	坏	[15.0]	5.3	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	45%
45	土師器	坏	[14.4]	(4.5)	—	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	40%
46	土師器	坏	[11.8]	3.6	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	35%
47	土師器	坏	13.4	3.7	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	30%
48	土師器	坏	[13.0]	3.8	[8.6]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ内面ヘラ磨き 底部多方向ヘラ削り	下層	30% P L 15 墨書土器「二住」カ
49	土師器	坏	[14.8]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	30%
50	土師器	坏	—	(5.5)	[6.4]	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	30% P L 16 朱墨
51	土師器	坏	—	(2.6)	[6.8]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	10% P L 16 墨書土器「九」
52	須恵器	坏	[12.6]	4.7	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 体部外面下端手持ちヘラ削り	床面	30%
53	土師器	高台付碗	—	(2.0)	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面見込み磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	60% P L 19 墨書土器「家」
54	須恵器	皿	12.6	2.2	6.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	下層	100% P L 21
55	土師器	高台付皿	[12.4]	2.8	[6.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り・内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	上層	40% P L 21 墨書土器「口」
56	土師器	高台付皿	[13.0]	2.9	6.8	長石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	40% P L 21 墨書土器「住」カ
57	須恵器	盤	20.4	4.3	12.4	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	95% P L 20
58	須恵器	甕	[16.8]	(11.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面格子状の叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	上層～下層	20% P L 20 甕書き「十」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(16.8)	1.7	0.3~0.5	(25.3)	鉄	ほぼ完形 切先欠損 平造 両区 断面三角形	下層	P L 31
M13	刀子	(12.0)	1.6	0.3	(12.4)	鉄	茎部一部欠損 刃部断面三角形	下層	P L 31
M14	刀子	(4.8)	1.0	0.2~0.3	(4.0)	鉄	刃部・切先部・茎部一部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	竈内	P L 31
M15	手鎌	(2.8)	2.1	0.2	(4.4)	鉄	両端欠損 隅に目釘穴有り	覆土中	P L 31

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T 3	平瓦	(16.3)	(13.8)	2.0	(636.2)	長石・石英・雲母・礫	浅黄	普通	凸面長縄叩き 凹面糸切り痕・布目痕	床面	P L 26
T 4	平瓦	(10.7)	(7.3)	2.3	(199.2)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	凸面長縄叩き 凹面布目痕	床面	P L 26
T 5	平瓦	(7.6)	(7.0)	2.2	(116.2)	長石・石英	黄灰	普通	凸面長縄叩き 凹面布目痕	下層	P L 25
T 6	平瓦	(7.1)	(6.0)	2.0	(104.8)	長石・雲母・礫	暗灰黄	普通	凸面長縄叩き 凹面糸切り痕・布目痕	下層	P L 26
T 7	丸瓦	(3.8)	(4.4)	1.3	(36.9)	長石・石英・雲母	灰白	普通	凸面ヘラ削り 凹面布目痕	覆土中	
T 8	丸瓦	(6.9)	(4.4)	1.3	(64.3)	長石・石英・雲母	灰	普通	凸面ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	下層	P L 27
T 9	丸瓦	(9.4)	(9.8)	1.7	(273.7)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	凸面縦方向ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	竈内	P L 27

第19号住居跡（第49・50図）

位置 調査区中央部のC 6 c1区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・46号住居跡を掘り込み、第16・18号住居、第83号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側部分を第16・18号住居に掘り込まれているため、長軸3.16m、短軸は2.15mだけが確認された。主軸方向はN-17°-Wである。壁高は13~18cmで、外傾して立ち上がっている。

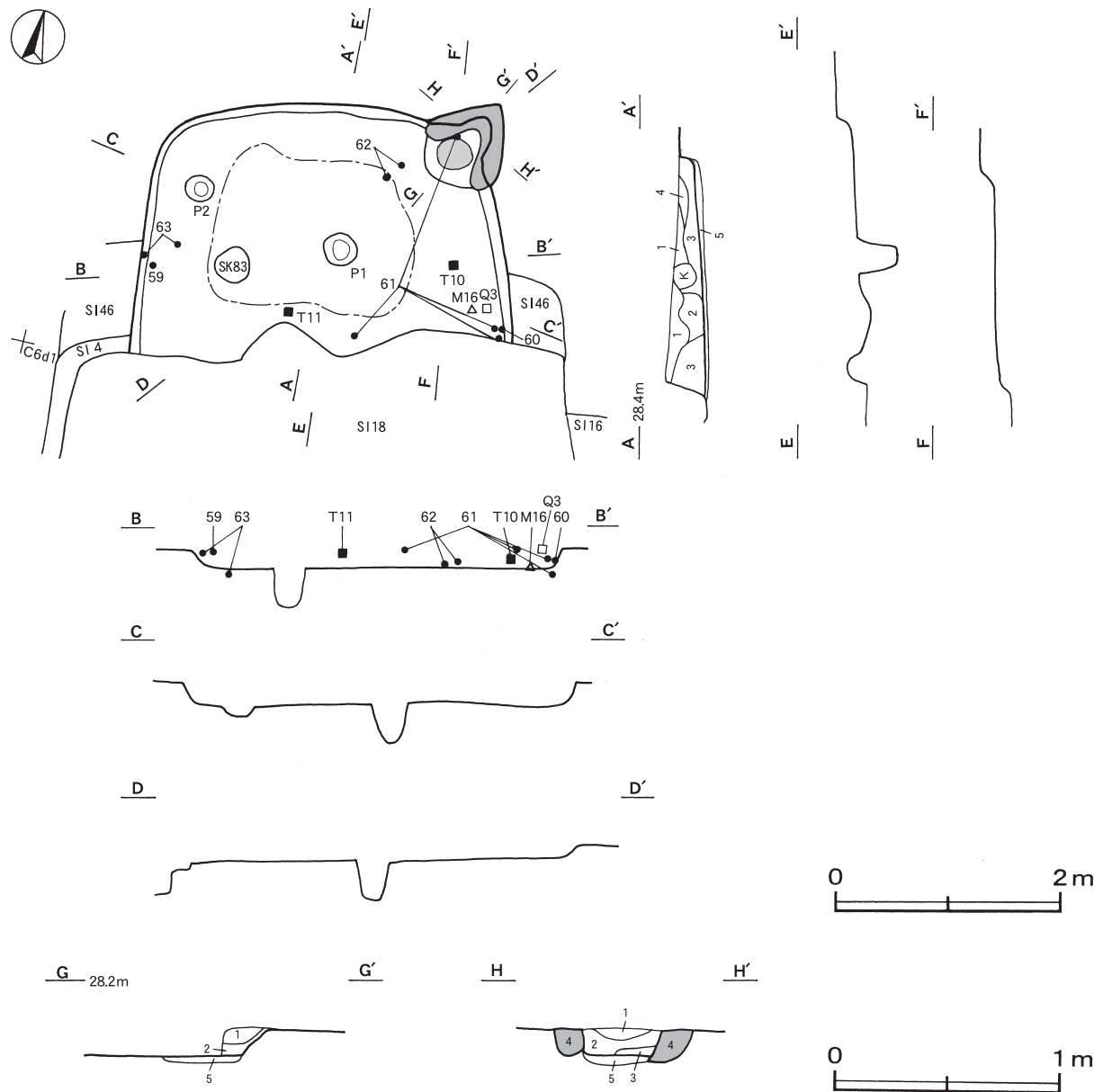
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cm、袖部幅75cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4層を積み上げて構築されている。火床部は床面から1cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

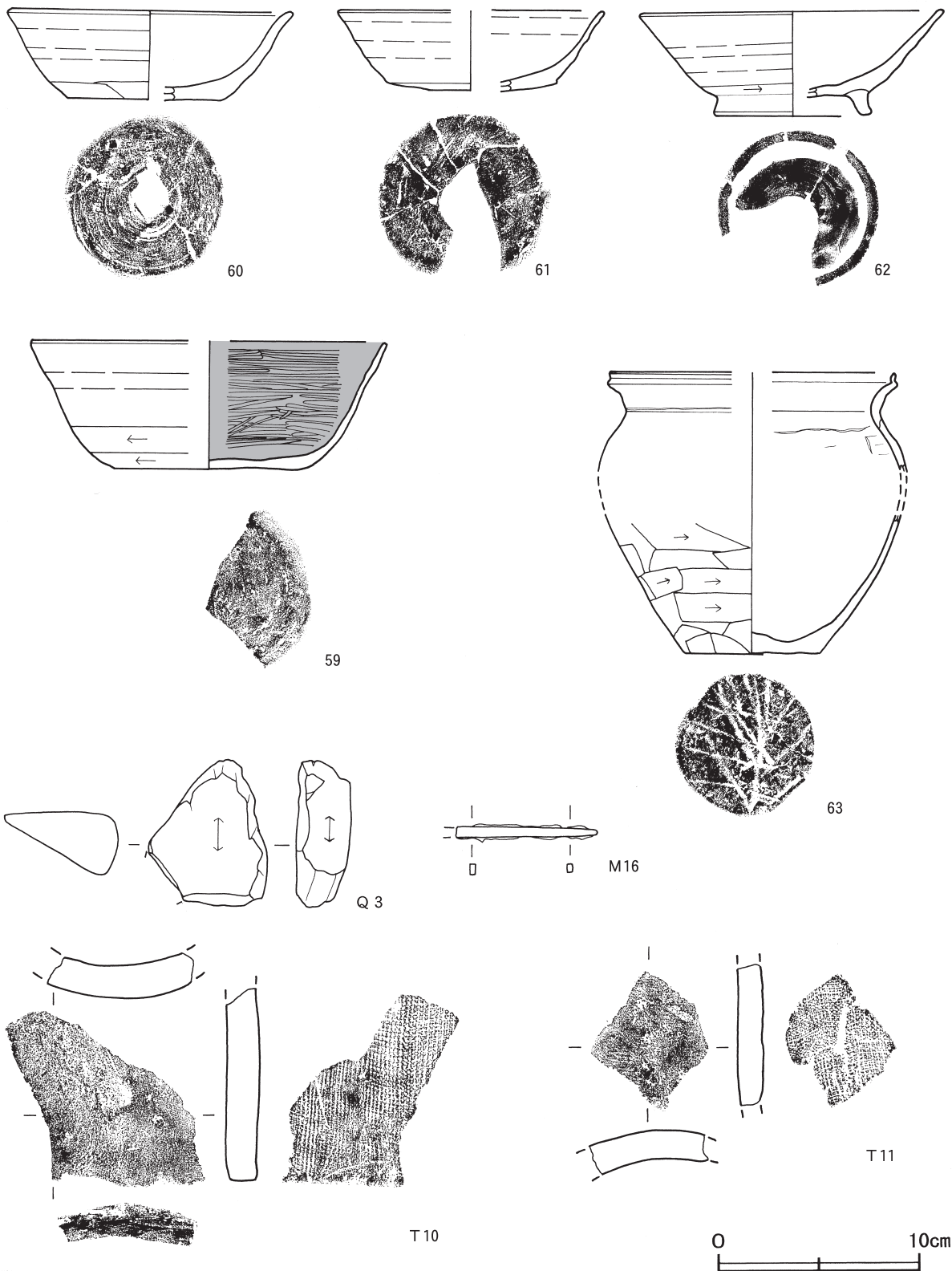
竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット P1・P2は深さ11cm・34cmで、性格は不明である。



第49図 第19号住居跡実測図



第50図 第19号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第5層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------|---|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | | 5 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片540点（坏169，高台付碗21，甕類350），須恵器片185点（坏96，盤1，蓋5，長頸瓶1，甕類81，甌1），土製品1点（支脚），石製品1点（砥石），鉄製品1点（刀子），鉄滓1点，瓦2点（丸瓦）が出土している。そのほか，混入した陶器片1点も出土している。60は東壁際の覆土下層から破碎された状態で出土している。61は東壁際と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。T11は中央部の床面，62は覆土中，59・63は西壁際の下層から床面にかけてそれぞれ出土している。また，M16・T10はいずれも東壁際の床面から出土している。

所見 本跡は，コーナー竈を有する住居跡である。時期は，出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	土師器	坏	[17.6]	6.4	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ切り 底部回転ヘラ切り	床面	30%
60	須恵器	坏	14.0	4.4	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	80% P L16
61	須恵器	坏	[13.2]	4.0	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	不良	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 底部多方向	床面	60% P L16
62	土師器	高台付碗	14.8	5.2	7.6	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 底部回転ヘラ切り 体部外面下端回転後高台貼り付け	覆土中	80% P L19
63	土師器	小形甕	[14.1]	[14.0]	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ削り 内面ヘラナデ 体部外面下端ヘラ削り 輪積痕 底部木葉痕	下層～床面	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	7.3	5.9	2.8	104.9	凝灰岩	砥面5面 断面三角形 端部欠損	上層	P L30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(7.0)	(0.5)	0.25~0.3	(6.4)	鉄	断面長方形の棒状	床面	P L31

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T10	丸瓦	(9.4)	(9.6)	1.7	(162.7)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	凸面ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	床面	P L27
T11	丸瓦	(7.0)	(5.9)	1.3	(55.2)	長石・石英	褐灰	普通	凸面ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	床面	P L27

第20号住居跡（第51・52図）

位置 調査区中央部のC5e0区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.92m，短軸4.30mの長方形で，主軸方向はN-44°-Wである。壁高は4～6cmである。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅110cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から12cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第8層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	6	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量	7	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
4	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5	灰褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量			

ピット 14か所。P1～P4は深さ20～52cmで，支柱穴である。P5は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P14は深さ16～46cmで，性格は不明である。

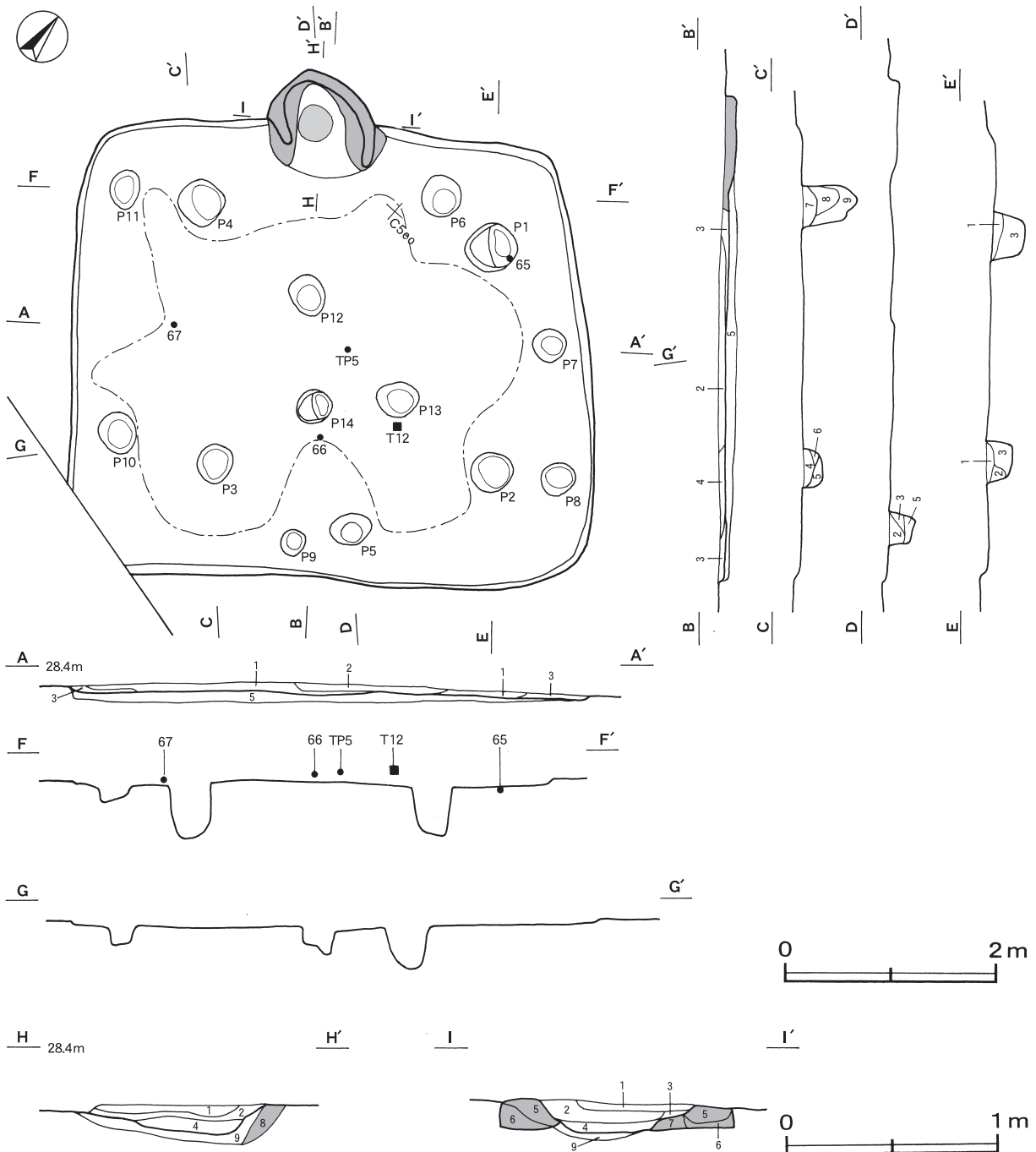
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量 | | |

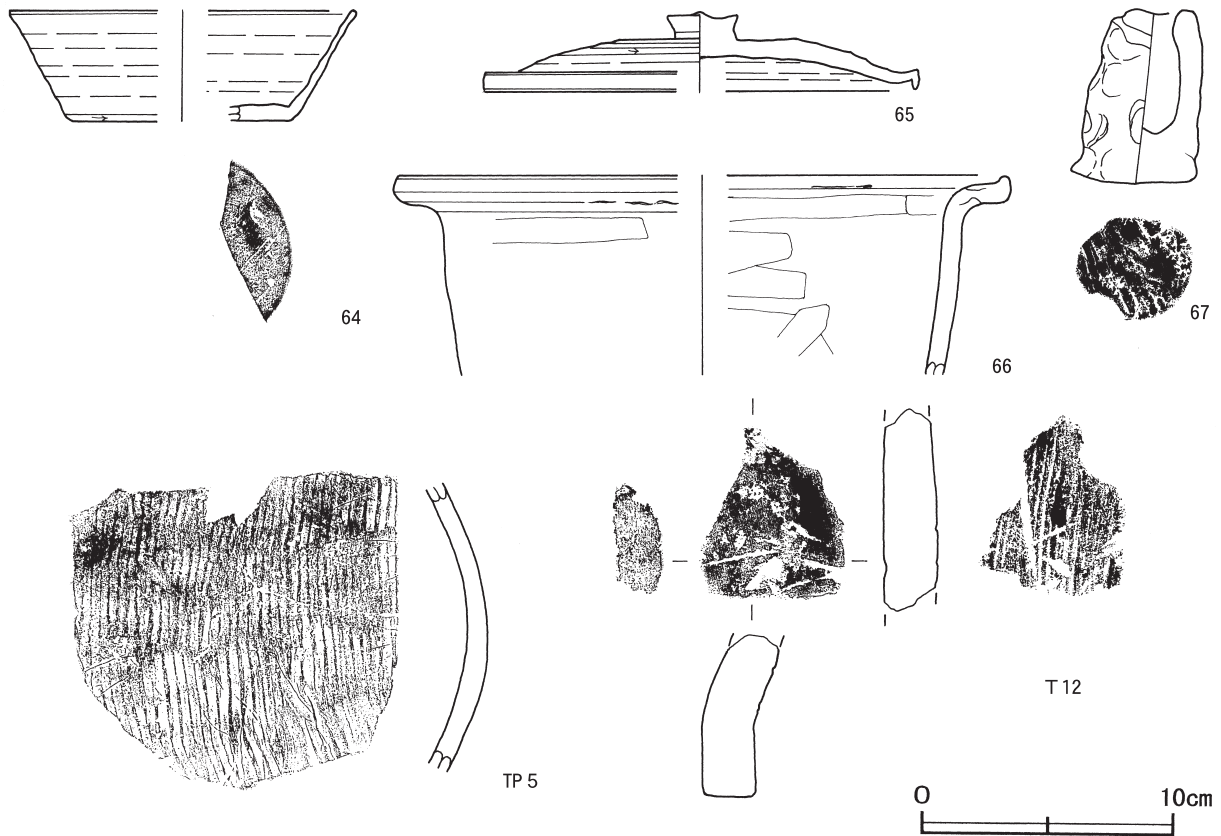
覆土 5層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第5層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第51図 第20号住居跡実測図



第52図 第20号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片299点（坏12，高台付椀2，甕類283，手捏土器2），須恵器片182点（坏113，高台付坏27，盤1，蓋14，甕類27），瓦1点（丸瓦）が散在した状態で出土している。そのほか，混入した剥片1点も出土している。65は北東コーナー部，66・TP 5・T 12は中央部，67は西壁際の床面からそれぞれ出土している。また，64は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
64	須恵器	坏	[13.8]	4.4	[8.8]	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	覆土中	20%
65	須恵器	蓋	[17.2]	3.2	—	長石・石英	黄灰	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	70% P L22
66	土師器	甕	[24.3]	(7.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	床面	10%
67	土師器	手捏土器	2.4	6.9	4.7	長石・石英	にぶい赤褐	普通	ナデ 指頭痕	床面	90% P L24

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 5	須恵器	甕	—	(11.5)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部内面ヘラナデ 指頭痕	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T 12	丸瓦	(8.0)	(3.0)	1.2	(125.1)	長石・石英	褐灰	普通	凸面ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	床面	P L27

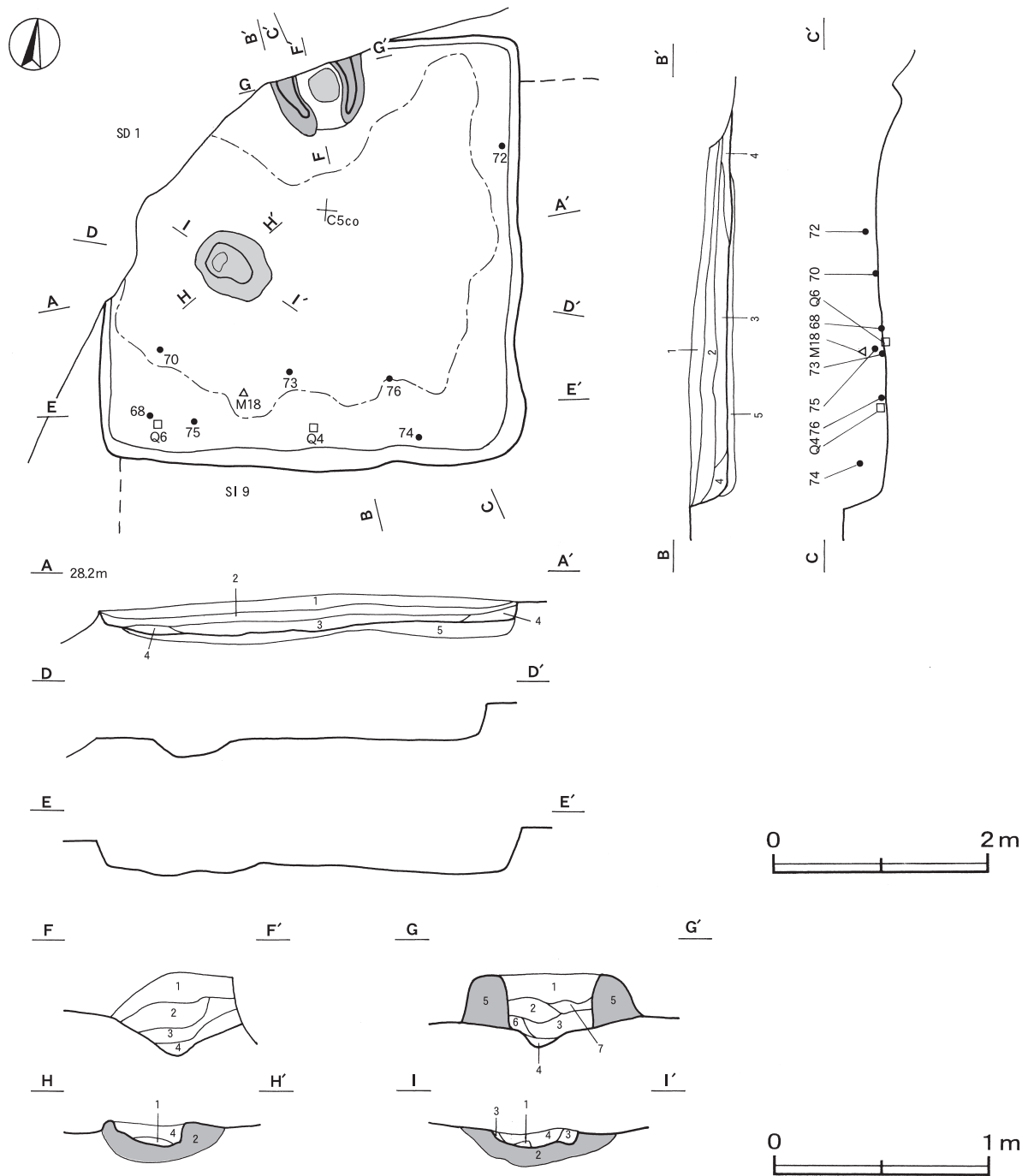
第21号住居跡 (第53・54図)

位置 調査区中央部のC 5 c9区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

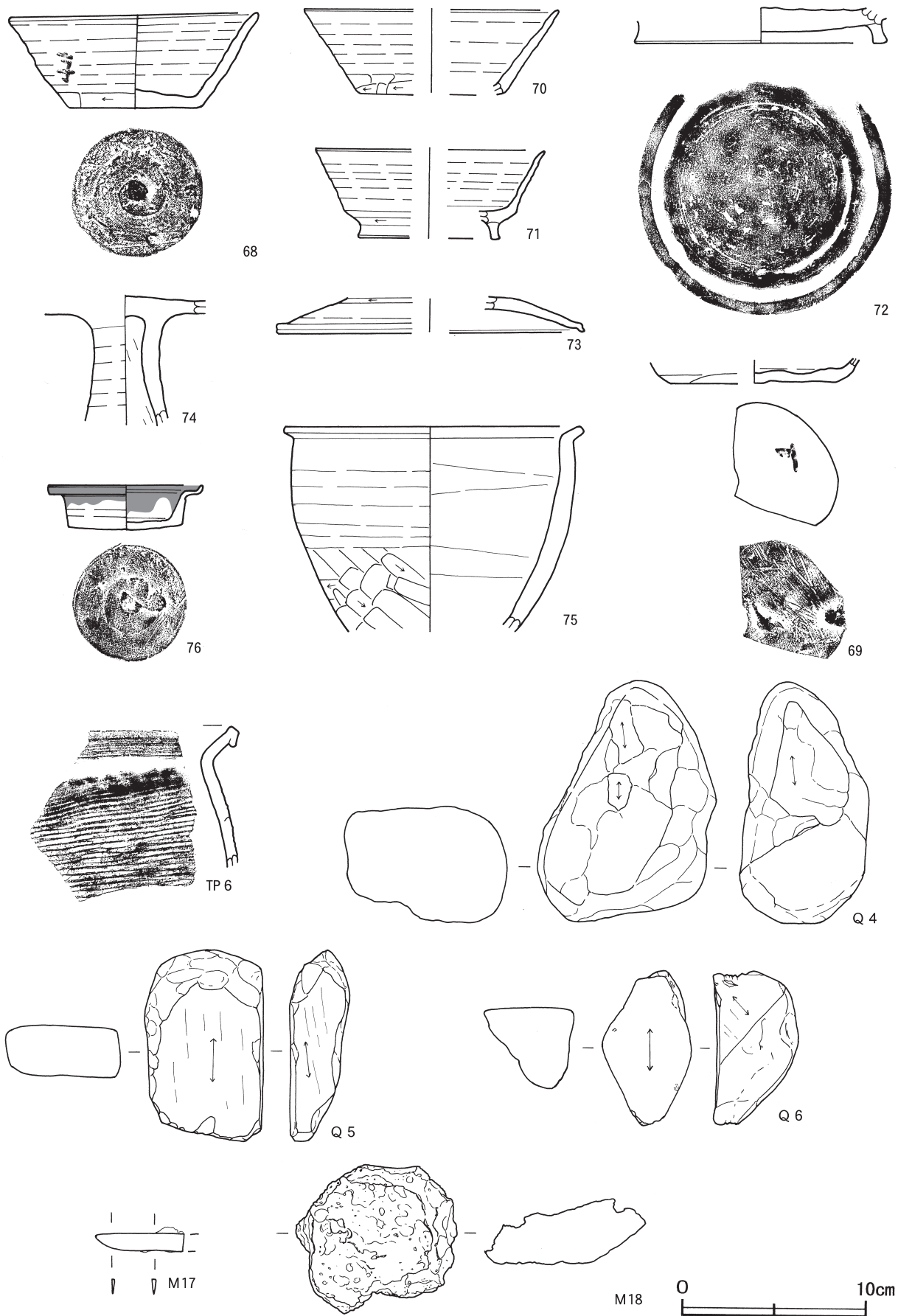
重複関係 第9号住居跡を掘り込み, 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が第1号溝に掘り込まれているが, 長軸3.95m, 短軸3.88mである。主軸方向はN-3°-Wである。壁高は22~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。



第53図 第21号住居跡実測図



第54图 第21号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部が第1号溝に掘り込まれており、規模は袖部幅89cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から19cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黄褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

炉 中央部よりやや西寄りに付設されている。長径71cm, 短径62cmの楕円形で、床面を皿状に掘りくぼめた地床炉である。底面は砂質粘土で構築されている。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 赤灰色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | | |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第5層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片267点（坏38, 椀1, 甕類228）, 須恵器片270点（坏138, 高台付坏15, 盤3, 蓋33, 瓶2, 高盤1, 鉢2, 甕類75, 灯明皿1）, 土製品1点（支脚）, 石製品3点（砥石）, 椀状滓1点, 礫15点が散在した状態で出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点も出土している。68・70・75は南西コーナー部、76は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、時期判定の指標となる遺物である。69・71・Q5・M17・TP6は覆土中、72は東壁際の覆土下層、73・74・M18・Q4は南壁際の覆土下層から中層にかけてそれぞれ出土している。また、Q6は南壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。本跡は竈と炉を有する住居形態で、出土遺物から工房的な施設と想定される。鍛造関係の鍛造剥片や粒状滓は確認されなかった。

第21号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	須恵器	坏	13.6	5.2	7.0	長石・石英	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り 底部多方向へら削り	床面	80% PL16 墨書土器「□子」
69	須恵器	坏	—	(1.3)	[9.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下端手持ちへら削り 底部多方向へら削り	覆土中	15% PL16 墨書土器「□」
70	須恵器	坏	[13.8]	4.6	[7.0]	長石・石英・礫	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り	床面	20%
71	須恵器	高台付坏	[12.4]	4.8	[7.6]	長石・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転へら削り	覆土中	20%
72	須恵器	盤	—	(1.9)	13.7	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転へら削り後高台貼り付け	下層	40% PL20 転用硯
73	須恵器	蓋	[16.6]	(1.9)	—	長石・石英	灰	普通	天井部左回転へら削り	下層	10%
74	須恵器	高盤	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	脚部ロクロ成形 脚部内面へらナデ	中層	20%
75	須恵器	鉢	16.0	(11.1)	—	長石・石英・雲母・礫	黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端手持ちへら削り 内・外面へらナデ	床面	60% PL23
76	須恵器	灯明皿	8.3	2.4	6.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転へら削り	床面	100% PL21 油煙付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP6	須恵器	甕	—	(7.7)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き 輪積痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 4	砥石	13.0	9.7	7.0	938.8	雲母片岩	砥面2面 他は破断面	下層	
Q 5	砥石	10.2	6.4	3.3	306.8	砂岩	砥面2面 他は破断面	覆土中	P L30
Q 6	砥石	8.2	4.8	4.4	157.1	凝灰岩	砥面3面 断面三角形	床面	P L30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M17	刀子	(4.8)	(1.0)	0.2	(3.7)	鉄	刃部一部欠損 茎部欠損 断面三角形	覆土中	P L31
M18	椀状滓	8.7	8.1	3.5	293.0	滓	着磁性有り 焼土付着 暗褐色	中層	P L30

第22号住居跡（第55・56図）

位置 調査区中央部のC 5 d7区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24・39号住居跡を掘り込み，第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側部分は第1号溝に掘り込まれているため，長軸5.42m，短軸は4.46mだけが確認された。主軸方向はN-38°-Wである。壁高は21~32cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。第39号住居跡の上面に貼床されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅120cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4・5層を積み上げて構築されている。火床面は床面から5cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	6	褐色	焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
3	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

ピット 4か所。P 1~P 3は深さ22~38cmで，支柱穴である。P 4は深さ27cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

1	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	5	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック微量	6	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量
3	褐色	ロームブロック少量	7	褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
4	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量			

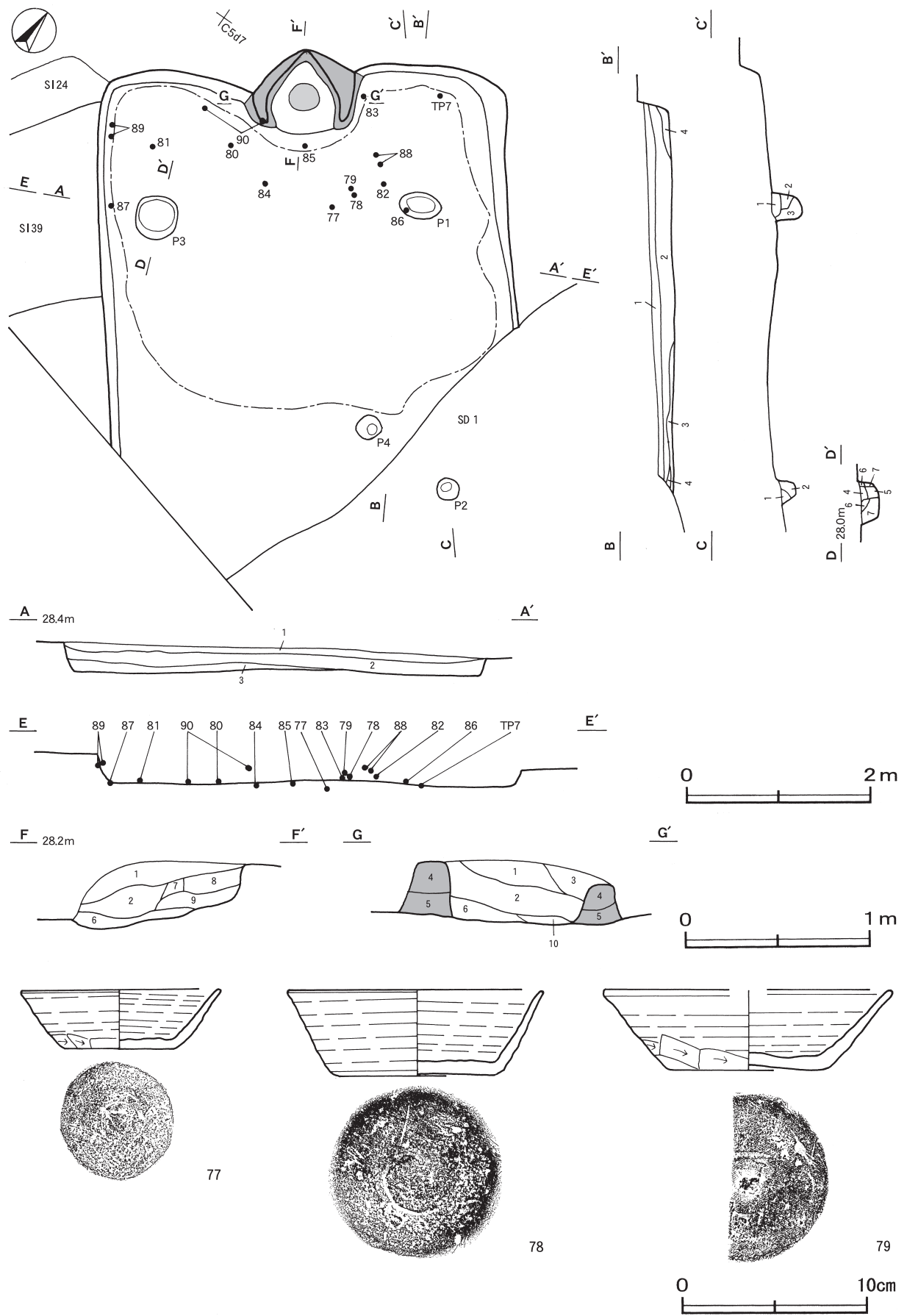
覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

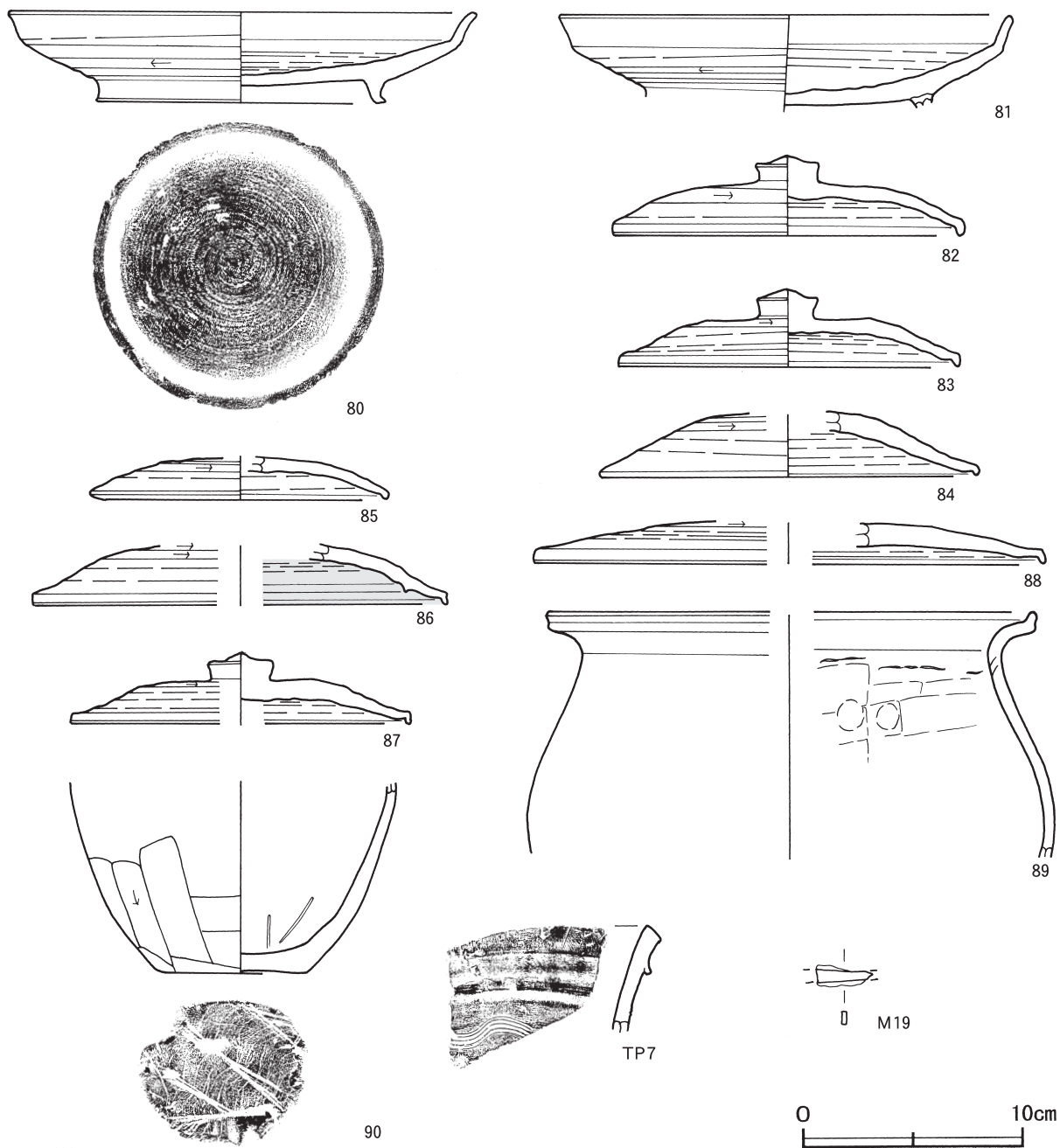
1	褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	3	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片597点（坏9，甕類588），須恵器片275点（坏193，高台付坏1，蓋10，小形短頸壺1，甕類69，甌1），鉄製品2点（不明），瓦1点（平瓦）が散在した状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器片も4点出土している。77~80・82・84~86・88は竈前面，83・90・TP7は北壁際，87は西壁際の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標となる遺物である。81・89は北西コーナー部の床面から覆土中層にかけてそれぞれ破砕された状態で出土している。また，M19は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第55图 第22号住居跡・出土遺物実測図



第56図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第55・56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	須恵器	坏	10.7	3.2	6.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り	床面	95% P L16
78	須恵器	坏	13.8	4.6	8.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転へら切り後へら削り	床面	80% P L16
79	須恵器	坏	[15.4]	4.3	8.8	長石・石英・雲母・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端持ちへら削り 底部回転へら切り後へら削り	床面	45% P L16
80	須恵器	盤	21.2	4.2	13.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転へら削り 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面	85% P L20
81	須恵器	盤	20.6	(4.5)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転へら削り 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面	75% P L20
82	須恵器	蓋	15.4	3.6	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部右回転へら削り	床面	100% P L22
83	須恵器	蓋	15.4	3.5	—	長石・石英	黄灰	普通	天井部右回転へら削り	床面	100% P L22
84	須恵器	蓋	17.1	(2.9)	—	長石・石英	灰	普通	天井部右回転へら削り	床面	50% P L22

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
85	須恵器	蓋	13.5	(2.0)	—	長石・石英	黄灰	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	50% PL22
86	須恵器	蓋	[18.8]	(2.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	40% PL22 転用硯
87	須恵器	蓋	[15.4]	3.2	—	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	20%
88	須恵器	蓋	[23.2]	(1.9)	—	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	20%
89	土師器	甕	[22.0]	(11.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面輪積痕 指頭痕	中層	20%
90	土師器	小形甕	—	(8.7)	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP7	須恵器	壺	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位 櫛描き	床面	PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	不明	(2.7)	(0.6)	0.25	(2.8)	鉄	断面長方形の棒状	覆土中	PL31

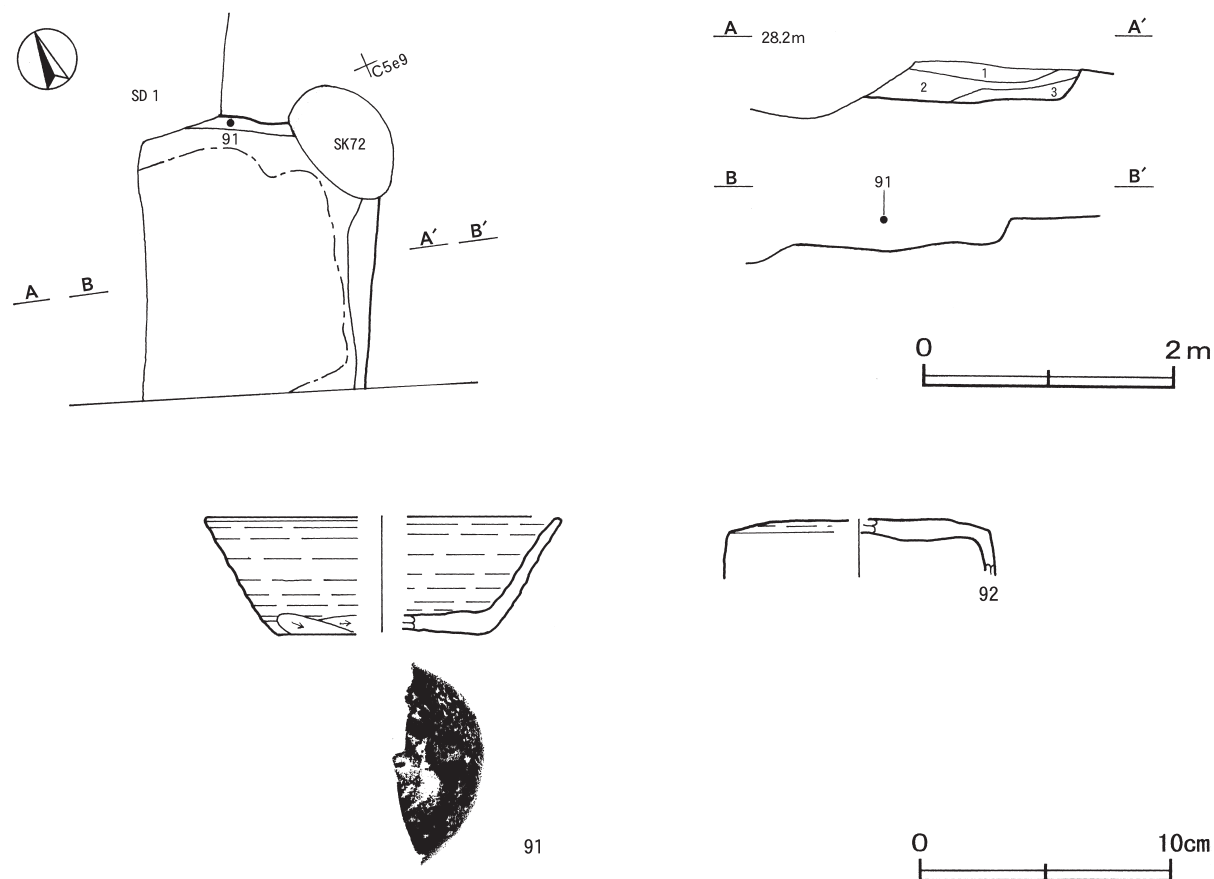
第25号住居跡（第57図）

位置 調査区中央部のC 5 e8区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝，第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部は第1号溝に掘り込まれ，南部は調査区域外に延びているため，長軸2.16m，短軸1.80mだけが確認された。主軸方向はN-25°-Eである。壁高は18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。



第57図 第25号住居跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片20点（甕類），須恵器片10点（坏3，甕類7）が細片で出土している。91は北壁際の覆土上層から出土している。また，92は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第25号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
91	須恵器	坏	[14.0]	4.6	[8.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 端手持ちヘラ削り	体部外面下 底部回転ヘラ切り	上層	30%
92	須恵器	蓋	—	(1.8)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロ成形		覆土中	15%

第26号住居跡（第58図）

位置 調査区中央部のC5c4区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.00m，短軸2.93mの方形で，主軸方向はN-7°-Wである。壁高は3～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cm，袖部幅92cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第10・11層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 4 にぶい褐色 焼土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 6 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 10 灰褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 10か所。P1は深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2～P10は深さ8～17cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

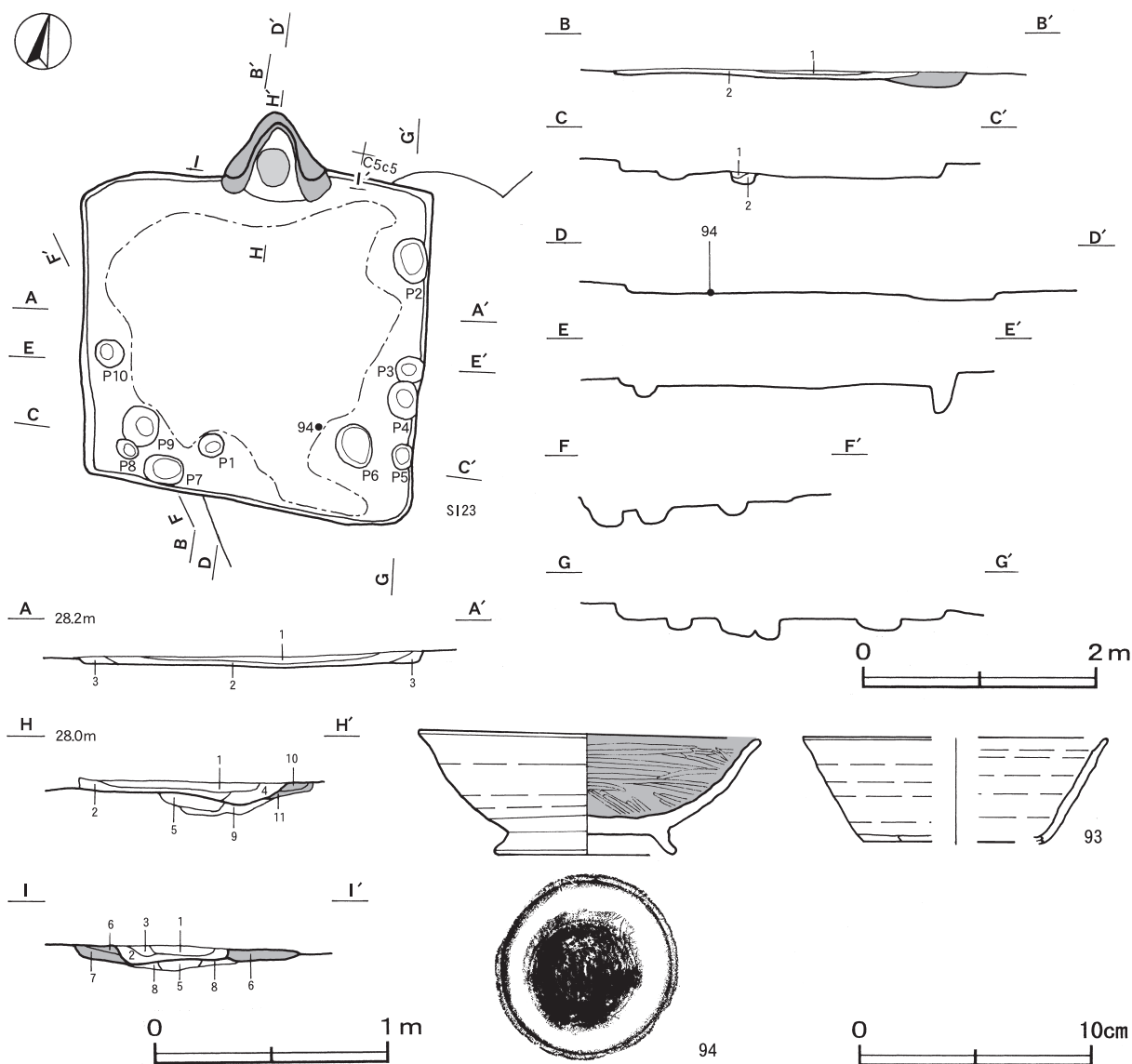
覆土 3層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片156点（坏24，高台付椀6，甕類126），須恵器片34点（坏31，高台付坏2，甕類1），灰釉陶器片2点（瓶）が散在した状態で出土している。94は南東コーナー部の床面から出土しており，時期判定の指標となる遺物である。また，93は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第58図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表 (第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
93	須恵器	坏	[13.0]	4.5	[7.2]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り	覆土中	20%
94	土師器	高台付碗	14.4	5.3	7.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転へら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面	90% P L 19

第28号住居跡 (第59~61図)

位置 調査区中央部のB 5 i4区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.05m, 短軸2.76mの長方形で, 主軸方向はN-79°-Eである。壁高は6~16cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cm, 袖部幅132cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11・12層を積み上げて構築されている。火床部は床面から3cmくぼんでおり, 火床面は火を受

けて赤変硬化している。煙道部は壁外に62cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

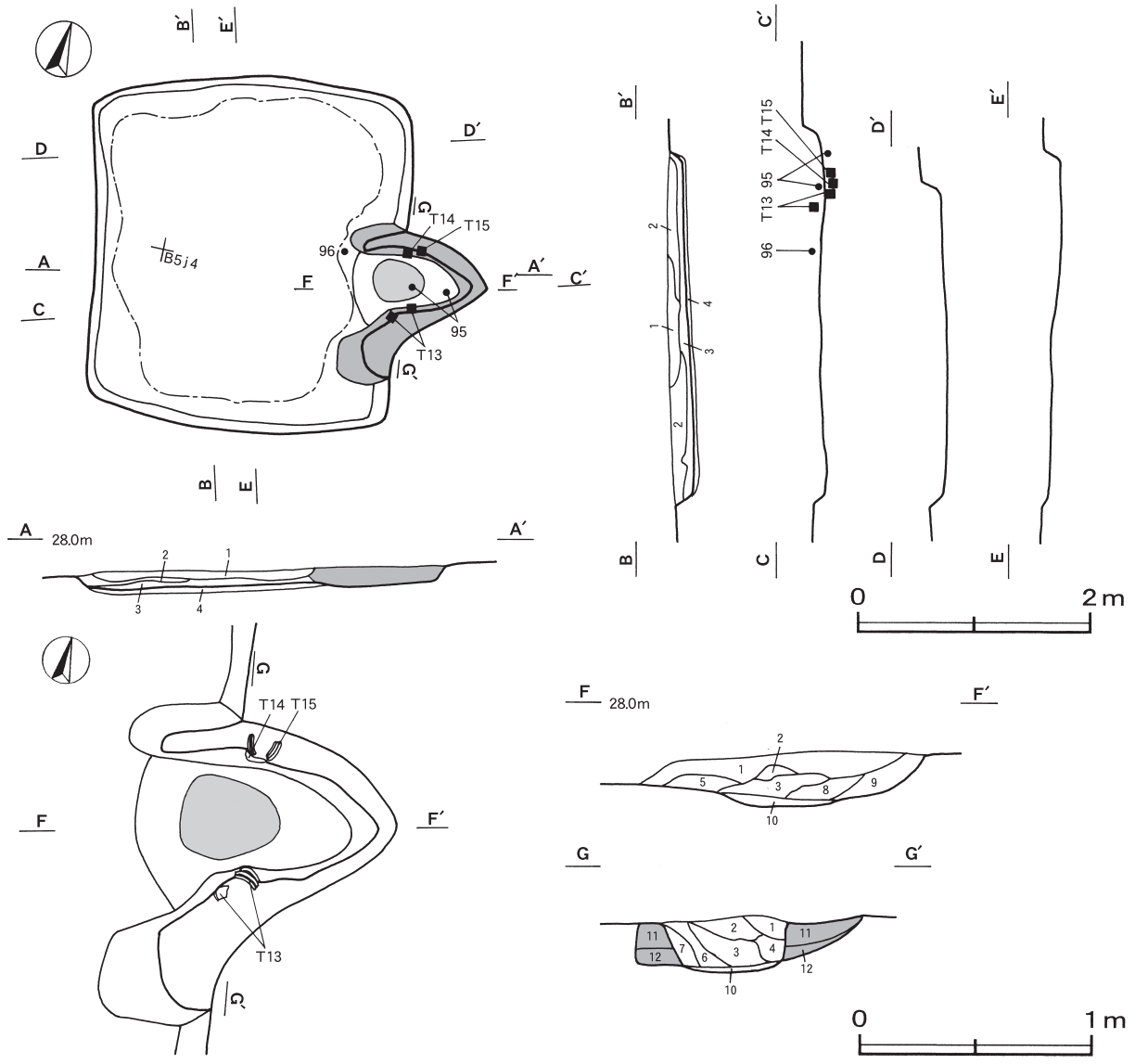
竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 灰 赤 色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 にぶい暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化材微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 にぶい暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | 11 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 灰 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |

覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第4層は床の構築土である。

土層解説

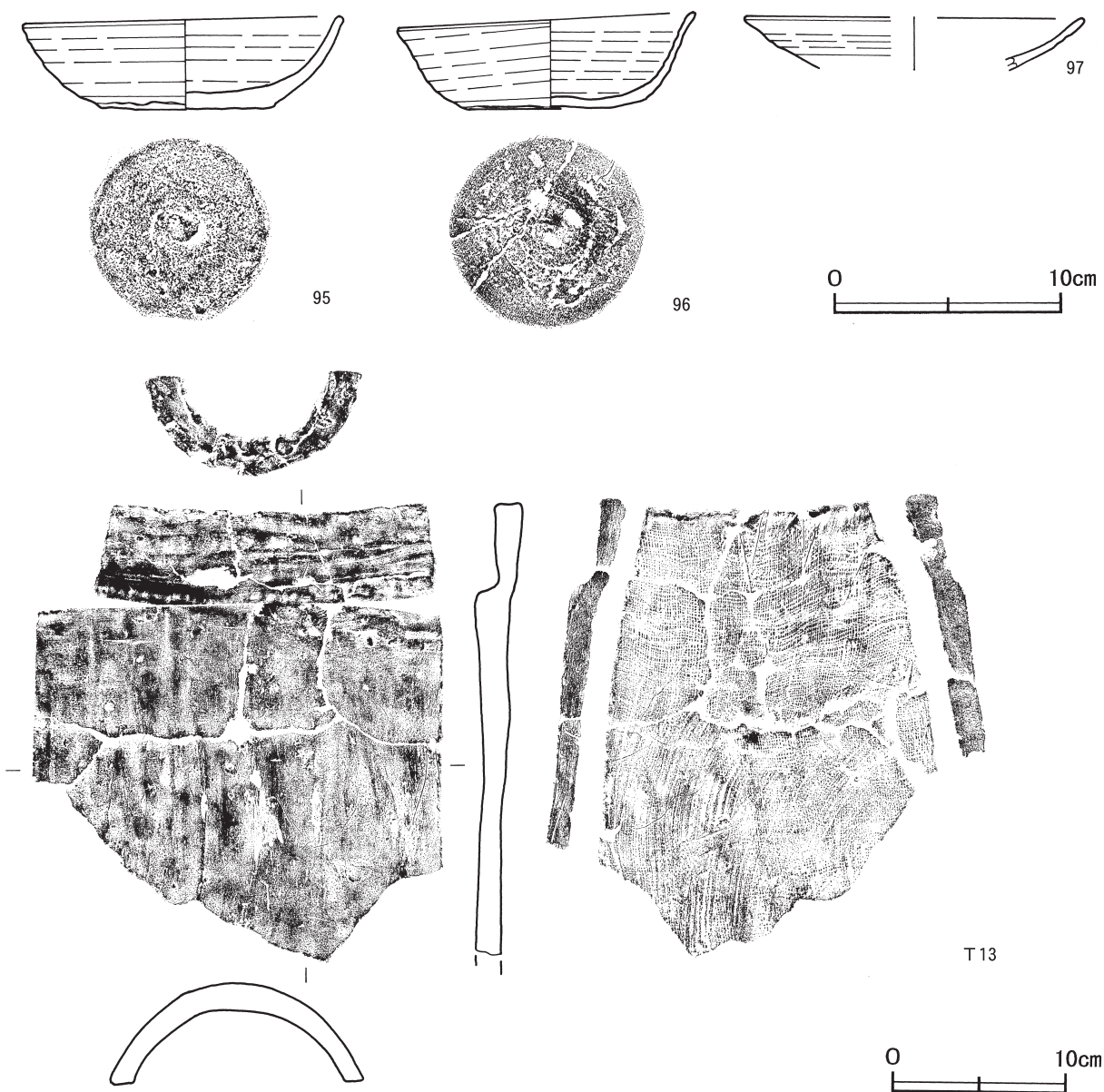
- | | | | |
|---------|-----------------|---------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



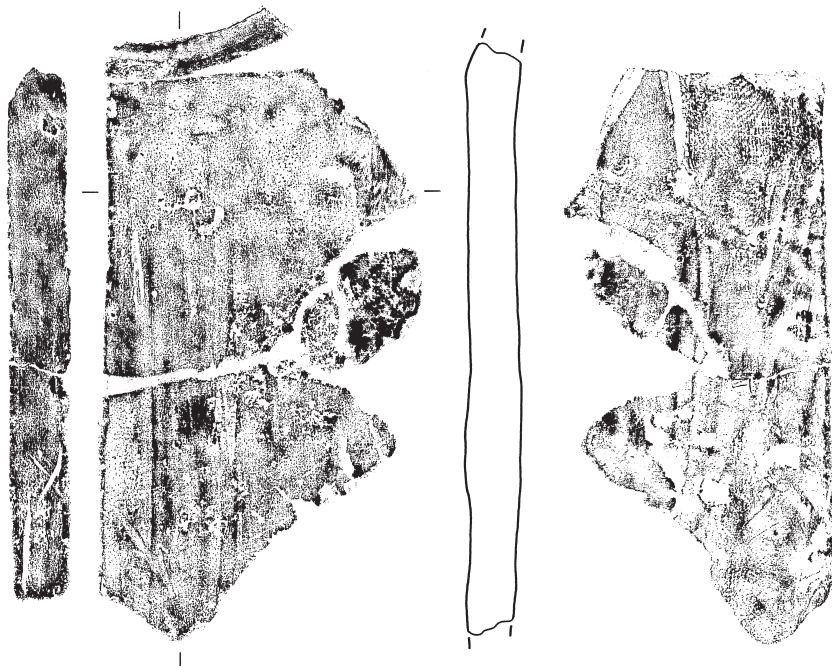
第59図 第28号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片101点（坏27，高台付椀2，甕類72），須恵器片37点（坏22，盤1，甕類14），灰釉陶器片2点（皿），瓦16点（丸瓦）が散在した状態で出土している。95は竈内の火床面と奥壁から出土した破片が接合したものである。96は竈前面の覆土下層，97は覆土中からそれぞれ出土している。また，T13は竈右袖内，T14・T15は竈左袖内から出土しており，火を受けた痕跡が認められることから，竈の補強材として使用されたものと考えられる。

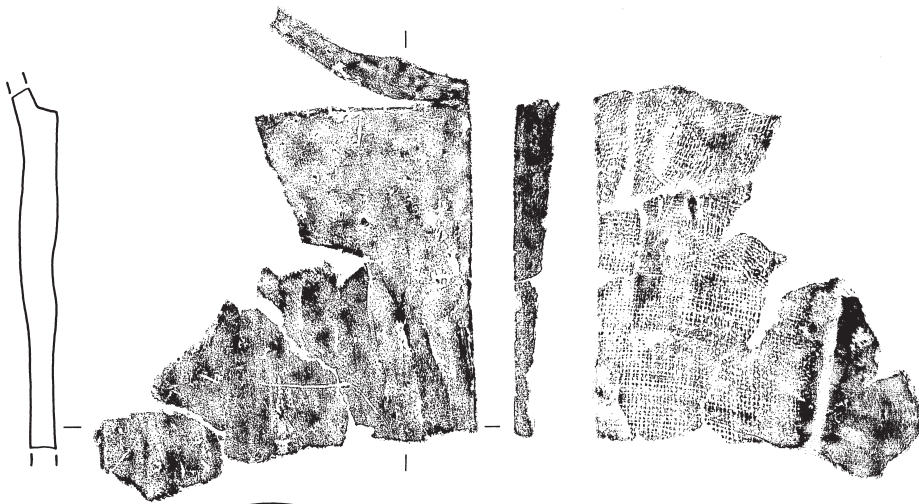
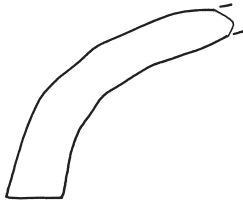
所見 時期は，出土土器や東竈の住居形態から10世紀前葉と考えられる。本跡は，補強のため竈の袖部に丸瓦を埋め込んでいる。また，灰釉陶器が出土したことから，稀少品を保持する有力者層の存在がうかがえる。



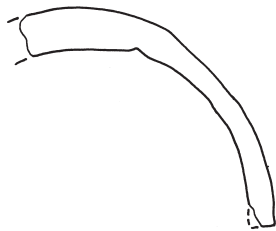
第60図 第28号住居跡出土遺物実測図(1)



T14



T15



第61図 第28号住居跡出土遺物実測図(2)

第28号住居跡出土遺物観察表 (第60・61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
95	土師器	坏	13.8	4.1	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	火床面	95% P L17
96	土師器	坏	13.0	4.2	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	95% P L17
97	灰釉陶器	皿	[14.8]	(2.3)	—	緻密	灰白	良好	ロクロ成形	覆土中	10% P L24

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T13	丸瓦	(26.4)	(16.1)	2.8	(1282.4)	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	凸面縦方向のヘラ削り・ナデ調整 面糸切り痕・布目痕	竈右袖内	P L27
T14	丸瓦	(23.6)	(9.1)	2.2	(660)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	凸面縦方向のヘラ削り・ナデ調整 面布目痕	竈左袖内	P L28
T15	丸瓦	(16.3)	(10.1)	1.5	(331.4)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	凸面縦方向のヘラ削り・ナデ調整 面布目痕	竈左袖内	P L28

第29号住居跡 (第62・63図)

位置 調査区中央部のB 5 j3区, 標高27.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.47m, 短軸2.18mの長方形で, 主軸方向はN-23°-Wである。壁高は10~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで121cm, 袖部幅142cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4~8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から2cmくぼんでおり, 火床面は認められない。煙道部は壁外に53cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

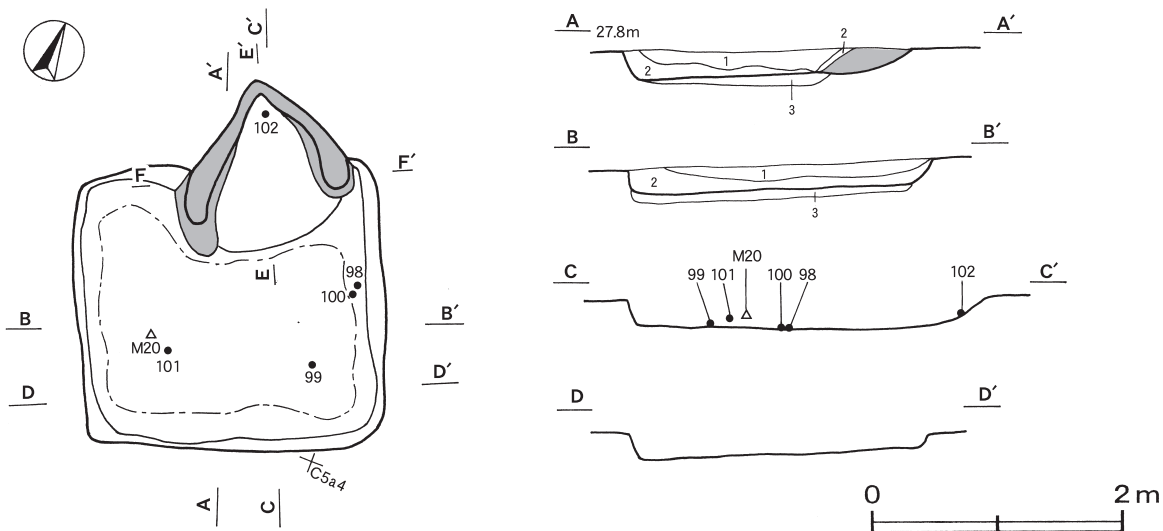
竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 7 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

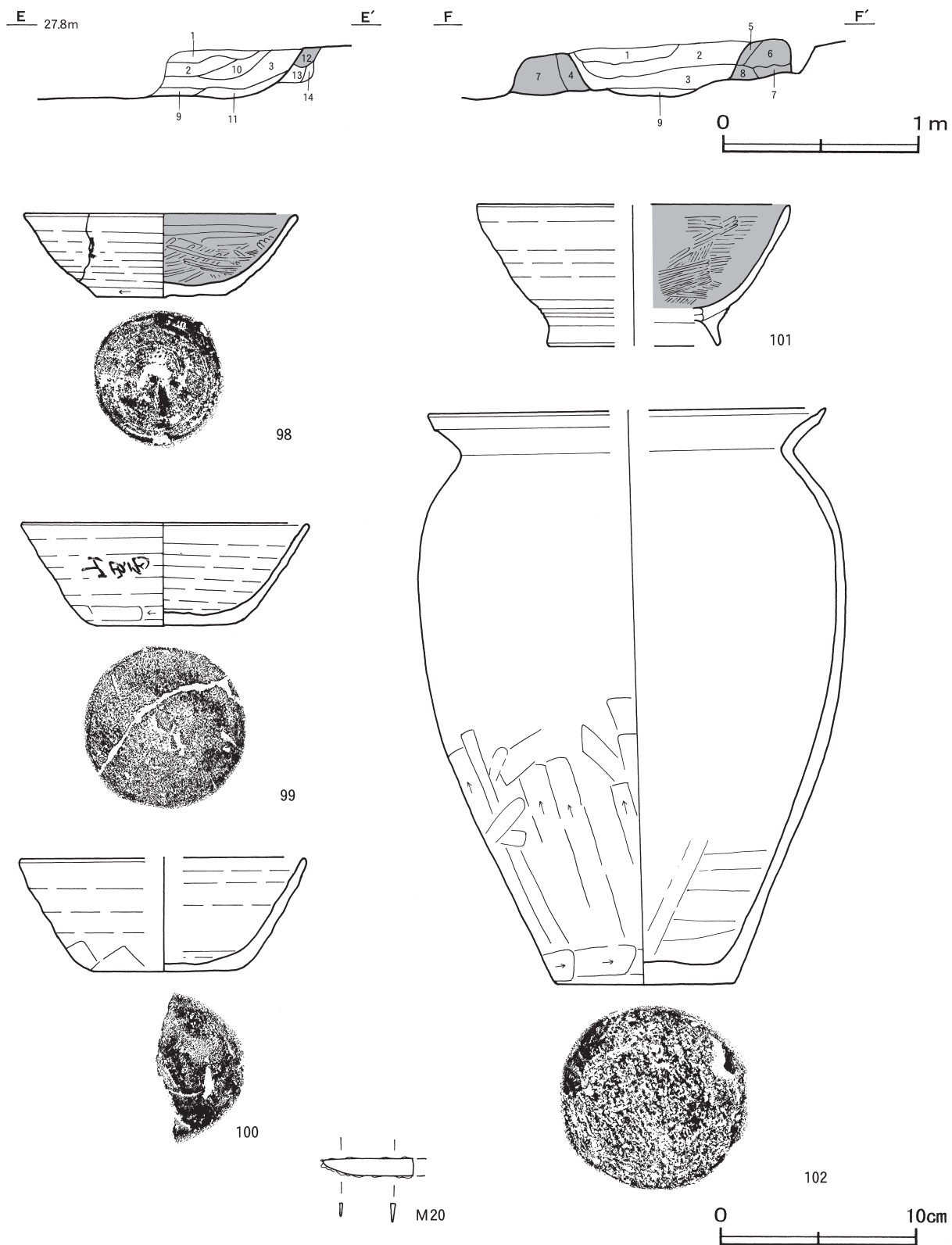
覆土 3層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第3層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |



第62図 第29号住居跡実測図



第63図 第29号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片138点（坏17，高台付椀1，甕類120），須恵器片38点（坏33，蓋1，甕類4），鉄製品1点（刀子），馬歯，馬骨が出土している。98・100は東壁際，99は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標となる遺物である。101・M20は南西コーナー部の覆土下層から出土している。102は

竈内の奥壁から破碎された状態で出土している。また、馬歯や馬骨が竈前面の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
98	土師器	坏	13.8	4.3	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	50% PL17 墨書土器「□」
99	須恵器	坏	14.5	5.3	7.9	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	床面	75% PL17 墨書土器「山田丙」
100	須恵器	坏	[14.4]	5.8	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	30%
101	土師器	高台付碗	[15.9]	7.2	[8.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	15%
102	土師器	甕	[20.3]	29.2	9.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ	竈内	60% PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(4.6)	(0.9)	0.15~0.2	(4.6)	鉄	刃部一部欠損 茎部欠損 断面三角形	下層	PL31

第30号住居跡（第64・65図）

位置 調査区中央部のC5a3区、標高27.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.24mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は22~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅140cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9~11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から20cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。また、火床面の上部には厚さ8cmほどの粘土を貼り付け、その上に土器片を重ねて高さの調整をしている。

竈土層解説

1	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	褐灰色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量	8	暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
4	褐灰色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
5	褐灰色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量	10	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量
			11	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 3か所。P1~P3は深さ14~18cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

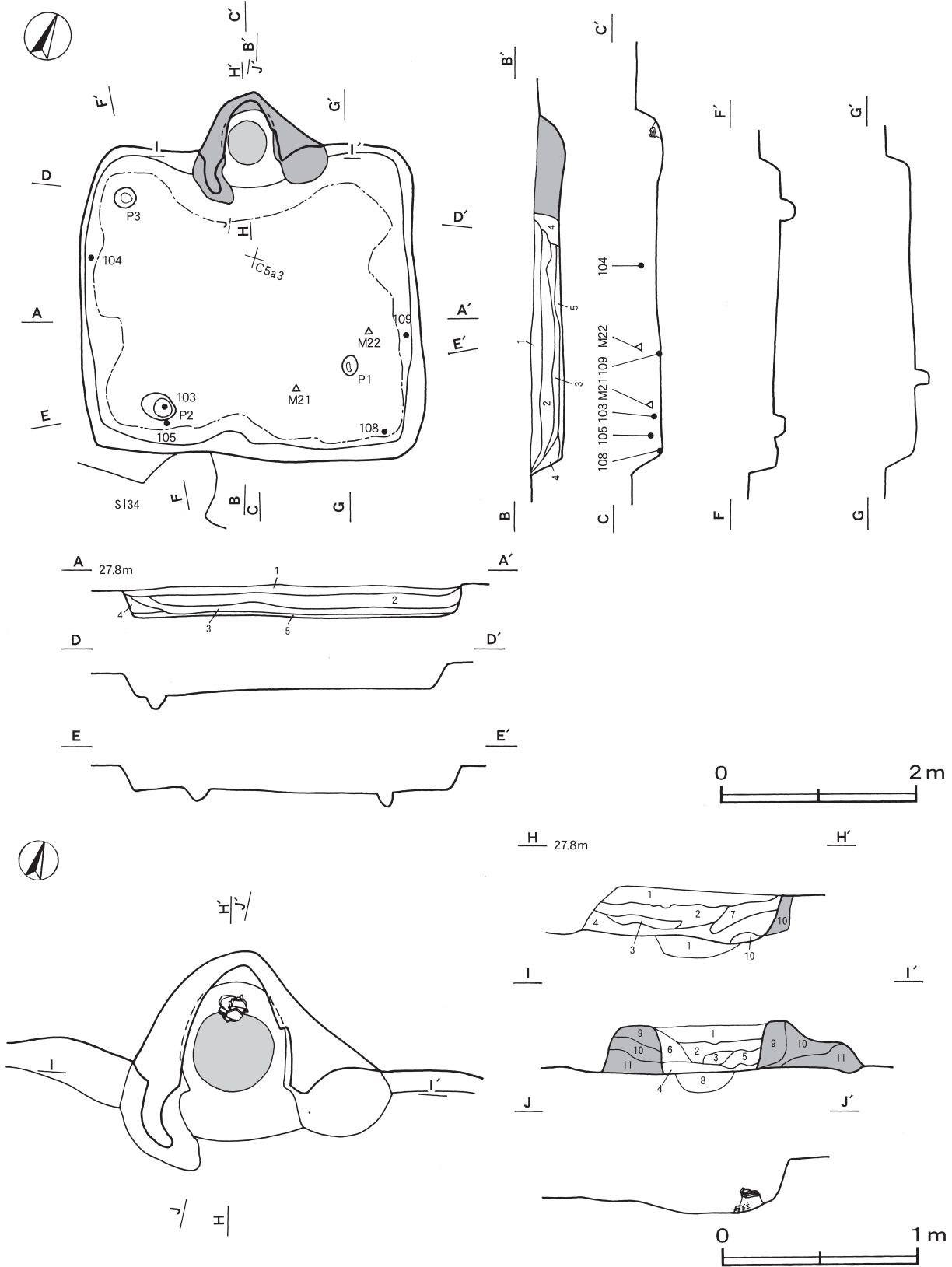
土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量			

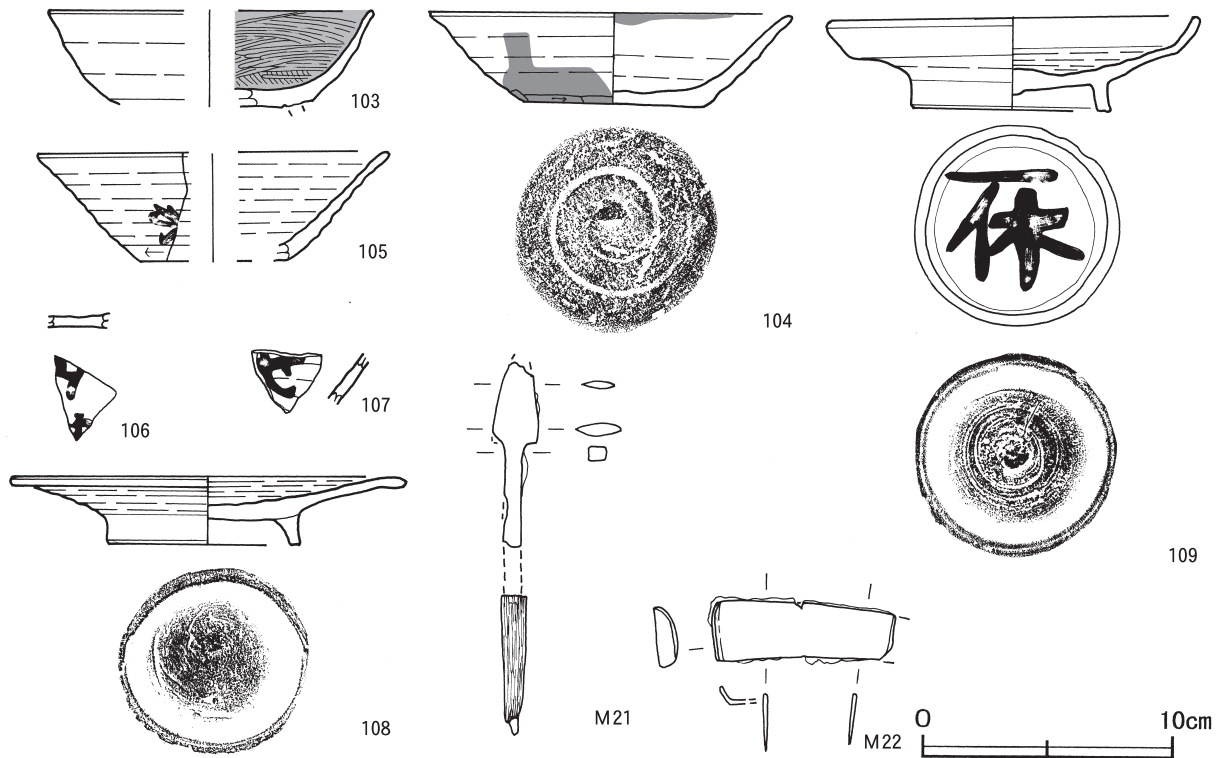
遺物出土状況 土師器片323点（坏36、高台付碗1、高台付皿1、甕類285）、須恵器片91点（坏39、高台付坏2、灯明皿1、盤3、蓋2、甕類42、甗2）、鉄製品2点（鏃、鎌）が散在した状態で出土している。そのほか、混入した縄文土器片5点も出土している。103・105は南西コーナー部の覆土下層、104は西壁際の覆土中層、106・107は覆土中からそれぞれ出土している。108は南東コーナー部、109は東壁際の床面からそれぞれ出

土しており、時期判定の指標となる遺物である。また、M21は南壁際の覆土下層、M22は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第64図 第30号住居跡実測図



第65図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
103	土師器	高台付碗	[12.8]	(3.8)	—	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	下層	40%
104	須恵器	灯明皿	14.3	3.7	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	100% PL17 内外面油煙付着
105	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[5.8]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り	下層	10% PL17 墨書土器「水」カ
106	須恵器	坏	—	(0.6)	—	長石・雲母	灰黄	普通	ロクロ成形	覆土中	10% PL17 墨書土器「□」カ
107	須恵器	坏	—	(2.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロ成形	覆土中	10% PL17 墨書土器「□」
108	土師器	高台付皿	15.6	2.7	7.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	90% PL21
109	須恵器	盤	14.6	3.9	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	85% PL20 墨書土器「一」カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	鎌	[14.7]	1.9	0.4~0.6	(22.1)	鉄	三角形式 両鑄造 無関	下層	PL31
M22	鎌	(7.3)	2.3	0.15~0.2	(17.5)	鉄	切先部・柄付部一部欠損 柄付部「U」の字に屈曲	中層	PL31

第31号住居跡（第66図）

位置 調査区中央部のC 5 b3区，標高27.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.36m，短軸3.10mの長方形で，主軸方向はN-21°-Wである。壁高は16~22cmで，外傾して立ち上がっている。

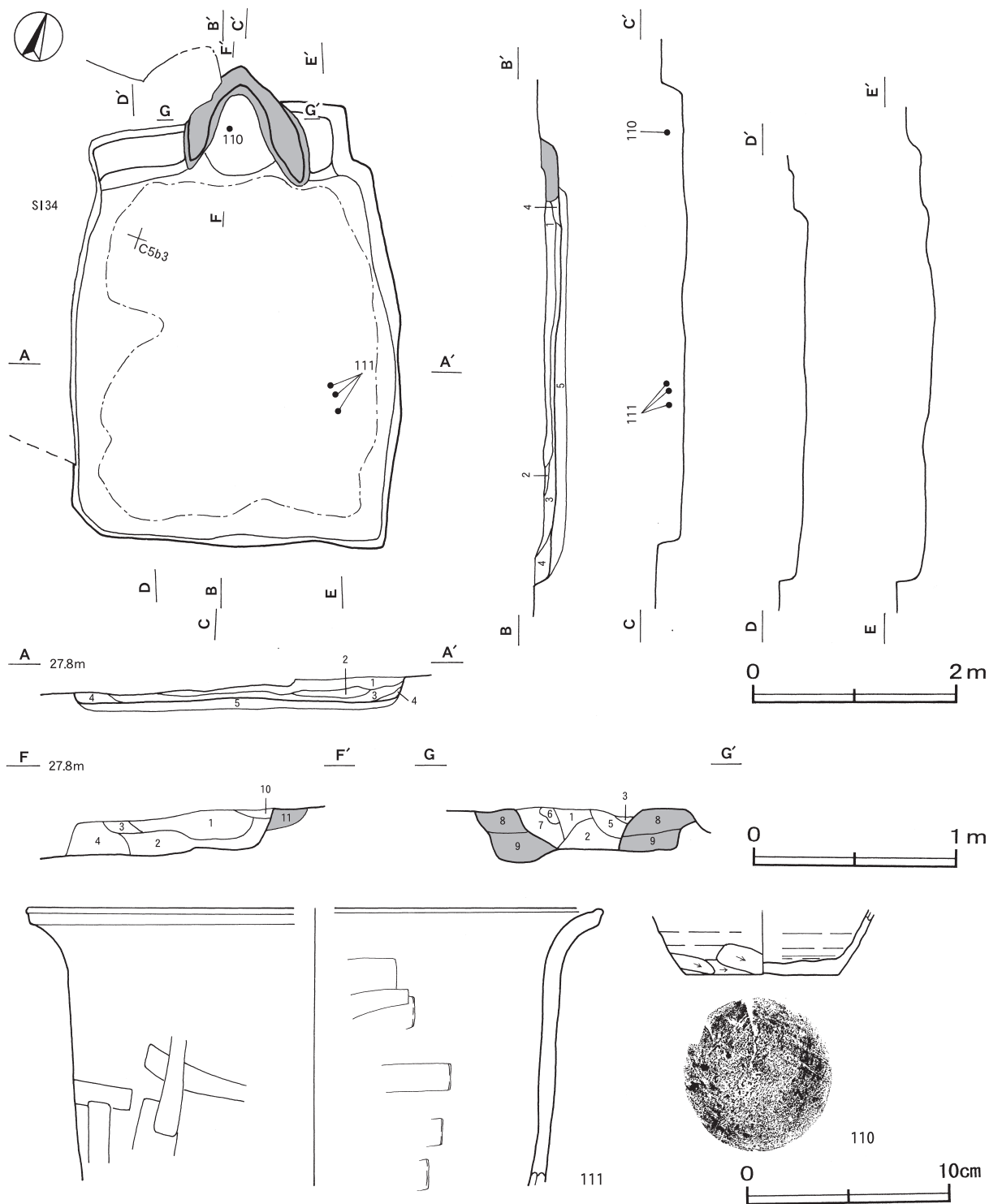
床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅116cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から2cmくぼんでおり，火床面は認められない。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同

じ第11層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，
焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量，砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | | |



第66図 第31号住居跡・出土遺物実測図

棚状施設 竈両側に設けられている。竈左側は奥行50cm前後、幅100cm前後の長方形で、床面から12cmの高さで確認された。竈右側は奥行70cm前後、幅50cm前後の長方形で、床面から7cmの高さで確認された。

覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第5層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片165点（坏18，蓋1，甕類143，甗3），須恵器片15点（坏10，高台付坏2，甕類3）が散在した状態で出土している。110は竈内から出土している。また、111は東壁際の覆土下層から破砕された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。竈の両側に棚状施設を有する住居形態である。

第31号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
110	土師器	坏	—	(3.2)	7.5	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 手持ちヘラ削り 底部多方向ヘラ削り	竈内	40%
111	土師器	甕	[14.0]	(13.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 削り 内面ヘラナデ	下層	20%

第33A号住居跡（第67図）

位置 調査区中央部のC5b2区、標高27.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33B号住居跡を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸3.07m、短軸2.97mの方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は12~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。また、北壁際には焼土が広がっており、焼失住居である。

竈 東壁南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで103cm、袖部幅106cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11~14層を積み上げて構築されている。火床部は床面から7cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

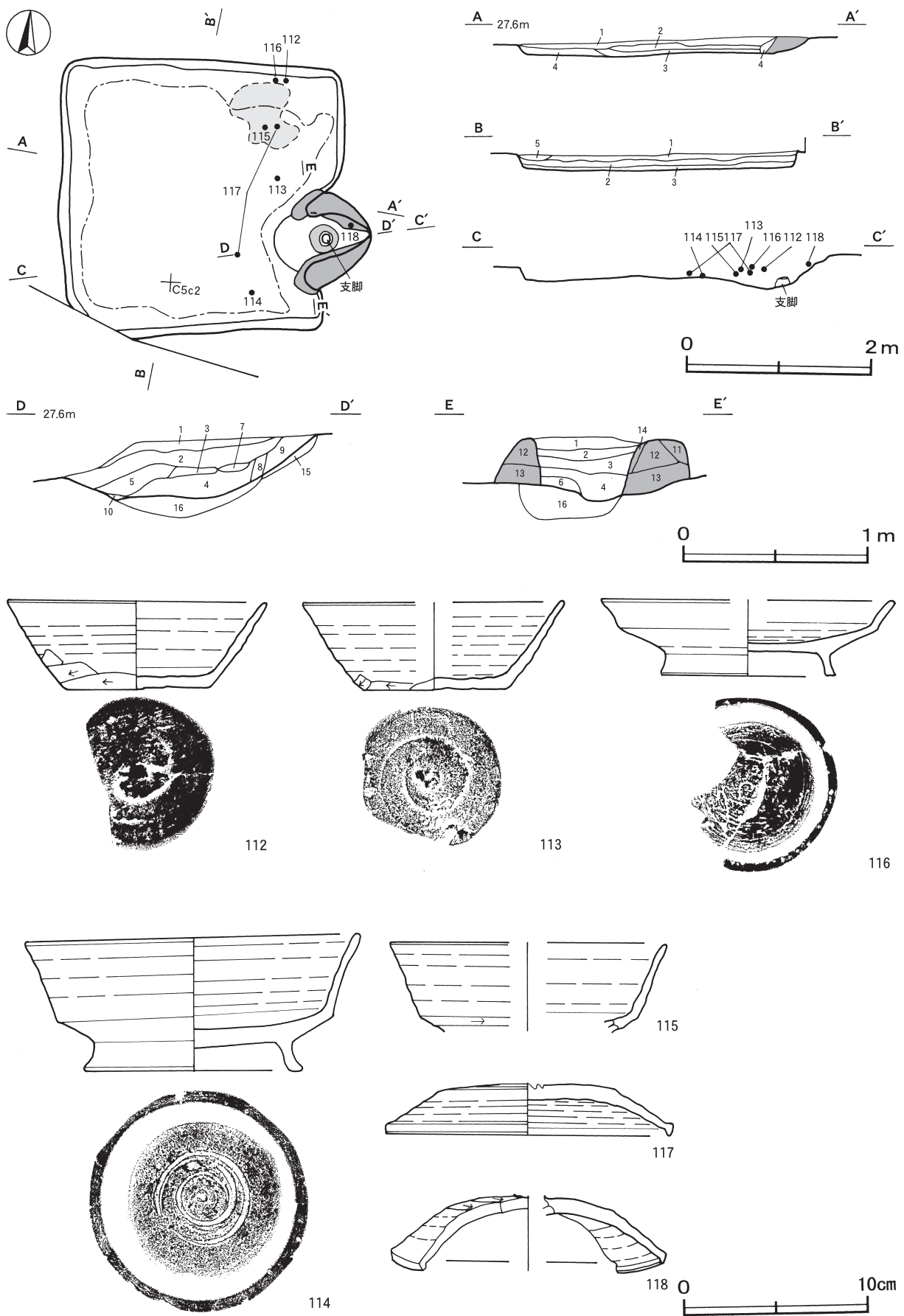
竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 にぶい暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

覆土 5層に分けられる。各層にロームを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | | |



第67图 第33A号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片124点（坏1，甕類123），須恵器片77点（坏26，高台付坏15，盤16，蓋14，短頸壺1，甕類5）が各壁際を中心に出土している。112・115・116は北東コーナー部の覆土下層，113は竈前面の覆土下層，118は竈内の奥壁からそれぞれ出土している。114は竈前面の床面から出土しており，時期判定の指標となる遺物である。また，117は竈前面と北東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。本跡は第33号B住居跡から建て替えた住居である。本集落における東竈の住居形態は，本跡と第47号住居跡を除いて10世紀前葉であり異質である。

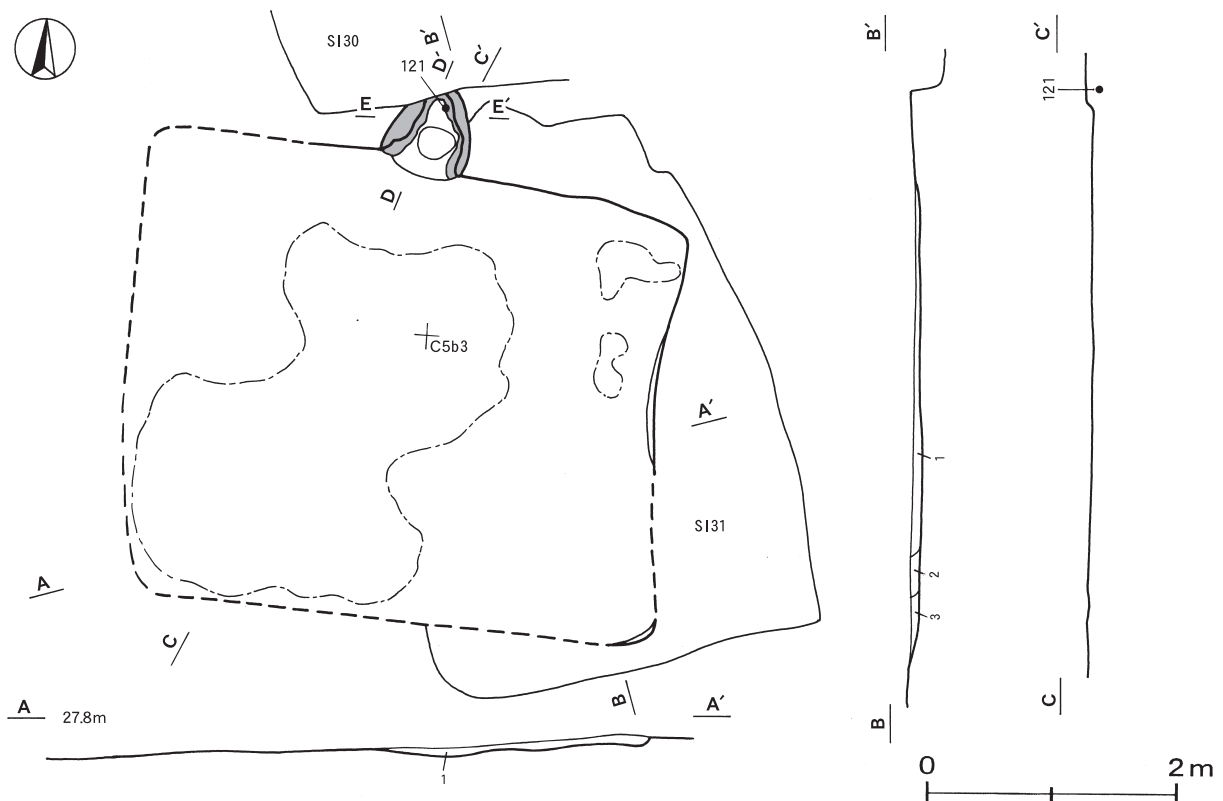
第33A号住居跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	須恵器	坏	13.8	4.9	7.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り 底部回転へら切り	下層	55% PL17
113	須恵器	坏	[13.9]	4.8	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り 底部回転へら切り	下層	50% PL17
114	須恵器	高台付坏	18.0	7.4	11.7	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転へら削り 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面	95% PL19
115	須恵器	高台付坏	[14.8]	(4.8)	—	長石・石英	暗オリーブ褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転へら削り	下層	20%
116	須恵器	盤	[15.8]	4.1	9.4	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	下層	55% PL20
117	須恵器	蓋	15.3	(2.8)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部右回転へら削り	下層	75% PL22
118	須恵器	蓋	[14.6]	(4.2)	—	長石・石英	黄灰	普通	ロクロ成形 一部成形に歪み	竈内	20%

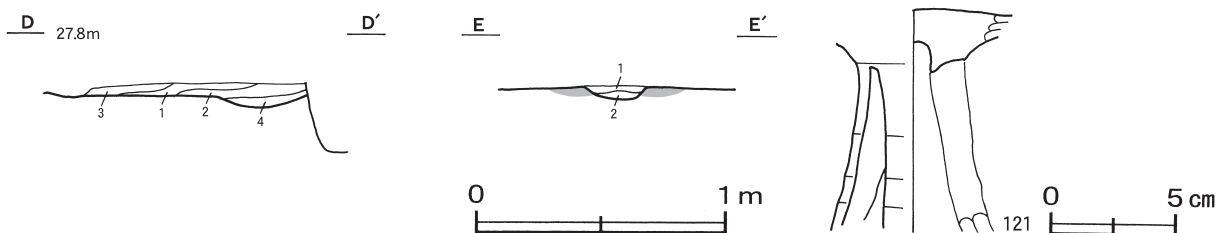
第34号住居跡（第68・69図）

位置 調査区中央部のC5b2区，標高27.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31号住居跡を掘り込み，第30号住居に掘り込まれている。



第68図 第34号住居跡実測図



第69図 第34号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 一部床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸4.32m、短軸3.70mの長方形で、主軸方向は $N-2^{\circ}-E$ と推定される。壁高は0～8cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部と北東部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm、袖部幅74cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 赤黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

覆土 3層に分けられる。層位が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片33点（坏1，甕類32），須恵器片4点（坏1，高盤2，甕類1）が細片で出土している。121は竈内奥壁から出土しており、時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。

第34号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	須恵器	高盤	—	(8.9)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部ロクロ成形 窓は3か所カ	竈内	20%

第36号住居跡（第70図）

位置 調査区中央部のB4g9区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第50号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸4.27m、短軸3.99mの方形で、主軸方向は $N-7^{\circ}-E$ と推定される。壁高は4～15cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cm、袖部幅88cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第3・4層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に53cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 4 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | |

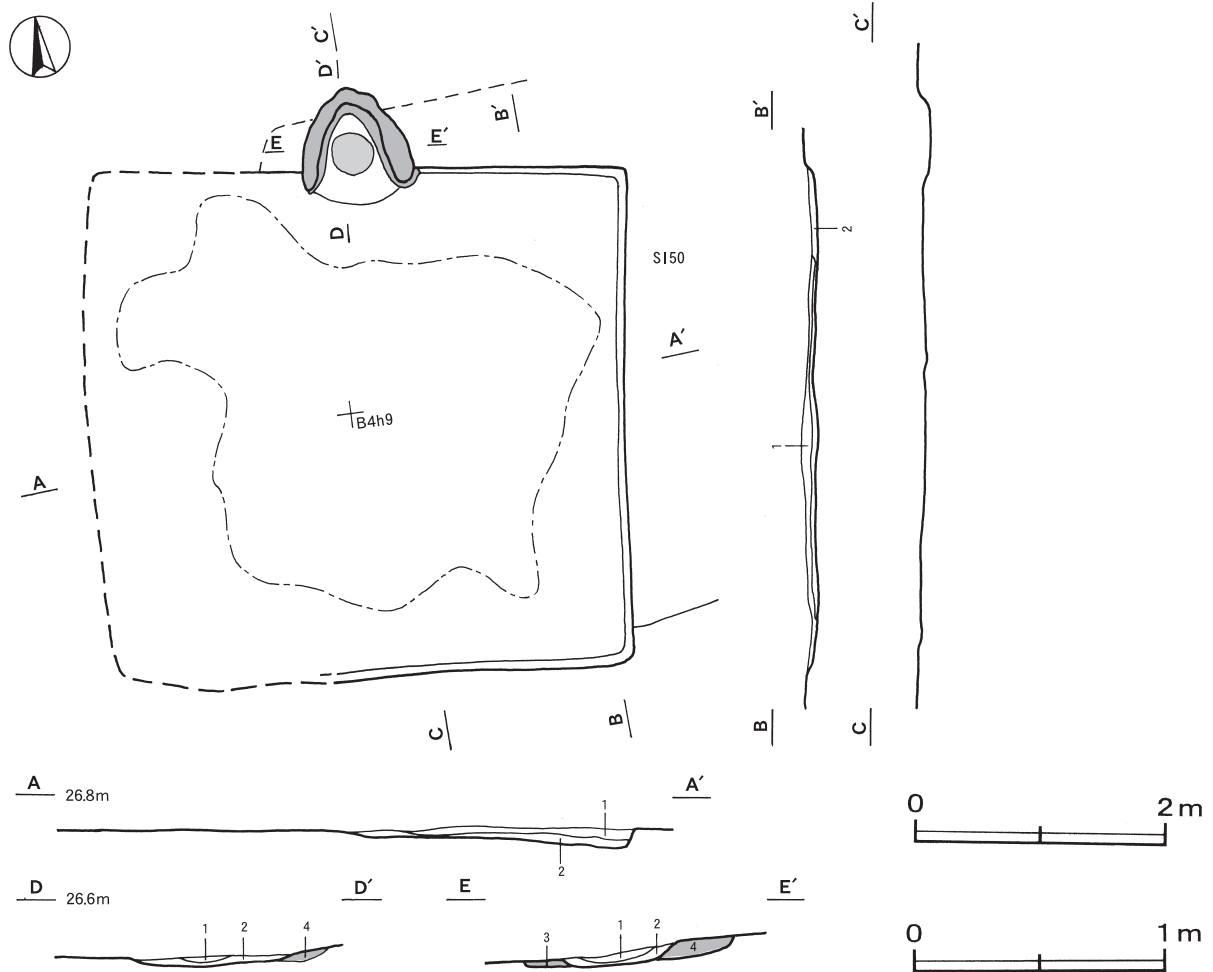
覆土 2層に分けられる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片53点(坏13, 小形甕1, 甕類39), 須恵器片9点(坏2, 高台付坏1, 甕類6)が細片で出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第70図 第36号住居跡実測図

第38号住居跡 (第71図)

位置 調査区東部のC7g6区, 標高26.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部分は調査区域外に延びているが, 長軸2.28m, 短軸2.20mである。主軸方向はN-8°-Wである。壁高は12~30cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

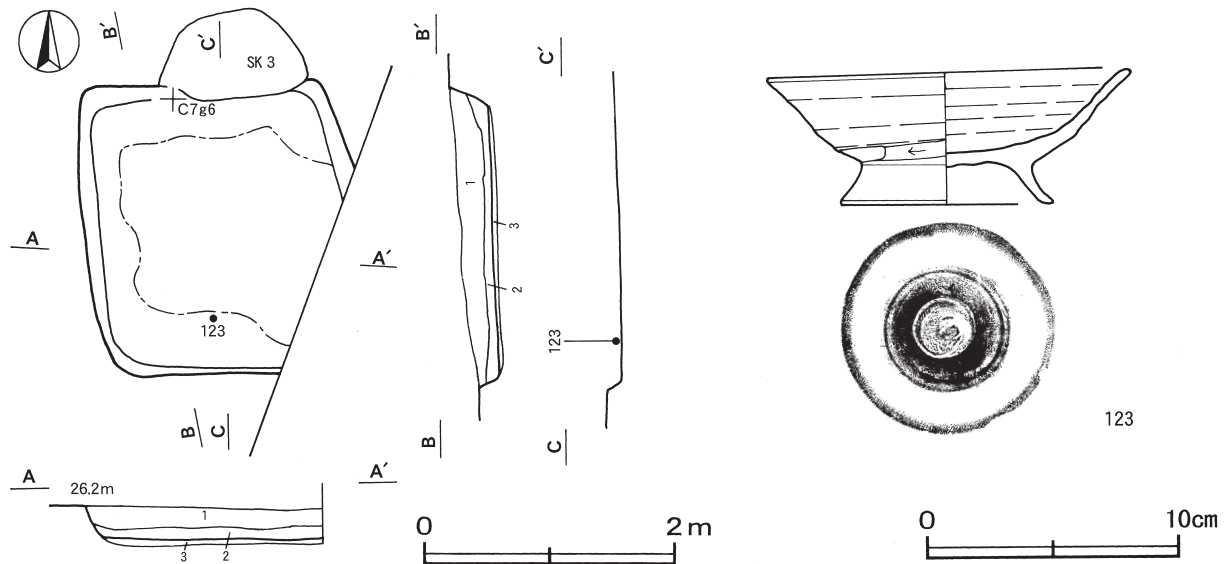
覆土 3層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第3層は床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片37点（坏7，高台付椀5，甕類25），須恵器片13点（坏3，高台付坏1，蓋2，甕類7）が細片で出土している。123は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第71図 第38号住居跡・出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	土師器	高台付椀	14.4	5.4	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	95% P L19

第40号住居跡（第72図）

位置 調査区中央部のB4 i9区，標高26.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第45号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸・短軸ともに3.32mの方形で，主軸方向はN-1°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦で，竈の前面が踏み固められている。西側部分は緩斜面のため削平されている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで50cm，袖部幅71cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

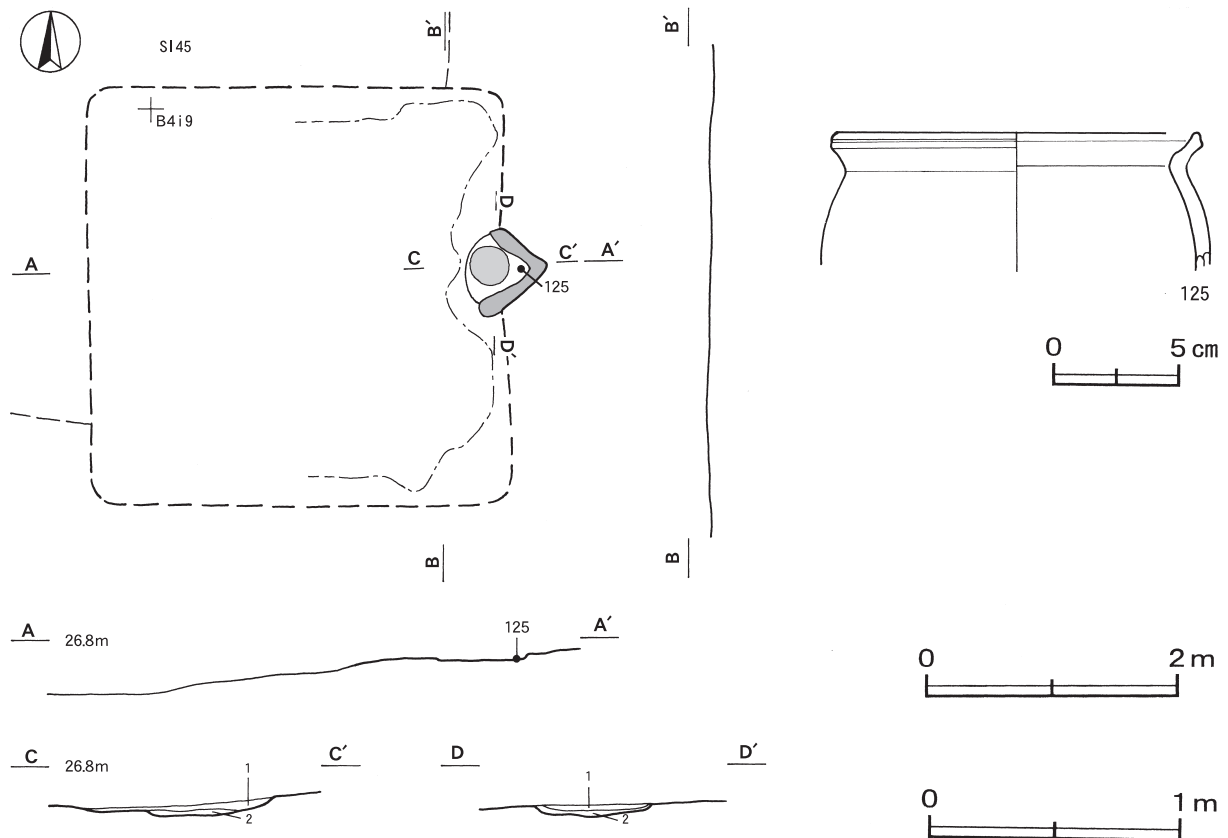
竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量

2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片50点（坏12，甕類38），須恵器片1点（甕類）が細片で出土している。125は竈内奥壁に埋め込まれて，火を受けた痕跡が認められることから，竈の補強材として使用された可能性が考えられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられる。



第72図 第40号住居跡・出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	小形甕	14.2	(5.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈内	10%

第41号住居跡（第73図）

位置 調査区西部のB3e9区，標高20.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.02m，短軸2.95mの方形で，主軸方向はN-22°-Wである。壁高は23~44cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで68cm，袖部幅97cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり，火床面は認められない。煙道部は壁外に31cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第7層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
2	灰褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	6	褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	灰褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量			

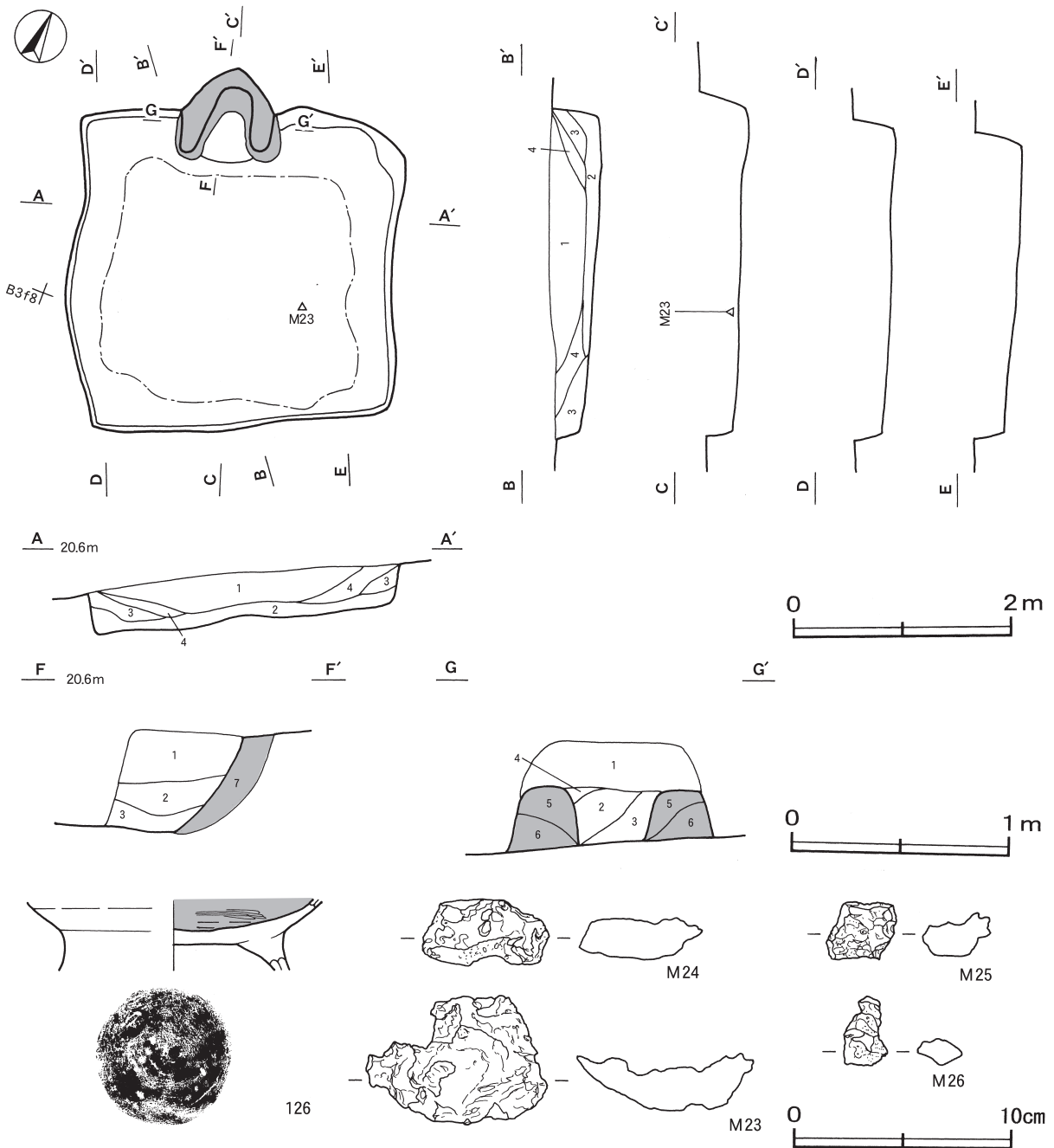
覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片128点 (坏13, 高台付椀1, 甕類114), 須恵器片20点 (坏14, 蓋1, 甕類5), 灰釉陶器片3点 (長頸瓶), 土製品1点 (羽口片), 鉄滓4点, 椀状滓1点が散在した状態で出土している。126・M24～M26は覆土中, M23は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第73図 第41号住居跡・出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	土師器	高台付椀	—	(3.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へラ磨き 底部回転へラ切り後高台貼り付け	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	椀状滓	8.2	6.0	2.6	128.3	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	床面	
M24	鉄滓	5.8	3.1	2.0	46.6	滓	着磁性有り 焼土付着 暗赤褐色	覆土中	
M25	鉄滓	3.3	2.6	2.0	25.1	滓	着磁性有り 焼土付着 暗赤褐色	覆土中	
M26	鉄滓	3.1	2.0	1.2	6.2	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	覆土中	

第42号住居跡（第74図）

位置 調査区西部のB4f1区、標高21.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第57号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸2.60m、短軸2.23mの長方形で、主軸方向はN-92°-Eと推定される。

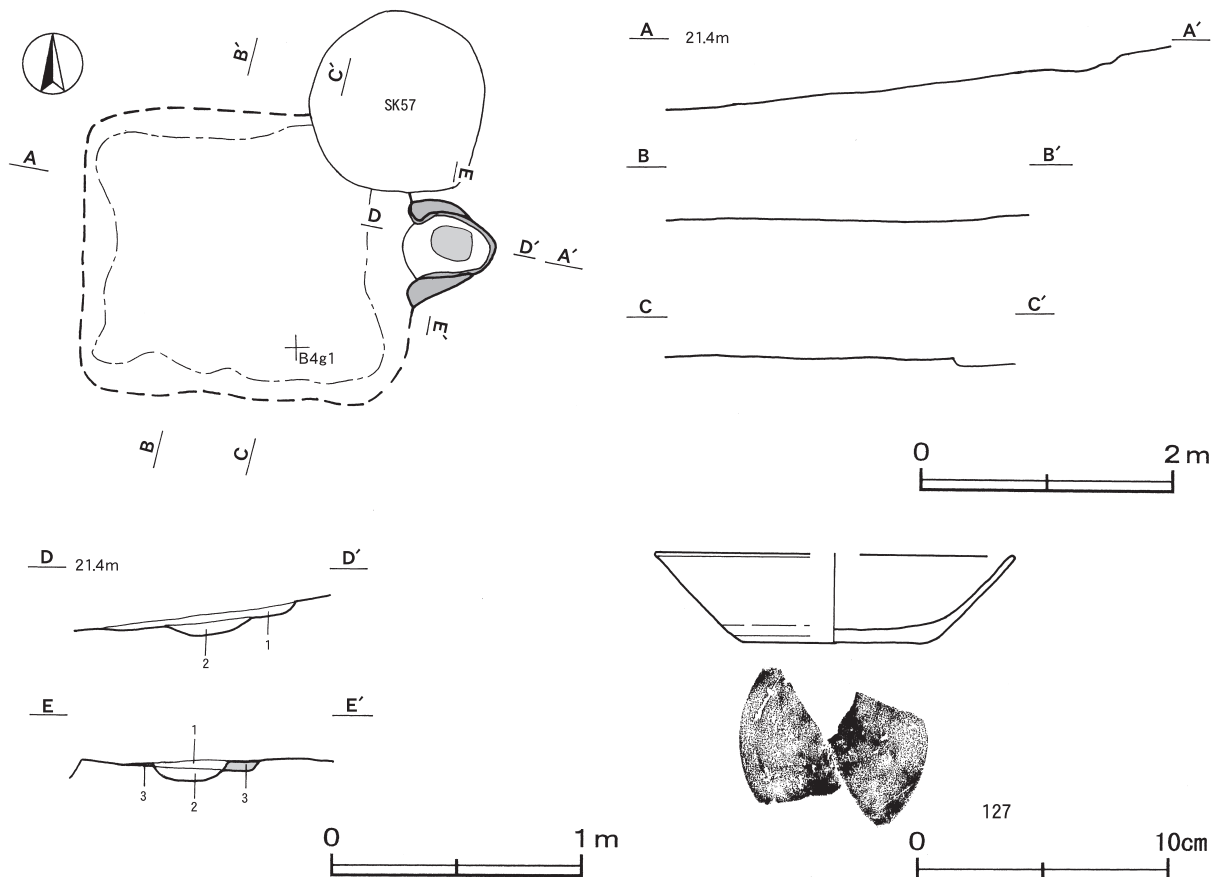
床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cm、袖部幅76cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第3層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子微量

- 3 灰褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第74図 第42号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片7点（坏4，甕類3）が細片で出土している。そのほか、混入した須恵器片2点も出土している。127は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や東竈の住居形態から10世紀前葉と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
127	土師器	坏	[14.2]	3.5	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面 端回転ヘラ削り 底面ヘラ削り	体部外面下 部ヘラ削り	竈内	40%

第43号住居跡（第75図）

位置 調査区中央部のB4h7区、標高26.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第95号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.38mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は33~50cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅10~18cm、深さ4~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅112cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11~13層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第14層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

1	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	焼土ブロック少量
4	褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	10	暗褐色	焼土粒子少量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
			13	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
			14	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量

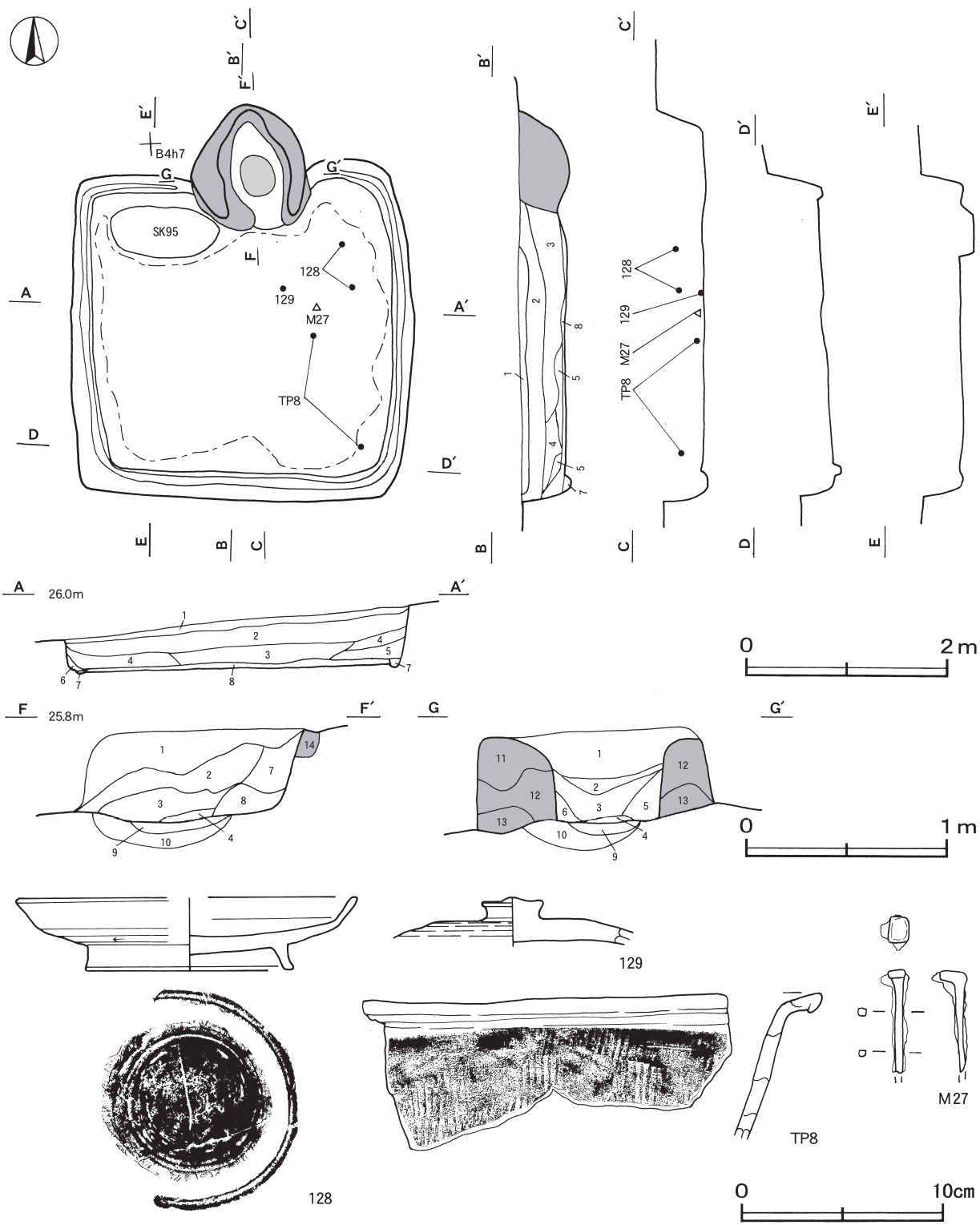
覆土 8層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4	褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片208点（坏8，甕類200）、須恵器片112点（坏78，高台付坏5，盤4，蓋12，甕類13）、鉄製品2点（刀子、釘）、鉄滓2点が各壁際を中心に出土している。そのほか、混入した縄文土器片4点も出土している。128は東壁際の覆土中層、M27は東壁際の床面からそれぞれ出土している。129は竈前面の床面から出土しており、時期判定の指標となる遺物である。また、TP8は南東コーナ一部の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第75図 第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	須恵器	盤	[16.6]	3.6	10.3	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り ヘラ切り後高台貼り付け	底部回転	中層 75% PL20 刻書土器「-」
129	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英・白色粒子	灰	普通	天井部右回転ヘラ削り		床面 50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 8	須恵器	甕	[31.0]	(7.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 体部内面ヘラナデ 輪積痕	中層～下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	釘	(5.1)	1.0	0.3	(7.3)	鉄	脚部欠損 断面方形	床面	PL31

第44号住居跡 (第76・77図)

位置 調査区中央部のB 4h6区、標高25.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

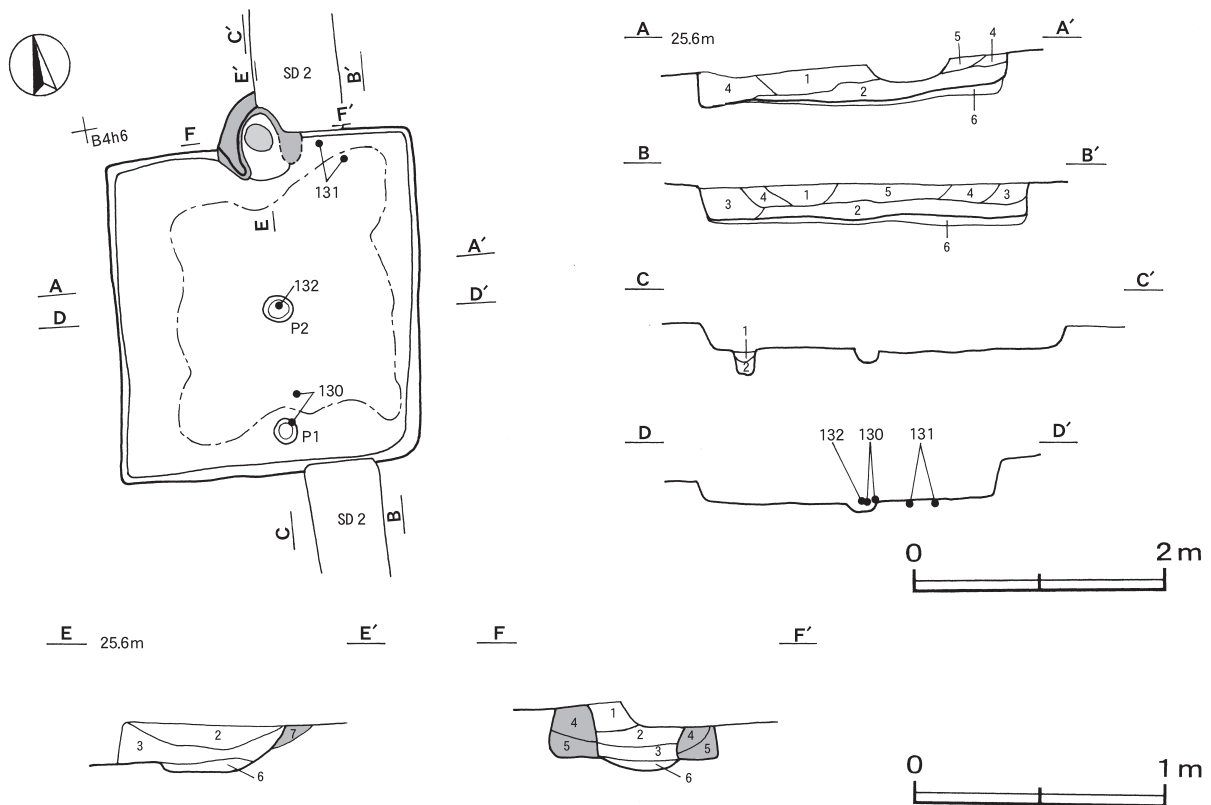
規模と形状 長軸2.59m、短軸2.42mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は16~30cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

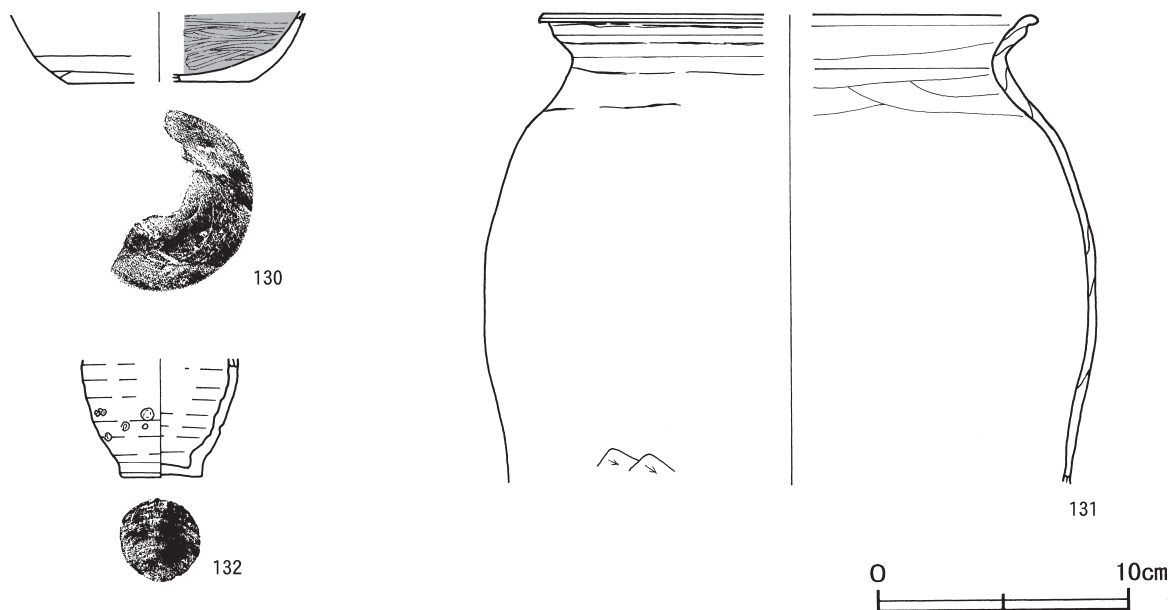
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで59cm、袖部幅66cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4・5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第76図 第44号住居跡実測図



第77図 第44号住居跡出土遺物実測図

ピット P 1は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2は深さ12cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

覆土 6層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第6層は床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 4 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片41点（坏11，高台付碗1，甕類29），須恵器片12点（坏5，蓋1，小壺1，甕類5）が散在した状態で出土している。130は南壁際，131は北壁際，132は中央部の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第44号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	坏	—	(2.8)	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	25%
131	土師器	甕	[19.8]	(18.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	10%
132	須恵器	小壺	—	(4.7)	3.1	長石	灰	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り	床面	40% P L24

第45号住居跡（第78図）

位置 調査区中央部のB 4 i9区，標高26.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第40号住居に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸・短軸ともに3.82mの方形で、主軸方向はN-4°-Eと推定される。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

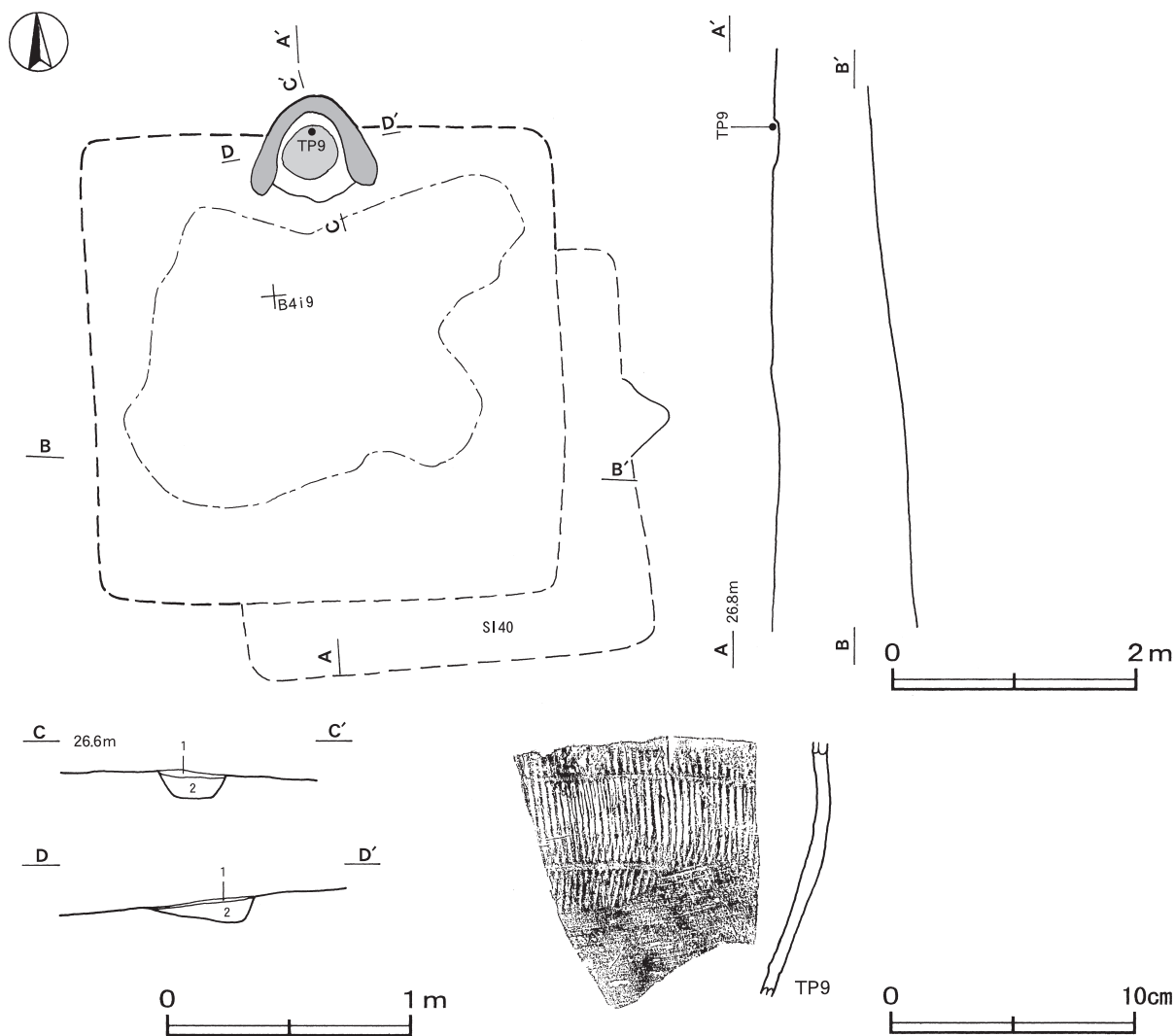
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cm、袖部幅102cmである。砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から21cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片17点（甕類）、須恵器片32点（坏27、甕類5）が竈周辺から出土している。そのほか、混入した縄文土器片1点も出土している。TP9は竈火床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第78図 第45号住居跡・出土遺物実測図

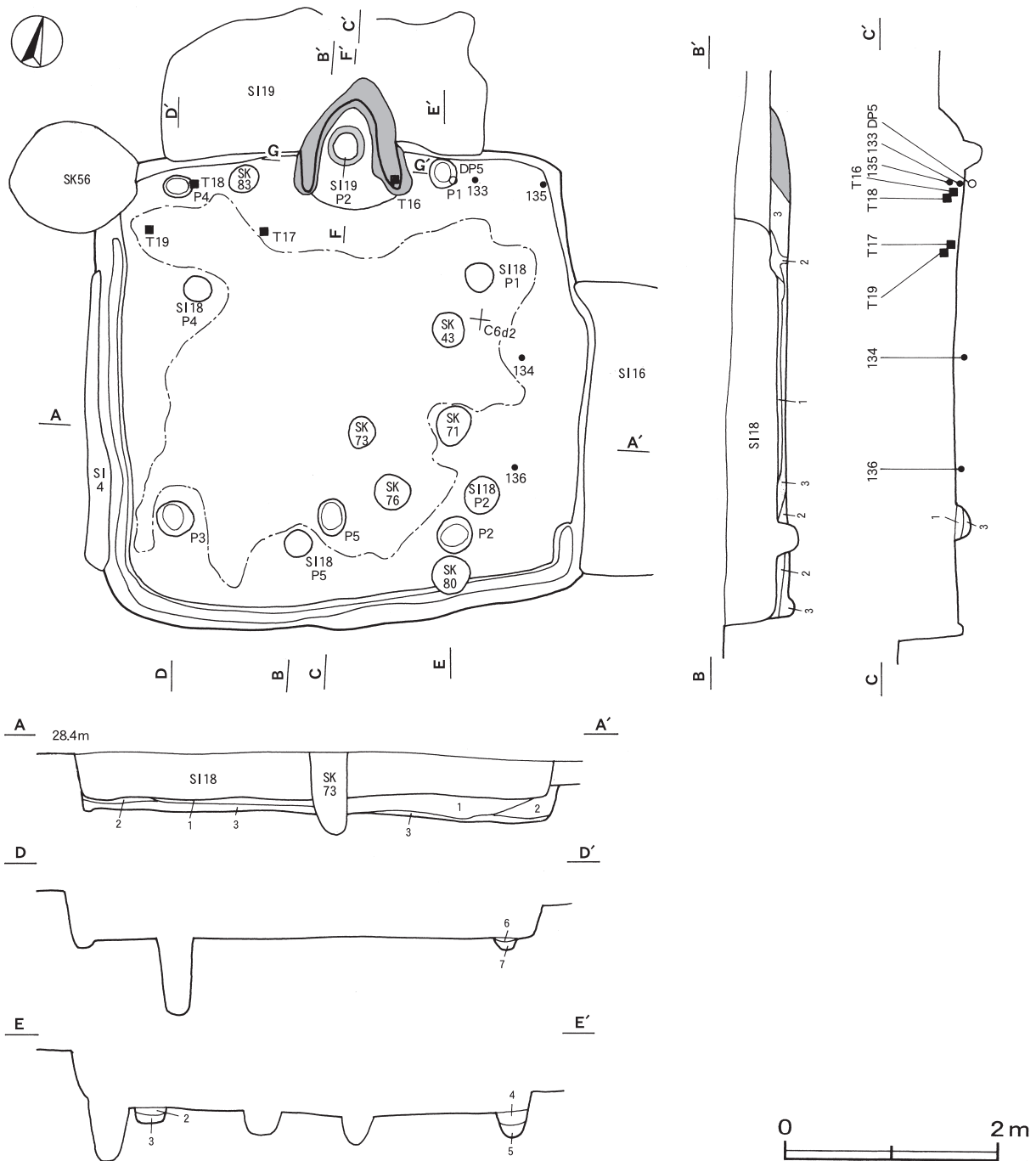
第45号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP9	須恵系	甕	—	(10.4)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部外面下端ヘラ削り	火床面	

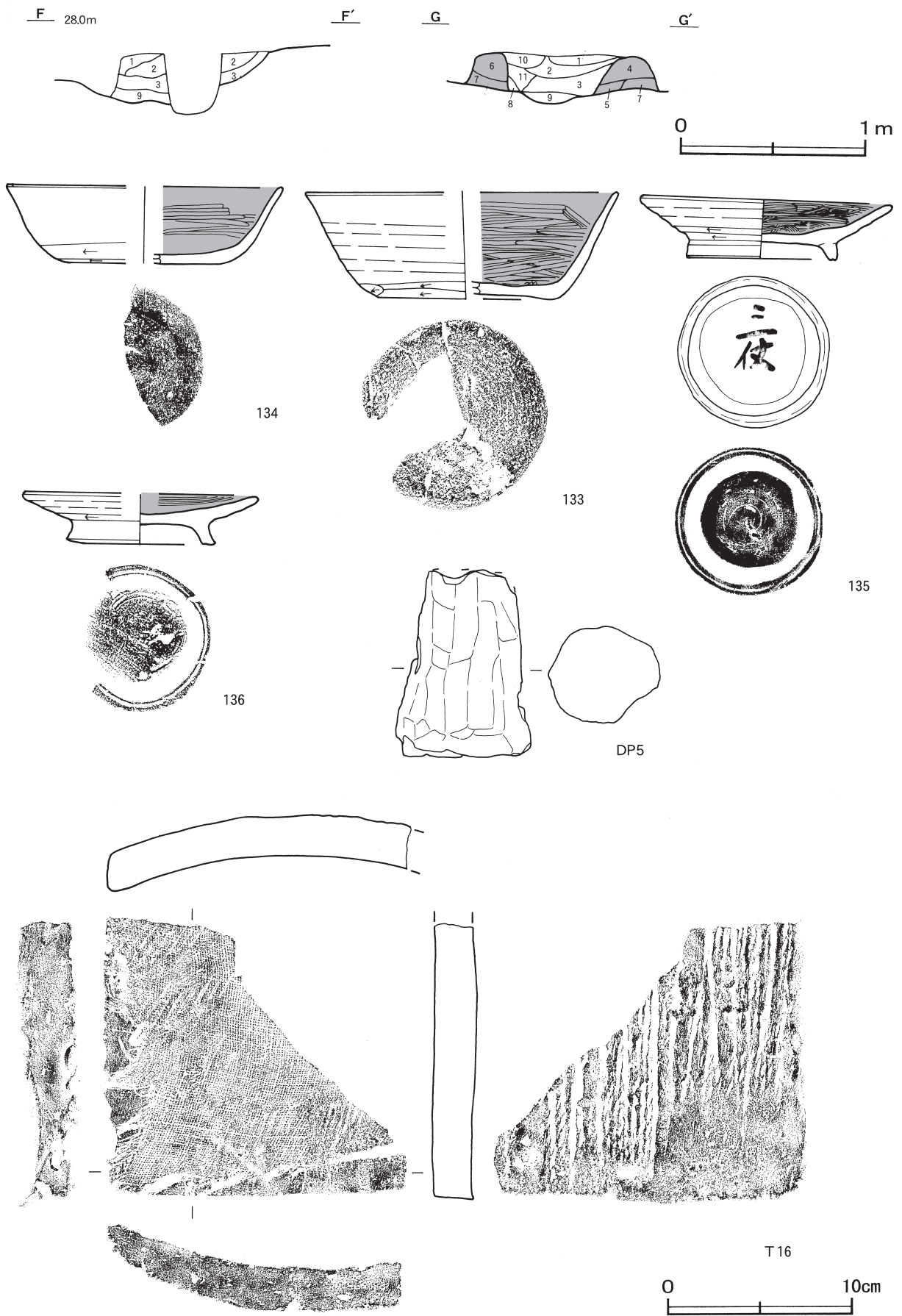
第46号住居跡（第79～81図）

位置 調査区中央部のC 6 d1区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

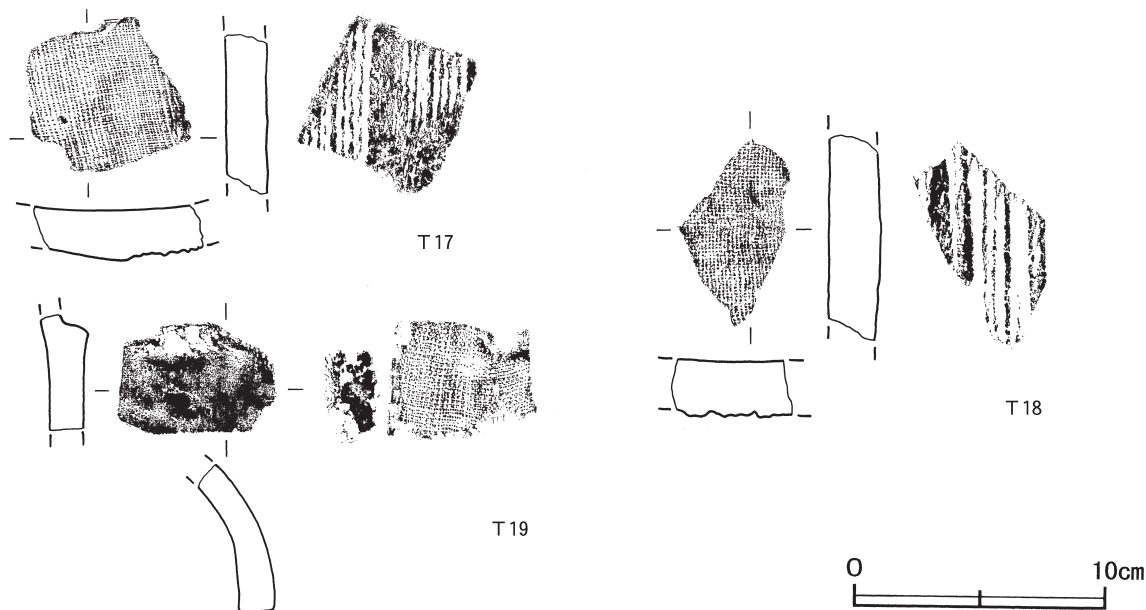
重複関係 第4・16・18・19号住居、第43・56・71・73・76・80・83号土坑に掘り込まれている。



第79図 第46号住居跡実測図



第80図 第46号住居跡・出土遺物実測図



第81図 第46号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.39mの方形で，主軸方向はN-11°-Wである。壁高は30～58cmである。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北壁と東壁を除く壁下には幅10～19cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cm，袖部幅105cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第4～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から15cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 9 褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～71cmで，主柱穴である。P5は深さ15cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 3層に分けられる。各層にロームを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片94点（坏41，皿1，高台付皿11，甕類41），須恵器片29点（坏17，高台付坏6，甕類6），瓦4点（平瓦3，丸瓦1）が散在した状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器片2点も出土している。133・135は北東コーナー部，134・136は東壁際の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標

となる遺物である。DP 5は北壁際の床面から横位で出土している。また、T16・T17は竈前面、T18・T19は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土しており、火を受けた痕跡が認められることから、竈の補強として使用された可能性が考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	土師器	坏	[16.8]	5.9	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	60% P L18
134	土師器	坏	[14.8]	4.2	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデヘラ削り 内面ヘラ磨き 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	30%
135	土師器	高台付皿	13.4	3.3	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ内面ヘラ磨き 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	70% P L21 墨書土器「三伏」
136	土師器	高台付皿	[12.8]	2.7	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	褐	普通	体部内・外面ロクロナデ内面ヘラ磨き 体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	40% P L21

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	支脚	10.1	(4.2)	7.4	(367.3)	長石・雲母	にぶい褐	ヘラナデ	床面	P L29

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T16	平瓦	(14.9)	(16.4)	2.2	(714.0)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	凸面長縄叩き 凹面糸切り痕・布目痕	床面	P L28
T17	平瓦	(6.9)	(6.7)	1.8	(93.3)	長石・石英・雲母	灰白	普通	凸面長縄叩き 凹面布目痕	床面	P L28
T18	平瓦	(8.1)	(5.8)	2.2	(89.6)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	凸面長縄叩き 凹面布目痕	床面	P L28
T19	丸瓦	(4.6)	(3.1)	1.4	(55.0)	長石・石英	黄灰	普通	凸面ヘラ削り 凹面布目痕	床面	P L28

第47号住居跡（第82図）

位置 調査区西部のB3c8区、標高21.0mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 北側部分は調査区域外に延びているため、長軸2.72m、短軸は1.72mだけが確認された。主軸方向はN-116°-Eである。壁高は19~27cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から22cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | |

ピット 深さ14cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

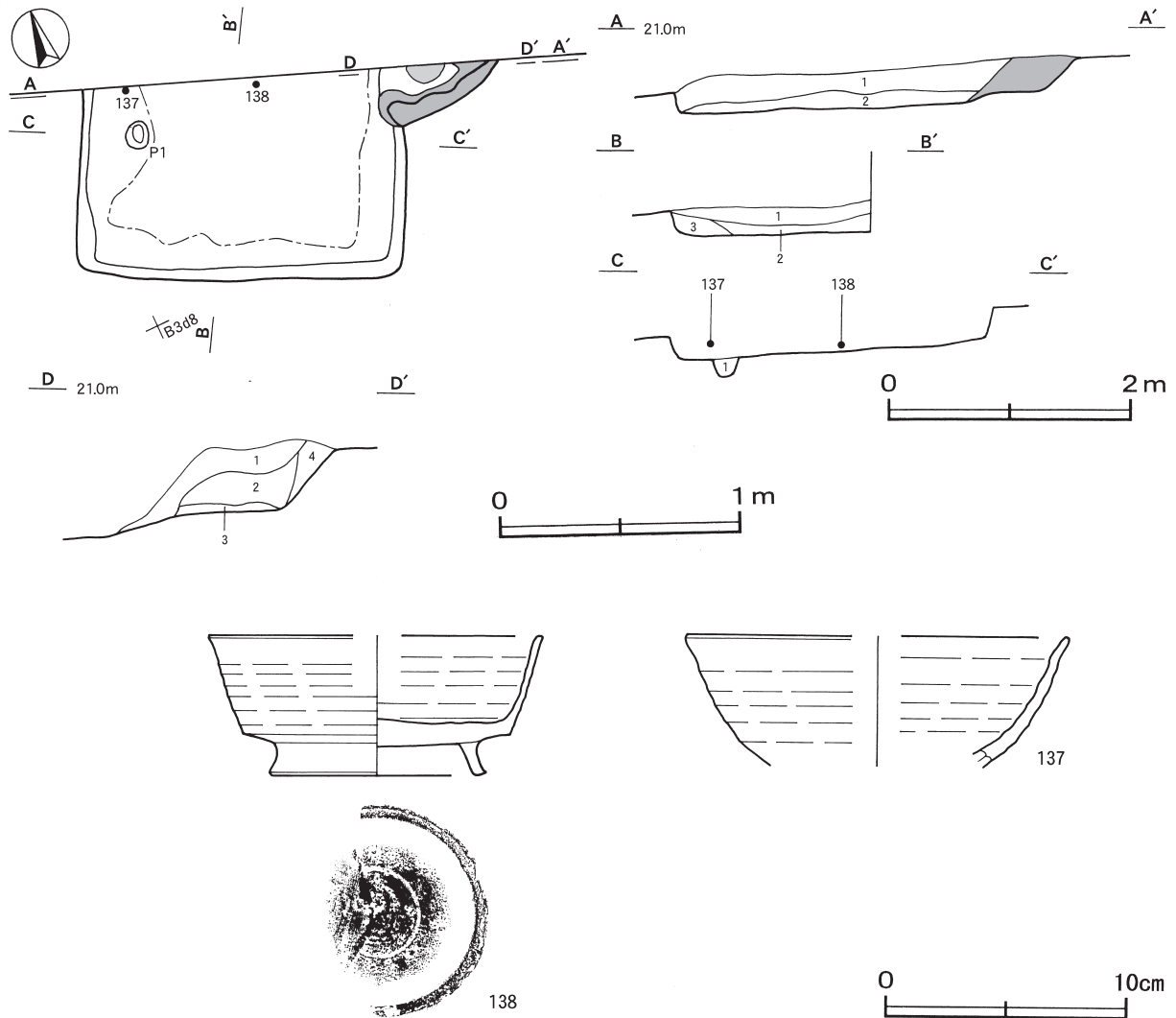
覆土 3層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片10点（坏1，甕類9），須恵器片8点（坏5，高台付坏2，甕類1）が細片で出土している。137は西壁際，138は中央部の床面からそれぞれ出土しており，時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第82図 第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
137	土師器	坏	[15.8]	(5.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	床面	20%
138	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.8	8.6	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	40% P L 19

第48号住居跡（第83図）

位置 調査区西部のB 3 g9区，標高20.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 床面が一部露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。

長軸2.60m，短軸2.56mの方形で，主軸方向はN-102°-Eと推定される。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

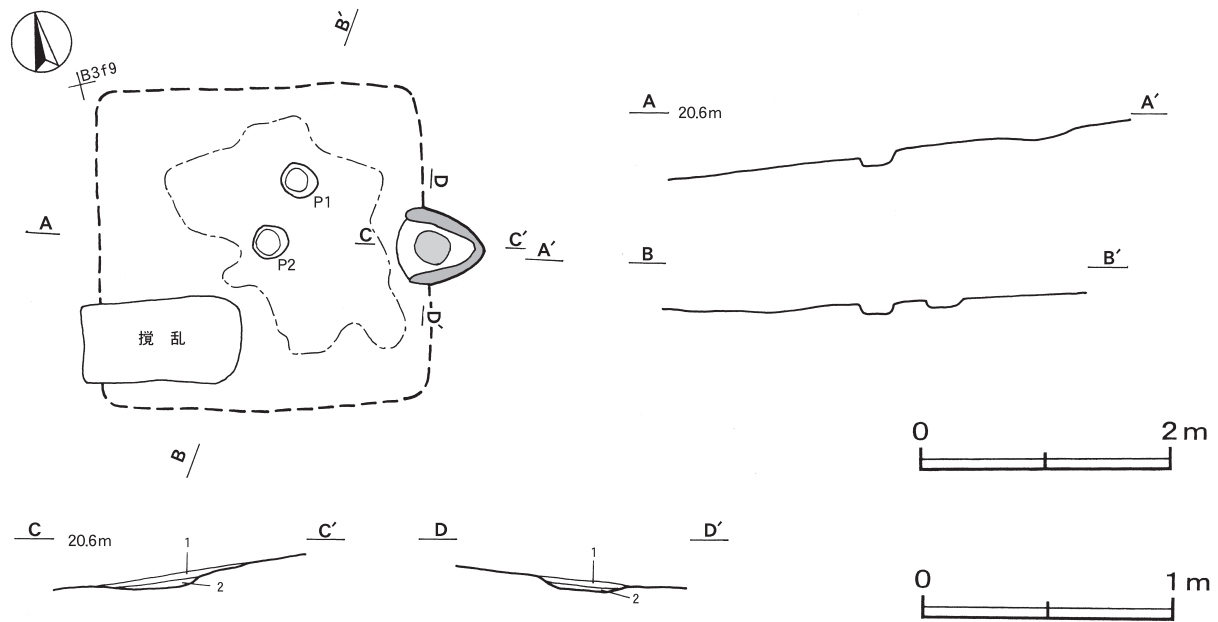
竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで64cm，袖部幅50cmである。砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット P1・P2は深さ5cm・10cmで，性格は不明である。

所見 出土土器がないため，時期の特定は困難であるが，竈の主軸方向から10世紀前葉と考えられる。



第83図 第48号住居跡実測図

第49号住居跡（第84・85図）

位置 調査区中央部のB4j7区，標高25.5mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第55号住居跡を掘り込み，第60・94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m，短軸3.06mの長方形で，主軸方向はN-35°-Wである。壁高は14~40cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm，袖部幅109cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11~14層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

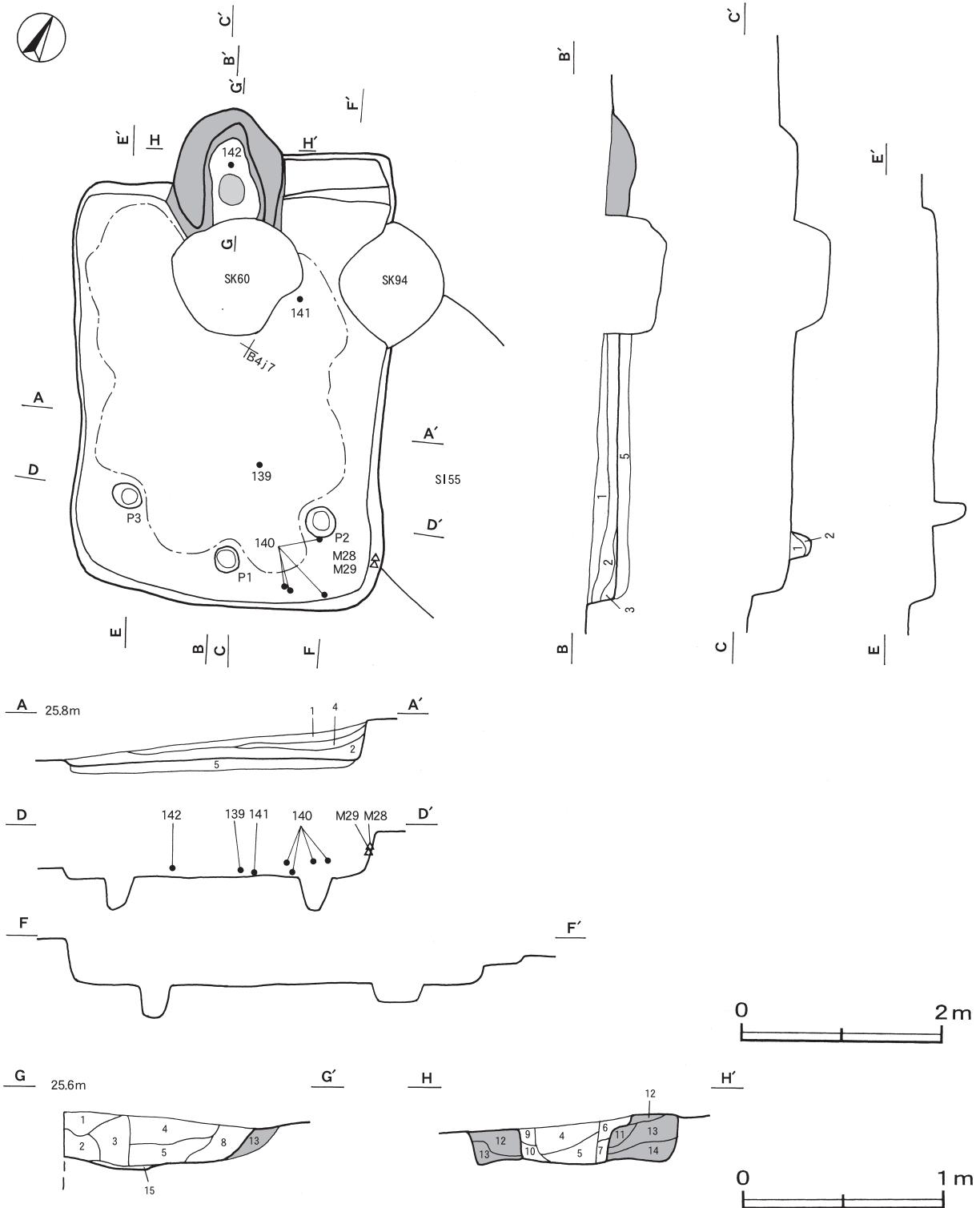
- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 6 褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 8 にぶい褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 | | |

棚状施設 竈右側に設けられており，奥行34cm前後，幅106cm前後の長方形で，床面から18cmの高さで確認された。

ピット 3か所。P1は深さ22cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ28cm・34cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量



第84図 第49号住居跡実測図

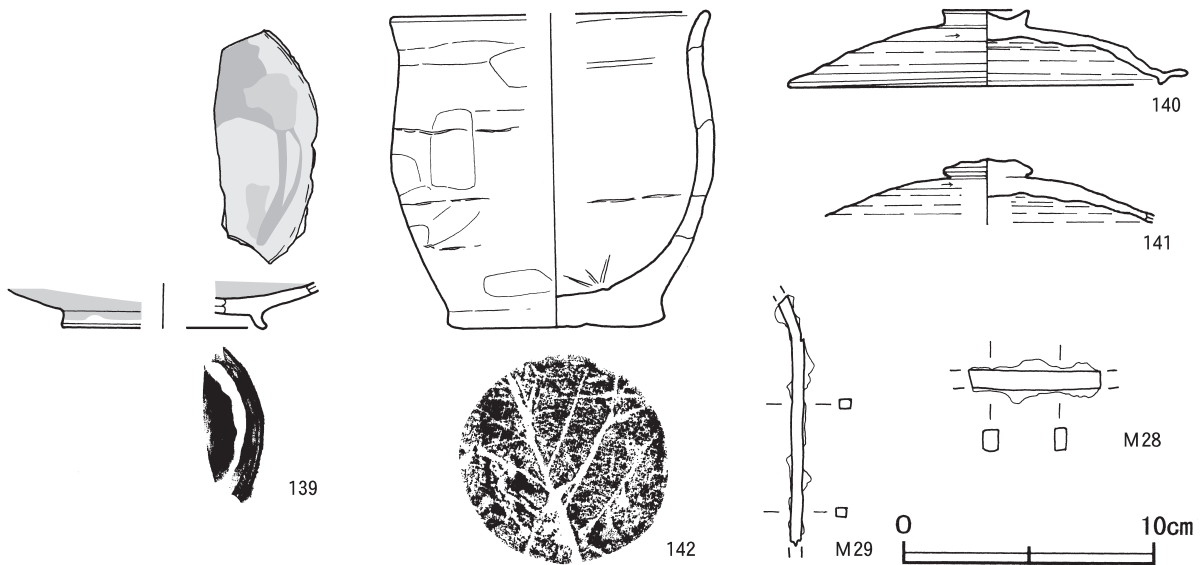
覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。第5層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片155点（坏28，高台付椀1，小形甕1，甕類125），須恵器片27点（坏18，蓋8，甕類1），緑釉陶器片1点（段皿），鉄製品2点（鏃，釘）が散在した状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器片1点も出土している。141は竈前面の床面から出土している。140は南東コーナー部の覆土中層から覆土下層にかけて破砕された状態で出土している。また，139は中央部の覆土中層，142は竈内，M28・M29は南東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 竈の脇に棚状施設を有する住居形態である。また，緑釉陶器が出土したことから，稀少品を保持する有力者層の存在がうかがえる。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第85図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	緑釉陶器	段皿	—	(1.8)	[8.2]	緻密	緑	良好	体部内・外面クロナデ 釉刷毛塗り	中層	10% P L24
140	須恵器	蓋	15.8	3.0	—	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部右回転ヘラ削り	中層～下層	90% P L22
141	須恵器	蓋	—	(2.6)	—	長石	灰	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	10%
142	土師器	小形甕	[12.7]	12.4	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 輪積痕 底部木葉痕	竈内	40% P L24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	刀子	(5.3)	0.8	0.4~0.7	(8.7)	鉄	切先部・基部欠損 断面長方形	上層	P L31
M29	釘	(10.0)	0.5	0.4	(12.1)	鉄	頭部・脚部一部欠損 頭部屈曲 断面方形	上層	P L31

第52号住居跡 (第86・87図)

位置 調査区東部のC7c1区, 標高28.0mの緩斜面部に位置している。

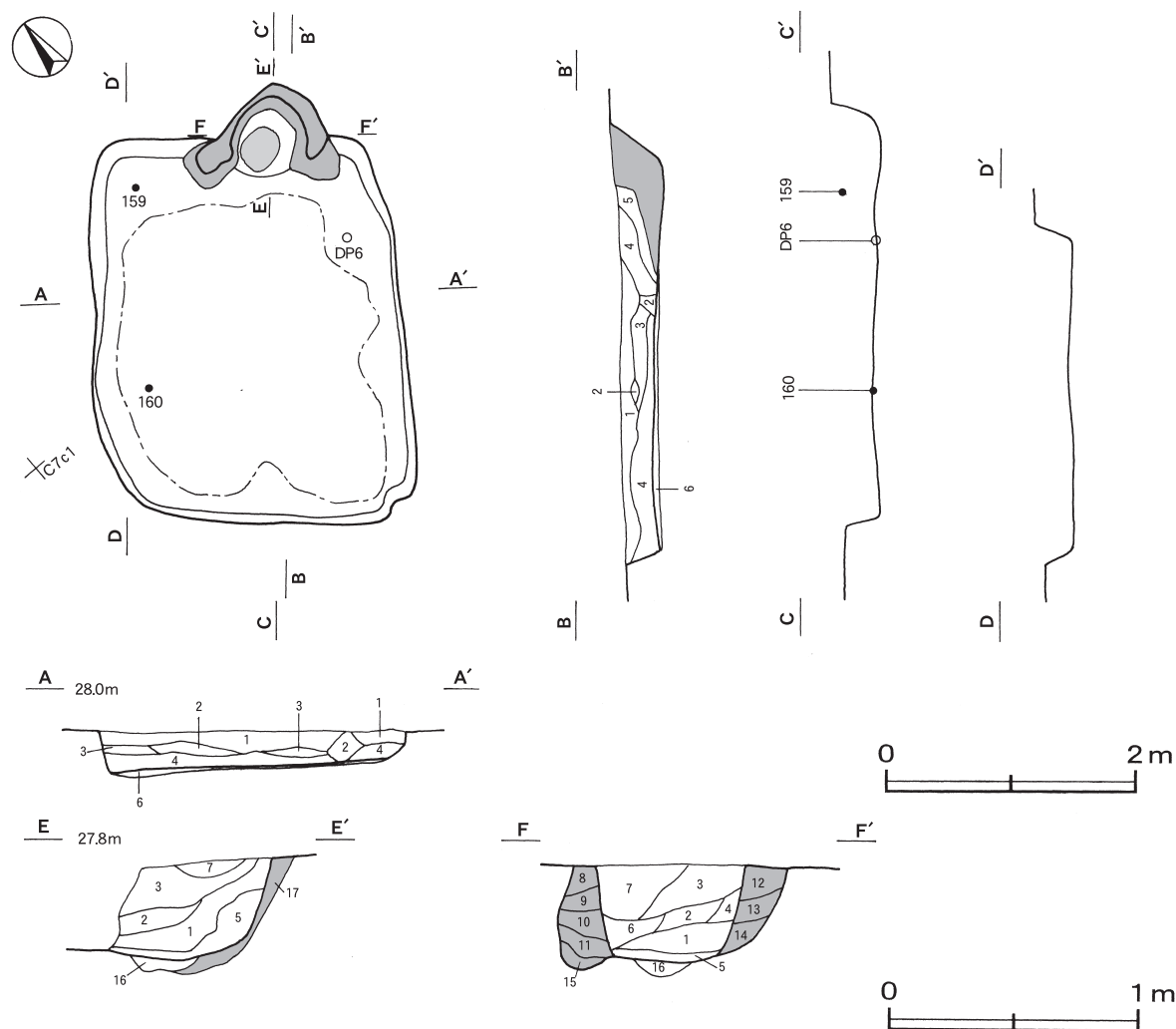
規模と形状 長軸3.00m, 短軸2.48mの長方形で, 主軸方向はN-37°-Eである。壁高は6~28cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

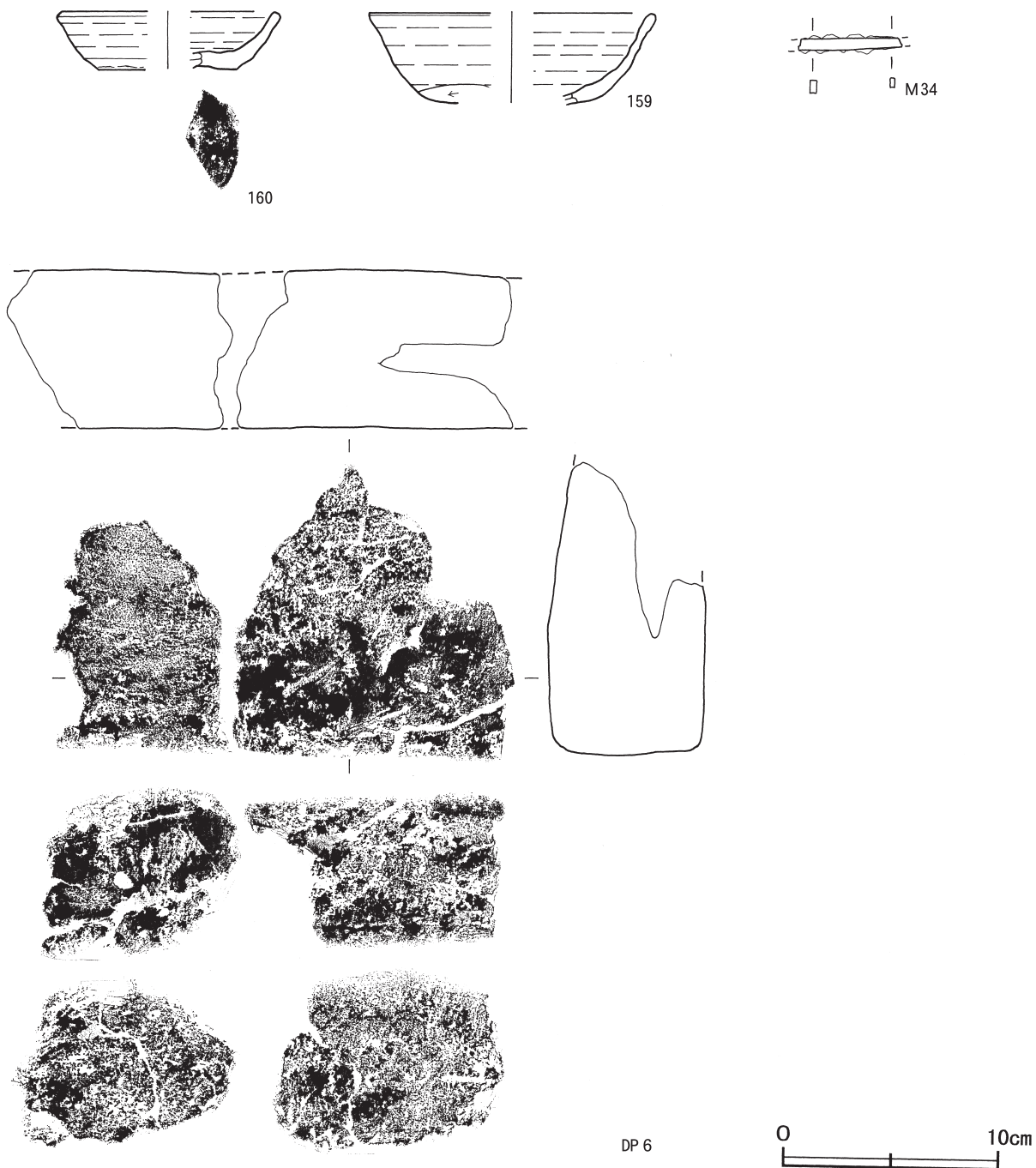
竈 北壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm, 袖部幅122cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第8~15層を積み上げて構築されている。火床部は床面から3cmくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。奥壁部は袖部の構築材と同じ第17層を貼り付けて構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 14 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 8 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |



第86図 第52号住居跡実測図



第87図 第52号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層に分けられる。各層にロームを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第6層は床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片89点 (坏32, 高台付椀3, 甕類54), 須恵器片3点 (坏), 土製品1点 (埴), 鉄製品1点 (刀子) が散在した状態で出土している。159は北西コーナー部の覆土上層, 160は西壁際の床面からそれぞれ出土している。DP 6は東壁際の床面から出土しており, 火を受けた痕跡が認められることから, 竈の補強材として使用された可能性が考えられる。また, M34は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡からは埴が出土しており、第17号住居跡との関連性が想定される。

第52号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
159	土師器	坏	[13.2]	(4.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 端手持ちへら削り	体部外面下	上層	10%
160	土師器	坏	[9.9]	2.7	[6.4]	長石・雲母・小礫	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 端回転へら削り	体部外面下	床面	10%

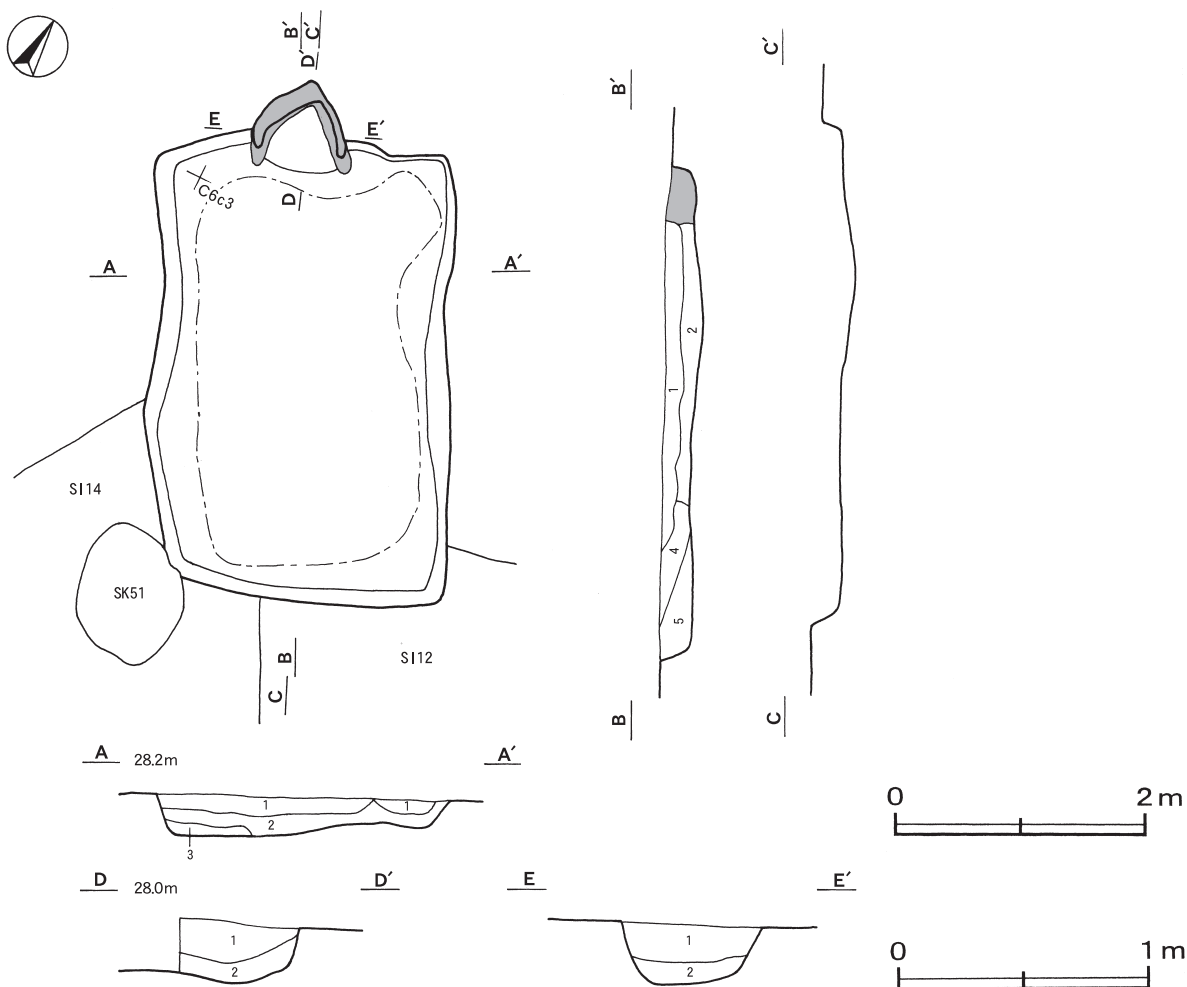
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 6	埴	(13.6)	(23.5)	7.3	(2089.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	多方向へら削り・ナデ調整	床面	P L 29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	刀子	(4.9)	(0.5)	0.2~0.3	(4.2)	鉄	断面長方形の棒状	覆土中	P L 31

第53号住居跡（第88図）

位置 調査区中央部のC 6 c3区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・14号住居跡を掘り込み、第51号土坑に掘り込まれている。



第88図 第53号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.71m, 短軸2.42mの長方形で, 主軸方向はN-28°-Wである。壁高は21~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで57cm, 袖部幅75cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり, 火床面は認められない。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
|-------|--------------|-------|----------------------|

覆土 5層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|--------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片109点(坏7, 高台付椀1, 甕類101), 須恵器片43点(坏30, 高台付坏2, 蓋4, 甕類7), 灰釉陶器片1点(壺)が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。平面形が長方形をしており, 異質である。

第54号住居跡(第89・90図)

位置 調査区北東部のB7i5区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側は調査区域外に延びているため, 長軸5.70m, 短軸は2.12mだけが確認された。主軸方向はN-25°-Wである。壁高は48~54cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅8~12cm, 深さ5~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで92cm, 袖部幅139cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 明褐灰色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量 | | |

覆土 8層に分けられる。各層にロームを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |

ピット 3か所。P1・P2はともに深さ14cmで, 支柱穴である。P3は深さ69cmで, 性格は不明である。

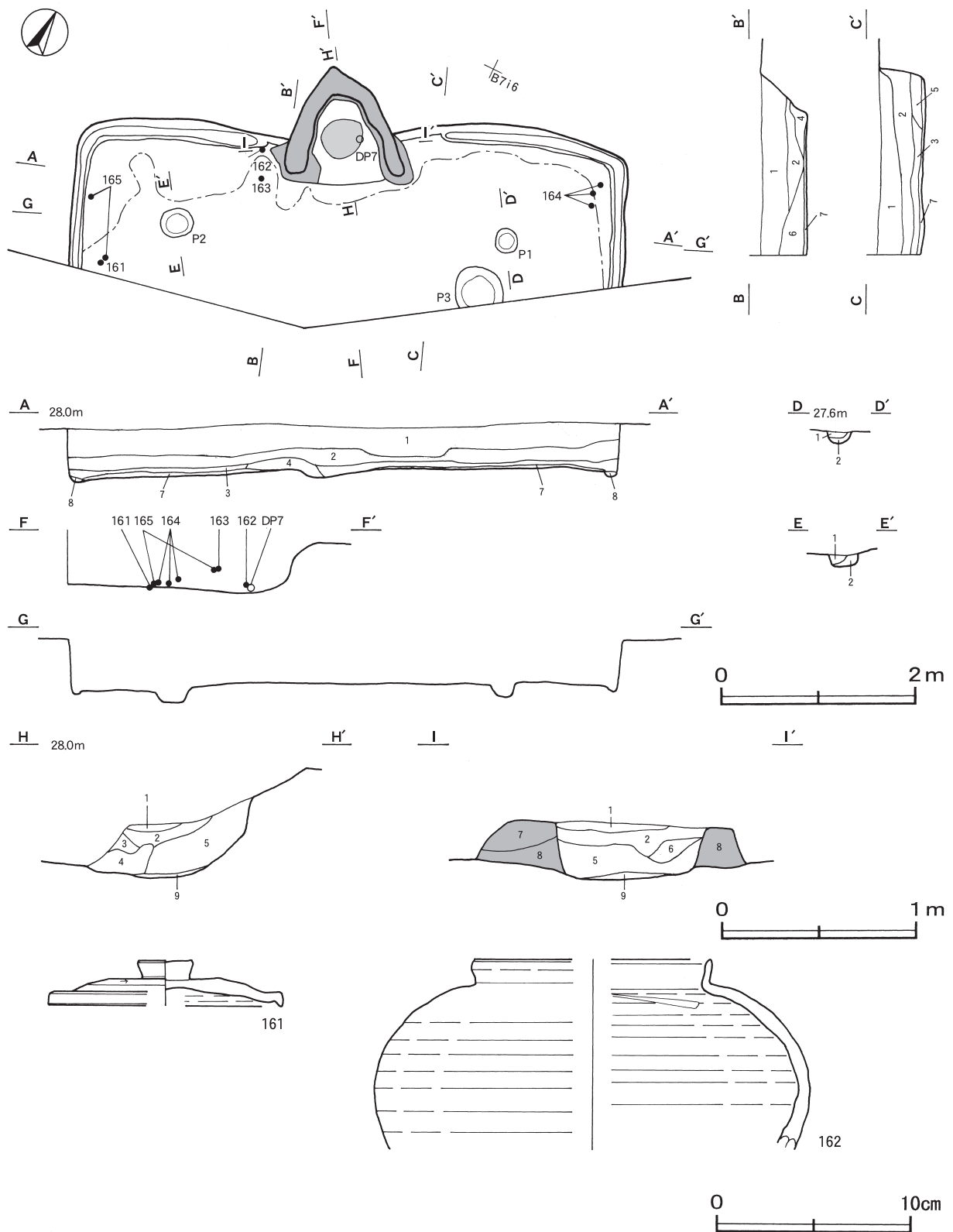
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 鹿沼パミス粒子少量, ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | 鹿沼パミス粒子・ローム粒子少量 |
|-------|----------------------|-------|-----------------|

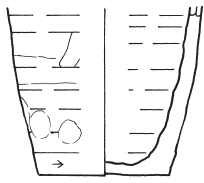
遺物出土状況 土師器片274点(坏2, 甕類272), 須恵器片59点(坏20, 高台付坏6, 蓋12, 壺2, 短頸壺1, 甕類18), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(刀子), 鉄滓2点, 椀状滓2点が散在した状態で出土している。そのほか, 混入した土師質土器1点も出土している。161は西壁際, 162は北壁際の床面からそれぞれ出土しており, 時期判定の指標となる遺物である。163は北壁際, 165は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土してい

る。164は北東コーナー部の覆土下層から破砕された状態で出土している。また、DP7は竈内から横位で出土しており、住居の廃絶前に使用していたと考えられる。M35～M37は覆土中から出土している。

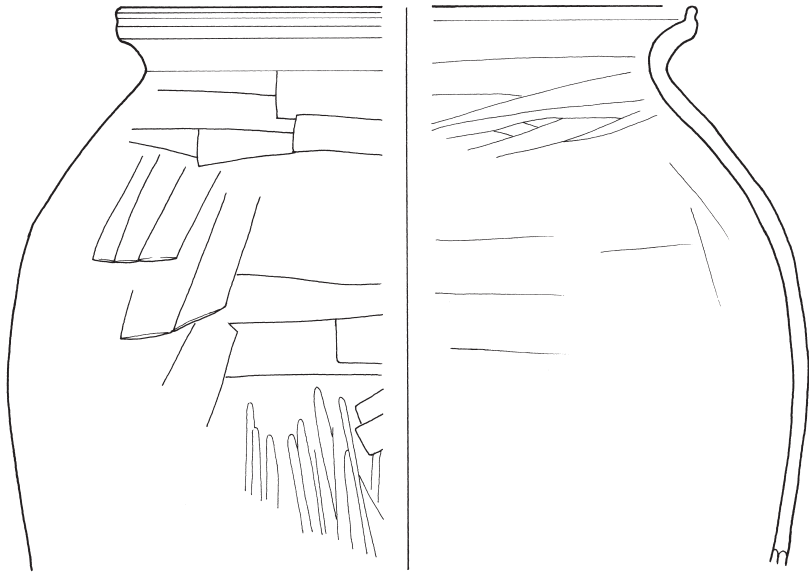
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



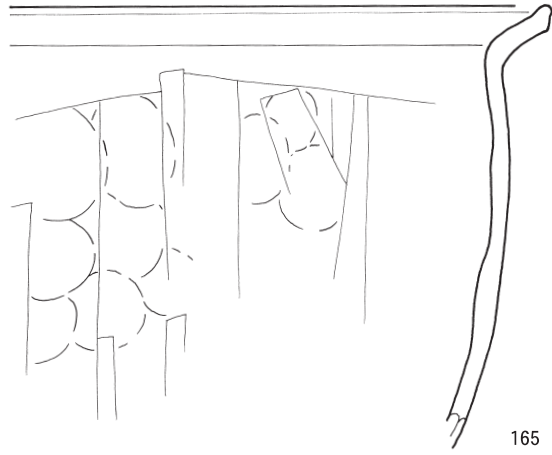
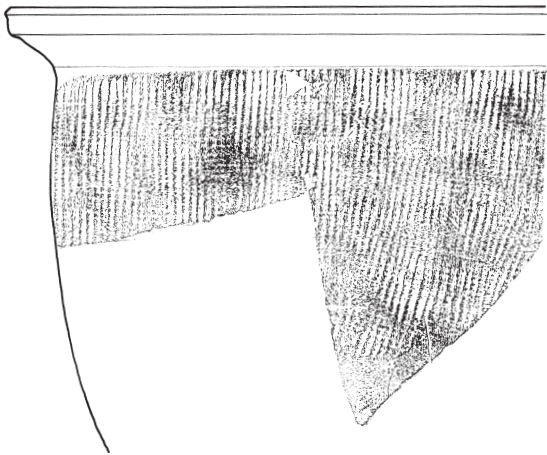
第89図 第54号住居跡・出土遺物実測図



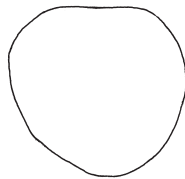
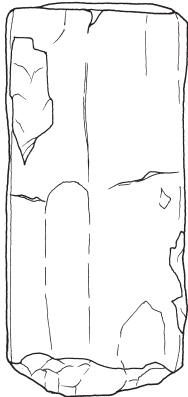
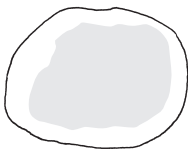
163



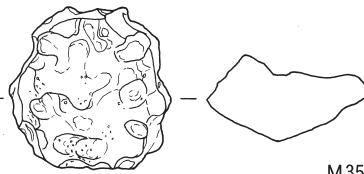
164



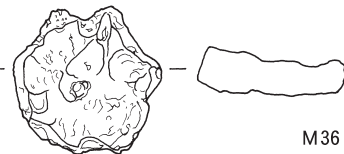
165



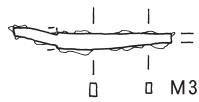
DP 7



M35



M36



M37



第90図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第89・90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
161	須恵器	蓋	[12.0]	2.3	—	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部右回転ヘラ削り	床面	30%
162	須恵器	短頸壺	[12.1]	(9.8)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラナデ	床面	20%
163	須恵器	壺G	—	(6.7)	[5.2]	長石・赤色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面指頭痕 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り	下層	30% P L24
164	土師器	甕	[23.0]	(22.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上端ヘラ削り 体部外面下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	20%
165	須恵器	大甕	[45.0]	(17.7)	—	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面縦位の 平行叩き 内面ヘラナデ 当て具痕	下層	10%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 7	支脚	15.6	7.1	7.3	913.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	頭部が焼けている 外面ヘラナデ	竈内	P L29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	椀状滓	6.5	6.4	3.4	127.4	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	覆土中	
M36	椀状滓	5.9	5.9	1.9	91.4	滓	着磁性有り 焼土付着 にぶい暗赤褐色	覆土中	
M37	刀子	(6.3)	(2.8)	0.25	(6.1)	鉄	切先部・茎部欠損 断面長方形	覆土中	P L31

表5 平安時代竪穴住居跡一覧表

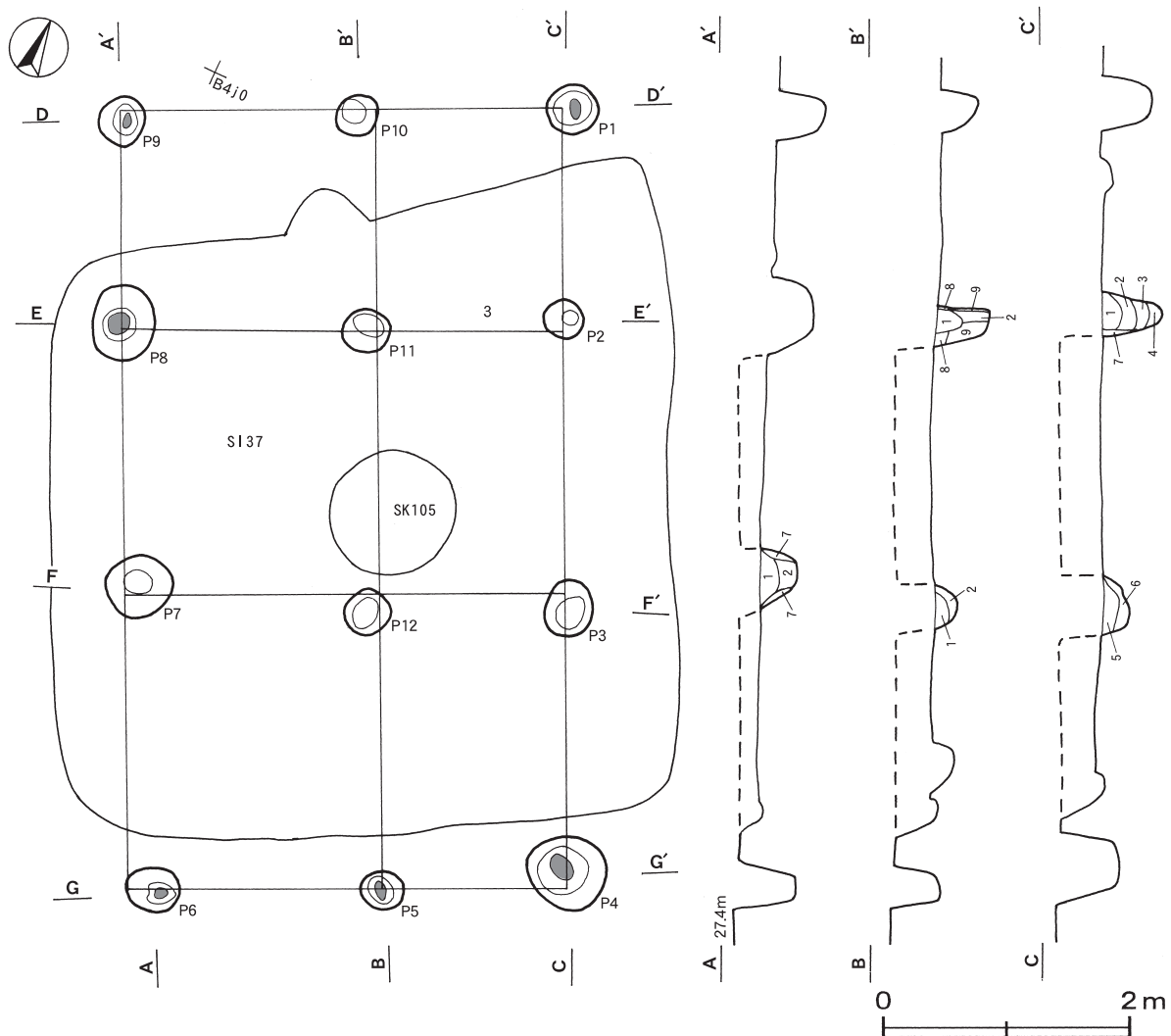
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈			
1	C 7 f6	N-1°-E	—	1.96 × (1.24)	16~27	平坦	全周	—	—	—	—	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
3	C 7 f5	N-18°-E	—	4.43 × (4.39)	17~48	平坦	一部	—	1	1	—	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 礫	9世紀前葉
4	C 6 d1	N-7°-W	—	(2.95 × 0.22)	18	平坦	—	—	—	—	—	人為		9世紀後葉 以前
5	C 7 g3	N-29°-W	方形	3.52 × 3.34	20~31	平坦	—	—	1	4	1	自然	土師器片, 須恵器片, 環状鉄製品, 瓦片	9世紀後葉
6	C 7 f3	N-1°-E	方形	2.75 × 2.64	14~35	平坦	全周	4	1	—	—	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	9世紀後葉
7	C 7 e2	N-27°-E	方形	3.29 × 3.04	12~18	平坦	全周	4	1	2	1	自然	土師器片	9世紀後葉
8	C 7 g2	N-9°-W	方形	3.22 × 3.20	19~31	平坦	—	4	1	1	1	自然	土師器片, 須恵器片, 支脚, 羽口	9世紀後葉
9	C 5 c0	N-3°-W	[方形]	[5.21 × 4.95]	—	平坦	—	3	1	—	—	不明		9世紀前葉 以前
11	C 6 e4	N-6°-W	[長方形]	[4.65 × 4.04]	[13~18]	平坦	—	4	—	2	—	不明	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 不明鉄製品, 椀状滓, 鉄滓, 瓦片	9世紀前葉
13	C 6 b2	N-20°-W	方形	4.45 × 4.32	28~40	平坦	—	—	—	—	—	人為	土師器片, 須恵器片, 刀子, 鉄滓, 瓦片	9世紀前葉
15	C 6 e3	N-7°-W	方形	3.58 × 3.34	17~31	平坦	全周	—	—	7	—	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
17	C 6 e1	N-4°-E	方形	4.08 × 4.06	18~36	平坦	—	—	1	5	1	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器 (手付瓶), 紡錘車, 埴, 瓦片	9世紀後葉
18	C 6 d1	N-15°-E	[長方形]	[4.42 × 3.64]	32~41	平坦	—	4	1	—	1	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉 陶器片, 刀子, 手鎌, 瓦片	9世紀後葉
19	C 6 c1	N-17°-W	—	3.16 × (2.15)	13~18	平坦	—	—	—	2	1	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 砥石, 刀子, 鉄滓, 瓦片	9世紀中葉
20	C 5 e0	N-44°-W	長方形	4.92 × 4.30	4~6	平坦	—	4	1	9	1	人為	土師器片, 須恵器片, 瓦片	9世紀前葉
21	C 5 c9	N-3°-W	方形	3.95 × 3.88	22~38	平坦	—	—	—	—	2	自然	土師器片, 須恵器片, 支 脚, 砥石, 椀状滓, 礫	9世紀前葉
22	C 5 d7	N-38°-W	[長方形]	(5.42) × [4.46]	21~32	平坦	—	3	—	1	1	自然	土師器片, 須恵器片, 不明鉄製品, 瓦片	9世紀前葉
25	C 5 e8	N-25°-E	—	(2.16 × 1.80)	18	平坦	—	—	—	—	—	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
26	C 5 c4	N-7°-W	方形	3.00 × 2.93	3~10	平坦	—	—	1	9	1	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片	9世紀中葉
28	B 5 i4	N-79°-E	長方形	3.05 × 2.76	6~16	平坦	—	—	—	—	1	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 瓦片	10世紀前葉
29	B 5 j3	N-23°-W	長方形	2.47 × 2.18	10~18	平坦	—	—	—	—	1	自然	土師器片, 須恵器片, 刀子, 馬歯, 馬骨	9世紀前葉
30	C 5 a3	N-15°-W	方形	3.50 × 3.24	22~34	平坦	—	—	—	3	1	自然	土師器片, 須恵器片, 鏃, 鎌	9世紀前葉
31	C 5 b3	N-21°-W	長方形	4.36 × 3.10	16~22	平坦	—	—	—	—	1	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
33A	C 5 b2	N-91°-E	方形	3.07 × 2.97	12~15	平坦	—	—	—	—	1	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
34	C 5 b2	N-2°-E	[長方形]	[4.32 × 3.70]	0~8	平坦	—	—	—	—	1	不明	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
36	B 4 g9	N-7°-E	[方形]	[4.27] × 3.99	4~15	平坦	—	—	—	—	1	不明	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
38	C 7 g6	N-8°-W	方形	2.28 × 2.20	12~30	平坦	—	—	—	—	—	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀後葉
40	B 4 i9	N-1°-W	[方形]	[3.32 × 3.32]	—	平坦	—	—	—	—	1	不明	土師器片, 須恵器片	10世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈			
41	B 3 e9	N-22°-W	方形	3.02 × 2.95	23~44	平坦	—	—	—	—	1	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 羽口片, 鉄滓, 椀状滓	9世紀後葉
42	B 4 f1	N-92°-E	[長方形]	[2.60 × 2.23]	—	平坦	—	—	—	—	1	不明	土師器片, 須恵器片	10世紀前葉
43	B 4 h7	N-2°-E	方形	3.40 × 3.38	33~50	平坦	全周	—	—	—	1	人為	土師器片, 須恵器片, 刀子, 釘, 鉄滓	9世紀前葉
44	B 4 h6	N-9°-E	方形	2.59 × 2.42	16~30	平坦	—	—	1	1	1	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
45	B 4 i9	N-4°-E	[方形]	[3.82 × 3.82]	—	平坦	—	—	—	—	1	不明	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
46	C 6 d1	N-11°-W	方形	4.50 × 4.39	30~58	平坦	半周	4	1	—	1	人為	土師器片, 須恵器片, 瓦片	9世紀後葉
47	B 3 c8	N-116°-E	—	2.72 × (1.72)	19~27	平坦	—	—	1	—	1	自然	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
48	B 3 g9	N-102°-E	[方形]	[2.60 × 2.56]	—	平坦	—	—	—	2	1	不明		10世紀前葉
49	B 4 j7	N-35°-W	長方形	4.18 × 3.06	14~40	平坦	—	—	1	2	1	自然	土師器片, 須恵器片, 緑釉陶器(段皿), 鐵, 釘	9世紀前葉
52	C 7 c1	N-37°-E	長方形	3.00 × 2.48	6~28	平坦	—	—	—	—	1	人為	土師器片, 須恵器片, 埴, 刀子	9世紀後葉
53	C 6 c3	N-28°-W	長方形	3.71 × 2.42	21~32	平坦	—	—	—	—	1	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片	9世紀前葉
54	B 7 i5	N-25°-W	—	5.70 × (2.12)	48~54	平坦	全周	2	—	1	1	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 刀子, 鉄滓, 椀状滓	9世紀前葉

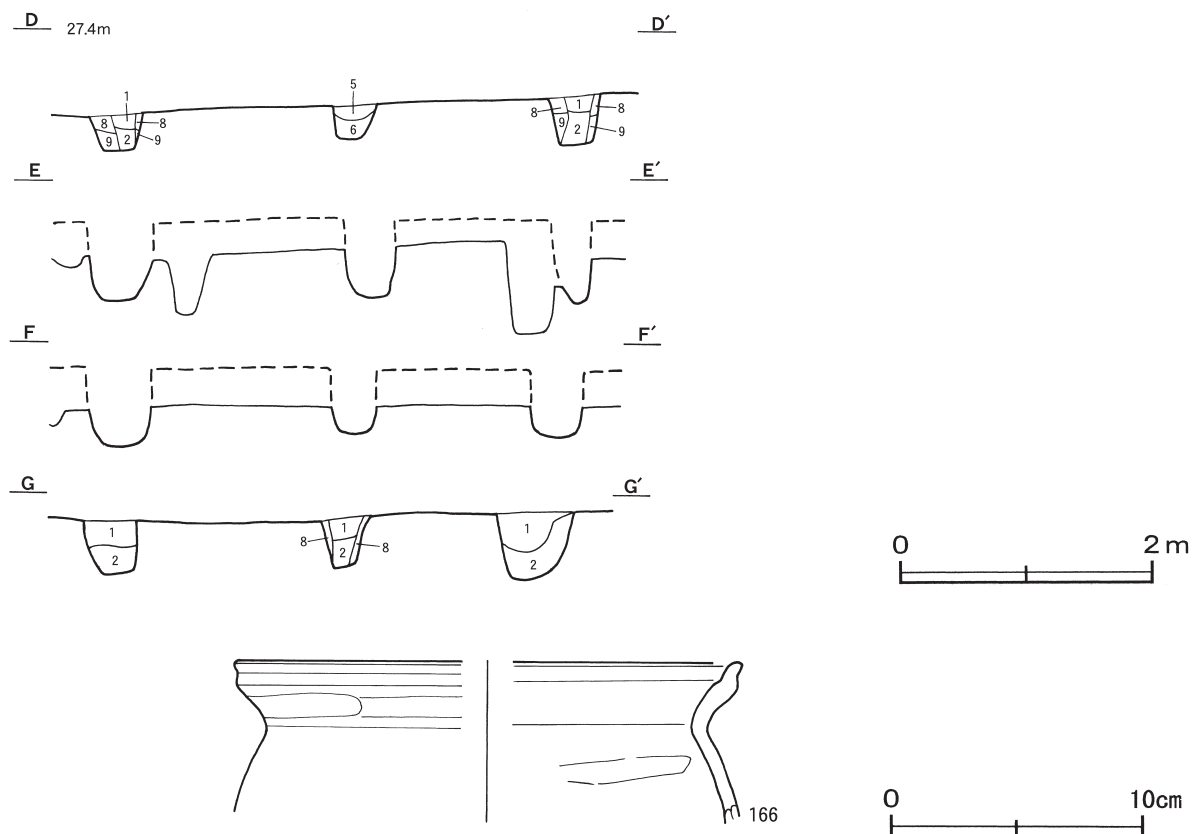
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第91・92図)

位置 調査区中央部のB 4 j0区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。



第91図 第1号掘立柱建物跡実測図



第92図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第37号住居跡を掘り込んでいる。第105号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-26°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.3m、梁行3.6mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は、桁行は1.8~2.4m、梁行は1.5~2.1mである。柱筋は桁行・梁行ともにほぼ揃っている。

柱穴 12か所。深さは33~76cmである。土層は、第1~6層が柱抜き取り痕、第7~9層が埋土である。埋土はローム土を主体として、版築状に強く突き固められている。柱のあたりは、P1・P4~P6・P8・P9の底面で確認されており、径8~24cmほどの円形の範囲が硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|--------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 にぶい褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片13点(坏7, 甕類6)が各柱穴から出土している。166はP2の柱抜き取り穴から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
166	土師器	甕	[19.8]	(6.4)	—	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ後ヘラナデ内面ヘラナデ	P2柱抜き取り穴	10%

(3) 溝跡

第1号溝跡 (第93図)

位置 調査区中央部のC 6 a1～C 5 e8区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・21・22・24・25号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 北部と南部が調査区域外に伸びているため, 確認できた長さは18.15mである。C 5 e8区から北東方向に直線的に伸び, C 5 b9区からさらに北東方向に屈曲している。規模は上幅3.17～3.55m, 下幅0.40～0.82m, 深さ48～50cmである。断面形はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

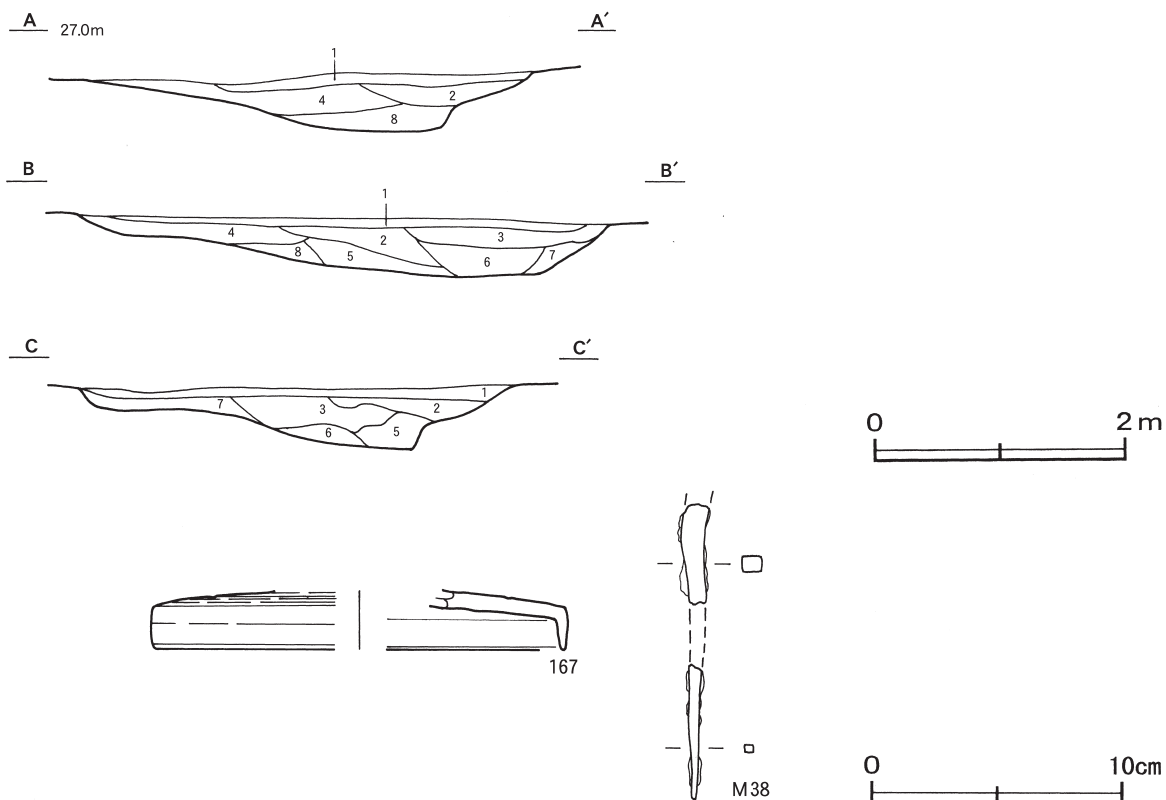
覆土 8層に分けられる。各層にロームを含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量	8	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片201点 (坏26, 高台付椀4, 甕類171), 須恵器片150点 (坏62, 高台付坏4, 盤1, 蓋8, 甕類75), 灰釉陶器片4点 (瓶2, 壺2), 瓦片4点 (平瓦), 鉄製品1点 (釘) が散在した状態で出土している。そのほか, 混入した縄文土器片1点, 土師質土器2点, 陶器片1点, 石製模造品1点も出土している。167・M38は, いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第93図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
167	須恵器	蓋	[16.3]	(2.3)	—	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	釘	(11.7)	1.0	0.3~0.6	(12.6)	鉄	頭部欠損 基部一部欠損 断面長方形	覆土中	P L31

(4) 土坑

第2号土坑 (第94図)

位置 調査区東部のC7f5区, 標高26.0mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.56m, 短径1.40mの楕円形で, 長径方向はN-68°-Wである。深さは40cmで, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

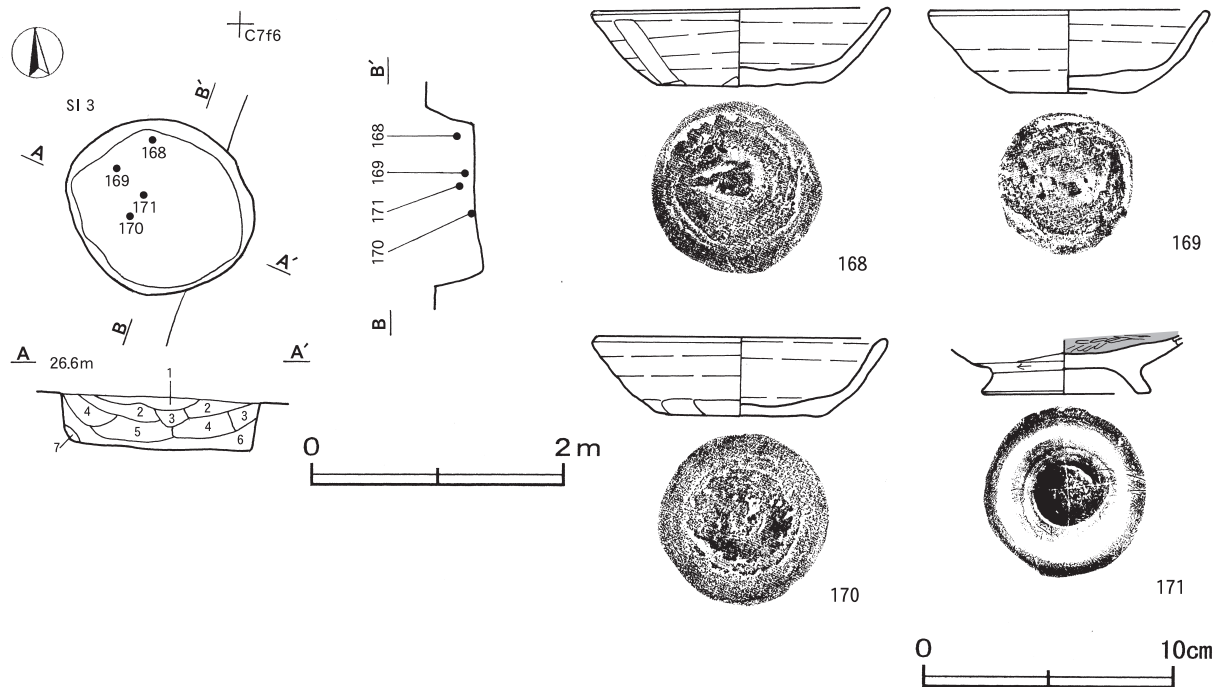
覆土 7層に分けられる。各層にロームを含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片46点(坏23, 高台付椀2, 甕類21), 瓦片1点(平瓦)が出土している。168・169・171は覆土下層から出土している。また, 170は底面から出土しており, 時期判定の指標となる遺物である。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第94図 第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土師器	坏	11.8	3.2	6.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	下層	100% P L18
169	土師器	坏	11.0	3.3	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 底部粗雑な回転ヘラ切り	下層	100% P L18
170	土師器	坏	11.5	3.2	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 底部粗雑な回転ヘラ切り	底面	95% P L18
171	土師器	高台付椀	—	(2.3)	6.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	40% P L18 刻書土器「X」

第26号土坑（第95図）

位置 調査区東部のC7d2区，標高27.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため，長径1.82m，短径は0.87mだけが確認された。長径方向はN-71°-Wである。深さは58cmで，底面は段状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

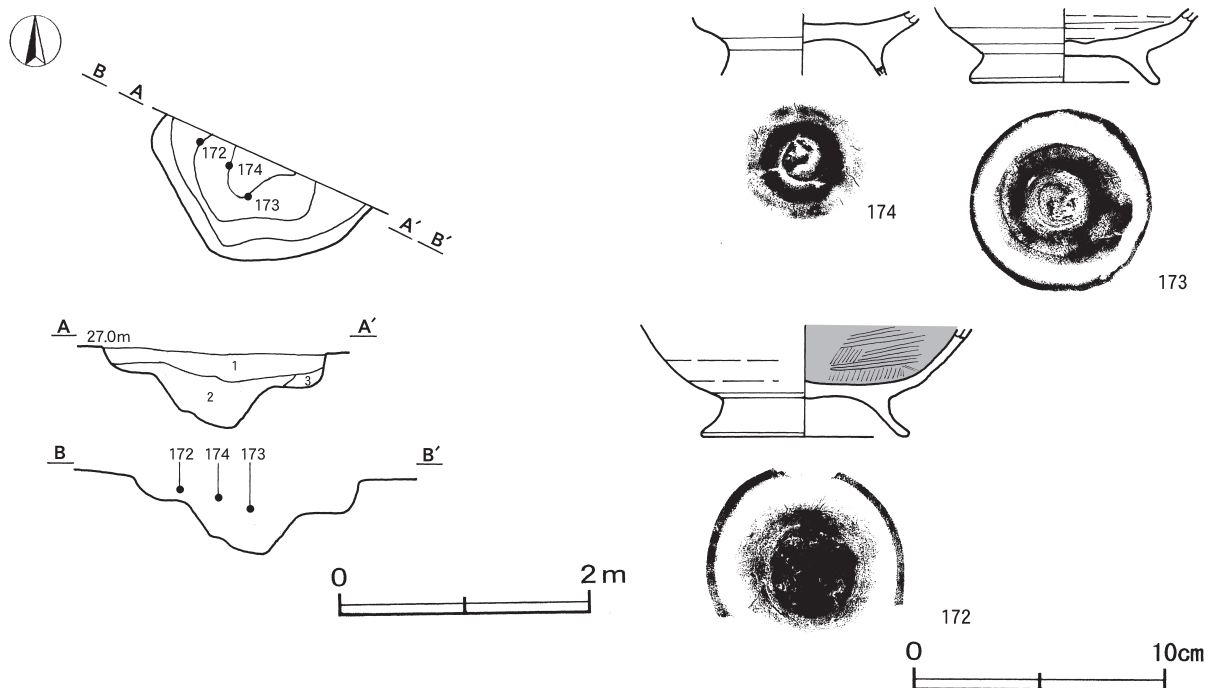
覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片44点（坏19，高台付椀1，甕類24），須恵器片1点（坏），灰釉陶器片1点（壺）が出土している。そのほか，混入した縄文土器片1点も出土している。172～174はいずれも覆土中層から出土している。

所見 時期は，9世紀後葉と考えられる。遺物の出土状況から，廃棄土坑として利用された可能性も考えられる。



第95図 第26号土坑・出土遺物実測図

第26号土坑出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	土師器	高台付椀	—	(4.4)	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面へら磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	40%
173	土師器	高台付椀	—	(2.9)	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	35%
174	土師器	高台付椀	—	(2.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	30%

第59号土坑（第96図）

位置 調査区西部のB 3 e0区，標高20.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸2.00m，短軸1.75mの長方形で，長軸方向はN-71°-Eである。深さは28cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

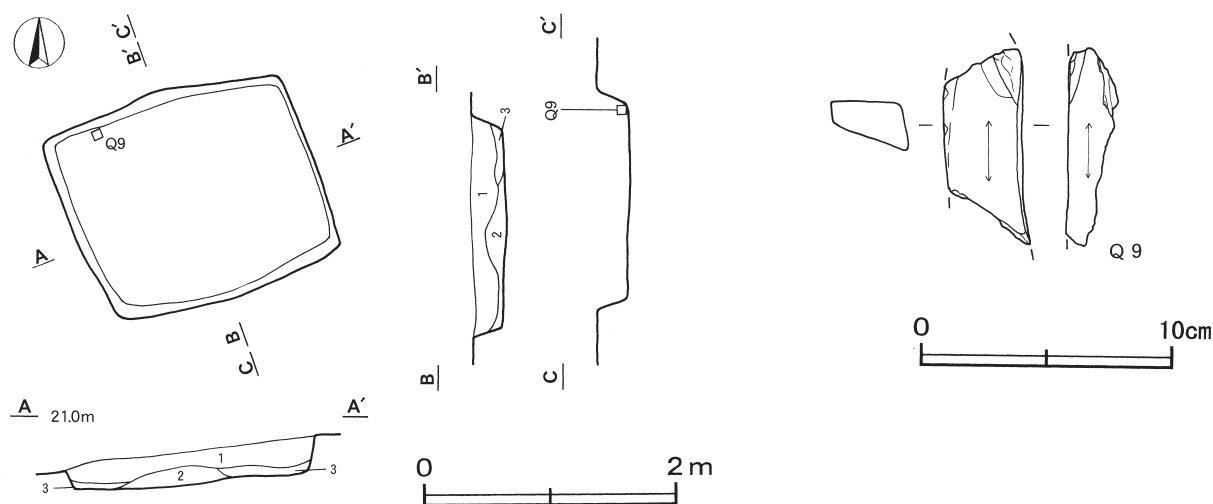
覆土 3層に分けられる。各層にロームを含み，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片23点（坏8，高台付椀1，甕類14），須恵器片3点（坏2，甕類1），石製品1点（砥石）が出土している。Q 9は底面から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。遺物の出土状況や堆積状況から墓坑の可能性も考えられる。



第96図 第59号土坑・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表（第96図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	砥石	(7.8)	3.5	(2.2)	(50.5)	凝灰岩	砥面2面 端部欠損	底面	

表6 平安時代の土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長径×短径	深さ(cm)					
2	C 7 f5	N-68°-W	楕円形	1.56 × 1.40	55	直立	平坦	人為	土師器片，瓦片	S I 3→本跡
26	C 7 d2	N-71°-W	[楕円形]	1.82 × (0.87)	58	外傾	段状	人為	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片	
59	B 3 e0	N-71°-E	長方形	2.00 × 1.75	28	直立	平坦	人為	土師器片，須恵器片，砥石	

5 時期不明の遺構と遺物

時期決定の指標となる遺物が出土しなかったため，時期不明とした遺構は竪穴住居跡5軒，溝跡1条，土坑2基である。以下，遺構について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第10号住居跡 (第97図)

位置 調査区東部のC 6 g0区, 標高27.0mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 西側部分の大半は調査区域外に延びているため, 長軸2.70m, 短軸は0.54mだけが確認された。

長軸方向はN-6°-Eである。壁高は6~16cmで, 外傾して立ち上がっているものと推定される。

床 ほぼ平坦である。壁下には幅10cm, 深さ10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 深さ24cmで, 性格は不明である。

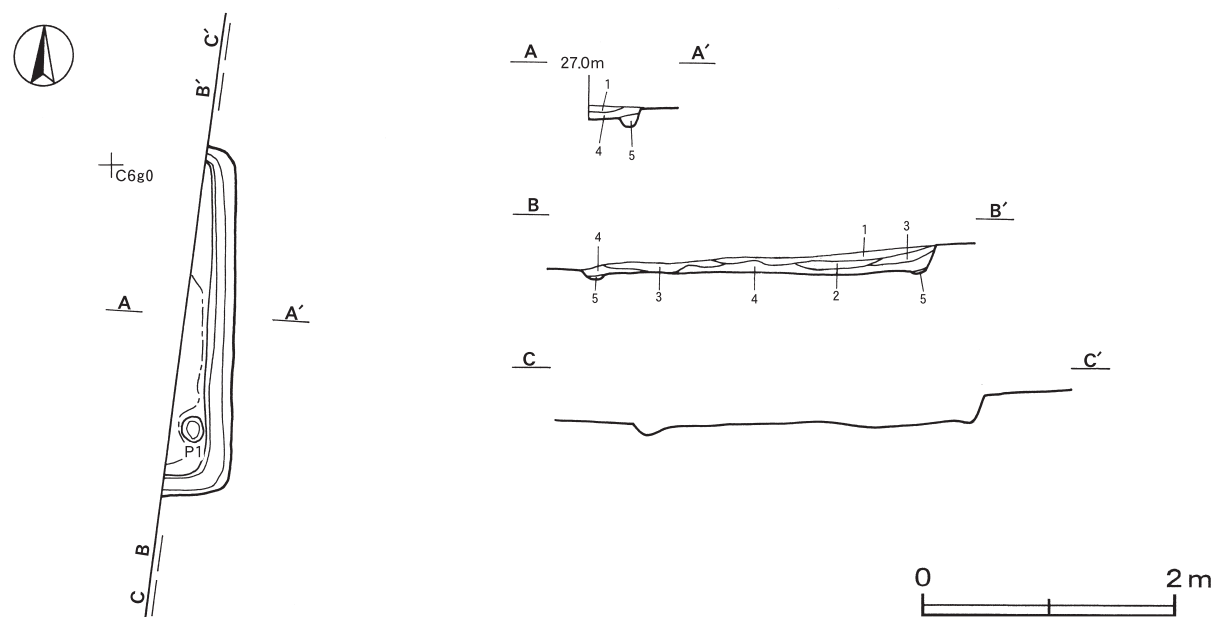
覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックを含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)が出土している。

所見 本跡は, 大半が調査区域外に延びており, 出土土器は1点しかないため時期は不明である。



第97図 第10号住居跡実測図

第27号住居跡 (第98図)

位置 調査区中央部のC 5 a6区, 標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第74・75号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため, 暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸3.30m, 短軸2.80mの長方形で, 主軸方向はN-143°-Eと推定される。

床 ほぼ平坦で, 西側部分に一部硬化面が確認されている。

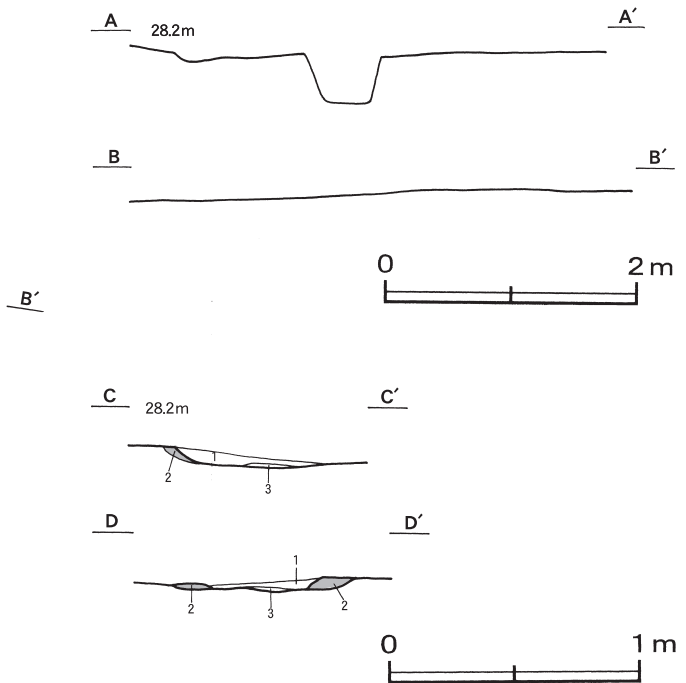
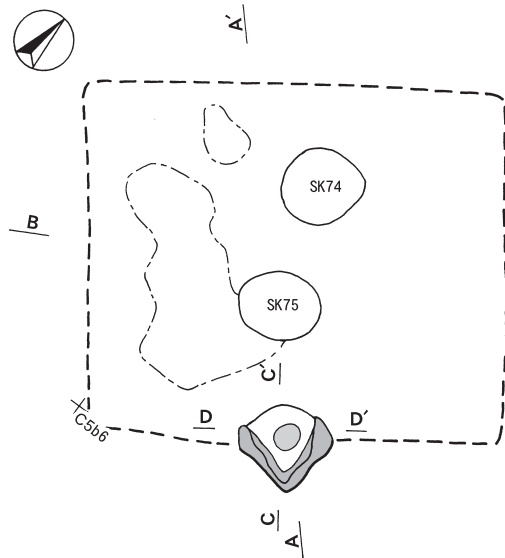
竈 南壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm, 袖部幅76cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築されている。火床部は床面から2cmくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量

- 3 褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量

所見 出土土器がないため時期は不明である。



第98図 第27号住居跡実測図

第32号住居跡 (第99図)

位置 調査区中央部のC 5 c2区, 標高27.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西部の大半は調査区域外に延びているため, 長軸は1.64m, 短軸は1.06mだけが確認された。

長軸方向はN-45°-Wである。壁高は18~26cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁下には幅14~22cm, 深さ8~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

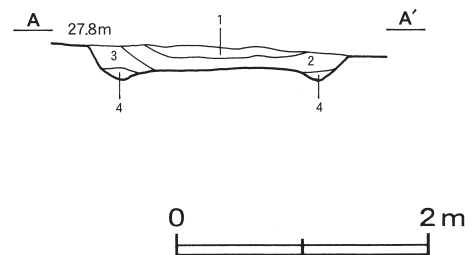
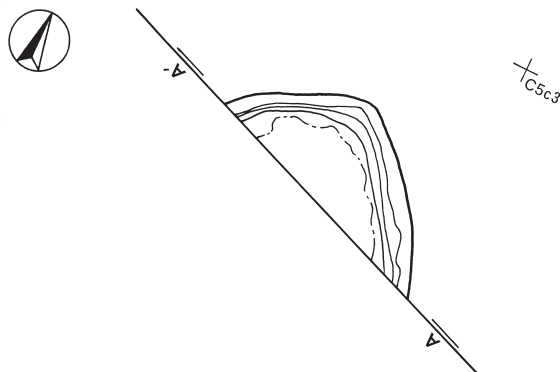
覆土 4層に分けられる。周囲からの土が流入した様相を呈した自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

所見 本跡は, 大半が調査区域外に延びており, 出土土器がないため時期は不明である。



第99図 第32号住居跡実測図

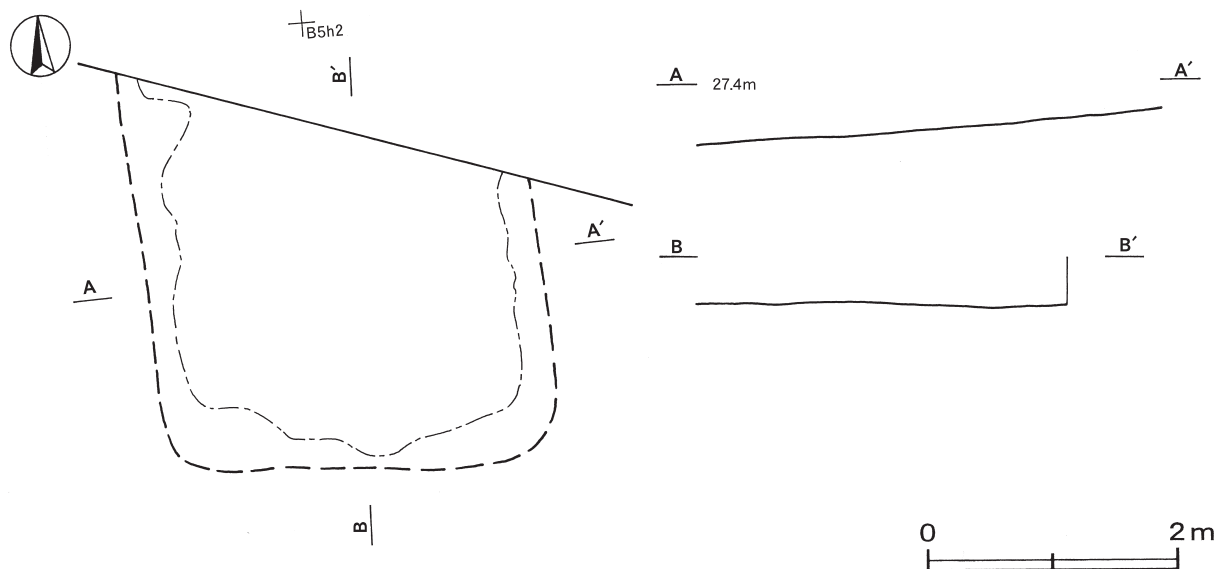
第35号住居跡（第100図）

位置 調査区中央部のB 5 h2区，標高27.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸・短軸ともに3.14mの方形で，長軸方向はN-2°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められていると推定される。

所見 出土土器がないため時期は不明である。



第100図 第35号住居跡実測図

第56号住居跡（第101図）

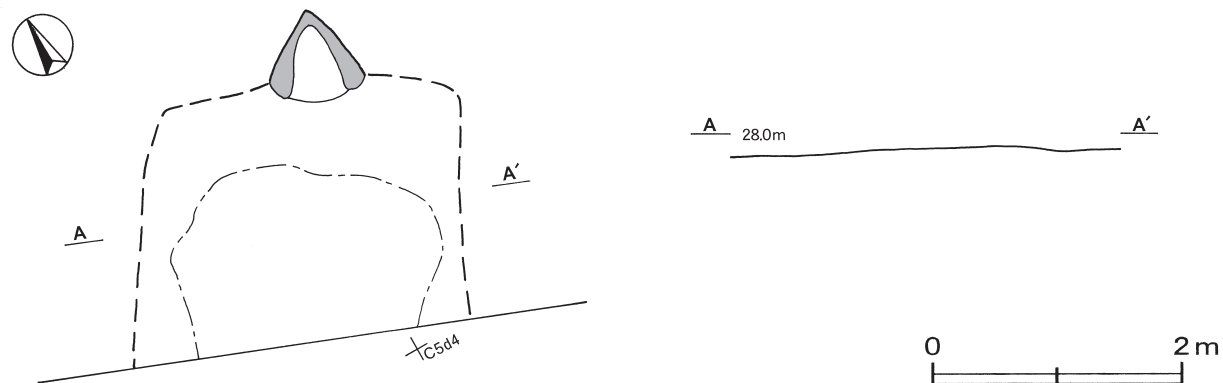
位置 調査区中央部のC 5 c4区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため，暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断した。長軸2.54m，短軸2.02mの方形で，主軸方向はN-22°-Eと推定される。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cm，袖部幅74cmである。袖部は砂質粘土を主体として構築され，煙道部は壁外に40cm掘り込まれている。

所見 出土土器がないため，時期は不明である。



第101図 第56号住居跡実測図

表7 時期不明竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈			
10	C 6 g0	N-6°-E	—	2.70 × (0.54)	6~16	平坦	全周	—	—	1	—	人為	土師器片	
27	C 5 a6	N-143°-E	[長方形]	[3.30 × 2.80]	—	平坦	—	—	—	—	1	不明		
32	C 5 c2	N-45°-W	—	(1.64 × 1.06)	18~26	平坦	全周	—	—	—	—	自然		
35	B 5 h2	N-2°-W	[長方形]	(3.14) × [3.14]	—	平坦	—	—	—	—	—	不明		
56	C 5 c4	N-22°-E	[方形]	[2.54 × 2.02]	—	平坦	—	—	—	—	1	不明		

(2) 溝跡

第2号溝跡 (第102図)

位置 調査区中央部のB 4 f6~B 4 i6区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第44号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 北側部分が調査区域外に延びているため、確認できた長さは12.98mである。B 4 f6区から南方向に直線的に延び、規模は上幅0.44~0.70m、下幅0.30~0.61m、深さ18~20cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

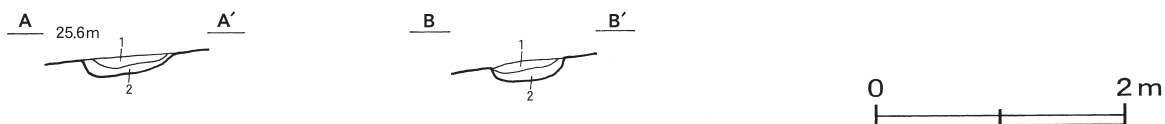
覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点 (坏2, 甕類7), 須恵器片9点 (坏5, 甕類4), 鉄製品3点 (不明) が出土している。いずれも混入したものと考えられる。

所見 時期・性格の特定は困難である。



第102図 第2号溝跡実測図

(3) 土坑

第45号土坑 (第103図)

位置 調査区西部のB 3 g5区、標高18.5mの低地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.86m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-60°-Wである。深さ14cm、底面は平坦であり、壁は緩やかに傾斜している。

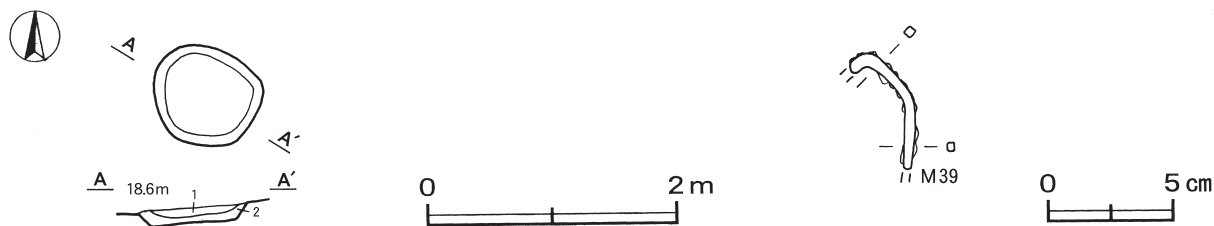
覆土 2層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点 (坏), 須恵器片1点 (坏), 鉄製品1点 (釘) が出土している。M39は覆土中から出土している。

所見 出土土器が少ないため、時期は不明である。遺物の出土状況や堆積状況から、墓坑の可能性も考えられる。



第103図 第45号土坑・出土遺物実測図

第45号土坑出土遺物観察表 (第103図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(4.5)	(0.5)	0.3~0.35	(6.4)	鉄	頭部・脚部欠損 頭部屈曲 断面方形	覆土中	P L31

第67号土坑 (第104図)

位置 調査区西部のB 4 f5区, 標高25.5mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.82m, 短径0.74mの楕円形で, 長径方向はN-20°-Wである。深さ9cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾している。

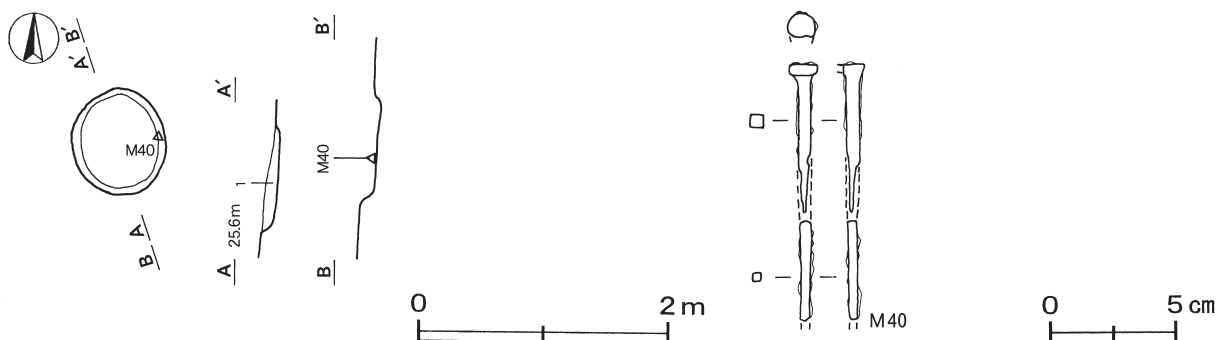
覆土 単一層であるため, 堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 鉄製品3点(釘)が出土している。M40は覆土下層から出土している。

所見 出土遺物が少ないため, 時期は不明である。



第104図 第67号土坑・出土遺物実測図

第67号土坑出土遺物観察表 (第104図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	釘	(10.3)	1.1	0.3~0.5	(7.5)	鉄	基部・脚部一部欠損 断面方形	下層	P L31

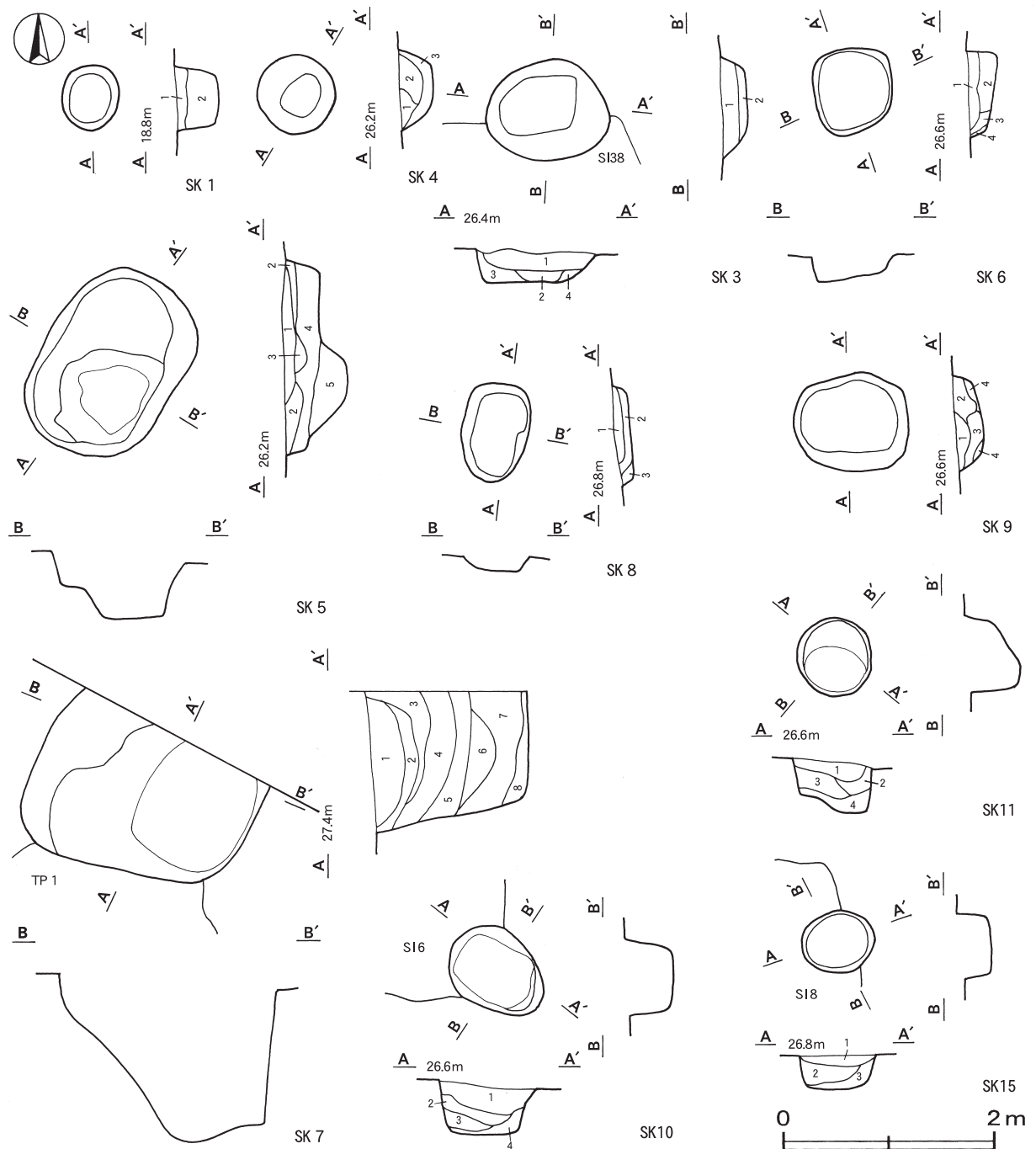
表8 時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径	深さ (cm)					
45	B 3 g5	N-60°-W	楕円形	0.86×0.80	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 釘	
67	B 4 f5	N-20°-W	楕円形	0.82×0.74	9	外傾	平坦	不明	釘	

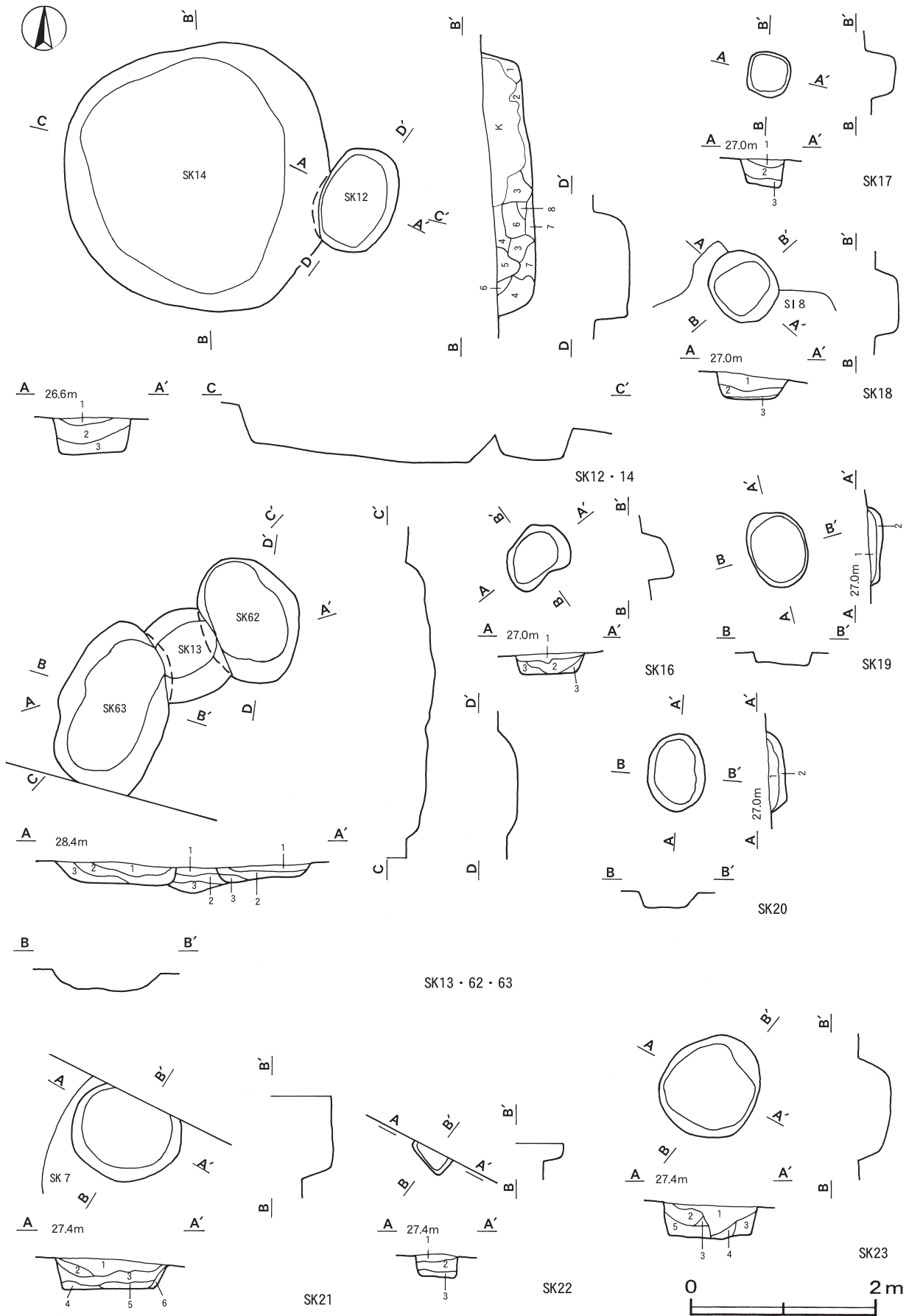
6 その他の遺構と遺物

(1) 土坑 (第105~112図)

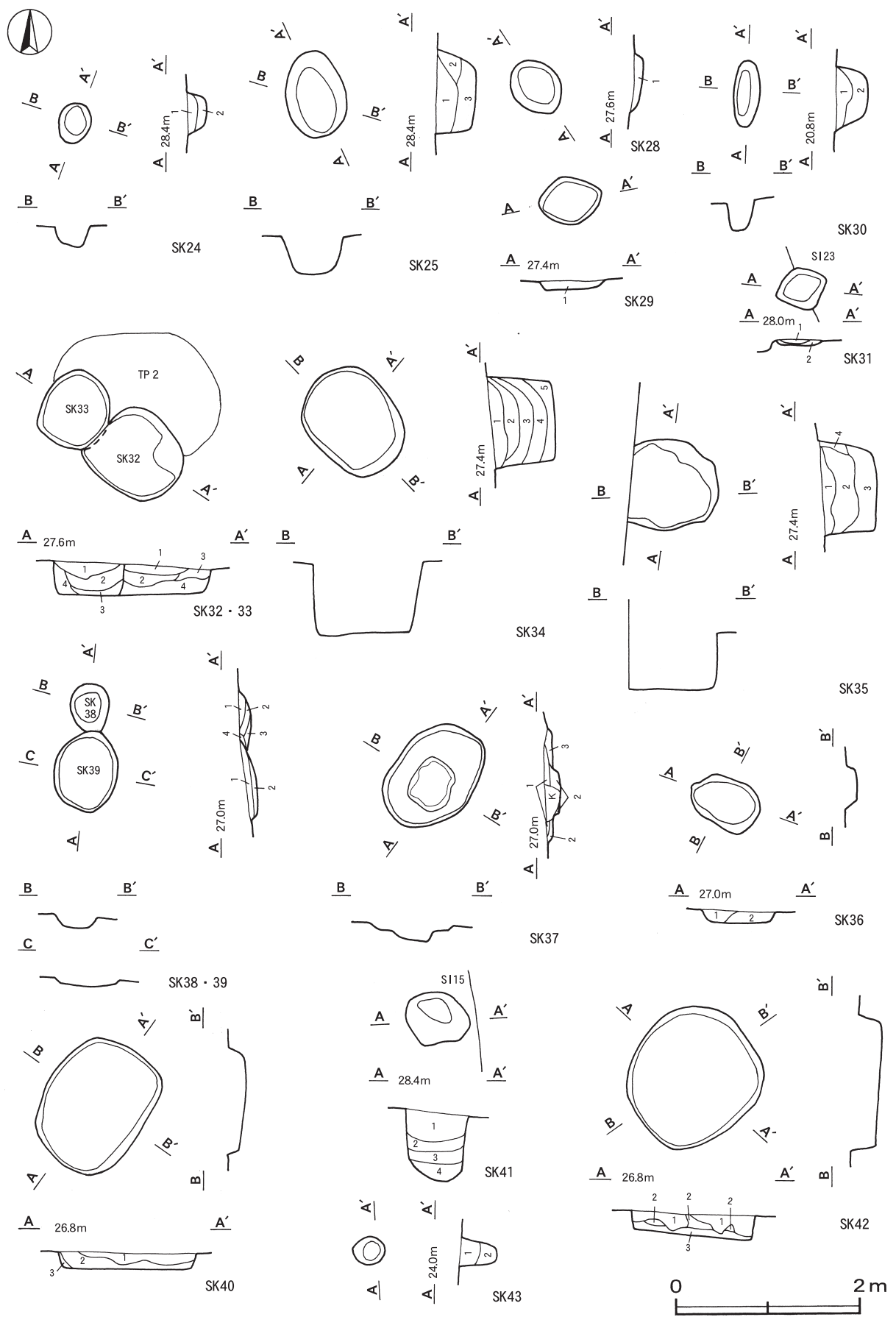
今回の調査で、時期が明確でない土坑 128 基が検出された。これらの土坑の多くが人為堆積であり、墓坑が含まれている可能性もあるが、人骨や副葬品などが出土していないため判然とはしない。また円形や楕円形を呈する土坑は、規模・形状や配置などに規則性がなく、遺物もほとんど出土していないため、時期・性格ともに不明である。以下、これらの土坑について一覧表で紹介し、併せて実測図と土層解説を記載する。



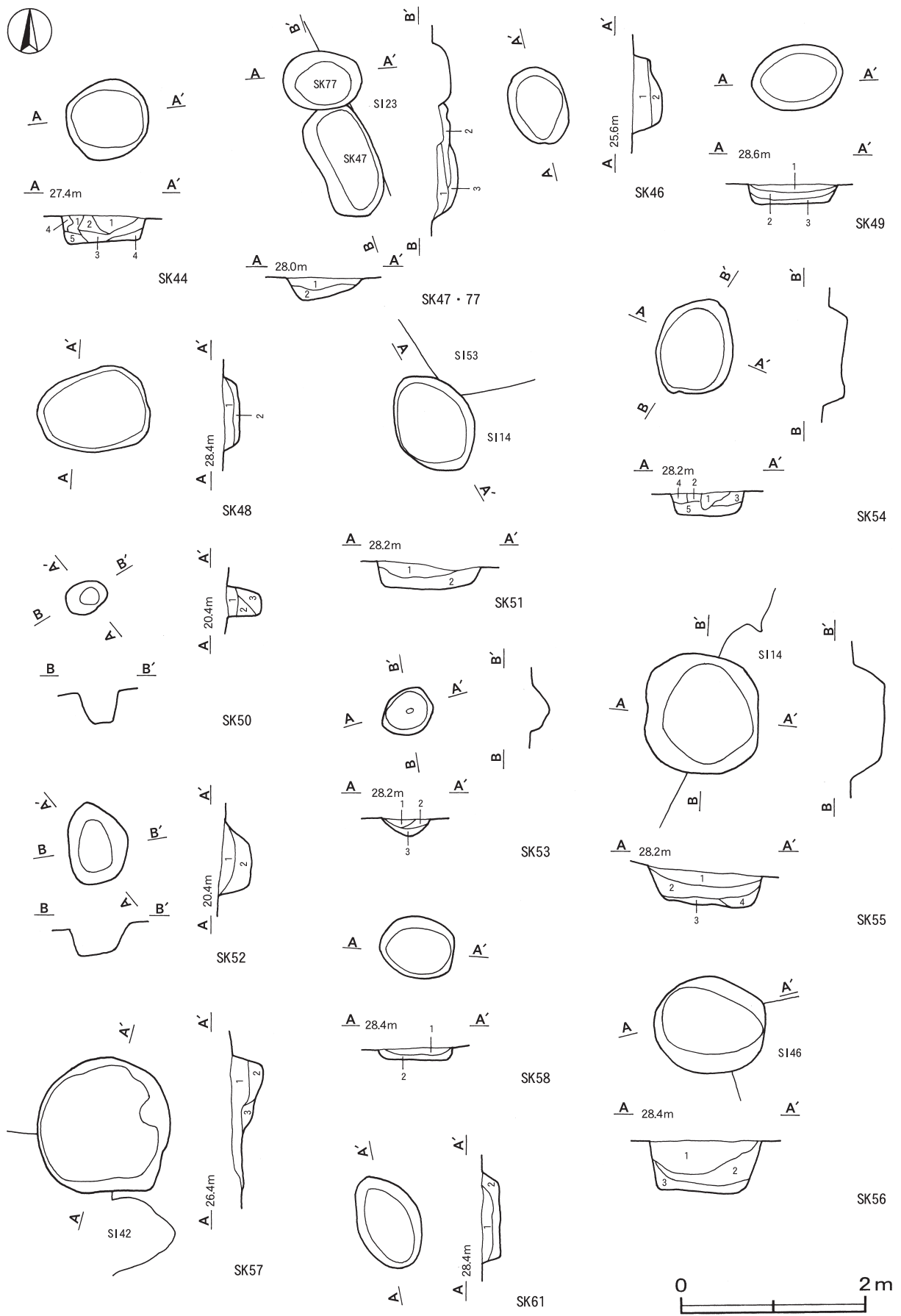
第105図 その他の土坑実測図(1)



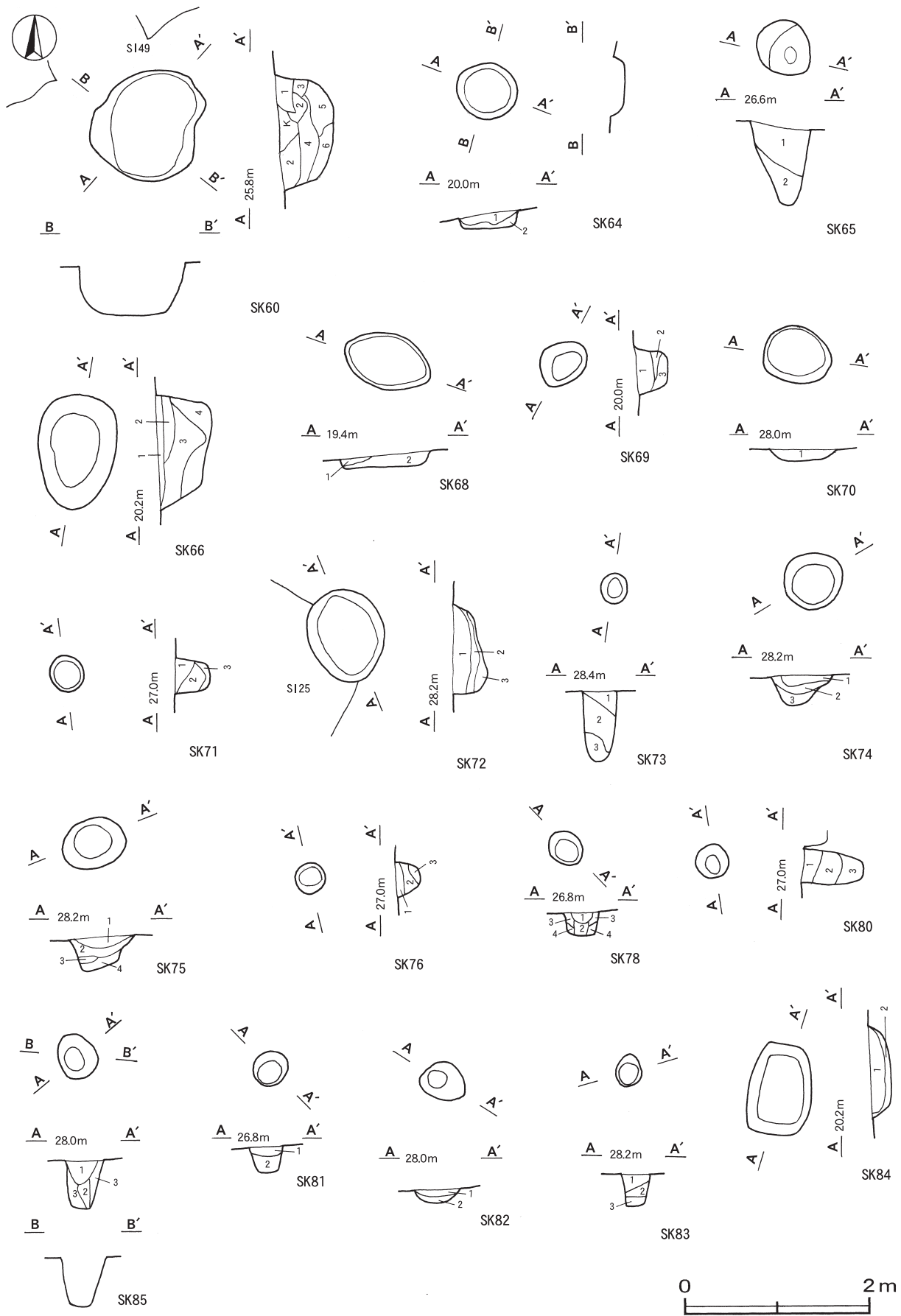
第106図 その他の土坑実測図(2)



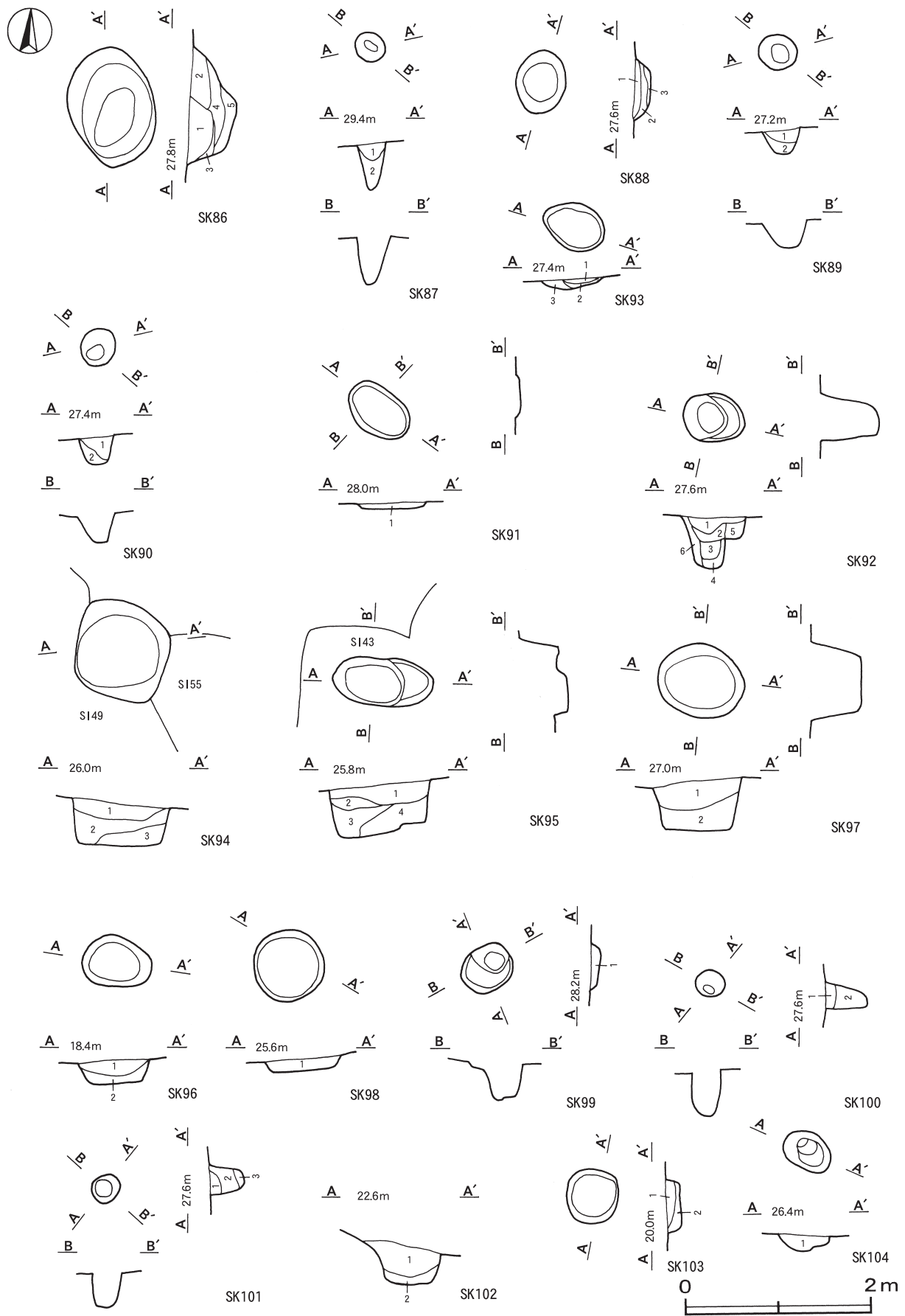
第107図 その他の土坑実測図(3)



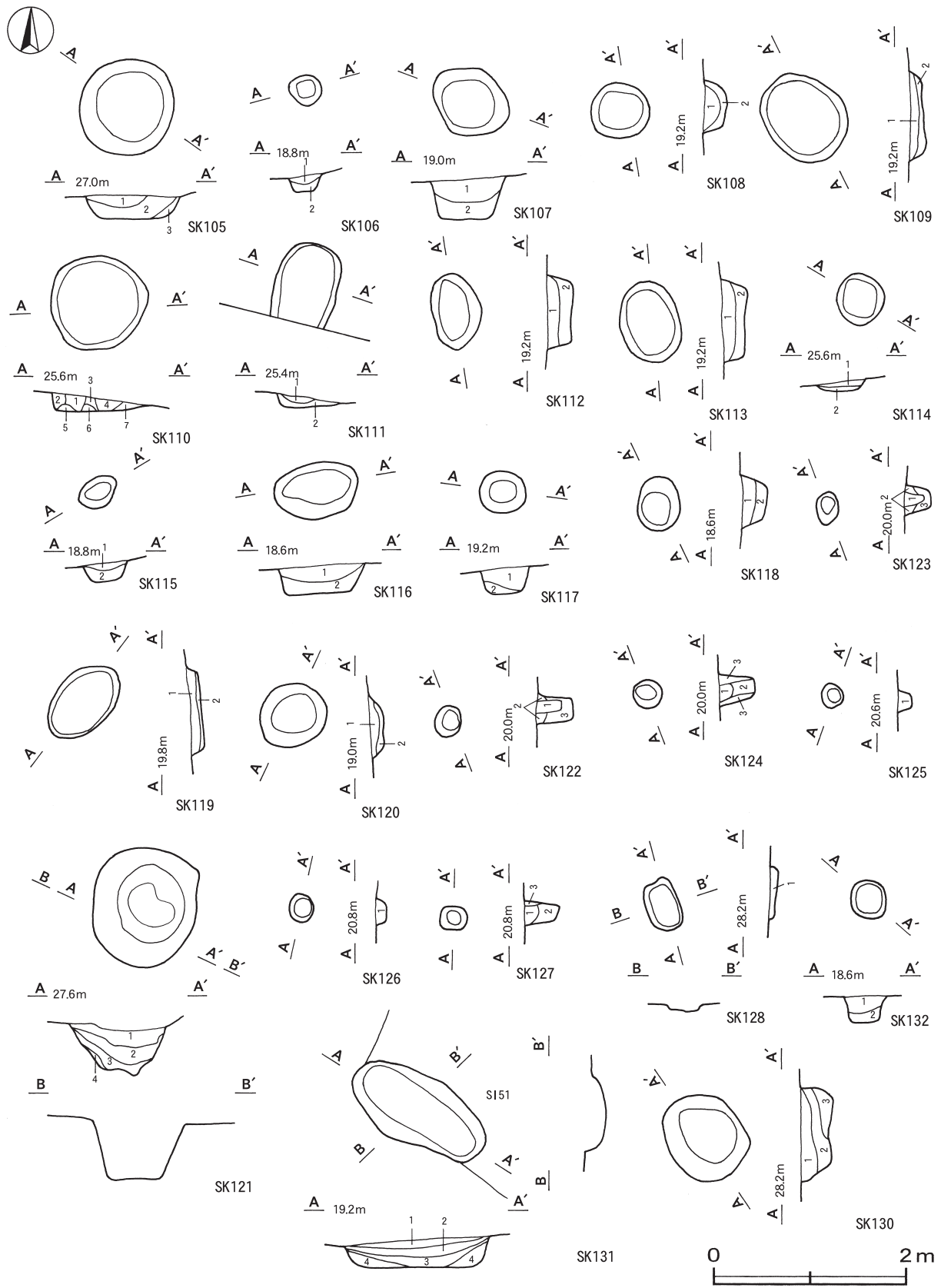
第108図 その他の土坑実測図(4)



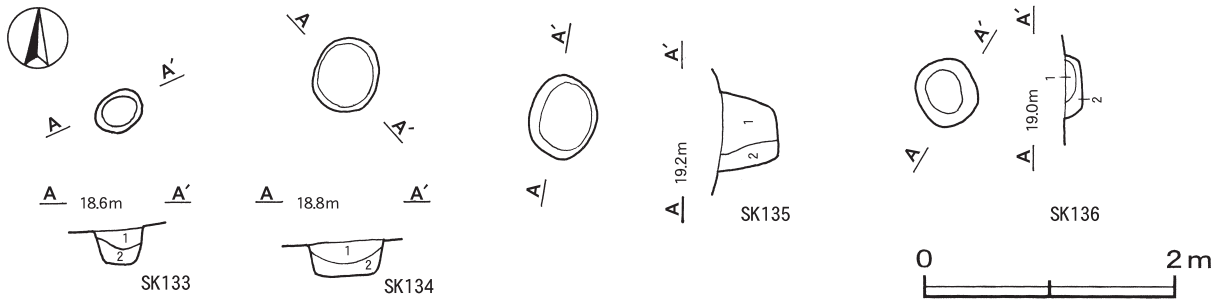
第109図 その他の土坑実測図(5)



第110図 その他の土坑実測図(6)



第111図 その他の土坑実測図(7)



第112図 その他の土坑実測図(8)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ロームブロック微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第18号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 焼土粒子中量, ローム粒子少量

第19号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第21号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第23号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ローム粒子少量

第24号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第28号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第29号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量

第30号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第32号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第33号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第34号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第36号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第38号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第39号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第40号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

第42号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第43号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量

第44号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第47号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第48号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第49号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 炭化粒子微量

第50号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第51号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第53号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

第54号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

第55号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

第56号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐 色 ロームブロック中量

第58号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第60号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第62号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第63号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量

第64号土坑土層解説

- 1 灰 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第65号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第66号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量

第68号土坑土層解説

- 1 灰 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第69号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第70号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第71号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第72号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第73号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第74号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第75号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第77号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第78号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量

第80号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第81号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

第82号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第84号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物微量

第85号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第86号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量

第87号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第88号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第89号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第90号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第91号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量

第92号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子中量
- 6 褐 色 ローム粒子少量

第93号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第94号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量

第95号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第97号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第98号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第99号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量

第100号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第101号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第102号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第103号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第104号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第105号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第106号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第108号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第109号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第114号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第115号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第118号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子微量

第119号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第120号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第122号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第123号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第124号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第125号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第126号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第127号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第128号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第130号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第131号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第132号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第133号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第134号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第135号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

表9 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B 3 c3	N-8°-E	楕円形	0.62 × 0.54	38	外傾	平坦	自然	土師器片	
3	C 7 f6	N-73°-E	楕円形	1.12 × 0.95	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I 38→本跡
4	C 7 g5	N-0°	円形	0.72 × 0.72	33	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
5	C 7 g5	N-36°-E	楕円形	1.84 × 1.26	64	外傾	段状	人為	土師器片, 須恵器片	
6	C 7 g4	N-0°	円形	0.80 × 0.76	23	外傾	傾斜	自然		
7	C 7 e3	N-61°-W	[隅丸長方形]	2.10 × (1.40)	152	直立	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	T P 1→本跡→S K 21
8	C 7 f4	N-9°-E	楕円形	0.92 × 0.62	16	外傾	平坦	人為		S I 2→本跡
9	C 7 f4	N-88°-E	楕円形	1.08 × 0.90	40	外傾	皿状	人為		
10	C 7 f4	N-58°-W	楕円形	0.98 × 0.72	45	直立	平坦	人為	土師器片	S I 6→本跡
11	C 7 g3	N-0°	円形	0.72 × 0.70	48	直立	皿状	人為		
12	C 7 h2	N-24°-E	楕円形	1.16 × 0.80	40	外傾	平坦	自然	土師器片	S K 14→本跡
13	C 5 e0	N-66°-E	[楕円形]	[1.10] × 0.98	30	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→S K 62・63
14	C 7 g2	N-25°-W	円形	2.96 × 2.87	43	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→S K 12
15	C 7 f2	N-75°-E	楕円形	0.69 × 0.61	30	直立	平坦	自然	土師器片, 不明鉄製品	S I 8→本跡
16	C 7 f2	N-46°-E	楕円形	0.74 × 0.48	28	直立	平坦	自然		
17	C 7 f2	N-35°-W	円形	0.55 × 0.51	30	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 不明鉄製 品	
18	C 7 f2	N-40°-W	楕円形	0.78 × 0.70	25	外傾	平坦	自然	土師器片	S I 8→本跡
19	C 7 f1	N-20°-E	楕円形	0.85 × 0.62	15	直立	平坦	自然		
20	C 7 f1	N-4°-E	楕円形	0.86 × 0.62	18	外傾	平坦	人為		
21	C 7 e3	N-63°-W	[楕円形]	1.20 × (0.90)	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S K 7→本跡
22	C 7 d3	N-62°-W	[隅丸長方形]	0.46 × (0.20)	21	直立	平坦	自然		
23	C 7 e3	N-34°-E	楕円形	1.14 × 1.00	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
24	C 5 e0	N-11°-E	楕円形	0.43 × 0.37	24	外傾	皿状	人為		
25	C 6 e1	N-18°-W	楕円形	0.90 × 0.63	42	外傾	皿状	人為		
28	B 5 j1	N-89°-E	方形	0.54 × 0.52	10	外傾	平坦	不明		
29	B 5 j1	N-65°-W	方形	0.54 × 0.52	10	外傾	平坦	不明		
30	B 3 g9	N-4°-E	楕円形	0.71 × 0.29	32	直立	平坦	自然		
31	C 5 d5	N-75°-W	隅丸長方形	0.44 × 0.42	6	外傾	平坦	人為		S I 23→本跡
32	C 7 e1	N-43°-W	楕円形	0.98 × 0.80	32	外傾	平坦	人為		T P 2→本跡→S K 33
33	C 6 e0	N-30°-E	楕円形	0.82 × 0.72	33	外傾	平坦	自然		T P 2→S K 32→本跡
34	C 6 e0	N-40°-W	楕円形	1.22 × 0.92	77	垂直	平坦	人為		
35	C 6 e0	N-78°-W	[楕円形]	(0.96) × 1.00	67	垂直	平坦	人為	土師器片	
36	C 6 f0	N-65°-W	楕円形	0.78 × 0.52	12	外傾	平坦	人為		
37	C 6 f0	N-48°-E	楕円形	1.22 × 0.88	18	緩斜	段状	人為		
38	C 6 g0	N-12°-W	[楕円形]	(1.08) × 0.86	12	外傾	皿状	自然		本跡→S K 39
39	C 6 g0	N-6°-E	楕円形	1.78 × 1.36	10	緩斜	皿状	自然		S K 38→本跡
40	C 6 h0	N-37°-E	隅丸長方形	2.90 × 2.24	38	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (重複関係 古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
41	C 6 e3	N-60°-W	楕円形	0.68 × 0.61	76	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	S I 15→本跡
42	C 6 h0	N-54°-E	隅丸方形	2.86 × 2.74	52	垂直	平坦	人為		
43	C 6 d1	N-84°-E	円形	0.32 × 0.29	[80]	垂直	皿状	自然	土師器片	S I 18→本跡
44	C 7 e2	N-77°-W	円形	0.90 × 0.87	28	外傾	平坦	人為		
46	B 4 g6	N-15°-W	楕円形	0.86 × 0.64	32	外傾	皿状	人為		
47	C 5 d4	N-23°-W	楕円形	1.34 × 0.68	24	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	S I 23→本跡→S K77
48	C 6 e2	N-76°-E	楕円形	1.18 × 0.77	16	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 瓦片	
49	C 6 f2	N-82°-E	楕円形	1.00 × 0.69	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
50	B 3 f9	N-61°-E	楕円形	0.44 × 0.34	34	外傾	皿状	自然		
51	C 6 c3	N-34°-W	楕円形	1.15 × 0.85	27	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	S I 14・53→本跡
52	B 3 f9	N-7°-W	楕円形	0.88 × 0.64	30	外傾	平坦	自然		
53	C 6 c2	N-60°-E	楕円形	0.58 × 0.48	20	外傾	V字	人為	土師器片, 須惠器片	
54	C 6 c2	N-27°-E	楕円形	1.08 × 0.82	27	外傾	凸凹	人為	土師器片, 須惠器片	
55	C 6 d2	N-3°-W	隅丸方形	1.28 × 1.20	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	S I 14→本跡
56	C 6 c1	N-78°-W	楕円形	1.20 × 1.03	56	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	S I 46→本跡
57	B 4 f1	N-22°-E	円形	1.48 × 1.42	36	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	S I 42→本跡
58	C 6 f3	N-82°-E	楕円形	0.80 × 0.66	13	外傾	平坦	自然		
60	B 4 i6	N-21°-E	楕円形	1.24 × 1.14	58	直立	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	S I 49→本跡
61	C 6 f3	N-24°-W	楕円形	1.05 × 0.69	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
62	C 6 e1	N-26°-W	楕円形	1.44 × 1.06	18	緩斜	皿状	自然		S K13→本跡
63	C 5 e0	N-30°-E	楕円形	1.70 × 1.18	20	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 瓦片	S K13→本跡
64	B 3 f7	N-14°-W	円形	0.66 × 0.62	14	緩斜	皿状	人為	砥石	
65	C 7 f5	N-52°-W	楕円形	0.64 × 0.56	86	外傾	皿状	自然	土師器片	S I 3→本跡
66	B 3 h8	N-3°-E	楕円形	1.25 × 0.87	58	外傾	傾斜	人為		
68	B 3 c5	N-68°-W	楕円形	0.98 × 0.59	11	外傾	平坦	人為		
69	B 3 c6	N-43°-E	楕円形	0.53 × 0.47	33	外傾	平坦	自然	土師器片	
70	C 5 b0	N-15°-E	楕円形	0.75 × 0.61	12	外傾	平坦	不明	須惠器片	
71	C 6 d1	N-42°-W	円形	0.40 × 0.36	[75]	直立	皿状	人為		S I 18→本跡
72	C 5 e8	N-25°-W	楕円形	1.02 × 0.84	38	直立	傾斜	人為	土師器片, 須惠器片	S I 25→本跡
73	C 6 d1	N-5°-E	円形	0.32 × 0.30	75	直立	皿状	人為		S I 18→本跡
74	C 5 a6	N-14°-W	円形	0.64 × 0.60	30	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	S I 27→本跡
75	C 5 a6	N-25°-W	楕円形	0.68 × 0.54	34	外傾	傾斜	人為	土師器片, 須惠器片	S I 27→本跡
76	C 6 d1	N-12°-W	円形	0.35 × 0.32	[66]	直立	皿状	人為		S I 18→本跡
77	C 5 c4	N-85°-E	楕円形	0.88 × 0.62	24	垂直	皿状	自然	土師器片	S I 23→S K47→本跡
78	B 4 i9	N-35°-W	楕円形	0.39 × 0.34	26	外傾	平坦	人為	土師器片	
80	C 6 d1	N-0°	円形	0.36 × 0.36	[105]	直立	皿状	人為		S I 18→本跡
81	B 4 i9	N-43°-E	円形	0.40 × 0.38	27	外傾	平坦	自然		
82	C 5 a4	N-52°-W	楕円形	0.50 × 0.40	14	緩斜	皿状	自然		

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 古→新)
				長径×短径 (m)	深さ(cm)					
83	C 6 c1	N-8°-E	橢円形	0.34 × 0.28	[54]	直立	皿状	人為		S I 19→S I 46→本跡
84	B 3 c6	N-8°-E	隅丸長方形	1.00 × 0.67	22	外傾	皿状	自然		
85	C 5 c2	N-28°-W	橢円形	0.52 × 0.40	52	外傾	平坦	人為		
86	B 5 i3	N-31°-W	橢円形	1.22 × 0.92	48	外傾	皿状	人為		
87	C 4 a0	N-38°-W	円形	0.34 × 0.32	49	外傾	平坦	自然		
88	B 5 j2	N-0°	橢円形	0.68 × 0.56	19	外傾	平坦	人為		
89	C 4 a0	N-56°-W	円形	0.43 × 0.35	32	外傾	平坦	人為	土師器片	
90	C 4 a0	N-19°-W	円形	0.39 × 0.38	31	外傾	平坦	自然	土師器片	
91	C 6 b1	N-50°-W	橢円形	0.72 × 0.48	8	外傾	平坦	不明		
92	C 5 a1	N-72°-W	橢円形	0.69 × 0.52	63	外傾	段状	人為		
93	C 5 b1	N-70°-W	橢円形	0.68 × 0.52	13	緩斜	皿状	人為		
94	B 4 i7	N-24°-W	橢円形	1.24 × 1.08	46	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I 55→S I 49→本跡
95	B 4 h7	N-86°-W	橢円形	1.10 × 0.50	56	外傾	凸凹	人為	土師器片, 須恵器片	S I 43→本跡
96	B 3 e4	N-82°-W	橢円形	0.76 × 0.53	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
97	C 4 b0	N-78°-W	橢円形	0.93 × 0.80	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
98	B 4 g6	N-16°-W	円形	0.75 × 0.74	12	外傾	段状	不明		
99	C 6 c1	N-60°-E	橢円形	0.56 × 0.48	38	外傾	皿状	不明		
100	C 5 a1	N-89°-E	橢円形	0.33 × 0.29	49	直立	皿状	人為		
101	C 5 a1	N-40°-E	円形	0.32 × 0.30	38	直立	平坦	人為		
102	-	-	-	-	44	垂直	平坦	人為		
103	B 3 c7	N-11°-E	円形	0.59 × 0.56	16	外傾	段状	自然		
104	C 7 f6	N-41°-E	橢円形	0.57 × 0.38	18	外傾	平坦	不明		
105	B 4 j0	N-38°-E	円形	1.04 × 0.96	23	外傾	平坦	自然		S I 37→S B 1→本跡
106	B 3 d4	N-36°-W	円形	0.32 × 0.30	16	外傾	平坦	自然		
107	B 3 d4	N-46°-W	橢円形	0.84 × 0.66	42	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
108	B 3 d4	N-5°-E	円形	0.60 × 0.58	24	外傾	平坦	自然		
109	B 3 b4	N-41°-W	橢円形	0.95 × 0.81	14	外傾	凸凹	自然	土師器片	
110	B 4 j6	N-16°-E	円形	1.00 × 0.98	16	外傾	平坦	人為	土師器片	
111	B 4 j6	N-10°-E	[橢円形]	(0.88) × 0.62	10	外傾	平坦	自然	土師器片	
112	B 3 c4	N-7°-W	橢円形	0.78 × 0.50	25	外傾	平坦	人為	土師器片	
113	B 3 c4	N-21°-W	橢円形	0.87 × 0.62	24	外傾	平坦	自然	土師器片	
114	B 4 j6	N-32°-W	円形	0.52 × 0.44	12	外傾	平坦	自然		
115	B 3 h6	N-61°-E	橢円形	0.42 × 0.28	20	外傾	平坦	自然		
116	B 3 d3	N-6°-E	橢円形	0.88 × 0.60	28	外傾	平坦	自然	土師器片	
117	B 3 d4	N-23°-W	円形	0.48 × 0.46	26	外傾	平坦	自然		
118	B 3 f4	N-1°-E	橢円形	0.57 × 0.44	28	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
119	B 3 d6	N-45°-E	橢円形	0.92 × 0.56	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
120	B 3 e5	N-46°-E	橢円形	0.69 × 0.62	14	緩斜	平坦	自然	土師器片	

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (重複関係 古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
121	B 3 h3	N-22°-E	楕円形	1.24 × 1.07	56	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
122	B 3 f7	N-26°-E	楕円形	0.32 × 0.25	38	直立	平坦	人為		
123	B 3 f8	N-4°-E	楕円形	0.35 × 0.23	29	外傾	平坦	人為		
124	B 3 f8	N-67°-W	楕円形	0.32 × 0.30	37	外傾	平坦	人為		
125	B 3 f9	N-0°	円形	0.24 × 0.22	15	外傾	平坦	不明		
126	B 3 f0	N-24°-W	楕円形	0.30 × 0.25	12	外傾	平坦	不明		
127	B 3 g9	N-82°-W	楕円形	0.29 × 0.23	36	外傾	傾斜	人為		
128	C 6 b1	N-28°-W	楕円形	0.54 × 0.32	6	外傾	平坦	不明		
130	C 6 c2	N-34°-W	楕円形	0.94 × 0.76	32	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
131	B 3 e6	N-58°-W	楕円形	1.50 × 0.74	[32]	外傾	平坦	自然		S I 51→本跡
132	B 3 c2	N-41°-W	楕円形	0.42 × 0.36	27	外傾	平坦	自然		
133	B 3 c2	N-55°-E	楕円形	0.38 × 0.32	30	外傾	平坦	自然		
134	B 3 b2	N-17°-E	楕円形	0.59 × 0.53	28	外傾	平坦	自然	土師器片	
135	B 3 d5	N-4°-E	楕円形	0.62 × 0.54	46	外傾	平坦	人為		
136	B 3 f5	N-35°-W	隅丸方形	0.50 × 0.48	12	外傾	平坦	自然		

(2) 遺物包含層 (第113・114図)

調査区西部は標高18mの低地である。現況は湿地帯及び宅地である。遺構の有無を確認するため、南北方向2本、東西方向2本の試掘坑(幅1.5m, 長さ10~30m)を設定し、試掘調査を行った。深さ1~1.5mほど掘り下げた時点で著しく湧水したため、以後の調査を断念した。古代の遺構は確認できなかった。以下、これらの調査結果及び土層解説について記載する。

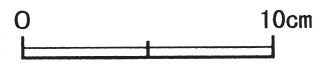
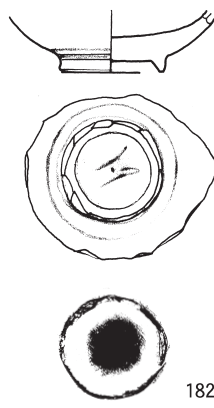
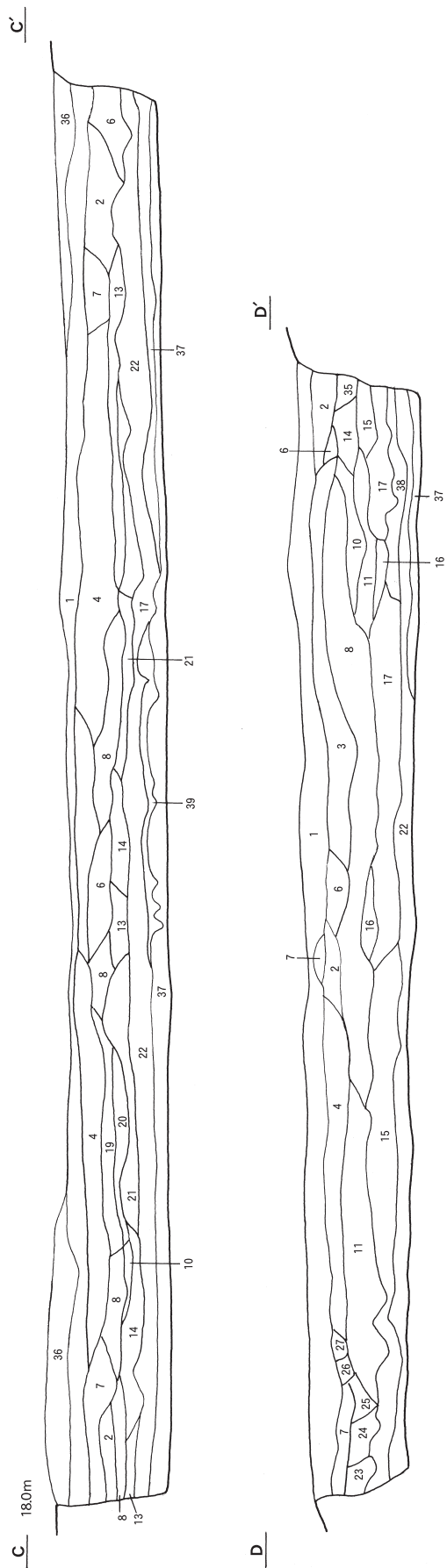
土層解説

1	黒褐色	鉄分・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	27	黄灰色	鉄分・炭化物少量
2	黄灰色	鉄分中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	28	暗オレンジ褐色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗灰黄色	鉄分中量, ローム粒子・炭化粒子微量	29	暗褐色	鉄分少量, 炭化粒子微量
4	黄灰色	鉄分中量, ローム粒子・炭化粒子微量	30	黄灰色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗灰黄色	鉄分多量, ローム粒子・粘土粒子微量	31	黒褐色	鉄分少量, 炭化物・粘土ブロック微量
6	暗灰黄色	鉄分少量, ローム粒子・粘土粒子微量	32	オレンジ褐色	鉄分少量, 炭化物微量
7	暗灰黄色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子微量	33	黄灰色	鉄分少量, 炭化物・砂粒微量
8	黒褐色	鉄分少量, 炭化粒子微量	34	黒褐色	鉄分・炭化粒子少量, 砂粒微量
9	黒褐色	鉄分・炭化粒子・粘土粒子微量	35	黄灰色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
10	黒褐色	鉄分中量, 炭化粒子微量	36	黄灰色	鉄分・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
11	暗灰黄色	鉄分中量, 炭化粒子微量	37	灰色	粘土粒子少量, 鉄分・炭化粒子微量
12	黄灰色	鉄分少量	38	灰色	鉄分・炭化粒子微量
13	黄灰色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子微量	39	灰色	鉄分・炭化粒子・砂粒微量
14	黒褐色	鉄分中量, 炭化粒子微量	40	灰褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
15	黄灰色	鉄分少量, 炭化粒子微量	41	暗褐色	鉄分・ローム粒子・焼土粒子微量
16	暗灰黄色	鉄分少量, 炭化粒子微量	42	暗褐色	鉄分少量, ローム粒子・炭化粒子微量
17	黄灰色	鉄分中量, 炭化粒子・砂粒微量	43	黒褐色	鉄分中量, ローム粒子・炭化粒子微量
18	暗灰黄色	鉄分中量, 炭化物微量	44	暗褐色	鉄分中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
19	暗灰黄色	鉄分少量, 炭化物微量			
20	黄灰色	鉄分少量, 炭化物微量	45	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
21	黒褐色	鉄分多量, 炭化粒子微量	46	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
22	灰色	鉄分多量, ローム粒子微量	47	褐色	鉄分・砂粒中量
23	黄灰色	鉄分少量	48	灰色	砂粒多量, 鉄分少量
24	黒褐色	鉄分少量	49	黒褐色	鉄分・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
25	黄灰色	鉄分少量, 粘土ブロック微量	50	褐色	砂粒多量
26	黄灰色	鉄分少量, ロームブロック微量			

50層に分けられる。第22層は鉄分を多量に含み、水平に堆積していることから、鋤床の可能性が考えられる。第37・39層からは近世の陶器片8点(碗7, 挿鉢1), 磁器片1点(碗), 瓦7点(平瓦)が出土している。このことから、近世以降水田として利用され、その後、休耕地もしくは湿地帯となったものと考えられる。

第113图 湿地带实测图





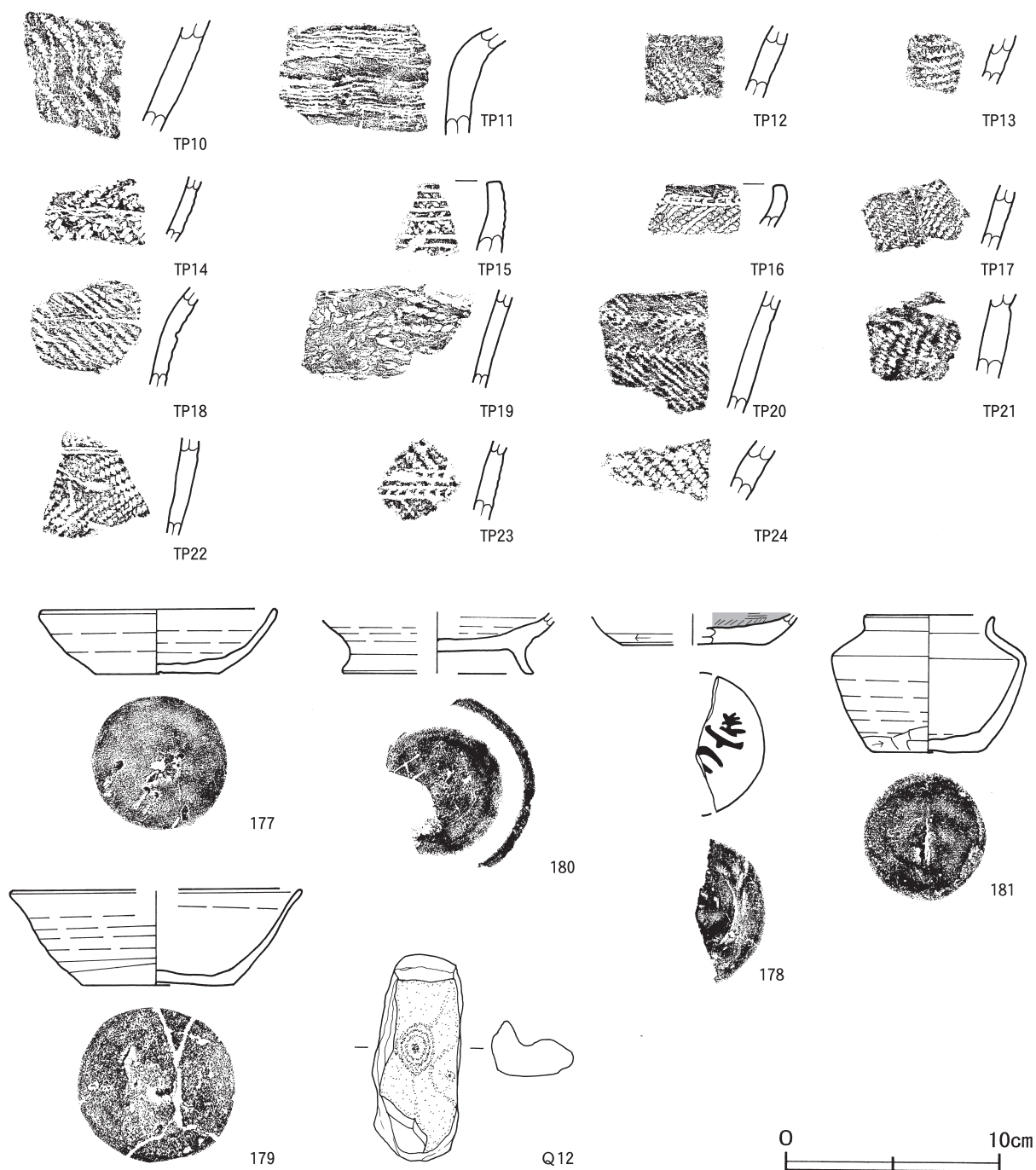
第114图 湿地帯・出土遺物実測図

湿地帯出土遺物観察表（第114図）

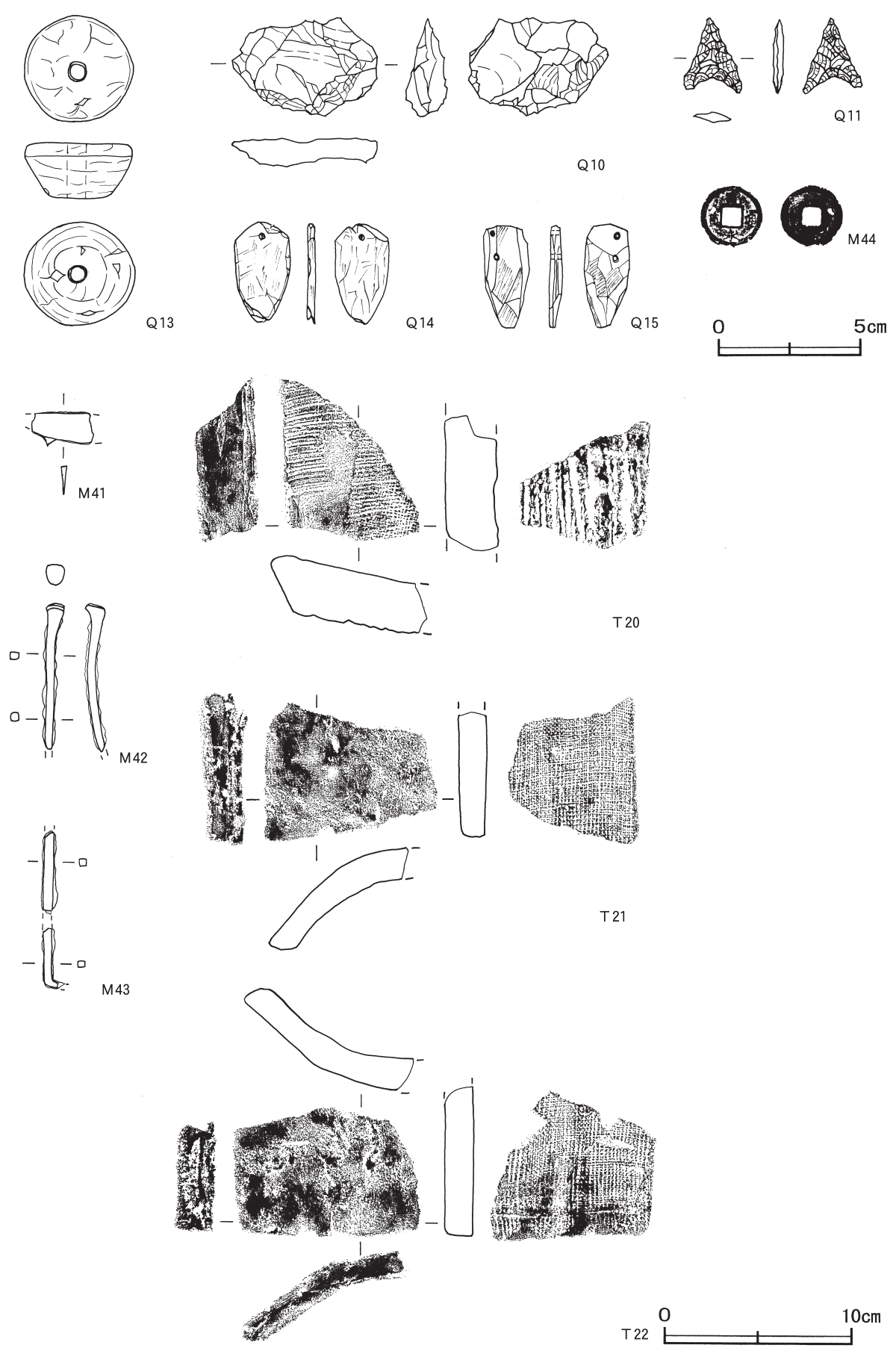
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
182	磁器	碗	—	(2.5)	4.0	緻密	明緑灰	良好	体部外面下端・底部染付	覆土中	30%
183	陶器	碗	—	(3.5)	[4.9]	緻密	にぶい黄橙	良好	ロクロ成形 内・外面施釉	覆土中	25%

(3) 遺構外出土遺物（第115・116図）

今回の調査で、出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。



第115図 遺構外出土遺物実測図(1)



第116図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第115・116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	連続する波状貝殻文	S I 6	P L 32
TP11	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	櫛歯状工具による横走する集合沈線文	S I 21	
TP12	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	長石・石英	明褐	普通	単節斜縄文	S I 22	
TP13	縄文土器	深鉢	—	(2.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	羽状文	S I 22	P L 32
TP14	縄文土器	深鉢	—	(2.9)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	羽状構成の単節斜状文	S I 37	
TP15	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文は撚糸 単節縄文 半截竹管による平行沈線文	S I 37	
TP16	縄文土器	深鉢	—	(2.0)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	付加縄文 半截竹管による結節文	試掘	P L 32
TP17	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文を縦に施す	表土	P L 32
TP18	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	無節縄文	試掘	P L 32
TP19	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文は撚糸文	試掘	P L 32
TP20	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	羽状文	試掘	P L 32
TP21	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	羽状構成の単節斜縄文	試掘	
TP22	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英・雲母	明褐	普通	単節斜縄文 半截竹管による平行沈線	試掘	
TP23	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	単節斜縄文 半截竹管による結節文	試掘	
TP24	縄文土器	深鉢	—	(2.7)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	単節斜縄文	表土	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
177	土師器	坏	10.9	3.0	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	試掘	90% P L 18
178	土師器	坏	—	(1.5)	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 内面ヘラ磨き	表土	20% P L 18 墨書土器「口家」
179	須恵器	坏	[13.5]	4.4	7.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	試掘	70% P L 18
180	須恵器	高台付坏	—	(2.9)	[9.0]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	表土	35% P L 18 刻書土器「口」
181	須恵器	小形短頸壺	6.0	6.4	5.3	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロ成形 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	試掘	80% P L 24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	剥片	3.5	5.2	1.5	20.7	瑪瑙	横長剥片 打面は単剥離打面 背面に礫面を残す	S I 20	P L 32
Q11	石鏃	2.6	1.9	0.4	1.4	黒曜石	凹基無茎鏃 表裏押圧剥離	表土	P L 32
Q12	凹石	9.6	4.2	2.6	141.6	雲母片岩	表面2孔	表土	P L 30
Q13	紡錘車	3.9	2.0	0.6	45.8	滑石	円錐台形 全面研磨 一方向からの穿孔	試掘	P L 25
Q14	石製模造品	3.5	1.9	0.3	4.3	滑石	剣形 孔径0.2cm 全面研磨 一方向からの穿孔	表土	P L 32
Q15	石製模造品	3.7	1.7	0.5	4.2	滑石	剣形 孔径0.2cm 全面研磨 穿孔2か所 一方向からの穿孔	S D 1	P L 32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	刀子	(3.4)	(1.6)	0.2	(2.3)	鉄	切先部・茎部欠損	表土	P L 31
M42	釘	(7.8)	1.0	0.4	(7.0)	鉄	脚部一部欠損 断面方形	表土	P L 31
M43	釘	(8.2)	(0.45)	0.3~0.4	(7.0)	鉄	頭部・脚部一部欠損 断面方形	表土	P L 31

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M44	寛永通寶	2.2	0.66	0.08	1.4	銅	初鑄年1656年 古寛永 無背文	S I 16	P L 32

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
T20	平瓦	(9.1)	(8.3)	2.8	(216.0)	長石・石英・雲母	褐灰	普通	凸面長縄叩き 凹面布目痕	S K 75	P L 29
T21	丸瓦	(7.7)	(7.4)	1.4	(138.4)	長石・石英・雲母	灰	普通	凸面ヘラ削り・ナデ調整 凹面布目痕	試掘	P L 29
T22	丸瓦	(8.0)	(9.3)	1.6	(177.7)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	凸面ヘラ削り 凹面布目痕	試掘	P L 29

第5節 ま と め

1 はじめに

当遺跡の調査は、平成18年6月から11月にかけて実施され、竪穴住居跡57軒、掘立柱建物跡1棟、陥し穴2基、土坑134基、溝跡2条などが確認されている。これまでの調査結果から、当遺跡は古墳時代後期から平安時代を中心とする複合遺跡であることが判明している。

ここでは、各時代の遺構と遺物についての概要を述べ、遺跡全体における古代の様相について若干の考察を加えてまとめとしたい。

2 集落の変遷

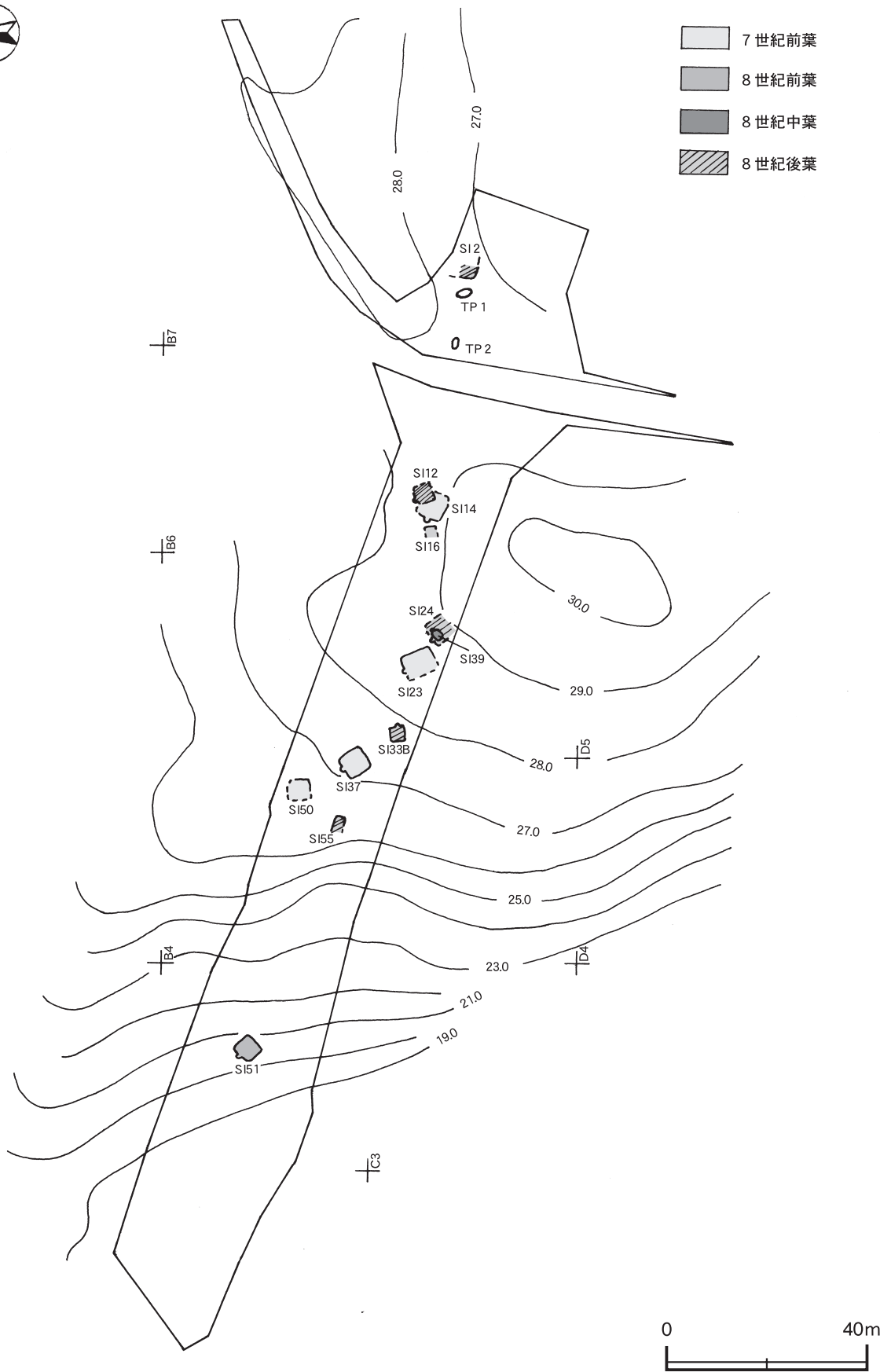
(1) 縄文時代（第117図）

調査区東部、標高27～27.5mの傾斜面部に陥し穴2基が確認されている。平面形はいずれも楕円形を呈し、関東地方においては、縄文時代早期末～前期に盛行するタイプである¹⁾。一方、調査区中央部から西部にかけては、黒浜式土器や浮島式土器などが出土している。これらの土器はただちに当遺跡の陥し穴の時期を示すものではないが、陥し穴が形成された時期を考える上で、貴重な資料となる。地形的には、調査区のすぐ南側に八瀬川が位置し、低湿地へと連続する地形を形成していることから、水場間を移動する動物を意識しての配置と推測される。長軸方向は、第1号陥し穴が等高線に対して直交、第2号陥し穴は等高線に対して平行に配置されている。これら軸線の違いは単に時期差ではなく、当遺跡周辺の動物の行動を示すものと考えられる。

また、遺構外出土遺物として黒曜石製の無茎石鏃が採集されていることから、当遺跡周辺は狩猟の場となっていたと想定される。

(2) 古墳時代（第117図）

当遺跡に集落が出現する時期であり、第14・23・37・50号住居跡の4軒が該当する。時期は、いずれも7世紀前葉で、調査区中央部の台地平坦部に7～25mの距離を置いて分布している。出土遺物に大きな差が認められないことから、各住居が一つの単位群を形成していたと考えられる。平面形は、方形もしくは長方形で、主軸方向は、おおむね北から西方向である。竈は第14号住居跡が西壁に、その他はすべて北壁の中央部に付設されている。規模は4～7mの中形を基本としており、第14・50号住居跡については、床面に支柱穴を確認できない点で共通している。壁溝は、第50号住居跡を除いて、全周している。これらの住居跡は、北に開口した半円形の配列形態を示しているが、当該期の集落はさらに北方に広がる可能性がある。出土遺物の大半は土師器片で、他に少量ながら須恵器片、土製品（支脚）、石製品（砥石）、鉄製品（鏃）が出土している。土師器は坏・甕・甑・鉢などの器種が認められ、竈やピット周辺から出土する事例が比較的多く見られる。第14号住居跡からは、頸部外面に波状文を施した須恵器甕が出土しており、西竈の住居形態や豊富な遺物量と相まって当集落の中心的な住居であったと考えられる。また、第37号住居跡は当該期で唯一の焼失住居である。床面にほとんど土器類が認められないことや焼失後、人為的に埋め戻した痕跡が認められることから、周囲の住居に留意した忌避的・意図的な放火を推測させる事例である。



第117図 宿畑遺跡集落変遷図(1)

(3) 奈良時代 (第117図)

小規模ながら断続的に集落が営まれる時期であり、第2・12・16・24・33B・39・51・55号住居跡の8軒が該当する。時期別に見ると、8世紀前葉1軒、8世紀中葉1軒、8世紀後葉6軒で、住居は散在的に分布している。平面形は、方形もしくは長方形で、主軸方向は、北西から北東方向でばらつきが見られる。竈は第39号住居跡が東壁中央部、第51号住居跡が西壁中央部に付設され、その他は不明である。これら主軸方向のばらつきは、住居形態の大きな変化とも捉えることができる。規模は2～5mの小形及び中形の住居で、前代よりも規模が縮小化し、支柱穴や出入り口施設が確認されない住居が大半を占めている。

この時代における集落の初現は、第51号住居跡である。調査区西部の低地部に単独で確認され、竈、4か所の支柱穴、出入り口施設に伴うピット、壁溝といった主要な内部施設を備えている。出土遺物も卓越しており、土師器片や須恵器片、石製品（砥石）などが豊富に出土している。なかでも特筆されるのは、手捏土器5点のほか、手捏系の小形甕、皿、刷毛目調整の甕など異質な遺物が出土している点である。本跡は、住居の分布が希薄な低地部に位置しており、集落単位の祭祀の場であった可能性も考えられる。

その後、集落は8世紀中葉から後葉にかけて、調査区中央部の台地平坦部及び東部の緩斜面部に展開する。各遺構の様相については、遺物がほとんど出土していないため明確ではない。

(4) 平安時代 (第118図)

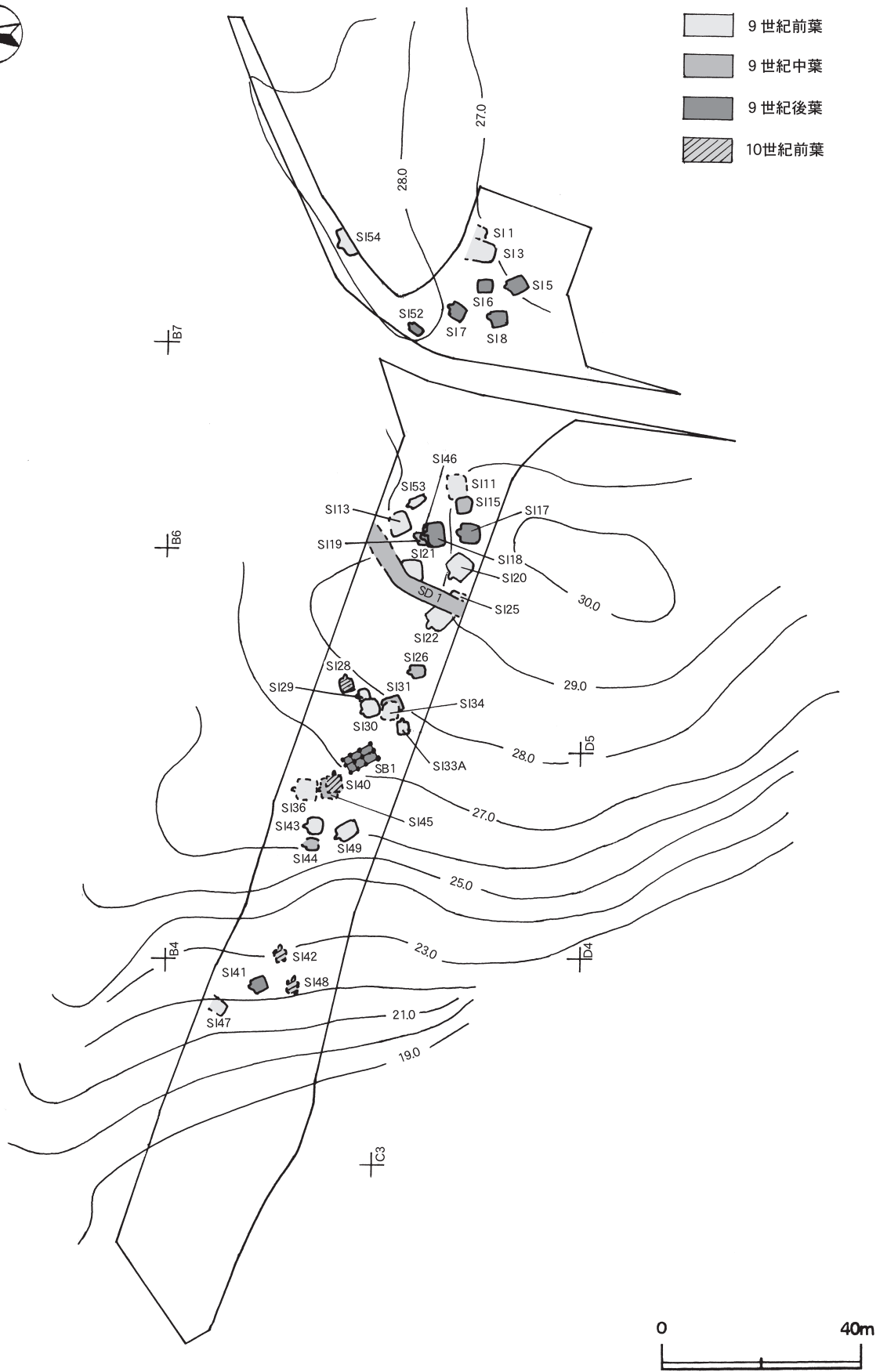
住居跡40軒が該当する。集落の規模は、9世紀前葉に急速に拡大し、その後衰退の一途をたどり、10世紀前葉に終焉を迎える。

9世紀前葉の遺構は、調査区中央部に集中して確認されており、住居跡18軒が該当する。住居の主軸方向は、第33A・47号住居跡を除いてほぼ北に統一されている。規模は2～4.5mの小形及び中形の住居で、前代を引き継いでいる。平面形は長方形で、支柱穴や壁溝といった内部施設は確認されない傾向にある。これらの住居跡は円形もしくは半円形の配列形態を示す3つのグループで構成されている。第1群は、調査区東部に展開する第1・3・54号住居跡で、いずれも壁溝を有している点で共通している。第54号住居跡からは須恵器の大甕や壺Gなどが出土しており、規模や豊富な遺物量と相まって当単位群の中心的な住居であったと考えられる。第2群は、調査区中央部に展開する第11・13・20・21・22・25・53号住居跡で、ほぼ円形の配列形態を示す可能性がある。この単位群の住居からは、土師器の坏・高台付椀・甕・手捏土器、須恵器の坏・高台付坏・盤・高盤・蓋・小形短頸壺などが出土しており、竈周辺や各壁際からの出土が比較的多く見られる。特に蓋や盤が8世紀後葉の遺物と共伴して出土している点が特徴で、中には硯に転用したものも認められる。また、第21号住居跡からは、竈とともに粘土で構築された小形の炉が確認されており、工房跡の可能性も想定される。遺物としては、刀子などの鉄製品のほかに椀状滓や砥石、県内では類例を見ない異質な形状の須恵器・灯明皿などが出土している。本跡から粒状滓や鍛造剥片など鍛錬鍛冶（小鍛冶）に伴う遺物を確認することはできないが、当遺跡からは羽口のほかに2kgを超える鉄滓や椀状滓が採集されており、周辺で精錬鍛冶（大鍛冶）を行っていたことを示している。本跡は、須恵器の出土量からも比較的裕福であったことが推測され、これら中央部に位置する一群は鉄製品の生産を中心とした手工業に関わる工房的な要素の強い集団とも考えられる。第3群は、調査区中央部西側に展開する第29・30・33A・34・36・43・49号住居跡である。第2群同様、北もしくは南に開口した半円形または円形の配列形態を示している。この単位群の住居からは土師器の坏・高台付椀・高台付皿・甕、須恵器の坏・高台付坏・盤・高盤・蓋・甌などが出土している。調査区中央部東側に位置する第29号

住居跡からは、須恵器坏の側面に「山田丙」と記された墨書土器が出土している。「山田」は当遺跡の所在する旧八郷町に隣接する真壁郡伊讚郷に存在する地名の可能性が考えられる²⁾。本跡からは、ほかにも竈前面の床面から馬骨・馬歯が出土している。生き馬の奉納は、『常陸国風土記』や『続日本記』などの古文献にも実に多くの記事が見える³⁾。記事には、暴風雨を鎮める呪術儀礼として、さらには雨乞いや日乞いのための呪術儀礼として神馬の献上が行われたことが記されており、当遺跡においても神仏への奉納物として献上されたことが考えられる。隣接する第30号住居跡からは、須恵器の灯明皿とともに須恵器の坏の側面に「水」、盤の底面に「一休」と記された墨書土器も出土しており、その関連性が想定される。また、当該期に出土した鉄製品の大半はこの一群に集中しており、この集団による鉄製品の集中保有という状況が考えられる。調査区中央部西側に位置する第49号住居跡から奢侈品である緑釉陶器の段皿が出土していることと合わせて実力者の存在もうかがい知ることができる。

9世紀中葉の遺構は、調査区中央部で確認されており、第15・19・26・31・44・45号住居跡の6軒と第1号溝跡が該当する。住居の主軸方向は、第19号住居跡を除いてほぼ北に統一されている。規模は2.5～4mで前代よりもやや縮小化されている。平面形は第31号住居跡を除いていずれも方形で、支柱穴や壁溝などの内部施設は確認されていない。これらの住居跡は、2軒の住居を単位群として20～25mのほぼ一定の距離を置いて分布している。第1群は、調査区中央部東側に展開する第15・19号住居跡である。第19号住居跡はコーナー竈を有しており、竈の補強材として使用された丸瓦のほか、刀子や砥石等が出土している。また、隣接する第15号住居跡は、当該期の住居の中で唯一壁溝が全周しており、構造的な様相の違いを示している。スロープ状の出入り口を持ち、竈を有しない構造や出土遺物が少ないことと合わせて、第19号住居跡の居住者が所有する倉庫の可能性も考えられる。第2群は、調査区中央部の第26・31号住居跡である。第26号住居跡からは、土師器の高台付椀、須恵器の坏のほかに灰釉陶器片2点が出土している。隣接する第31号住居跡は、平面形が長方形で竈の両側に棚状施設を有している。第3群は、調査区中央部西側の第44・45号住居跡である。第44号住居跡からは、須恵器の小壺が出土している。この住居跡から出土した遺物は、仏教的な要素を印象付けるものであり、僧尼の存在が想定される。

続く9世紀後葉の遺構は、調査区東部に集中して確認されており、住居跡9軒と掘立柱建物跡1棟が該当する。住居の主軸方向はほぼ北に統一され、規模は2～4.5mで前代とほぼ同様の傾向を示している。平面形は方形ないし長方形で、支柱穴や壁溝などの内部施設が確認されるものも一部認められる。この時期で特に注目すべき点は竈の構造であり、補強材として竈の袖部に^{せん}磚や瓦を埋め込んだ事例が明確に認められる。第17号住居跡は、竈左側に棚状施設を有する住居形態で、竈右袖内から磚、左袖内から丸瓦が検出されている。そのほかにも、第5号住居跡の竈奥壁から平瓦、第52号住居跡の東壁際から磚、第16・18号住居跡の竈前面から平瓦や丸瓦がそれぞれ検出されている。いずれも焼土が付着し、熱を受けた痕跡が認められることから竈の補強材に使用された可能性がある。遺物としては、土師器の供膳具・煮炊具が中心となり、各住居で坏・高台付椀・高台付皿・小形甕などの器種が共通して認められる。一方、第17号住居跡においては、東海地方からの搬入品と考えられる灰釉陶器・手付瓶が出土している。手付瓶は、仏具の一つで、仏・菩薩に浄水を供える供養のための道具として用いられたものである。また、上・側面に「大」と線刻された石製紡錘車の出土と合わせて仏教的な要素を印象付けるものであり、僧尼や富裕層の存在がうかがえる。墨書土器の出土例も多く見られ、第18号住居跡から土師器坏2点、高台付椀1点、高台付皿2点の墨書土器、第46号住居跡から高台付皿1点の墨書土器がそれぞれ出土している。墨書の内容は「九」・「家」・「住」・「二住」・「三仗」など数量や施設・建物などを示す文字が目立つ。遺物量が卓越し



第118図 宿畑遺跡集落変遷図(2)

ていることと合わせて富裕層の存在がうかがえる。また、鉄製品の出土例も見られ、第5号住居跡から不明輪状鉄製品、第52号住居跡や第18号住居跡から刀子、鎌などが出土している。第8・41号住居跡からは羽口が出土しており、集落全体が鉄製品の生産を中心とした手工業との深い結びつきを示すといえる。

調査区中央部西側に位置する第1号掘立柱建物跡は、西側に信仰・遊楽の山「筑波山」を眺望できる見晴らしのよい場所に検出されている。遺跡の空白域に位置し、調査区東部の住居群とは一線を置いた印象を受ける。本跡は、3間×2間の総柱式の建物で特に庇もなく、柱穴の掘り方も素掘りのものである。本跡に伴う遺物が少ないため性格について断言することは出来ないが、集落が近接していることや立地、配置、周囲から出土した遺物から想定して、寺院的な建物の可能性も考えられる。

10世紀前葉の遺構は、調査区中央部西側から調査区西部で確認されており、第28・40・42・48号住居跡の4軒が該当する。住居の主軸方向は、東に統一されている。規模は2.5～3mほどで小形を基本としている。平面形は方形もしくは若干縦長の長方形で、支柱穴や出入り口に伴う施設、壁溝などの内部施設は確認されない。これらの住居跡は2軒ほどの住居を単位群として、30mほどの距離を置いて分布している。第1群は、調査区中央部に展開する第28・40号住居跡である。第28号住居跡は、前代に引き続く竈の構造であり、補強材として竈の袖部に丸瓦を埋め込んでいる。奢侈品である灰釉陶器の皿が出土しており、引き続き富裕層の存在がうかがえる。第2群は、調査区西部の低地に展開する第42・48号住居跡である。いずれも床面が露出した状態で検出されており、明確な特徴を導き出すことはできない。

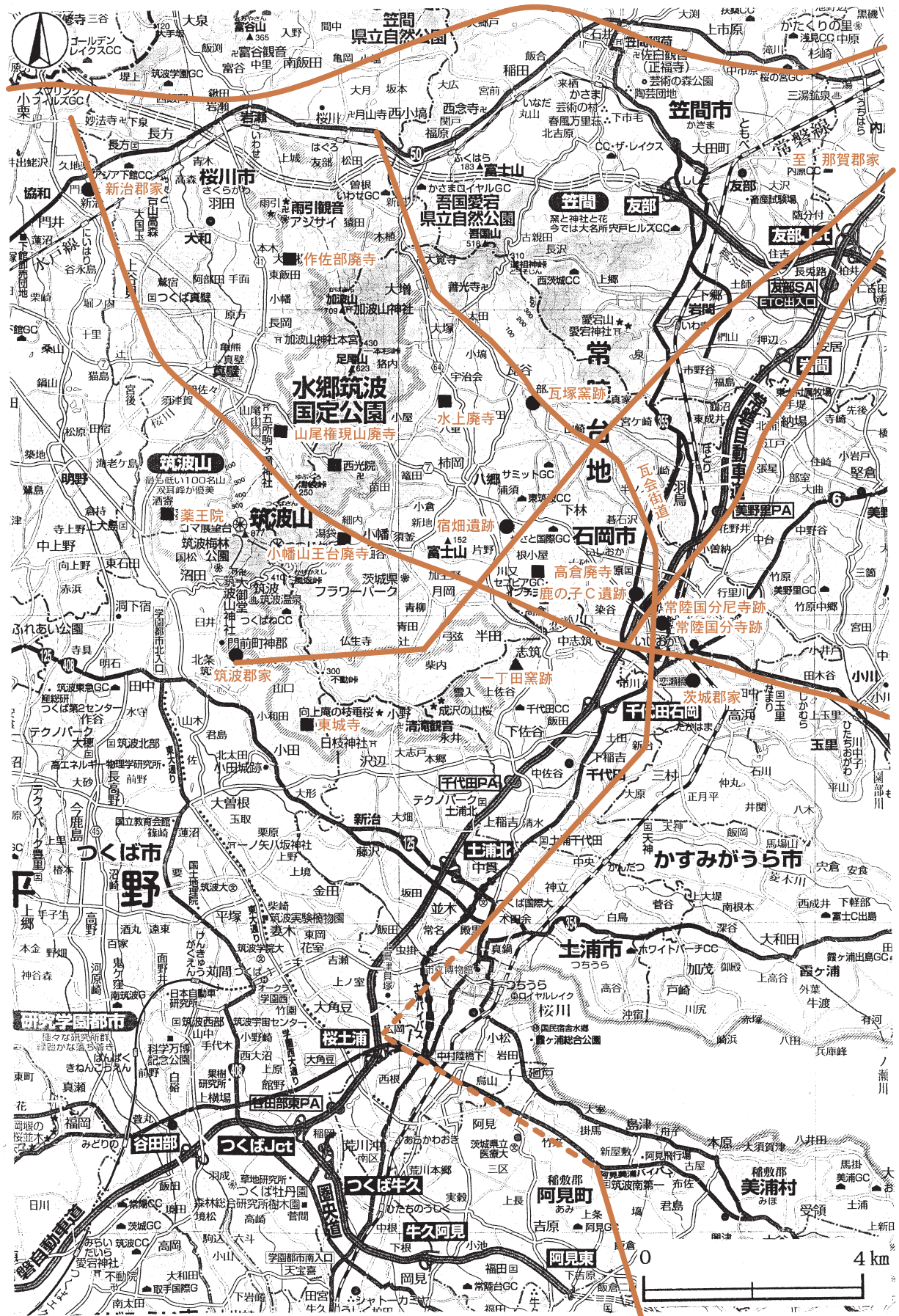
10世紀前葉以降の遺構・遺物は確認されていないことから、7世紀前葉以降断続的に営まれてきた古代の集落は10世紀前葉をもって断絶したと考えられる。

3 遺物について

(1) 瓦・埴^{せん}

今回の調査で破片数を含めて瓦51点（平瓦26、丸瓦25）と埴^{せん}2点が出土している（第120図）。1遺跡からこれだけの瓦が出土することは、当遺跡の性格を物語る資料の一つである。市内において瓦が出土している遺跡を見ると、常陸国府跡、常陸国分寺跡、常陸国分尼寺跡、茨城廃寺跡、鹿の子C遺跡など歴史的に価値の高い場所が多い⁴⁾。このうち常陸国府跡の工房施設と考えられる鹿の子C遺跡においては、瓦による竈補強や支脚転用事例が6例認められている⁵⁾。鹿の子C遺跡には、瓦葺き建物が存在していたわけではなく、瓦の多くが破片であることから、屋根工事の際に破損した瓦を運んで利用したものと考えられる。当遺跡の瓦の使用法としては、明らかに竈の補強材として使用していた住居跡が3軒確認できる。また、全破片のうち47点が竪穴住居跡の竈袖部もしくは竈周辺から出土しており、焼土付着もしくは熱を受けた痕跡から竈の補強材として使用されたものと考えられる。これらの瓦類が出土した遺構を時期別に見ると、9世紀前葉25%、9世紀中葉16.7%、9世紀後葉62.5%、10世紀前葉25%となっており、9世紀後葉が最も高い数値を示している。このことから、当遺跡における瓦や埴による竈補強は9世紀前葉にはじまり、集落の断絶する10世紀前葉まで続けられたことが想定される。これは同じ茨城郡に所在する茨城廃寺跡や常陸国府跡、常陸国分寺跡、常陸国分尼寺跡の修復時期と一致しており、興味深い傾向といえる。

出土した平瓦の製作技法を見てみると、いずれも凸面長縄叩き、凹面布目痕の一枚作りであり、凹面に糸切り痕を残しているものも認められる。また、側縁や端縁をヘラ削りによって丁寧に面取り調整している瓦が多い。丸瓦については、凸面に縦方向のヘラ削りやナデ調整、凹面に布目痕や糸切り痕を残している。いずれも粘土板一枚作りによるもので、玉縁付である。埴については、多方向にヘラ削りやナデ調整



第119図 古代道路関連図

が施されている。表面の傷みや摩耗も少ないことから、建物の下面に敷設された可能性は低い。製作技法からすると、これらの瓦類や埴は常陸国分寺跡出土のものと同様の特徴を示している。また、当遺跡の北方約2.5kmには、常陸国分寺跡の修復瓦を生産していた瓦塚窯跡が所在しており、その貴重な存在から当遺跡に持ち込まれ、利用された可能性も考えられる。瓦塚窯跡第2号跡においては、直立する煙道部の先端を埴の完形品数個を交互に組み合わせて完全にふさぎ、さらに燃焼部の入り口付近においても埴・平瓦の完形品、あるいは瓦類の破片を積み重ね完全に閉塞されている事例が見られる⁶⁾。瓦や埴の二次的利用されている好例である。以上のことから、当遺跡は常陸国分寺跡もしくは瓦塚窯跡と密接な関係を持っていたことがうかがわれる。

次に問題となるのは瓦の流通経路であるが、想定できる3つのルートを示したい(第119図)。一つは常陸国分寺跡から直接的に持ち込まれるルートである。この場合、常陸国分寺跡から常陸国府跡を経由し、筑波郡家から那賀郡家に至る伝路を通して当遺跡に持ち込まれるケースが想定され、当遺跡の居住者が常陸国分寺跡と関連のある僧尼となる。二つ目は瓦塚窯跡から直接的に持ち込まれるルートである。この場合、筑波郡家から那賀郡家に至る伝路を経由して当遺跡に持ち込まれるケースが想定され、当遺跡の居住者が常陸国分寺跡と関連のある官人や僧尼、もしくは瓦塚窯跡の瓦生産に関わった人々となる。三つ目は瓦塚窯跡から国分寺跡に瓦を運搬した道路から瓦を持ち込んだケースである。この道路は、地元の人々に瓦会街道とも宇都宮街道とも称されている山道で、石岡市の尼寺に隣接する地点から、碓氷沢―南山崎―加良寿里の台地上を通り瓦会に達している。道幅は近年まで馬車道程のものであったが、現在は農面道路となって拡張され、当時を思わせるような雰囲気は失われている⁷⁾。この道筋にある山林や畑等からは古瓦の破片が多数発見されており、この場所から拾った瓦を持ち込んだケースも考えられる。

(2) 線刻紡錘車

今回の調査で線刻紡錘車が2点出土している。最近の研究で、線刻紡錘車は、古代村落に暮らす民衆の仏教をはじめとする信仰と深く結びついているという見解がある⁸⁾。それぞれの線刻紡錘車が具体的に仏教的な何に用いられたのかを明らかにすることは困難であるが、その可能性の一つは、紡織に関する儀礼に用いられたとするものである。線刻紡錘車は、現在までのところ、全国的に見ても出土範囲が非常に限定されており、京都府長岡京跡右京六条二坊七坪出土の資料と岩手県水沢市伯濟寺遺跡出土の資料2点以外は、ほぼ関東地方のみに限られている。とりわけ上野国南西部から武蔵国北西中部にかけての地域を中心に集中して出土する極めて局所的な分布を呈する遺物である⁹⁾。常陸国内では土製・石製を含めて、管見の範囲では25遺跡39例が挙げられる。内訳は、鋸歯文や直弧文、蓮華文などの文様12例、文字が15例、放射状の線刻12例である。記号の記されたものは今のところ見当たらない(表10)。

線刻紡錘車は、いずれも第17号住居跡の床面から出土している(第120図)。本跡は調査区中央部に位置し、長軸4.08m、短軸4.06mの方形を示す中形の住居跡である。竈袖部には丸瓦や埴が埋め込まれて補強されており、竈脇には棚状施設を有している。遺物は土師器や須恵器のほかに、東海地方からの搬入品と考えられる灰釉陶器・手付瓶が出土しており、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。時期は、出土土器から9世紀後葉に位置付けられる。

出土した線刻紡錘車は、土製品と石製品である。土製紡錘車は、径6.0～6.2cm、厚さ1.5cm、孔径0.8～1.8cm、重さ55.3gを測る。西壁際の床面から出土しており、上面に「×」の記号が施されている。これと同様の事例としては、千葉県佐原市長部山遺跡、栃木県小山市寺野東遺跡、群馬県多野郡矢田遺跡Ⅰで

見られる程度であり、県内では初めてとなる。この記号は墨書土器の研究成果からすれば、集落内の構成員や文字を理解できる集団内において共通に認識されていたものであり、ある種文字と同等の意味を成すものであると考えられている¹⁰⁾。当遺跡においても、第2号土坑で同様の刻書土器が出土しており、関連性が想定される。一方、石製紡錘車は材質が粘板岩（頁岩）で、径4.8～5.1cm、厚さ1.9cm、孔径0.8cm、重量は61.4gを測る。中央部の床面から出土しており、「大」の文字が上面に3つほぼ均等の間隔を空けて配列されており、幅2mm、深さ2mmの孔を4か所穿つ。また、側面にも「大」の文字が施されている。これに類似した事例としては、常陸国においては水戸市梶内遺跡、そのほか栃木県上三川町多功南原遺跡、群馬県高崎市熊野堂Ⅱ遺跡、群馬県多野郡矢田遺跡Ⅰ、埼玉県児玉郡若宮台遺跡や阿知越遺跡で見られる程度である。この線刻紡錘車は、養蚕・紡錘・機織を含めた養蚕事業における生産向上を願った結果であり、所有者にとっては祈りを込めた一つの道具としての意味をもったものと考えられる。本跡からは、ほかに須恵器の高台付坏の底部に「大」と記された刻書土器が出土しており、関連性が想定される。

以上、当遺跡の線刻紡錘車について若干の考察を試みた。常陸国における線刻紡錘車の出土している遺跡は、古墳時代においては滑石工房跡などを含む生産遺跡や祭祀遺跡、古代においては官衙関連遺跡や寺院関連遺跡に属している。紡錘車に文字などの先進知識の影響を受けた線刻が施された背景には、官衙・寺院に関わる官人・僧侶からの影響や、官衙・寺院の建立あるいはその組織の維持に関わる工人などの影響が考えられる。そして、当遺跡も先進文化をいち早く取り入れることのできる環境にあったものと考えられる。

表10 茨城県内遺跡出土線刻紡錘車一覧

文様							
NO	遺跡名	所在地	遺構	材質	線刻面	線刻内容	年代
1	向原遺跡	土浦市	S I 26	滑石	側面	鋸歯文	5世紀代
2	大賀立野遺跡	行方市	S I 54	滑石	全面	鋸歯文	6世紀後葉
3	善長寺遺跡	結城市	S I 55	石製	全面	直弧文	6世紀代
4	八幡下遺跡	土浦市	遺構外	石製	全面	鋸歯文	—
5	白石遺跡	水戸市	S I 1	粘板岩	下・側面	花卉文・鋸歯文	7世紀前葉
6	白石遺跡	水戸市	S I 6	土師器甕転用	底面	花文	9世紀前葉
7	幸田台遺跡	稲敷市	S I 157	土製	上・側面	蓮華文	9世紀後葉
8	島名ツバタ遺跡	つくば市	S I 35	滑石	下面	鋸歯文	5世紀後葉
9	辰海道遺跡2	桜川市	S I 672	頁岩	側面	放射状	6世紀後葉
10	辰海道遺跡2	桜川市	第9号方形	滑石	上面	斜格子文	8世紀以降
11	辰海道遺跡2	桜川市	S I 607	滑石	下・側面	鋸歯文	8世紀前葉
12	馬場遺跡	牛久市	S I 7	滑石	全面	格子文	6世紀代
13	島名熊の山遺跡	つくば市	S I 2202	粘板岩	下・側面	鋸歯文	7世紀前葉
14	島名熊の山遺跡	つくば市	S I 2208	粘板岩	上・側面	線刻	8世紀後葉
15	島名熊の山遺跡	つくば市	S I 2042	蛇紋岩	全面	放射状	7世紀前葉以降
16	下大井遺跡	稲敷市	S I 27	滑石	上面	放射状	9世紀前葉
17	下大井遺跡	稲敷市	S I 27	滑石	側面	「キ」状	9世紀前葉
18	鍋山東原遺跡	つくば市	TM 2	滑石	上・下面	線刻	5世紀後葉
19	鍋山東原遺跡	つくば市	TM 2	滑石	上面	放射状	5世紀後葉
20	大戸下郷2遺跡	茨城町	S I 121	滑石	全面	線刻	8世紀後葉
21	犬田神社前遺跡	桜川市	S I 154	蛇紋岩	全面	線刻	8世紀中葉
22	大塚遺跡	茨城町	S I 23	滑石	上・下面	線刻	9世紀中葉
23	島名前野東遺跡	つくば市	S I 96	滑石	上面	線刻	5世紀後葉

文字

NO	遺跡名	所在地	遺構	材質	線刻面	線刻内容	年代
1	木工台遺跡	行方市	S I 130	滑石	上・下面	「上」	9世紀後葉
2	木工台遺跡	行方市	S I 137	土製	上面	「天口」	7世紀前葉
3	峯崎遺跡	結城市	S I 113	土製	上面	「兄」「奉カ」	9世紀前葉
4	八幡下遺跡	土浦市	遺構外	石製	上面	「任」	9～10世紀
5	厨台遺跡群	鹿嶋市	S B 20	滑石	下・側面	「左左」「左申田」	10世紀代
6	烏山遺跡	土浦市	S I 16	滑石	上面	「王」	10世紀代
7	鹿の子遺跡	石岡市	表採	石製	側面	「穴」「水」	—
8	鎌田遺跡	つくば市	S I 4	土製	上面	「千」	9世紀中葉
9	鎌田遺跡	つくば市	S I 5	頁岩	上・側面	□□□□□□	8世紀代
10	梶内遺跡	水戸市	S I 52	土製	上面	「大」	10世紀前葉
11	岡ノ内遺跡	稲敷市	S I 15	土製	側面	「中館」	9世紀後葉
12	辰海道遺跡2	桜川市	S I 648	滑石	側面	「長十」	8世紀後葉
13	二の沢B遺跡	水戸市	S I 9	粘板岩	側面	「幡田郷戸主君子部大倡カ麻呂」	9世紀中葉
14	島名熊の山遺跡	つくば市	S I 2085	粘板岩	側面	「穴井」	9世紀前葉
15	島名熊の山遺跡	つくば市	S I 2303	粘板岩	側面	「#」「大」	9世紀中葉

(3) 灰釉陶器・緑釉陶器

今回の調査で、灰釉陶器36点と緑釉陶器1点が出土している（第120図）。内訳は瓶類22点、壺類10点、手付瓶1点、碗1点、皿2点（緑釉段皿1点を含む）である。大半ははっきりとした形態の分からない瓶・壺類で、全体の86.4%を占める。施釉陶器の出土時期は、9世紀前葉から10世紀前葉までのものである。産地の大半が黒笹14・90号窯式の製品と考えられる。このことは、茨城県内の出土傾向と合致している¹¹⁾。このうち住居の廃絶時に遺棄もしくは廃棄されたと判断できるものは、第17号住居跡出土の灰釉陶器・手付瓶と第28号住居跡出土の灰釉陶器・皿、第49号住居跡出土の緑釉陶器・段皿の3点である。その他はほとんどが細片であり、帰属遺構の不明なものが多い。

出土分布をまとめてみると、調査区中央部に集中している。出土した遺構の特徴を挙げると、小形もしくは中形の住居跡で、棚状施設を有していたり、瓦による竈補強がなされている住居跡が多い。また、豊富な遺物量などから集落内において優位な立場にある集団であることが考えられる。

緑釉陶器の出土は段皿1点のみである。高台が三日月高台であることから、黒笹90号窯式の製品と考えられる。緑釉陶器の出土は極めて稀少なものであり、その入手に当たっては集落内の限られた有力者による個人的なネットワークが介在し、保有には格別の意義があったものと推測される。県内においては、近年、同じ石岡市の国衙周辺でも多くの出土が確認されており、官衙やその周辺に多く出土するという全国的な傾向と一致している。

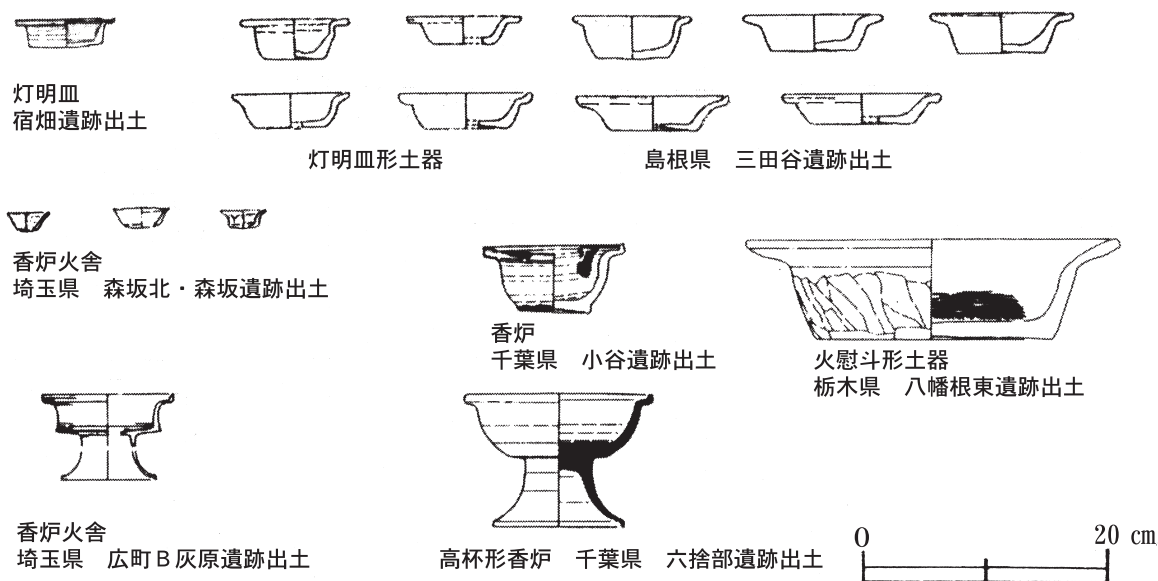
原始灰釉など古い時期の施釉陶器は官からの支給の様相が濃く、官衙や寺院などの官人あるいは僧侶等に流通したものである。これに対して、当遺跡で出土している黒笹14・90号窯式の時期は、寺院や官衙等の施設、交通の要衝地、そしてこれらと関連した集落、さらに一般の集落にまで広く流通するようになる時期である。これら東海系の施釉陶器の存在と保有量は、当遺跡が物資流通の恩恵を受けることが可能であった集団によって構成されていたことを物語っている。

(4) 須恵器・土師器

施釉陶器の動向と合わせて注目するのは、この集落で日常的に使用されていた須恵器と土師器である。茨城県南部における須恵器の大半は、筑波山の南麓に広がる新治窯跡からもたらされたものである。当遺跡の須恵器類も大半は胎土に雲母が顕著にみられ、新治窯跡の製品と考えられる¹²⁾。そのような中で、胎土に雲母を含まない須恵器類や胎土がやや緻密で針状鉱物を含む土師器類が少量ながら出土している。これらの土器類は新治窯産と比較すると器形や焼成にも相違が見られる。当遺跡の地理的環境から、木葉下窯産や一丁田窯産の可能性も考えられる。

器種的には、県内で類例を見ない須恵器の灯明皿が、第21号住居跡の南東コーナー部床面から出土している。本跡は調査区中央部に位置し、長軸4.48m、短軸3.95mの方形を示す中形の住居跡である。中央部のやや西寄りには、底面に粘土を貼り付けた炉を付設している。遺物は土師器や須恵器のほか、砥石や椀状滓などが出土しており、工房跡の可能性が考えられる。時期は、出土土器から9世紀前葉に位置付けられる。出土した灯明皿は、器形的に火熨斗や香炉、火舎に類似しているが、同様の遺物は関東地方においても類例を見ない(第121図)。これに最も類似する事例は、出雲国の三田谷遺跡から出土している¹³⁾。三田谷遺跡は出雲市上塩治町半分にある原始から中世の遺跡で、神社遺構の可能性が想定されている。遺構は丘陵地にはさまれた谷部に2間×2間の総柱構造建物と礎石、掘立柱建物がセット関係で検出されている。遺物は、墨書土器が多数出土しており、「神門」「坂本」「任原口」「三田」「口宅」「直」といった地名や人名、「麻奈井」「上井」の井水に関係するもの、「邑」「法」「福」「土」「大」「×」「○」の吉祥句や記号と考えられるものがある。一方、宿畑遺跡周辺の林地区は平安時代に作成された「和名類聚抄」に記載されている「拝師郷」であったと考えられており、古くから集落が存在していたと思われる。「拝師」は「ハヤシ」と読み、その由来については「出雲国風土記」意宇郡条の拝志の郷にある¹⁴⁾。人や物の移動は大変な時間と労を費やすものであり、灯明皿の出土がただちに出雲国との直接的な結びつきを示すものにはならない。しかし、地名の原点となっていることから、何らかの接点は想定される。

当遺跡の台地上には2間×3間の総柱掘立柱建物が検出され、地名や自然、記号、数字を示す墨書土器が複数出土している。そのほかにも、壺Gや小壺など仏教的色彩の濃い遺物が出土しており、当遺跡の性格を知る手がかりの一つとなっている。



第121図 宿畑遺跡出土灯明皿の類似事例

(5) 文字資料

当遺跡から出土した墨書土器は16点（土師器9，須恵器7）である。器種別では坏11点，盤1点，高台付椀1点，高台付皿3点となっており，最も生活に密着し，数量の多い土器に墨書されていたことが明らかである（第120図）。墨書箇所は底部14点，側面7点に認められる。傾向としては，9世紀前葉が側面と底面いずれにも認められるのに対し，9世紀後葉になると底面にしか認められなくなってくる。墨書土器が最も多く出土した遺構は，第18号住居跡であり，5点出土している。記された文字は，「家」「住カ」「二住カ」など何らかの施設や建物を示すものや，「九」など数字を示すものが出土している。「家」は官衙の「館」に対するもので私的な性格を示している。寺院跡での使用例は少ないものの，村落内に寺院が併存する事例で確認されており，注目される。また，「九」は陰陽道や修験道では陽の満数であり，陰である邪気を伏すとする発想によるものである。悪霊を払い，願意が確実に果たされるとの効力を有するものといわれる。当時すでに神仏習合的な信仰や祭祀は地方においても顕著であり，僧侶が仏教だけではなく陰陽道や修験道的な信仰や道教に際して何らかの役割をもっていたことが想像される。

また，「集落の変遷」で触れたように，第29号住居跡からは，「山田丙」という地名の記された墨書土器，隣接する第30号住居跡からは「水」「口子」「一休」と記された墨書土器がそれぞれ出土している。「水」や「一休」の文字は，第29号住居跡の馬歯・馬骨出土との関連から日乞いや暴風雨を鎮める呪術儀礼が想定される。

その他の特徴的な文字資料としては，第46号住居跡から出土した「三仗」がある。近隣の半田原遺跡からは須恵器の鉢に「丈」と記された墨書土器が出土しており，丈部の人々が居住していたことは明らかである。当遺跡が常陸国分寺跡や瓦塚窯跡と関連のあることから考えれば，官衙に出仕していた人々の存在を示す可能性もある。

刻書土器は4点（須恵器3，土師器1）出土している。器種別では高台付坏2点，高台付椀2点，盤1点で，いずれも底部に刻書されている。第17号住居跡から出土した須恵器の高台付坏には「大」の文字が刻書されている。そのほかにも「一」「×」など記号的なものが出土している。

4 遺跡の性格

当遺跡は，「前項」で触れたように，縄文時代は狩猟場，古墳時代後期から平安時代にかけては集落跡として機能していた複合遺跡である。古墳時代後期や奈良時代に属する住居跡は合わせて12軒と少なく，同時存在の遺構は4～6軒程度と考えられる。しかし，9世紀代に入ると急激に住居軒数は増加し，安定した集落を形成する。この中で特筆されるのは竈の作り方である。当遺跡では，竈の袖部に瓦や埴などを埋め込んで補強している事例が3軒確認されている。ほかにも住居跡の竈周辺から51点にのぼる瓦（平瓦26，丸瓦25）と埴2点が出土している。また，仏教信仰に関連する遺物を抽出すると，数は少ないもののいくつか存在する。線刻紡錘車や県内で類例を見ない須恵器の灯明皿，灰釉陶器・手付瓶や緑釉陶器・段皿，須恵器の壺Gや小壺，短頸壺などの出土が挙げられる。さらに，基層信仰としての外来宗教である道教的信仰などにかかわることを書き記した墨書土器が複数出土しているのも特徴の一つである。

周辺遺跡との関わりについて考察すると，出土した瓦の特徴から，次の二者の相互関係を見出すことができる。①当遺跡北方の山地に展開する瓦塚窯跡②当遺跡の南東に所在する国分寺跡・国分尼寺跡である。当遺跡はこれらが相互に関連を重ねて形成されたと考えられる。

また，平安時代における周辺の遺跡分布を見ると，山間部での遺跡数の増加や寺院の建設が目立つ。そ

の代表としては、徳一開基を伝えている旧八郷町の西光院・長命寺（現在地不明）・薬王院，旧新治村の清滝寺・東光寺・東城寺，旧真壁町の薬王院や山尾権現山廃寺・作佐部廃寺などの山岳寺院が挙げられる（第119図）。徳一は仏具や仏教関連の墨書土器が出現する時期に、筑波山周辺で布教活動を行っており、その影響が当遺跡の仏具出現の要因になっていると考えられる。当遺跡は石岡市下林字万願寺に所在し、その地名からかつてこの地に寺院が存在していたことも想定されている。しかし、規模の整った仏教施設があったわけではなく、笹生衛氏が主に千葉県内の事例を分析し提唱している仏教関連遺跡の分類のうち、第5類型もしくは第6類型のような状況であったと考える¹⁵⁾。現状では、寺院との直接的な関連性が断定できる資料に乏しく、一般集落の域を脱しない。性格付けについては、今後の発掘調査を加味し、より深い周辺遺跡との検討が必要である。

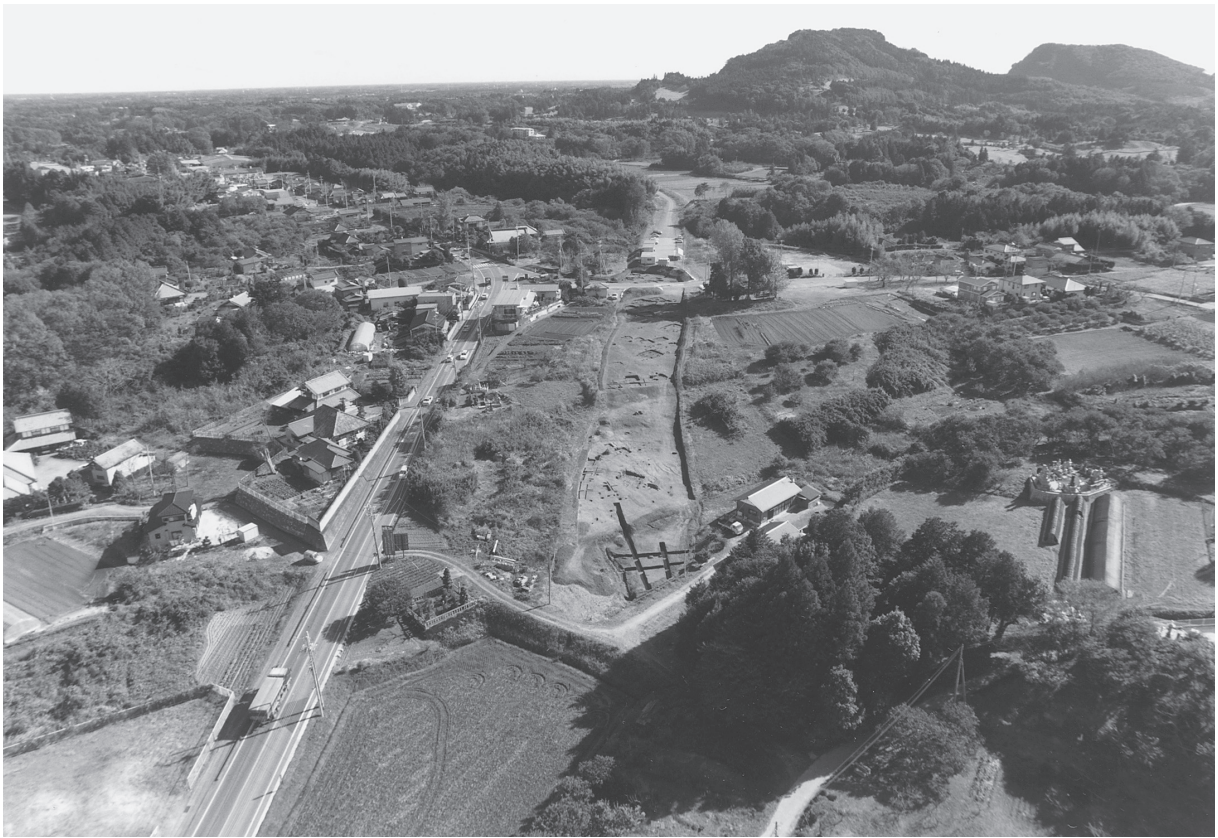
註

- 1) 中村信博「溝形陥し穴研究序説」『栃木県考古学会誌』第19集 栃木県考古学会 1998年3月
- 2) 角川歴彦『古代地名大辞典』 角川書店 1999年3月
- 3) 『祈りの歴史と民俗 絵馬』 茨城県立歴史館 1998年2月
- 4) 石岡市文化財関係資料編纂会『石岡市の遺跡 歴史の里の発掘100年史』 茨城県石岡市教育委員会 1995年3月
- 5) 佐藤正好・川井正一「常磐自動車関係埋蔵文化財調査報告書（5） 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集（財）茨城県教育財団 1983年3月
- 6) 西宮一男『瓦塚瓦窯跡調査概報』 八郷町教育委員会 1968年3月
- 7) 黒澤彰哉「八郷町瓦塚瓦窯跡について」『婆良岐考古』第6号 婆良岐考古同人会 1984年5月
- 8) 宮瀧交二「刻書紡錘車からみた日本古代の民衆意識」『古代の信仰を考える』 第71回日本考古学協会 国士舘大学実行委員会 2005年5月
- 9) 高島英之・宮瀧交二「群馬県出土の刻書紡錘車についての基礎的研究」『群馬県立歴史博物館紀要』第23号 群馬県立博物館 2002年3月
- 10) 高島英之『古代出土文字資料の研究』 東京堂出版 2000年9月
- 11) 奈良・平安時代研究班「茨城県域における施釉陶器の検討（1）」『研究ノート』4号（財）茨城県教育財団 1995年6月
奈良・平安時代研究班「茨城県域における施釉陶器の検討（2）」『研究ノート』5号（財）茨城県教育財団 1996年6月
奈良・平安時代研究班「茨城県域における施釉陶器の検討（3）」『研究ノート』6号（財）茨城県教育財団 1997年6月
奈良・平安時代研究班「茨城県域における施釉陶器の検討（4）」『研究ノート』7号（財）茨城県教育財団 1998年6月
奈良・平安時代研究班「茨城県域における施釉陶器の検討（5）」『研究ノート』8号（財）茨城県教育財団 1999年6月
- 12) 赤井博之「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（1）」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会 1997年5月
赤井博之「茨城県の須恵器編年」『古代生産史研究会97シンポジウム 東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』 1997年5月
- 13) 内田律雄「出雲の神社遺構と神祇制度」『古代の信仰を考える』 第71回日本考古学協会総会 国士舘大学実行委員会 2005年5月
- 14) 八郷町史編さん委員会『八郷町史』 八郷町 2005年3月
- 15) 笹生衛「古代仏教信仰の一側面—房総における8・9世紀の事例を中心に—」『古代文化』 1994年3月

参考文献

- ・青嶋邦夫「縄文時代の陥し穴について ～愛鷹山麓・箱根山西麓の遺跡から～」『研究紀要』第9号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2002年7月
- ・今村啓爾「陥穴」『縄文文化の研究』第2巻（生業） 雄山閣 1994年8月
- ・鈴木素行他「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第15集』（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1998年1月
- ・高橋一夫「5 集落の形態」『古墳時代の研究 2 集落と豪族居館』 雄山閣 1990年6月
- ・小笠原好彦「古墳時代の堅穴住居集落にみる単位集団の移動」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史民俗博物館 1989年3月
- ・山岸良二「3 古墳時代の集落」『原始・古代日本の集落』 同成社 2004年9月
- ・笹生衛「古代村落における祭祀の場と仏教施設 -東国の事例から-」『季刊 考古学』第87号 雄山閣 2004年5月
- ・大野悟『平塚市域の遺跡から出土した馬骨・馬歯』 平塚市博物館 1993年3月
- ・小島瓊禮『馬をめぐる民俗自然誌 人・他界・馬』 東京美術 1991年3月
- ・八郷町史編さん委員会『八郷町史』八郷町 2005年3月
- ・佐久間好雄『図説 土浦・石岡・つくばの歴史』 郷土出版社 2004年11月
- ・高井悌三郎ほか『茨城の古瓦』 茨城県立歴史館 1978年3月
- ・高井悌三郎「茨城の古瓦について」『茨城県歴史館報』5 茨城県立歴史館 1978年3月
- ・黒澤彰哉ほか『学術調査報告書4 茨城県における古代瓦の研究』 茨城県立歴史館 1994年3月
- ・黒澤彰哉「常陸における国分寺瓦の研究Ⅰ」『婆良岐考古』第8号 婆良岐考古同人会 1986年5月
- ・黒澤彰哉「常陸における国分寺瓦の研究Ⅱ」『婆良岐考古』第9号 婆良岐考古同人会 1987年5月
- ・千葉隆司『第22回特別展 古代の瓦 -常陸国府の瓦づくり-』 霞ヶ浦町郷土資料館 2000年2月
- ・川井正一「第3章 東海道 常陸国『日本古代道路事典』 古代交通研究会 2004年5月
- ・鈴木孝之「2 北島遺跡の線刻をもつ紡錘車について」『北島遺跡Ⅳ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998年3月
- ・井上唯雄「線刻をもつ紡錘車-群馬県における事例を中心として-」『古代学研究115』 古代学研究会 1987年3月
- ・山添奈苗「線刻入り紡錘車の性格と変遷-常総地域を中心に-」『情報 祭祀考古』第20号 2001年9月
- ・山添奈苗「常総における線刻入り紡錘車-古墳時代から古代にかけての資料を中心に-」『石岡市遺跡分布調査報告』 茨城県石岡市教育委員会 石岡市遺跡分布調査会 2001年3月
- ・山添奈苗「線刻入り紡錘車から見た古代地域社会-関東地方出土事例から-」『土壁』第6号 考古学を楽しむ会 2002年5月
- ・鈴木孝之・若松良一「信仰資料としての紡錘車-呪文や宗教絵画を刻んだ石製紡錘車-」『研究紀要』第16号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2001年3月
- ・黒澤秀雄「水戸市二の沢B遺跡出土刻書紡錘車について」『婆良岐考古』第25号 婆良岐考古同人会 2003年5月
- ・熱田貴保・平石充『三田谷Ⅰ遺跡』 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 島根県教育委員会 2000年3月
- ・平川南『墨書土器の研究』 吉川弘文館 2000年11月
- ・高島英之『古代東国地域史と出土文字資料』 東京堂出版 2006年3月
- ・社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会『古代北陸と出土文字資料』 社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会 2003年3月
- ・東北文字資料研究会『第1回 東北文字資料研究会資料』 東北文字資料研究会 2003年11月
- ・東北文字資料研究会『第2回 東北文字資料研究会資料』 東北文字資料研究会 2004年11月

写真図版



遺跡全景（西から）

調査区東部
完掘状況



調査区中央部
完掘状況



第14号住居跡
遺物出土状況



PL 2



第23・26号住居跡
完掘状況



第51号住居跡竈
完掘状況



第51号住居跡
遺物出土状況

第 3 号 住 居 跡
完 掘 状 況



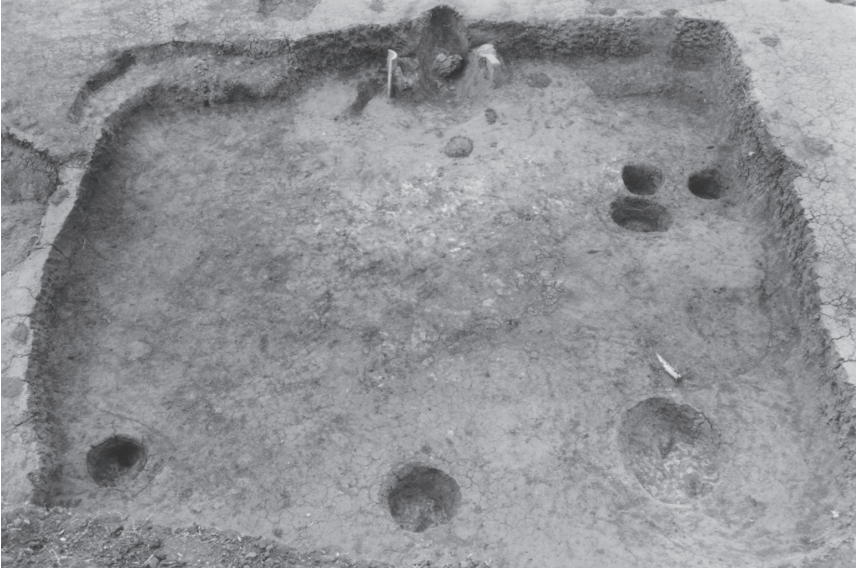
第 3 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 5 号 住 居 跡 竈
遺 物 出 土 状 況



PL 4



第 17 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 17 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 17 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第17号住居跡竈
遺物出土状況



第4・16・18・19・46号住居跡
完掘状況



第18・19・46号住居跡
遺物出土状況



PL 6



第18・46号住居跡
遺物出土状況



第21号住居跡
遺物出土状況



第21号住居跡
遺物出土状況

第22号住居跡
遺物出土状況



第28号住居跡竈
遺物出土状況

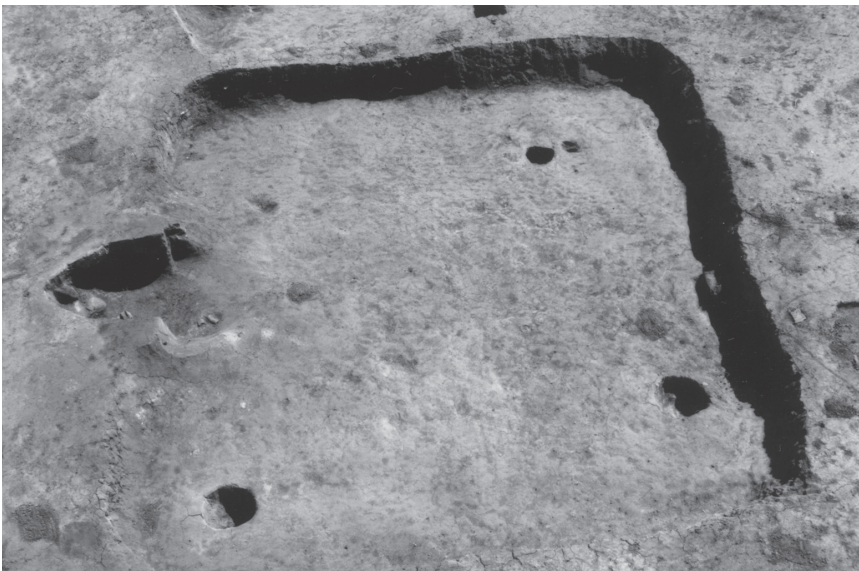


第29号住居跡竈
遺物出土状況





第 29 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 30 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 30 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第 30 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 30 号 住 居 跡 竈
遺 物 出 土 状 況



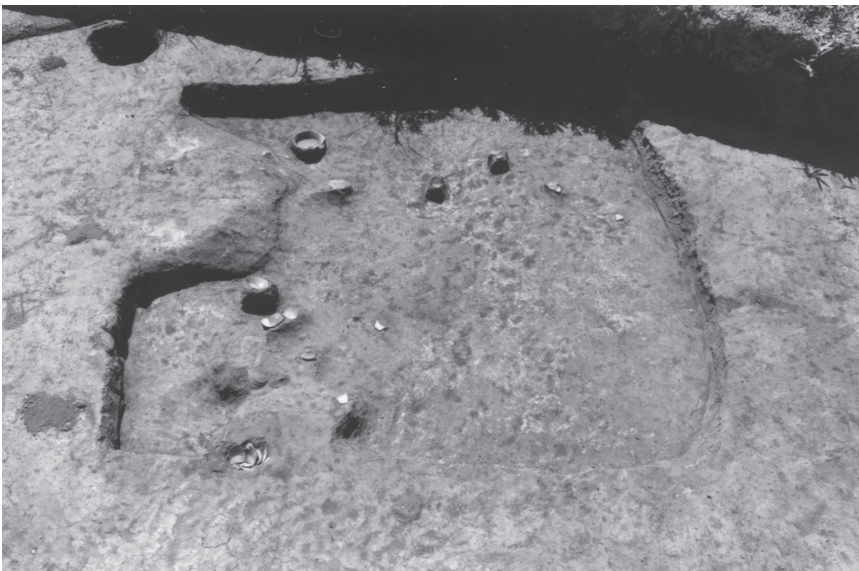
第 31 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



PL10



第 31 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 33 A 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 33 A 号 住 居 跡 竈
遺 物 出 土 状 況

第43号住居跡
完掘状況



第43号住居跡竈
完掘状況



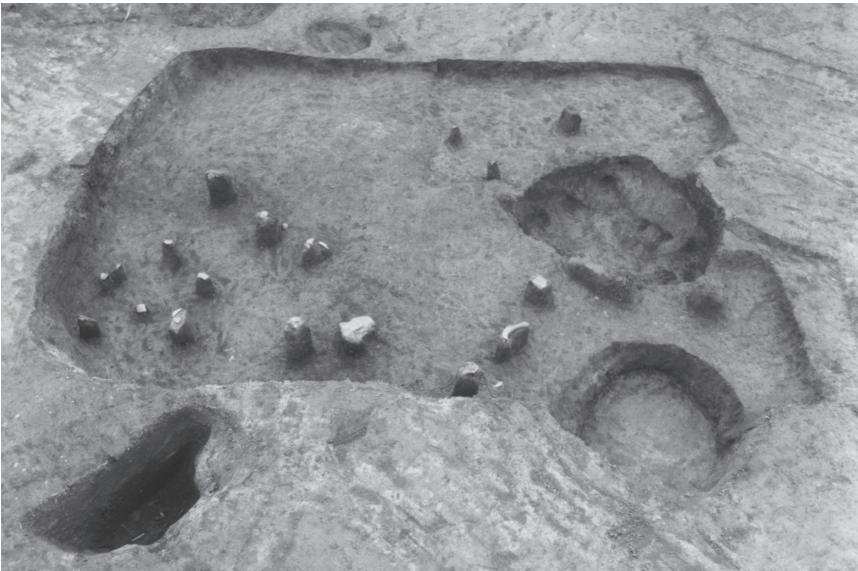
第43号住居跡
遺物出土状況



PL12



第 49・55 号住居跡
完 掘 状 況



第 49 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 52 号 住 居 跡
完 掘 状 況

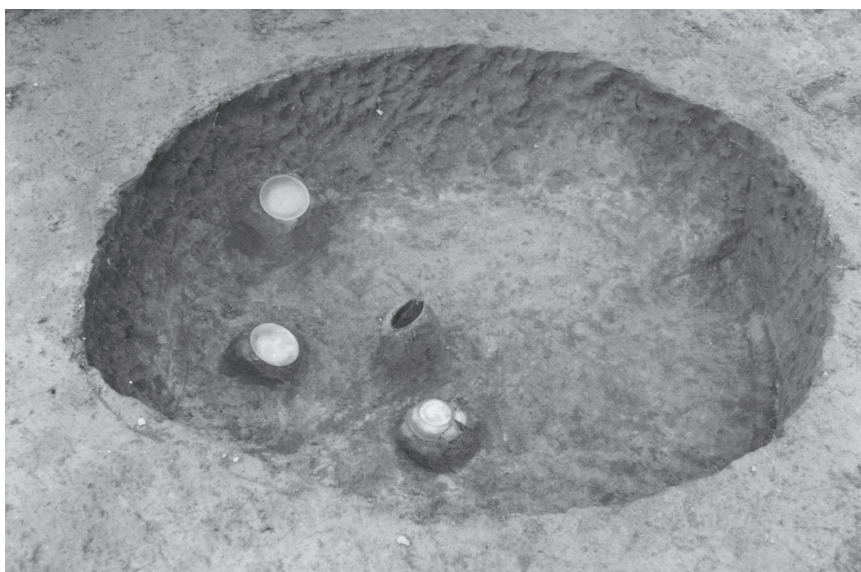
第 37 号 住 居 跡
第 1 号 掘 立 柱 建 物 跡
完 掘 状 況



第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 2 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



PL14



SI 14-1



SI 14-2



SI 23-8



SI 37-11



SI 16-26



SI 13-17



SI 13-18



SI 13-19



SI 13-20

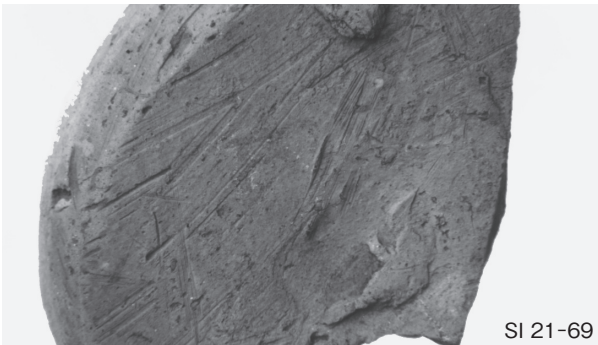
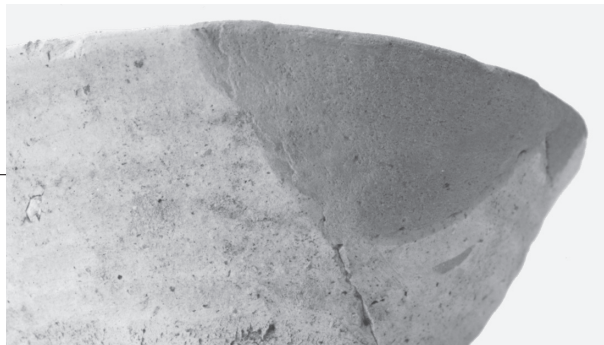
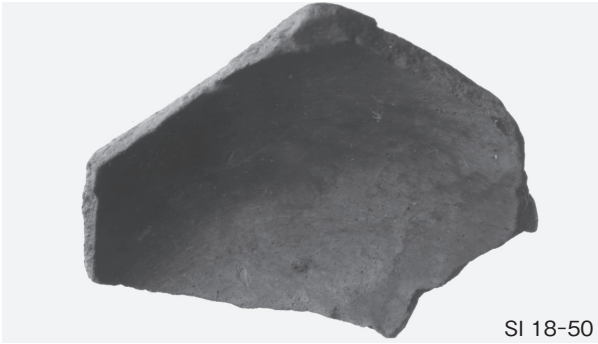


SI 13-21

第13・14・16・23・37号住居跡出土土器



PL16



第18・19・21・22号住居跡出土土器



SI 28-95



SI 28-96



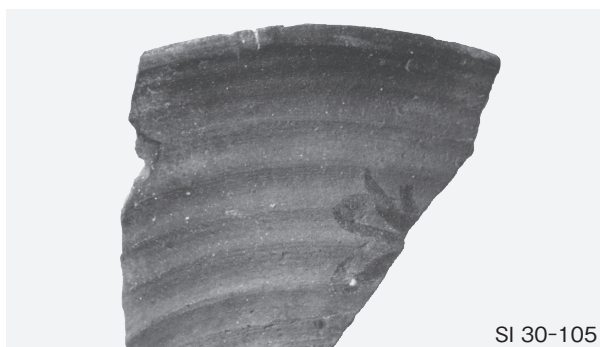
SI 29-99



SI 29-98



SI 30-104



SI 30-105



SI 30-106



SI 30-107



SI 33-112



SI 33-113

PL18



SI 46-133



SK 2-168



SK 2-169



SK 2-170



SK 2-171



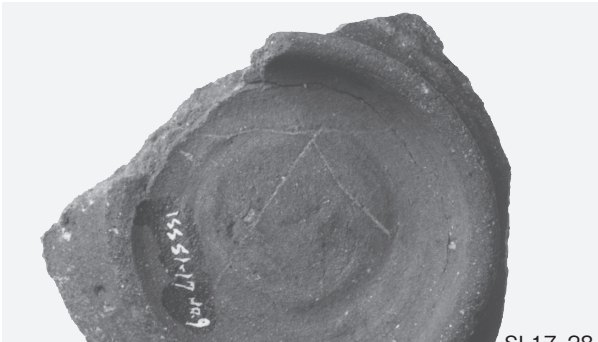
遺構外-177



遺構外-178



遺構外-179



SI 17-28



遺構外-180

第17・46号住居跡，第2土坑，遺構外出土土器



SI 33-114



SI 47-138



SI 17-29



SI 17-30



SI 17-31



SI 18-53



SI 19-62



SI 26-94



SI 38-123



SI 50-175

PL20



SI 18-57



SI 22-80



SI 22-81



SI 21-72



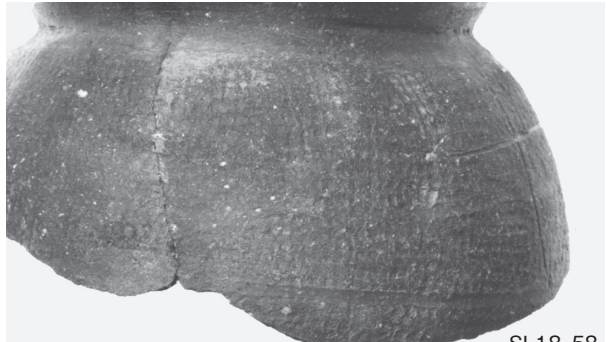
SI 30-109



SI 43-128



SI 33-116



SI 18-58

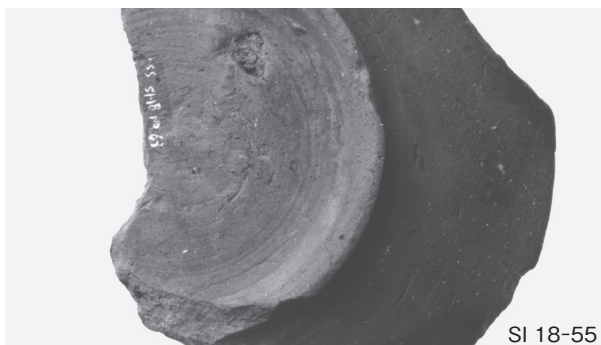
第18・21・22・30・33・43号住居跡出土土器



SI 18-54



SI 21-76



SI 18-55



SI 18-56



SI 30-108



SI 46-136



SI 46-135



PL22



SI 51-149



SI 20-65



SI 22-82



SI 22-83



SI 22-84



SI 22-85



SI 22-86



SI 33-117



SI 49-140



第20・22・33・49・51号住居跡出土土器



SI 17-32



SI 21-75



SI 14-4



SI 14-6



SI 29-102





SI 51-152



SI 17-33



SI 17-34



SI 49-142



SI 44-132



SI 54-163



SI 20-67



SI 51-155



SI 51-156



SI 51-157



遺構外-181



SI 28-97



SI 49-139



SI 17-DP3



遺構外-Q13



SI 17-Q2



SI 17-Q2



瓦集合写真



SI 18-T5



出土土製品（紡錘車），石製品（紡錘車），瓦

PL26



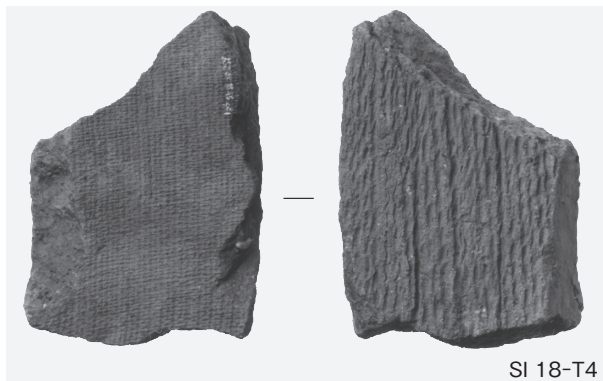
SI 5-T1



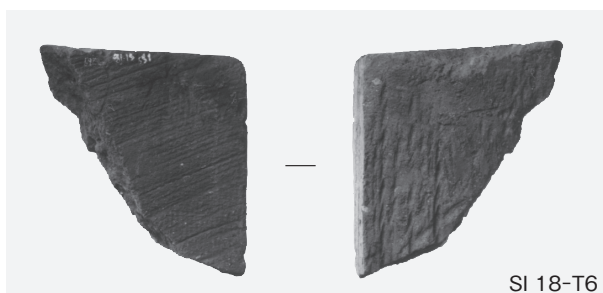
SI 17-T2



SI 18-T3

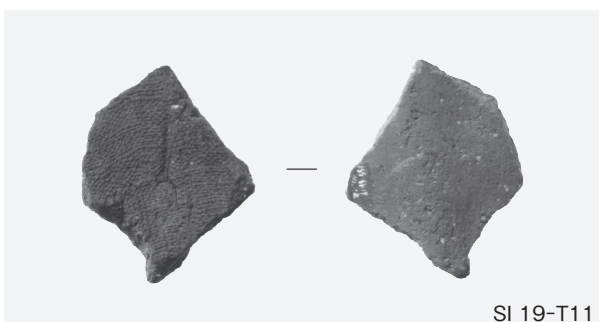
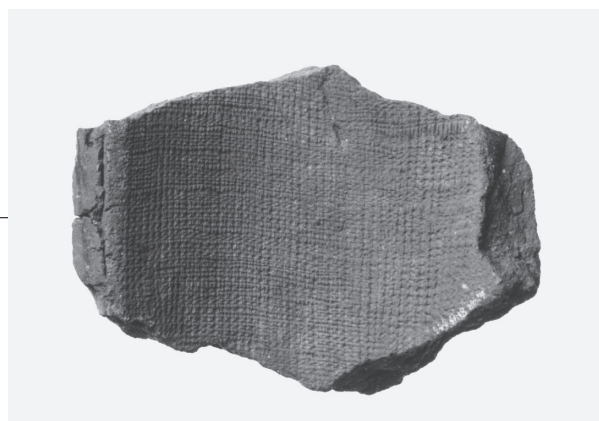
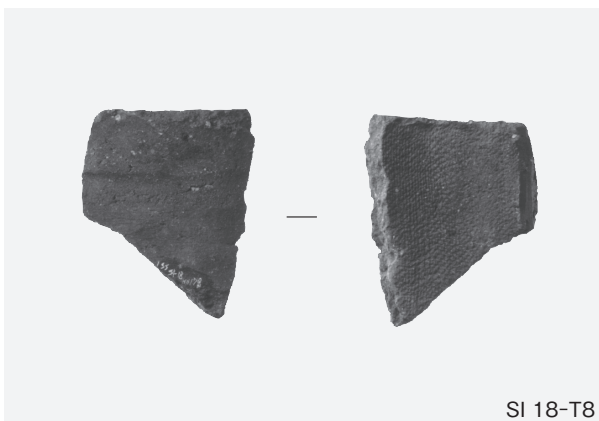


SI 18-T4



SI 18-T6

出土瓦



PL28



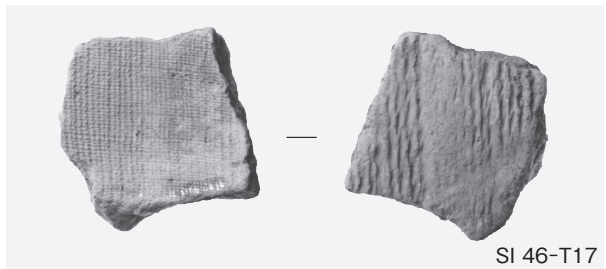
SI 28-T14



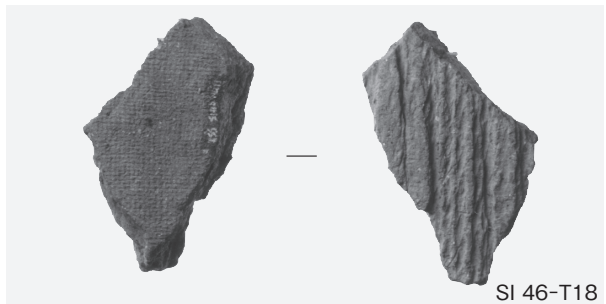
SI 28-T15



SI 46-T16



SI 46-T17



SI 46-T18



SI 46-T19

出土瓦



遺構外-T20



遺構外-T21



遺構外-T22



SI 17-DP4



SI 52-DP6



SI 14-DP1



SI 46-DP5



SI 54-DP7

出土瓦，土製品（磚・支脚）

PL30



SI 8-DP2



遺構外-Q12



SI 14-Q1



SI 19-Q3



SI 21-Q6



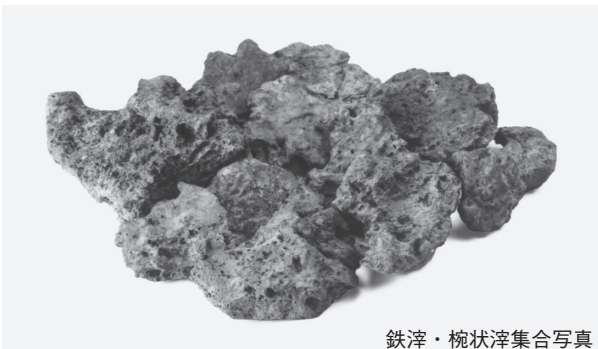
SI 51-Q8



SI 51-Q7



SI 21-Q5



鉄滓・椀状滓集合写真



SI 21-M18

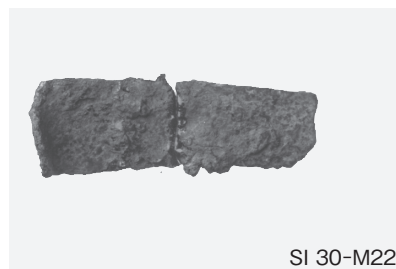
出土土製品（羽口），石製品（凹石・砥石），椀状滓



SI 5-M5



SI 18-M15

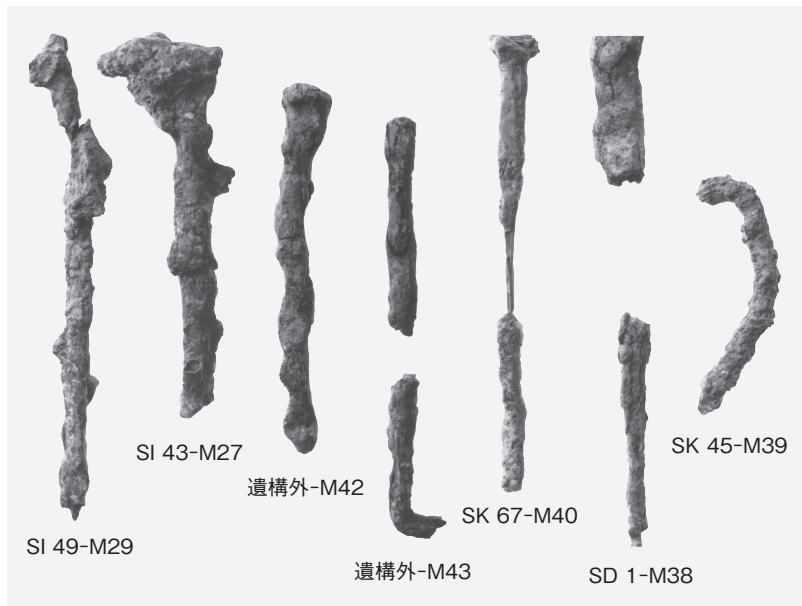


SI 30-M22



SI 23-M3 SI 23-M4

SI 30-M21



SI 43-M27

遺構外-M42

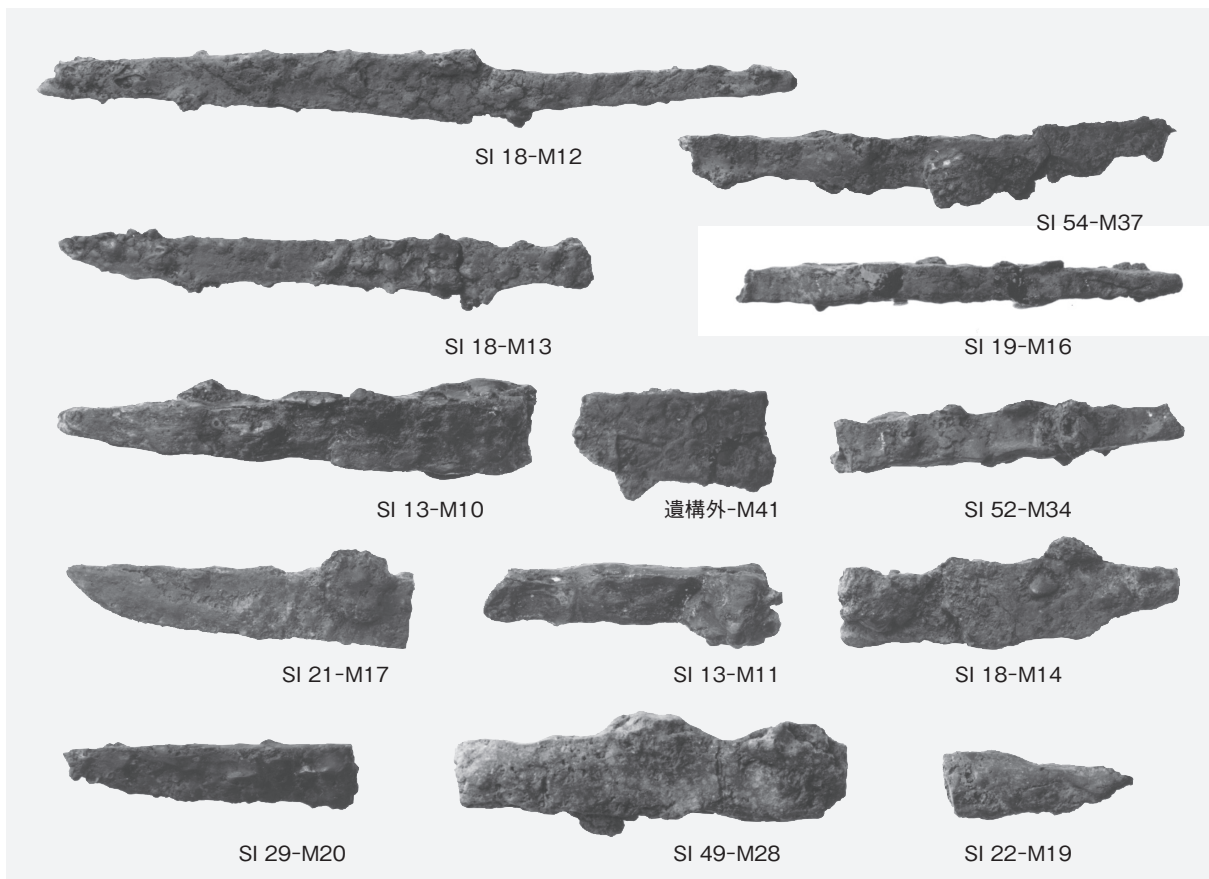
SI 49-M29

遺構外-M43

SK 67-M40

SK 45-M39

SD 1-M38

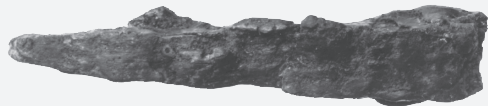


SI 18-M12

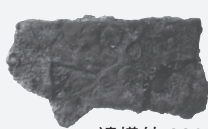
SI 54-M37

SI 18-M13

SI 19-M16



SI 13-M10



遺構外-M41



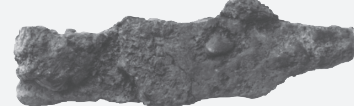
SI 52-M34



SI 21-M17



SI 13-M11



SI 18-M14



SI 29-M20

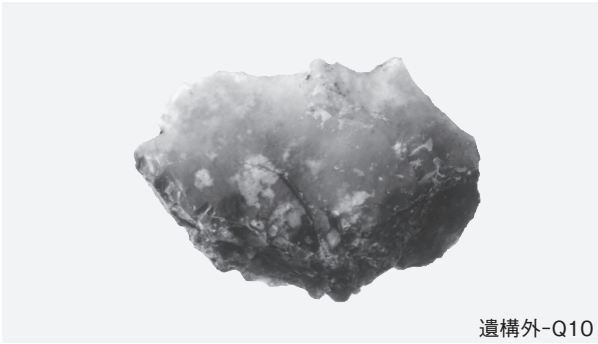


SI 49-M28

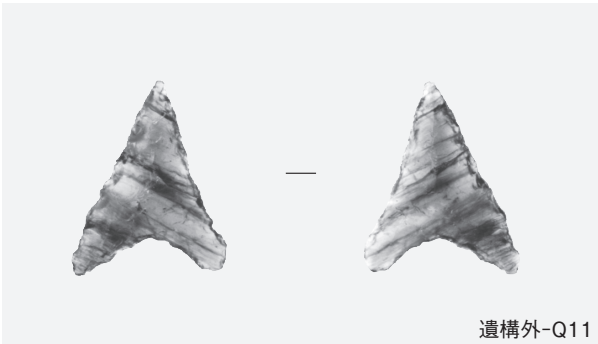
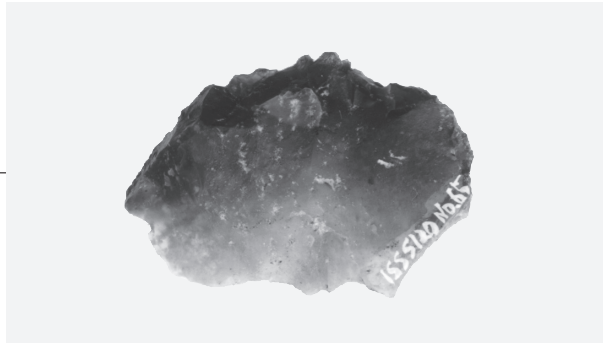


SI 22-M19

出土鉄製品 (不明・手鎌・鎌・鍬・釘・刀子)



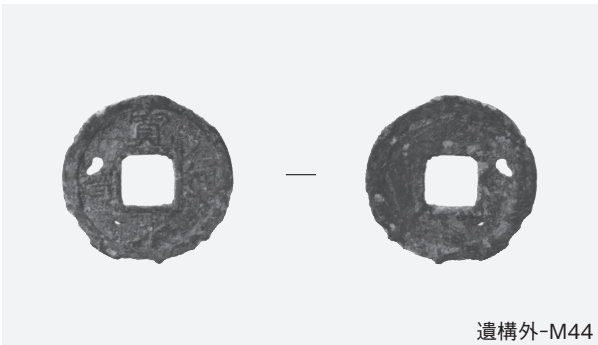
遺構外-Q10



遺構外-Q11



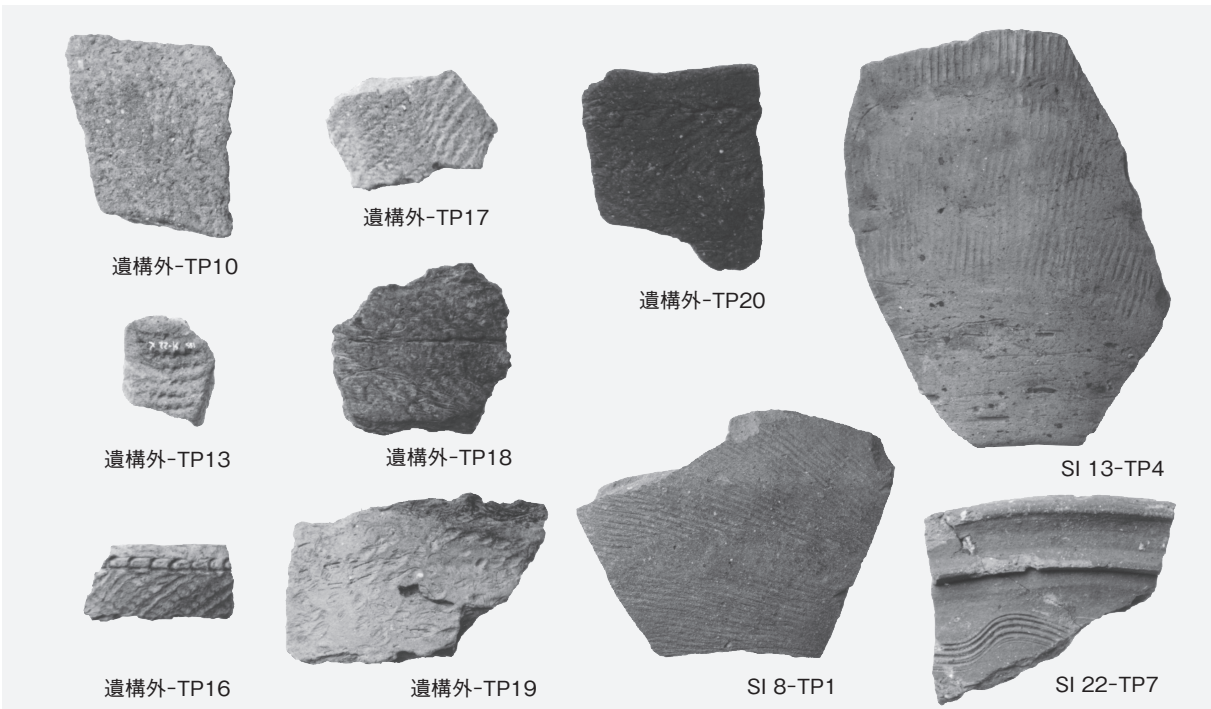
遺構外-Q14



遺構外-M44



遺構外-Q15



遺構外-TP10



遺構外-TP17



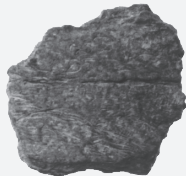
遺構外-TP20



SI 13-TP4



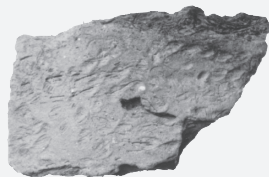
遺構外-TP13



遺構外-TP18



遺構外-TP16



遺構外-TP19



SI 8-TP1



SI 22-TP7

出土石器（剥片・石鏃），石製模造品，古錢，土器

茨城県教育財団文化財調査報告第300集

宿 畑 遺 跡

主要地方道石岡筑西線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成20(2008)年3月19日 印刷
平成20(2008)年3月24日 発行

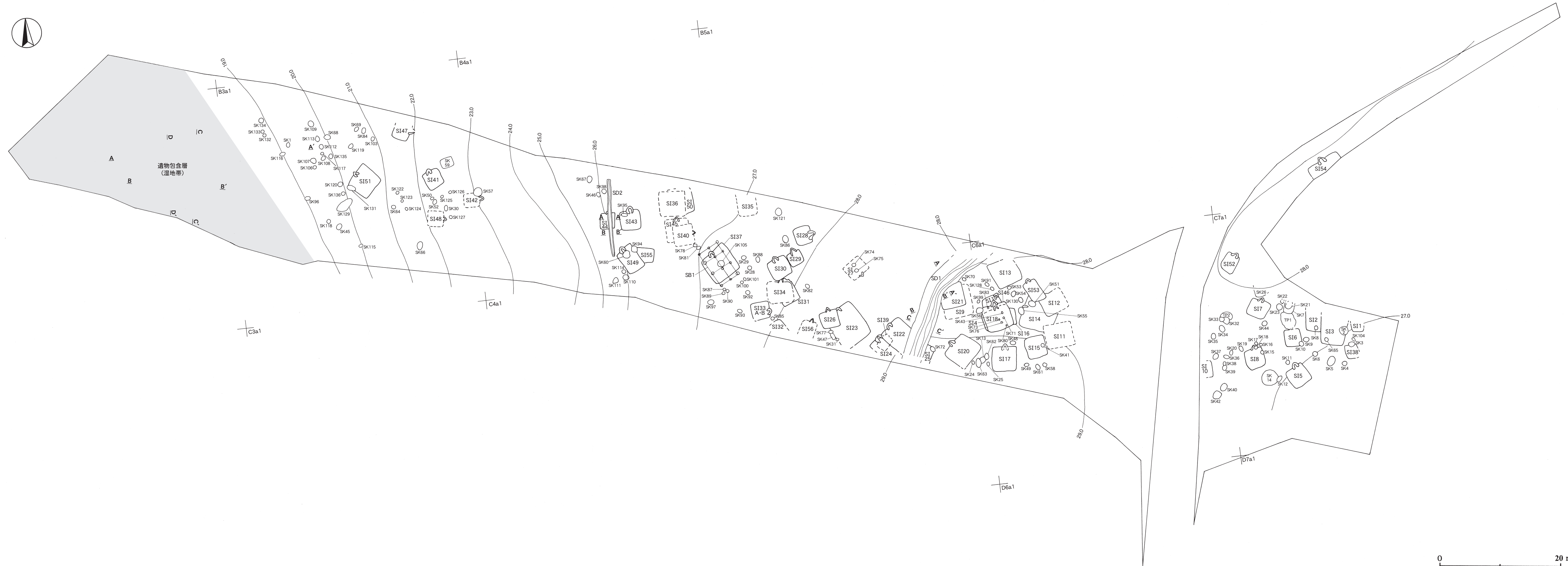
発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 水戸市河和田町4433の33
TEL 029-252-8481

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第300集

宿畑遺跡遺構全体図



付図 宿畑遺跡遺構全体図 「茨城県教育財団文化財調査報告第300集」

0 20 m